

令和6年度

事業報告書



公益社団法人高知県看護協会

研修名	継続教育研修	
開催日時	プログラム参照	
研修形態	集合	
受講者数	延べ人数231名(会員172名、非会員59名) (内 訳 保健師0名、助産師0名、看護師228名、准看護師3名)	
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
教育目的	1) 看護専門職として高い倫理観に基づき、看護実践能力の向上をはかる。 2) 看護専門職としてのキャリア発達を促進し、変化する社会や地域のニーズに対応できる能力を養う。 3) 他職種と連携・協働し看護職の役割を発展させる能力を養う。	
講師・内容	プログラム参照	講義・演習

1.プログラム

	日程	研修名	講師	研修形態	レベル	目的	ねらい	定員	参加者数
1	6/26(水) 10:00～16:00	看護に活かす臨床推論～指導・報告に使える！臨床推論による思考過程の言語化を学ぶ～	高知医療センター 救急看護認定看護師 大塚康之	集合	Ⅱ～Ⅲ	臨床推論の思考プロセスを言語化できる能力を高める	・臨床推論について理解する。 ・思考過程を言語化し表現できる	40	24
2	7/23(火) 13:30～16:30	現場に活かす褥瘡ケア～最新知識に基づいたケアの実践～	高知医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 本山 舞	集合	Ⅱ～Ⅲ	最新の褥瘡ケアの知識・技術を習得する	・新しい知見での褥瘡のアセスメント・ケアを学ぶ	40	59
3	7/26(金) 10:00～16:00	これからのリーダーシップと欠かせないフォローシップ～協働と共有のチームづくりを目指して～	石川記念会HITO病院 副院長・看護部長 田淵 典子	集合	Ⅱ～Ⅲ	組織においてリーダーシップやフォローシップを発揮し、質の高い協働ができる	・リーダーシップやフォローシップについて理解する ・所属チームにおいてリーダーシップやフォローシップを実践できるようになる	40	38
4	8/27(火) 9:30～12:30	会議カンファレンスでの発信力を高める研修	高知県立大学 看護学部 助教 池内 香	集合	Ⅱ～Ⅲ	相手にわかりやすく伝える方法を学び、会議カンファレンスを活性化できる方法を理解する	・自分の考えをまとめ、伝える方法が理解できる ・プレゼンテーションのスキルを活かすことができる	30	18
5	9/3(火) 9:30～12:30	せん妄の理解と看護ケア～ここが知りたいせん妄ケア～	高知大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 小笠原麻紀	集合	Ⅱ～Ⅲ	せん妄の病態を理解し、予防・ケアに役立てる	・せん妄の病態を理解する。 ・せん妄予防・ケアに活用できる。	40	41
6	11/14(木) 9:30～12:30	臨床倫理の4分割法による事例検討～臨床のモヤモヤの解決と患者にとっての最善とはなにかを考える～	高知県立大学 看護学部 特任講師 豊田邦江	集合	Ⅱ～Ⅲ	臨床現場で直面する倫理的課題を臨床倫理4分割法を使って分析し、解決に向けた最善策を考える	・臨床倫理とはなにかを理解する ・臨床倫理4分割法を使って現象を理解し最善策を考える事が出来る ・臨床でのモヤモヤの解決に役立てる	40	16
7	11/19(火) 10:00～16:00	リーダー看護師のコミュニケーション術 コーチングと指導の融合	AEメディカル 野津 浩嗣	集合	Ⅱ～Ⅲ	リーダー看護師に求められるコーチングスキルを習得する	相手の強みや持ち味を引き出すコミュニケーションスキルを演習を通して学ぶ	40	35

2.アンケート結果

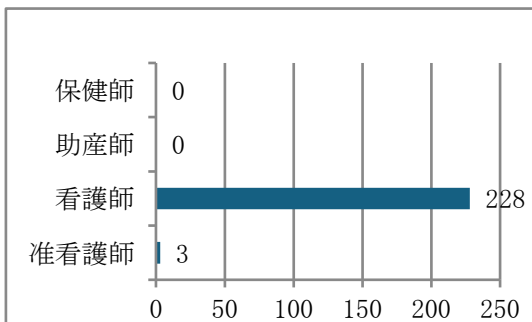
※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

1)7研修まとめ

出席者計:231名 アンケート回192収名 アンケート率83.1%

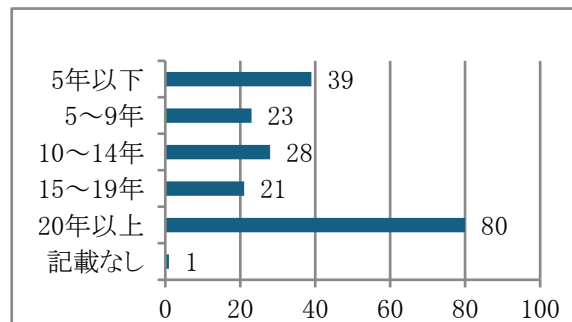
(1)職種

n=192



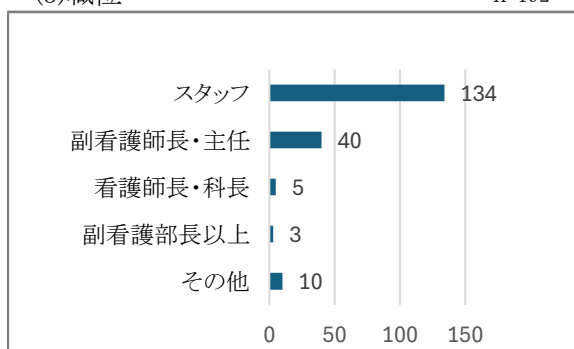
(2)経験年数

n=192



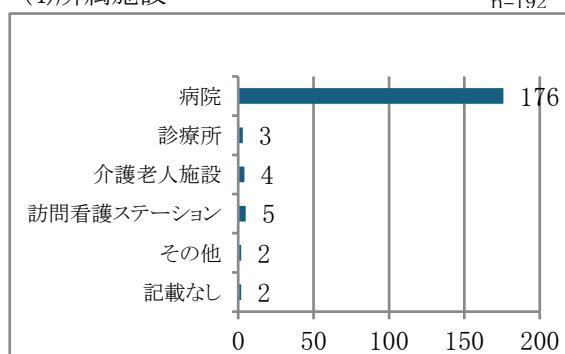
(3)職位

n=192



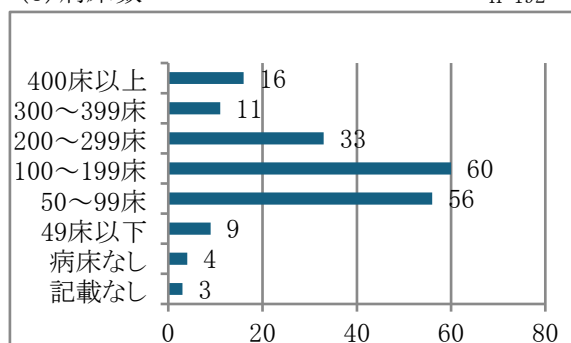
(4)所属施設

n=192

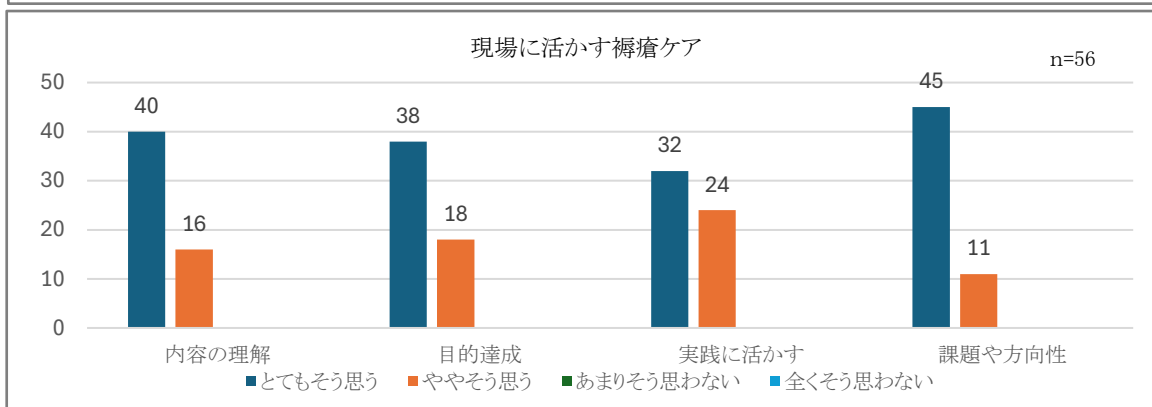
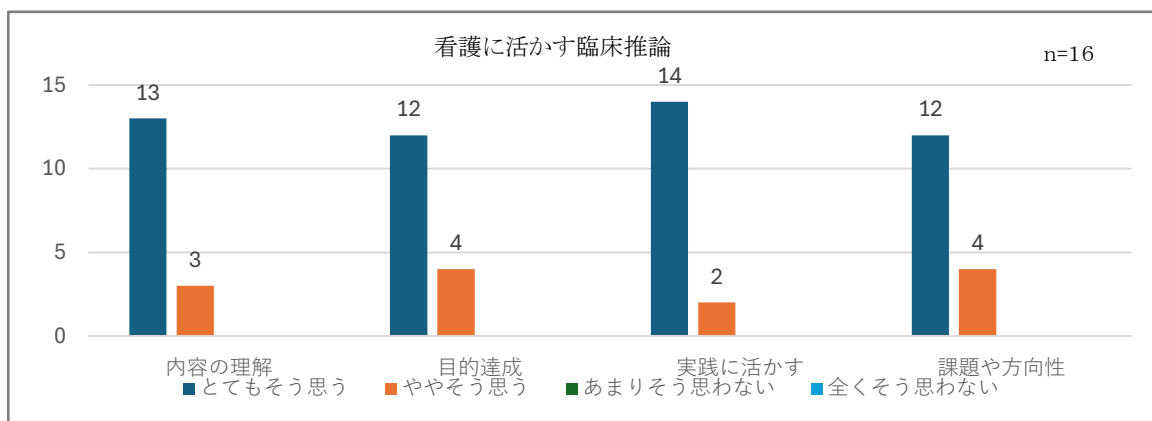


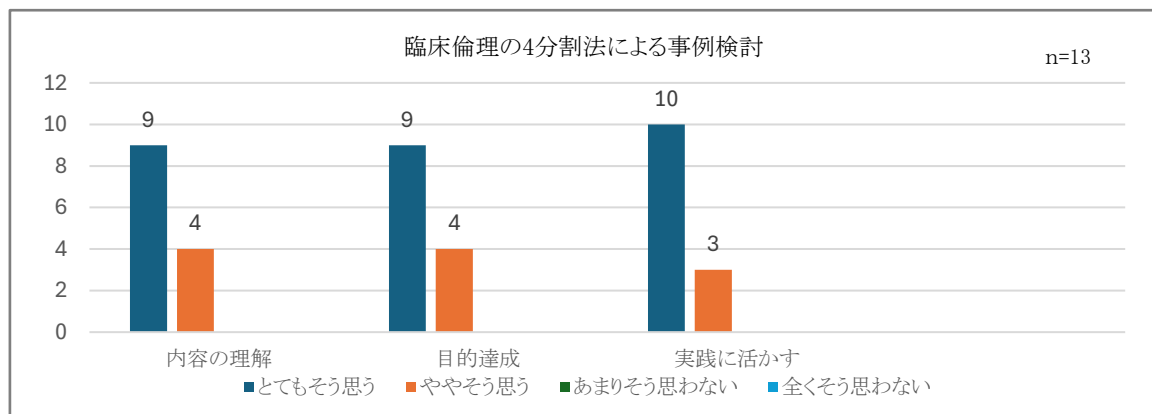
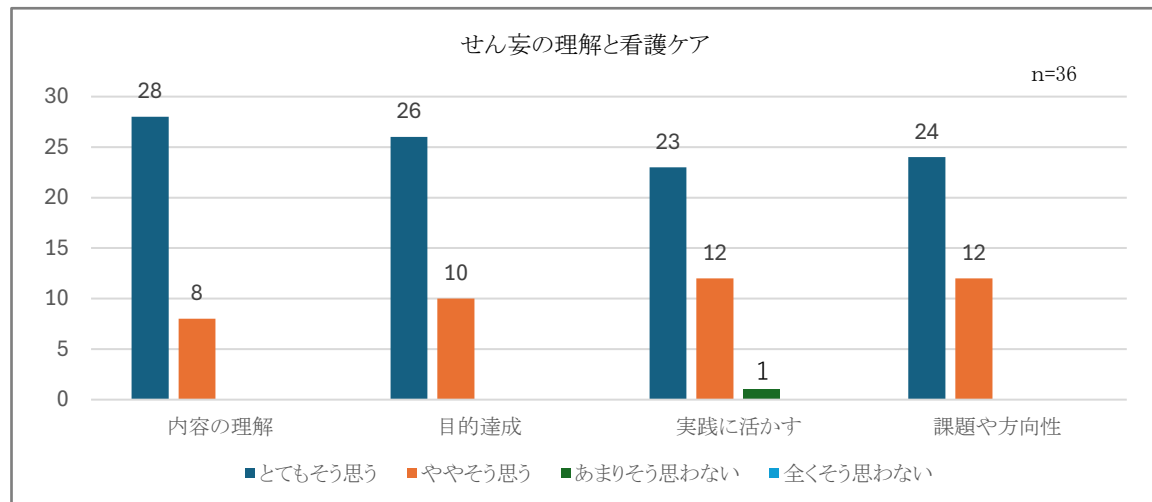
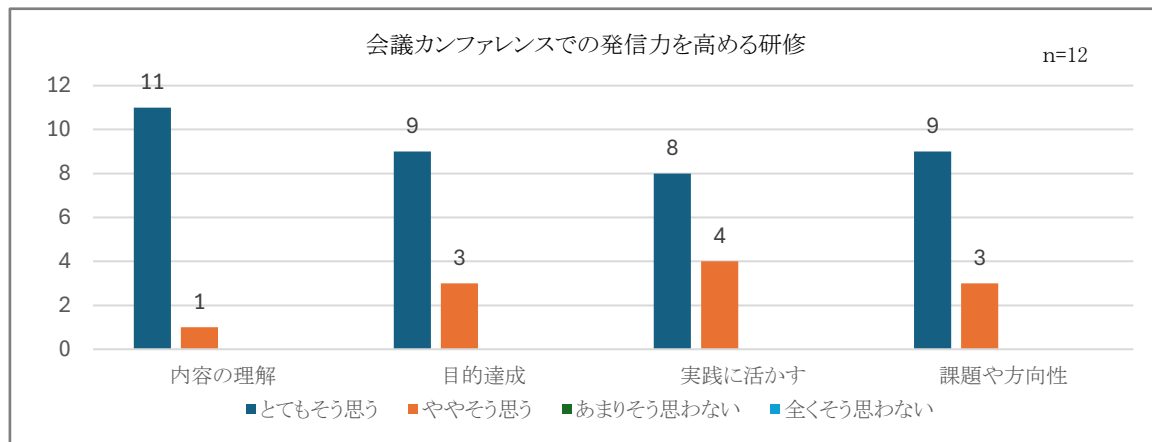
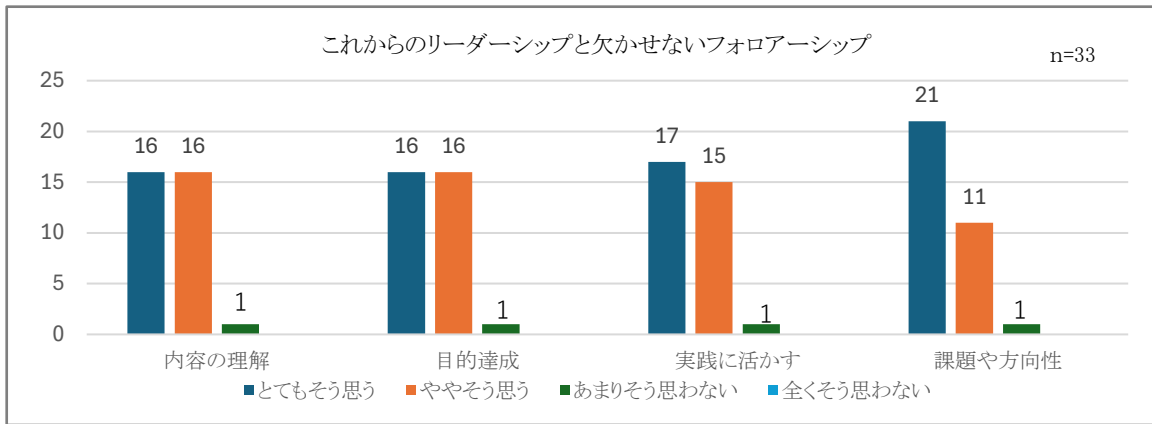
(5)病床数

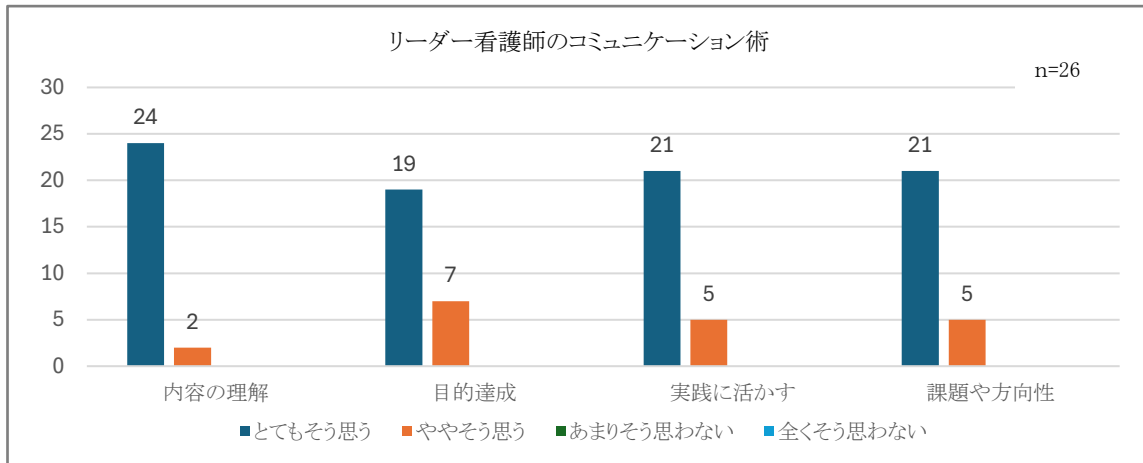
n=192



(6)研修別内容評価 指標 4段階(4:とてもそう思う 3:そう思う 2あまりそう思わない 1全くそう思わない)

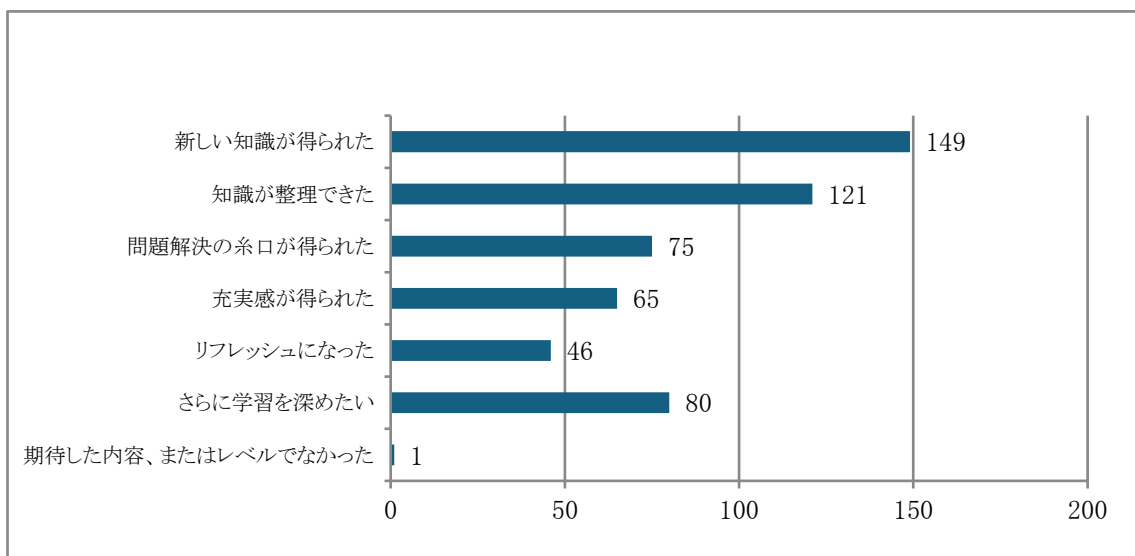






(9) 研修全体に対する感想(複数回答)

n=192



3. 研修担当者コメント

看護職として活躍するために必要な社会人に求められる能力、看護職に求められる能力、組織で求められる能力、看護実践能力を「3つの能力」として位置づけ、各組織の中核を担う中堅看護職の実践能力の強化、向上をねらいとし7つの研修を企画した。

オンライン研修が普及する中ではあるが、あえて開催方法を集合とし、演習・グループワークを通し、受講者の参加型また学びの定着ができるよう企画した。

参加型の研修で有意義であったやグループワークにより多施設の方と情報交換でき、参考になったとの意見も聞かれた。今後もニーズに沿った研修を企画していきたい。

1.認定看護管理者教育課程

研修名	ファーストレベル	
開催日時	令和6年5月 9日(金)～8月18日(日) 18.5日間	時間9:30～16:30
	80名(科目受講者3名含む) 会員79名 非会員1名	定員 80名
修了者数	80名	
研修形態	分散方式	講義・演習
授業形態	ハイブリッド	
教育理念	多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族・地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた看護管理者を育成する。 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。	
到達目標	1. ヘルスケアシステムの構造と現状を理解できる。	
	2. 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析できる。	
	3. 看護管理者の役割と活動を理解し、これからの看護管理者のあり方を考察できる。	
受講要件	1) 日本国の看護師免許を有する者。	
	2) 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。	
	3) 管理的業務に関心がある者。	

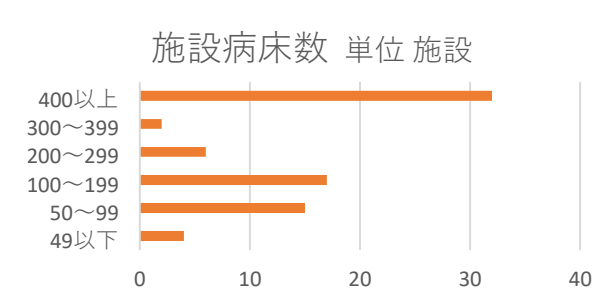
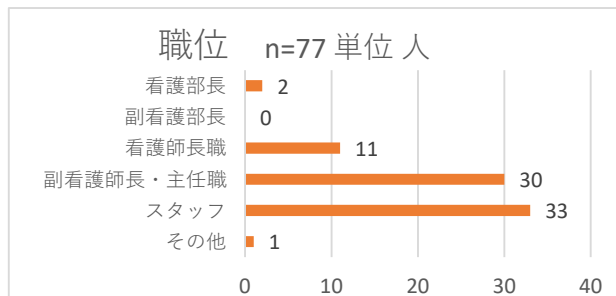
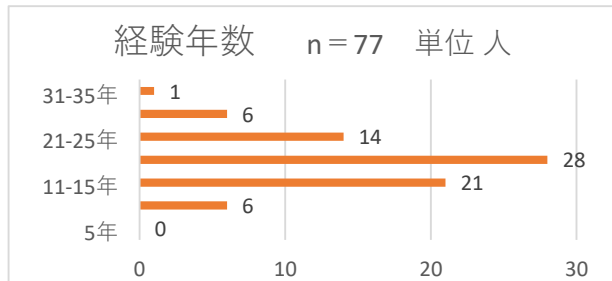
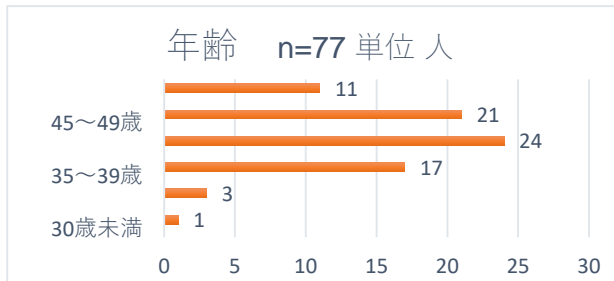
1. プログラム

教科目	単元	教育内容	時間数	研修日	講師
高知県看護協会科目	開会式			5月10日(金)9:00～	挨拶:高知県看護協会会長 藤原房子
	高知県の看護行政	・ 高知県の医療提供体制と看護職の就業状況	1	5月10日(金) 9:10～10:10	高知県健康対策部医療政策課 チーフ 久保田 富女
	認定看護管理者とは	・ 認定看護管理者教育課程のカリキュラム構成 ・ 認定看護管理者に求められるもの ・ 病院看護実態調査から見た現状と課題	1	5月10日(金) 10:20～11:20	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護局長 田鍋 雅子
	オリエンテーション		1	5月10日(金)11:30～	研修担当者
実施時間数(3)					
ヘルスケアシステム論Ⅰ	社会保障制度概論	・ 社会保障制度の体系 ・ 社会保障の関連法規	3	5月18日(土) 9:30～12:30	関東学院大学看護学部 看護学部長 齋藤 訓子
	保健医療福祉サービスの提供体制	・ 保健医療福祉制度の体系 地域包括ケアシステム 地域共生社会	3	5月11日(土) 13:30～16:30	高知県立大学看護学部 特任教授 森下 安子
	ヘルスケアサービスにおける看護の役割	・ 看看連携 ・ 地域連携における看護職の役割 ・ 保健医療福祉関連職種を理解	6	5月17日(金) 9:30～16:30	高知県立大学看護学部 特任教授 森下 安子
		・ 看護の社会的責務と業務基準 看護関連法規 倫理綱領 看護業務基準	3	5月18日(土) 13:30～16:30	関東学院大学看護学部 看護学部長 齋藤 訓子
実施時間数(15)					
組織管理論Ⅰ	組織マネジメント概論	・ 組織マネジメントに関する基礎知識 ・ 看護管理の基礎知識(1)	9	5月31日(金) 9:30～16:30	細木病院 看護部 顧問 森木 妙子
		・ 看護管理の基礎知識(2)		6月8日(土) 9:30～12:30	細木病院 看護部長 岡崎 千佐子
	看護実践における倫理	・ 看護実践における倫理的課題 ・ 倫理的意思決定への支援	6	6月9日(日) 9:30～16:30	細木病院 看護部 顧問 森木 妙子
実施時間数(15)					
人材管理Ⅰ	労務管理の基礎知識	・ 労働法規 ・ 雇用形態 ・ 健康管理(メンタルヘルス含む) ・ ワークライフバランス	6	6月1日(土) 9:30～16:30	社会医療法人明和会医療福祉センター サステイナブル本部 人事統括主幹 竹中 君夫
		・ 就業規則 ・ 勤務体制 ・ ハラスメント防止			
	看護チームのマネジメント	・ チームマネジメント ・ リーダーシップとメンバーシップ ・ コミュニケーション	6	6月2日(日) 9:30～16:30	高知赤十字病院 看護副部長 伊勢田純子
		・ 准看護師への指示と業務 ・ 看護補助者の活用 ・ 看護ケア提供方式 ・ ファシリテーション (40名ずつ2回実施)	6	6月7日(金) 9:30～16:30	県立幡多けんみん病院 看護部長 横山 理恵
		6	6月22日(土) 半数 6月23日(日) 半数 両日9:30～16:30	高知県立大学看護学部 准教授 内川 洋子	

人材管理 I	人材育成の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人学習の原理 ・ 動機づけ理論 ・ 役割理論 ・ 人材育成の方法 	6	6月21日(金) 9:30～16:30	近森病院附属看護学校 副学校長 平瀬 節子
実施時間数(30)					
資源管理 I	経営資源と管理の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療・介護報酬制度の理解 ・ 経営指標の理解 ・ 看護活動の経済的効果 	9	7月5日(金) 9:30～16:30 7月6日(土) 9:30～12:30	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター 看護局長 田鍋 雅子
	看護実践における情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療・看護情報の種類と特徴 ・ 情報管理における倫理的課題(情報リテラシー) 	6	7月7日(日) 9:30～16:30	高知県立大学 長寿健康研究センター 准教授 小林 秀行
実施時間数(15)					
質管理 I	看護サービスの質管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの基本概念 ・ 看護サービスの質評価と改善 	9	7月6日(土) 13:30～16:30 7月20日(土) 9:30～16:30	高知大学医学部 看護学科 教授 多田 邦子
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護サービスの安全管理 ・ 看護サービスと記録 	6	7月19日(金) 9:30～16:30	高知赤十字病院 看護部長 小松 ゆり
実施時間数(15)					
統合演習 I	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容を踏まえ、受講者が取り組む課題を明確にし、対応策を立案する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">2回に分けて実施</div>	15	1回目(半数) 8月2日(金) 9:30～16:30 8月3日(土) 9:30～16:30 8月4日(日) 9:30～12:30 2回目(半数) 8月16日(金) 9:30～16:30 8月17日(土) 9:30～16:30 8月18日(日) 9:30～12:30	講師 放送大学高知学習センター 客員准教授 岡本 真知子 アドバイザー(8名) 細木病院 看護部長 岡崎 千佐子 高知医療センター 看護局次長 辻 由紀子 いづみの病院 看護部長 松岡 和江 高知大学医学部附属病院 入退院支援センター 副センター長 弘末 正美 高知医療センター 看護局次長 野中 真澄 近森病院附属看護学校 副学校長 平瀬 節子 近森病院 看護部長 森本 志保 高知赤十字病院 看護副部長 伊勢田純子
実施時間数(15)					
レポートの方の		<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートとは ・ 文献の活用 ・ 構造の基本 ・ 伝える内容づくり ・ レポート作成の流れ 	3	5月11日(土) 9:30～12:30	高知県立大学看護学部 講師 山中 福子
実施時間数(3)					
	ヘルスケアシステム論 I	15 時間			
	組織管理論 I	15 時間			
	人材管理 I	30 時間			
	資源管理 I	15 時間			
	質管理 I	15 時間			
	統合演習 I	15 時間			
	レポートの書き方	3 時間			
	高知県看護協会科目	3 時間			
	総時間	111 時間			

2. 受講者属性(科目受講者除く77名)

職種 助産師・看護師:1名 看護師:76名、所属施設:病院76名 診療所・クリニック:1名



3. アンケート結果

1) 科目別内容評価(4段階)

1.科目アンケート結果						
	ヘルスケアシステム論 I		組織管理論 I		人材管理 I	
	回収率	99.1%	回収率	98.7%	回収率	97.7%
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
内容の理解	3.53	0.52	3.63	0.50	3.55	0.53
目的達成	3.53	0.52	3.64	0.49	3.52	0.54
今後に活用	3.62	0.49	3.72	0.45	3.61	0.51
課題解決の方向性	3.46	0.55	3.64	0.52	3.52	0.54
	資源管理 I		質管理 I		統合演習 I	
	回収率	95.0%	回収率	97.0%	回収率	100.0%
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
内容の理解	3.48	0.53	3.62	0.53	3.76	0.43
目的達成	3.46	0.56	3.58	0.55	3.73	0.44
今後に活用	3.54	0.54	3.64	0.52	3.75	0.43
課題解決の方向性	3.45	0.56	3.62	0.54	3.71	0.45

指標(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:あまりそう思わない 1:全然そう思わない)

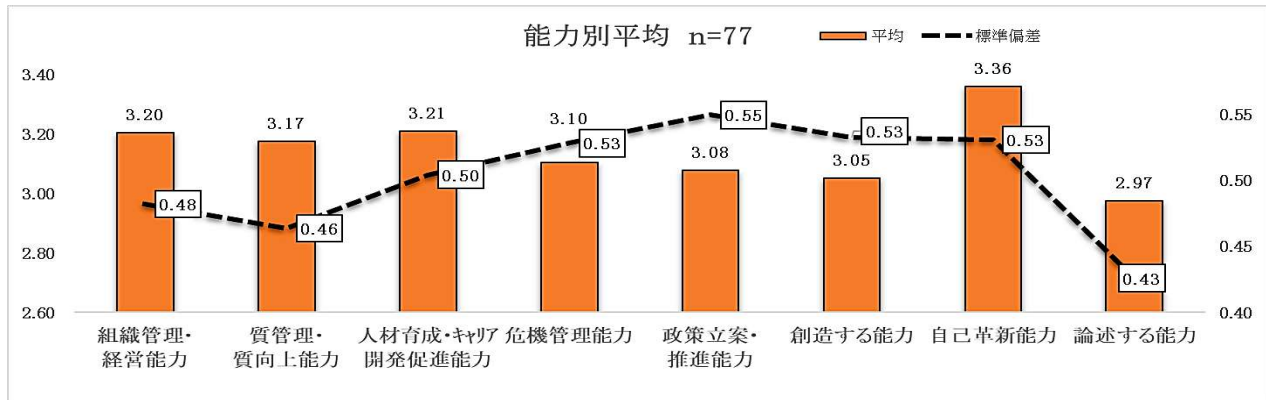
※アンケートはGoogleドライブを使用したオンライン上の質問と回答(重複して回答したものを含む)

2)研修全体のアンケート

受講生 77名 回収率 100%

(1) 研修を受講し、力(能力)がどの程度身についたと思いますか(4段階)。

指標(4:とてもそう思う 3:ややそう思う 2:余りそう思わない 1:全くそう思わない)



(2)研修で学んだことを今後どのように活用しようと思いますか。

- ①教育・人材育成(16)
- ②施設・組織の課題に取り組む(10)
- ③自部署や多職種との協働(6)
- ④業務改善(12)
- ⑤物事の捉え方(多角的、俯瞰的にとらえる)(22)
- ⑥自己の振り返り、対応(8)
- ⑦施設の役割、経営を考える(16)
- ⑧部署運営(18)
- ⑨看護の質向上(9)
- ⑩その他(2)

4. 研修担当者コメント

今年度は、受講応募者全員が、受講可能となった。例年課題となっている論述する力・パソコンスキルの強化を目標に取り組んだ。「レポートの書き方」の講義を開講直後に実施、講義資料のダウンロード等も必須とした。結果、引用文献記述等は改善がみられたが、論述する力の自己評価は横ばいであった。パソコンスキルは「上達した」「パソコンへの苦手意識が少し軽減した」等の声もあった。

「グループワークでの多施設との情報交換が有益であった。」とグループワークを望む声も多くあった。これについては、認定教育機関規定を基に再考が必要と考える。

遠方からの受講生に配慮したオンライン講義の要望もある。また、日本看護協会の教育方針もオンライン研修を取り入れる方針であることから、今後の課題である。

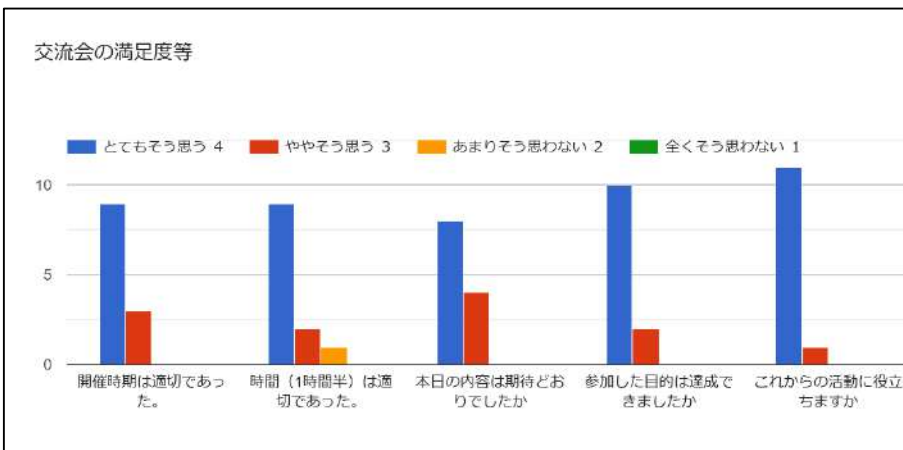
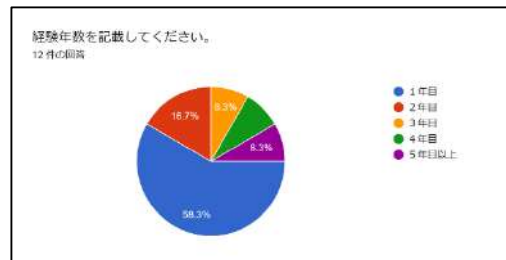
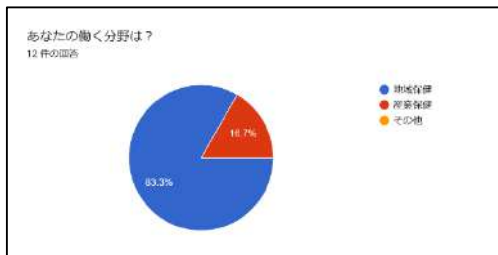
研修名	新任期保健師交流会	
開催日時	令和6年10月19日(土)13:00～14:30	定員 30名
研修形態	集合（高知会場と幡多会場をオンラインでつなぎ交流）	
受講者数	14名(高知会場 9名、幡多会場 5名)	
対象	保健師業務に従事してから4年目までの保健師	
ねらい	新任期保健師の交流を深め、今後の相互の学びの機会につなげる。 ①新任期における保健師間での交流をもつことで、悩みの相談やアドバイスを受け、仕事に対する理解を深めることができる。 ②リフレッシュすることができる。 ③看護協会の魅力を伝え、入会促進につなげる。	
講師	先輩保健師からのメッセージ 仁淀川町主事 松本 夕 幡多福祉保健所主査 明神 未来	
内容	13:00～高知県看護協会保健師職能委員会の活動紹介 13:10～自己紹介 13:15～会場ごとに意見交換 13:50～両会場をWEBで繋いで情報共有 14:00～先輩保健師からみなさんへ(講話) 14:20～高知県看護協会からお知らせ 14:00 閉会	

I 参加者内訳

県6名 市町村5名 産業3名 会員4名 非会員10名

II アンケート結果

1 回答者 12名



2 交流会の感想や意見

- ・普段なかなか交流する機会のない地域の保健師達と話ができて新たな発見もあり、貴重な時間となった。ぜひ又このような交流会に参加したい。
- ・もう少し時間が長くて良かったのではないかと感じた。
- ・こういった場に参加するのは初めてだったが、自分が新任期の頃を思い出した。産業保健分野にいるため行政分野の人と関わることができたのは大変勉強になった。
- ・普段業務の中で関わることのできない人たちと交流できるいい機会だった。
- ・新任保健師同士の交流の機会となっただけでなく、保健師を目指した理由等を意見交換することで、改めて自身を振り返ることができた。
- ・先輩保健師の話がとても素敵で、内容も勉強になった。
- ・他の地域の保健師や先輩保健師の話を聞き、仕事への意欲が増した。これまで産業保健師の方と関わる機会がなかったが、仕事内容や思いを聞けて楽しかった。
- ・先輩保健師からの話を通して、これからどのような保健師を目指していくかをイメージできた。もう少し各会場で話す時間が長くて良かった。業務で職域のメンタルヘルス対策を行っているので職域の方と情報交換できる時間があればありがたかった。
- ・先輩保健師からのメッセージとして、とても有意義なお話を聞くことができてよかった。これからの仕事に活かしていきたい。
- ・保健師同士でやりがいや嬉しかった事を話すことは、交流の機会になるだけでなく、自分の業務について振り返るきっかけにもなった。また、普段関わることが少ない県保健師・産業保健師の声を直接聞ける機会はとても貴重で、楽しく話を聞くことができた。
- ・普段なかなか交流することのない産業保健師とも話すことができて、とても楽しい時間となった。先輩保健師も新任期の時は私たちと同じような思いや不安があったこと、これまでの仕事の向き合い方などを知ることができて良かった。
- ・普段関わることのない産業保健師とも交流することができ、とても良い機会となった。

III 研修評価

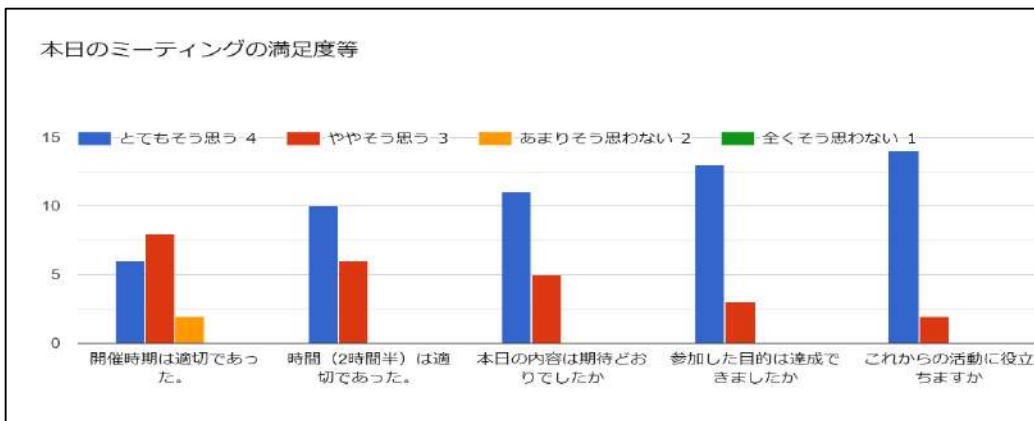
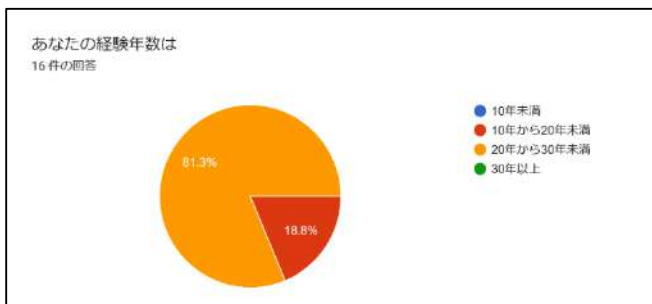
新任保健師交流会を毎年開催してきたが、本年度は行政保健師に加え産業保健師3名の参加があった。グループワークでは、相互の業務への理解が深まり、メンタルヘルスケアなどの連携について協議することもできた。また、幡多地域でも5名の参加があり、両会場をオンラインで結んでの意見交換や別会場にいる先輩保健師からの講話を視聴し交流した。先輩保健師から、新任に不安や悩みを抱えながらも日々成長してきた体験を聞くことで、参加者は保健師としての仕事に意欲が増していた。

来年度も引き続き新任保健師交流会を開催することとし、高知会場と幡多会場をオンラインで繋ぐ方法としたい。

研修名	保健師の人材育成ミーティング ～保健師の経験を成長につなぐ。保健師として何をどう伝えるのか～
開催日時	令和7年2月10日(火) 13:30～16:00 定員 20名
研修形態	集合
受講者数	19名(会員15名、非会員4名)
対象	市町村、県、職域等の保健師(中堅期Ⅱ、管理期Ⅰ、熟練期)
ねらい	各種法律の改正や保健師を取り巻く様々な動きや変化の中、地域における保健師活動に関する指針の見直しも始まり、転換期を迎えている。これらを踏まえて、保健師の人材育成にどう取り組むのか、また、経験をどうつないでいくのか悩んでいる組織や保健師は多い。この交流会では、市町村での実践の話題提供をもとに、保健師として何をどう伝えていくのかをテーマに人材育成のあり方を考える機会とする。
講師	話題提供 中土佐町健康福祉課 課長補佐 吉岡 美紀 高知市母子保健課 母子保健係長 小菅 樹里
内容	13:30 開会 13:40～15:00 話題提供(質疑応答含む) ①「市町村保健衛生職員協議会須崎ブロック保健師部会における事例検討について」 中土佐町健康福祉課 課長補佐 吉岡 美紀 ②「高知市の人材育成の取り組み」 高知市母子保健課 母子保健担当係長 小菅 樹里 15:00～16:00 意見交換 まとめ

I 参加者内訳 県 2名 市町村 17名

II アンケート結果 回答者 16名



〈感想や意見〉

- ・自分だけでなく、同じ悩みを持っていることを知り励まされた。
- ・言いたいことを言って、色んな意見も聞けて、とにかく楽しかった。
- ・意見交換の導入にはなったと思う。発表者の負担にならないように時間も短くてよい。
- ・改めて人材育成の大切さを実感した。
- ・日頃のコミュニケーションの大事さや職場で意図的に事例検討を行うなどの働きかけは効果的であり、大事なことであると思った。
- ・具体的な発表で大変参考になった。
- ・来年度から人材育成に関する仕事を担うことになったので、二人の発表が大変参考になった。特に世代の異なる後輩達へのアプローチを考える機会になった。
- ・具体的に取り組みを聞け、自所属でも使えると思った。グループワークは、交流を含めて楽しかった。
- ・先輩方の話を聞き、当たり前かもしれないが、それぞれの年代で悩みながら働いていることを知り、これからの悩みながら進めばいいのだと勇気もらった。
- ・同じ悩みや苦労や懐かしさなど色々な想いを振り返り、明日への活力にもなった。
- ・一つひとつの事例を大事にすることが、人材育成につながると思った。
- ・人材育成の必要性は感じているが、組織的にどのようにするのかを話す機会が必要と思った。
- ・日々悶々としていたことが、少し解決した気がする。

III 事業の評価

統括保健師を除く中堅期以上の保健師を対象として集会を開催した。新任期などの後輩保健師の育成を担当しながら、自身も統括的保健師の指導を受ける中間的な立場であることから、互いの悩みを共有しつつ、それぞれがエンパワメントされる交流会となった。

人材育成をテーマにすると、主な参加者が統括保健師となり、中堅期保健師が発言しづらくなるが、今回は中堅期のみを対象としたため、安心して語るができる場となった。こうした運営が功を奏し、参加者の満足感が高く、自由記載欄でも「楽しかった」という意見が多かった。

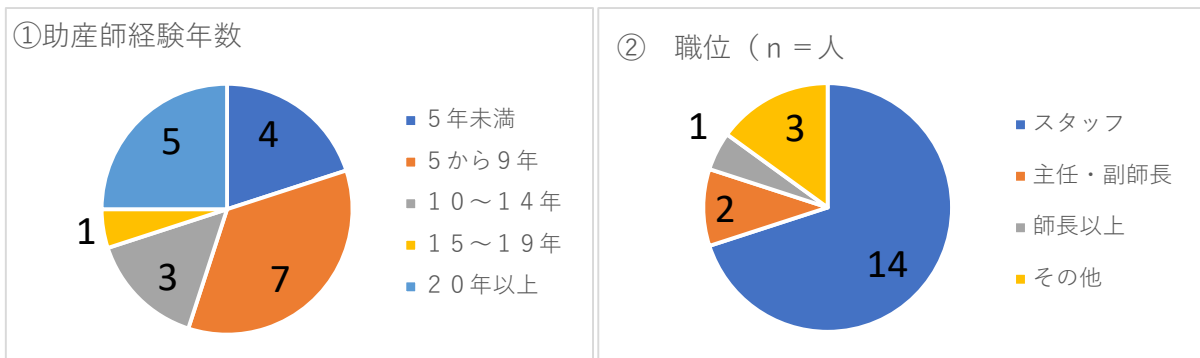
来年度以降も、県が実施する研修では隙間になっているステージの保健師を対象とした交流会に取り組んでいきたい。

2. 助産師職能委員会

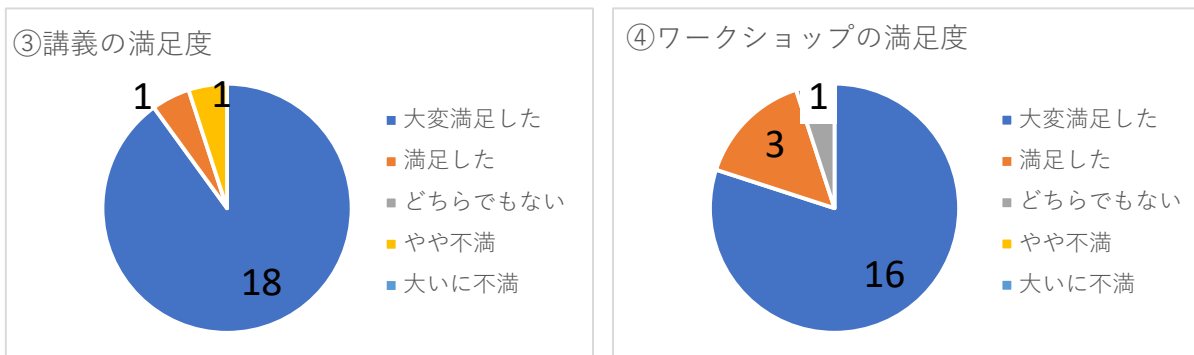
研修名	1) 正常なお産に導く助産ケア ～ベテラン助産師のスキルから学ぶ～	
開催日時	令和6年 9月 7日(土)	10:00～12:00
研修形態	集合・オンライン	
受講者数	総数25名(集合17名 オンライン8名) 会員20名 非会員5名	定員 30名
対象	助産師	
ねらい	(1) 正常な分娩経過を促進するための助産ケアについて、ベテラン助産師の講義から基盤となる助産観とスキルを学ぶ (2) 分娩に関する困りごと、スキルアップの方策・課題などワークショップで共有し、解決に繋ぐ	
講師	さくらんぼ助産院 助産師 柏山 美佐子	
内容	分娩介助 自然出産 助産ケア	

1. アンケート結果 回答25名 回答率80.0%

(1) 属性



(2) 講義・ワークショップの満足度



(3) 講義の感想

- ・具体的なお産の手技がよくわかった
- ・分娩ケアに取り入れていきたい(5名)
- ・お産への思いを再認識できた
- ・側臥位の介助や妊娠期からできる助産師の手技や工夫を学ぶ事ができた
- ・普段分娩管理をしている中で悩むことに焦点を当てて話が聞けたのでよかった
- ・すぐに臨床でも活かせるような内容だった(4名)
- ・会陰保護の時の具体的な工夫が聞けた
- ・多くの知識・経験からくる助産技術を学べた
- ・普段の悩みへの解決策が得られた
- ・もっと時間をかけて内容ももっと深く細かく詳細に聞きたかった

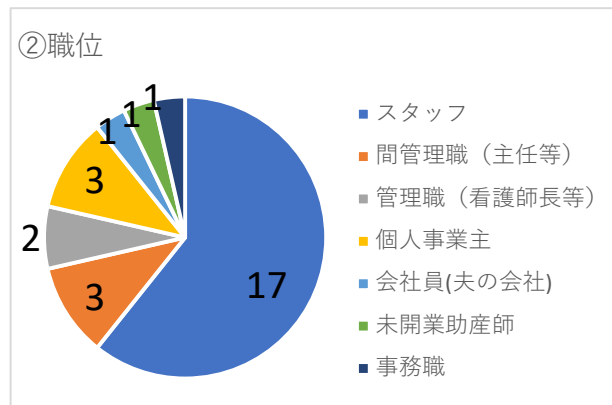
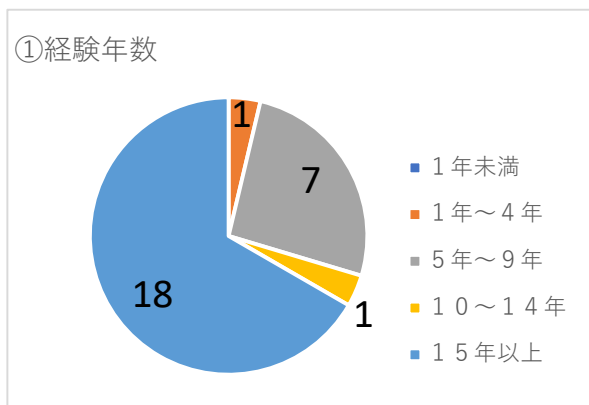
(4) ワークショップの感想

- ・側臥位の分娩介助がよくわかった(3名)
- ・リモートだったけれど、会場の方達と講師の実演がとても参考になった
- ・実際の手技や、お産の現場での介助やケアが見れて、勉強になった(4名)
- ・実践的で内容がよく分かった(3名)
- ・すごく興味深い内容だった(2名)
- ・時間が不足でした

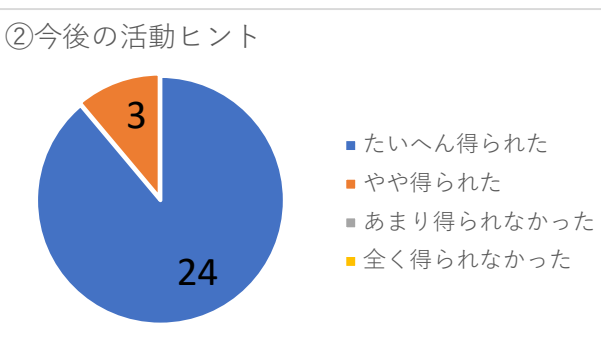
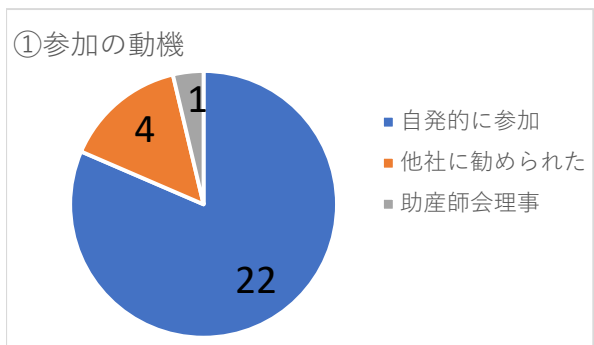
研修名	2) 助産師交流会 助産師が実践する「いのちの教育」	
開催日時	令和6年11月23日(土)	13:00~16:00
研修形態	集合・オンライン	
受講者数	総数30名(集合28名 オンライン2名) 会員25名 非会員5名	定員 30名
対象	助産師	
ねらい	いのちの教育を実践している講師の授業を体験し、その意義、ノウハウを共有する。 いのちの教育に関する理解を深め、ネットワークを築く。	
話題提供者	「いのちの教育から得られたもの」 高知県立大学 講師 徳岡 麻由 氏 「チームで実践するいのちの教育」 国立高知病院 福重 眞紀 氏 山口 果奈 氏 「教育現場と連携したいいのちの教育」 夜さらい助産師相談処 久保 美樹 氏	
内容	いのちの教育 性教育 模擬授業	

1. アンケート結果 回答27名 回答率90.0%(保健師 1名 看護師 1名 助産師 25名)

(1) 属性



(2) 交流会について

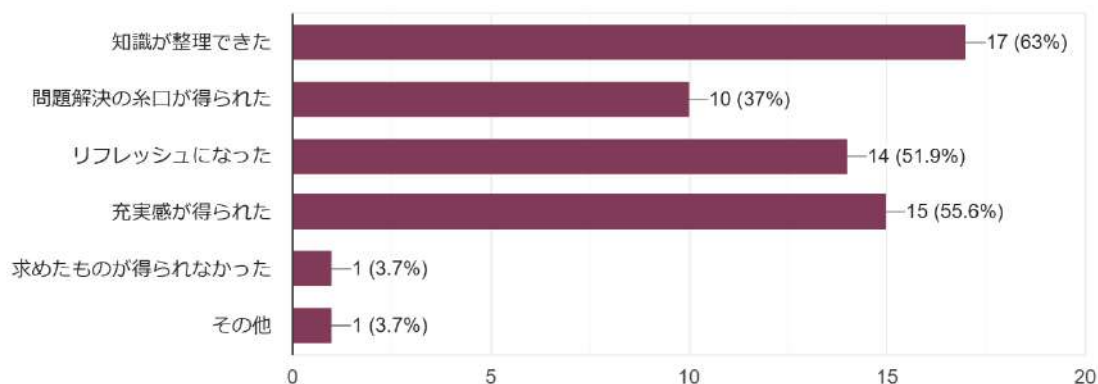


③ 交流会の感想

- ・とても良かった(4名)
- ・とても良い交流の場でした(3名)
- ・ぜひ命の教育を実践していけるよう取り組んでいきたい
- ・組み立てもよく、興味深くきかせていただきました。
- ・自分自身が行うにはまだハードルが高いですが、積極的にまず見学にいこうと思いました
- ・模擬授業も体験でき、イメージがしやすくなりました
- ・ペアやグループで動けるようなら参入しやすいと感じました。
- ・他施設の性教育の教材が見れて参考になった。
- ・取組み内容や方法、課題についてそれぞれに学びました。
- ・今日の内容で様々なお話を聞くことができ大変勉強になりました。
- ・大変勉強になり、刺激を受けました。なかなか勇気はないですが、学んでいきたいと思います
- ・今後の講義のヒントや次世代の助産師育成などにも繋げていける研修でした
- ・話題提供がそれぞれすごく良かったです。(2名)
- ・実際に現場で活動されている方々のお話が聞けて良い学びとなりました
- ・グループワークがよかった 話題提供のかたのお話もつぎにいかせる内容だった
- ・助産師だからこそ伝えられる大切なことが、ひとりでも多くの方に伝えらると良いと感じた
- ・自分に出来るのだろうかと不安ばかりでしたが、とても楽しみな気持ちになりました
- ・助産師として活動する思いや助産師である一人の先輩、生のおことばはあたたかく、響きました
- ・基本のベースに、その時々为学校からのニーズなどに対応して行く事が大事なのだと改めて感じた
- ・県内の性教育の現状や課題を知ることができた
- ・病院外での助産師の働き方や、自分自身の価値観について考えることができた

IV 本日の研修についての感想を以下から選んでください(複数回答可)

27件の回答



⑤ ご感想や今後希望される研修内容

- ・ 保健指導者としての技術アップ 妊婦相談、育児相談、思春期相談の土台となる心得など
- ・ 休日返上での出向について県や看護協会から各施設幹部に働きかけてもらえるとありがたいです。
- ・ いのちの教育について継続、母乳育児、子ども達の育ちに関する問題など

担当者より

今年度は高知県周産期体制が大きく変化し、院内助産への期待が高まるなど助産ケアに注目が集まった。そこで、実践力に焦点を当て、分娩介助・いのちの教育のテーマで行い好評を得た。
今後も実践を交えた研修を計画したいと考える

令和6年度看護師職能研修

研修名	はじめてのACP(人生会議)	
開催日時	令和6年9月21日(土)	9:00～12:00
受講者数	受講者数23名(会員13名・非会員10名)	定員40名
ねらい	①ACPに関する基本的な知識を習得する ②多職種チームによる意思決定支援について理解する	
講師	高知赤十字病院 急性・重症患者看護専門看護師 井上 和代	
内容	講義・演習を通じてACP(人生会議)について理解し、意思決定支援の方法を学ぶ	講義・演習

I アンケート結果

1 9月21日アンケート結果

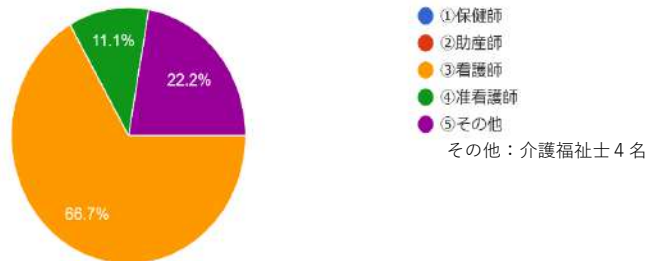
参加人数23名 回答数18名 回収率78%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答をまとめたもの

I-1. 職名

1-1 該当する職名をチェックしてください。

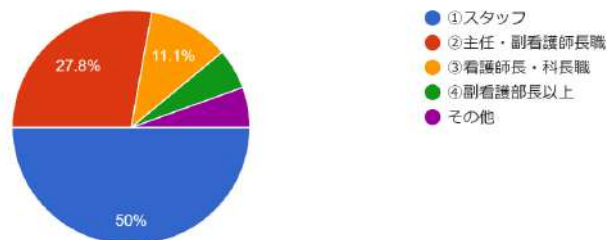
18件の回答



I-2. 職位

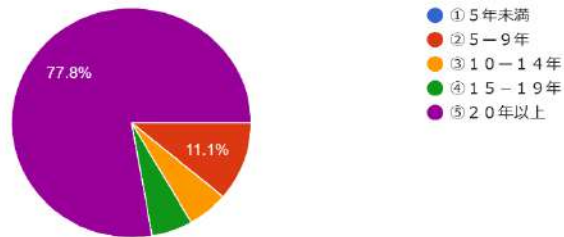
I-2 職位を選択してください。

18件の回答



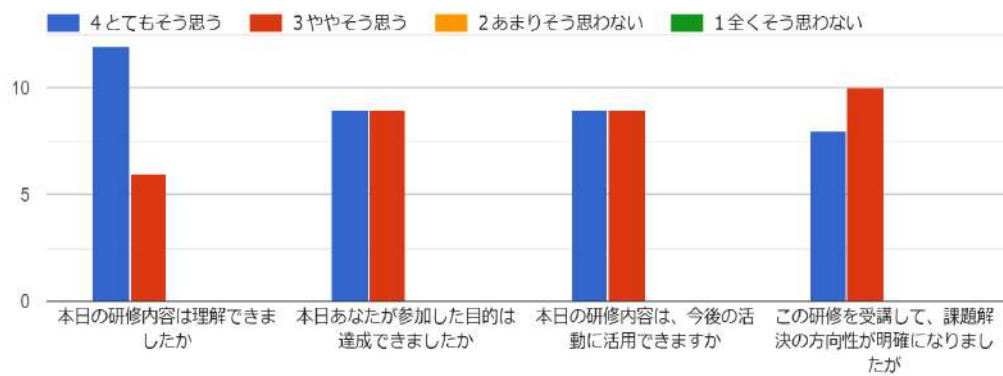
I - 3. 経験年数

I - 3 経験年数
18件の回答



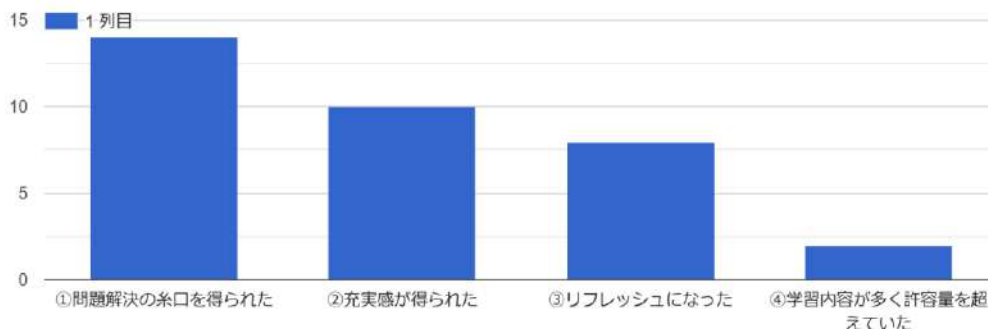
II - 1. 研修内容の理解度

II. 以下の質問に最も当てはまる番号にチェックをしてください



Ⅲ. 研修の講義全体を通した感想

Ⅲ. 研修全体を通した感想として、該当するものすべてを選んでください



感想

- ・訪問看護の中でAPCを取り入れて行きたいと思った。
- ・話し合う必要性や面談への看護、介護士の介入スタッフに伝達、症例検討ACP人生会議を広めていけるようにしたい。
- ・患者や家族の思いを傾聴します
- ・大事なタイミングに寄り添えるよう、知識や対応力をつけていきたいと思った。
- ・普段から患者、家族の生活や今までのこと、大事にしたいことを聞き取りしていました。ACPを考えるきっかけになるような声かけや、資料の配布など実践していこうと思った。
- ・わたしの治療の希望調査票を参考に、自施設でも患者さんと話し合う場を持つシステム作りを行っていききたいと思う。
- ・終末期でなくても、定期的に本人や家人の思いを確認していくことが必要と感じた。
- ・人生会議がもっと認知され、入院前から事前に本人や家族での話し合いが行われているケースが増えれば、入院時の速い段階から本人や家族からのニーズがより明確となり円滑な医療や支援に繋がると思った。
- ・考えることが出来、良い機会になった。
- ・もしバナゲームは楽しかったです
- ・もしバナカードで自分の思いがわかった。
- ・もしバナカードを体験しながら、自分の考えを確認する機会にもなった。対話のスキルを磨いて実践していきたいと思った。
- ・回復期で介護福祉士をしています。家に帰りたいと希望する患者さんが多いが、回復の状態によって家族が診れず退院後は施設等に行かれる方もいます。今回ACPの研修に参加し本人や家族も状況が変わると気持ちもかわるので、意思決定に関して定期的な話し合いや確認が必要であると言う事、本人と家族で意見が割れた時にお互いの気持ちに寄り添って介入し方針や方向性を決めていく事がやはり1番の課題だと感じた。今回勉強させてもらった内容を通じて個別のニーズに柔軟に対応ができれば思った。

看護師職能委員研修担当者より

参加者は、病院勤務の看護師や、訪問看護師や介護福祉の方の参加もあった。実際の症例を交えての講義であったことや、ACPの時の患者への声のかけ方の具体的な例などを提示され、受講生が、ACPの実践を身近に感じる事ができた。アンケートを見ても、現場で、すぐに実践できそうなことを、それぞれの参加者が、考えることができていた。委員会担当者として、今後現場で実践し、スタッフにも伝えて行きたい。

令和6年度看護師職能研修

研修名	多施設新人看護師交流会:先輩看護師からのメッセージ	
開催日時	令和6年9月21日(土)	9:00~12:00
受講者数	受講者数20名(会員5名・非会員15名)	定員40名
ねらい	多施設の新人看護師と交流し、お互いの悩みや想いを出し合いリフレッシュの場とする。	
講師	看護師職能委員	
内容	自己の成長に気づくリフレクション リフレッシュして明日からのモチベーションにつなげる	講義・演習

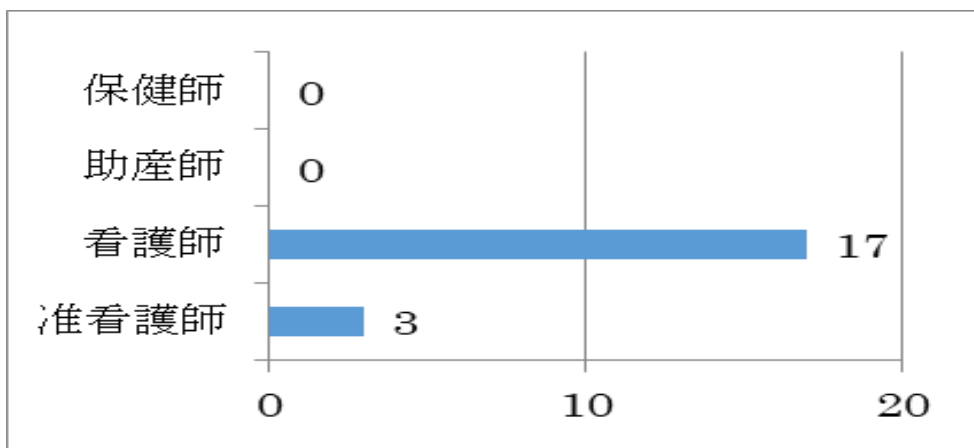
I アンケート結果

1 9月21日アンケート結果

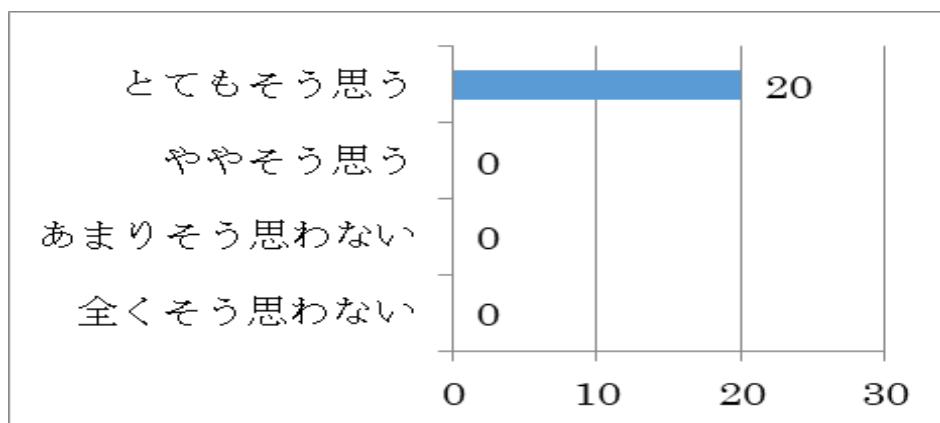
参加人数20名 回答数20名 回収率100%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答をまとめたもの

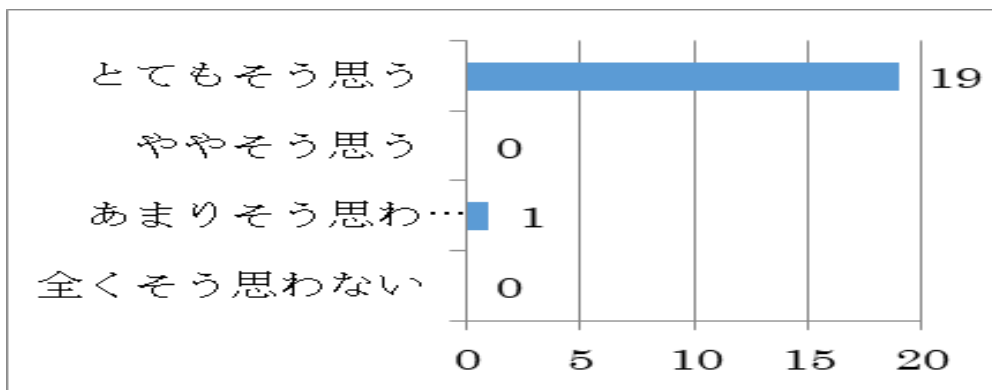
I-1. 職名



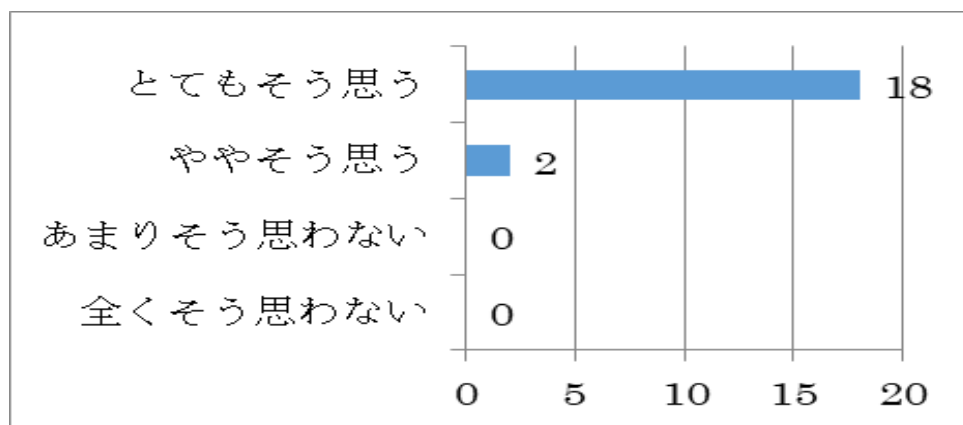
II-1. 研修内容の理解度



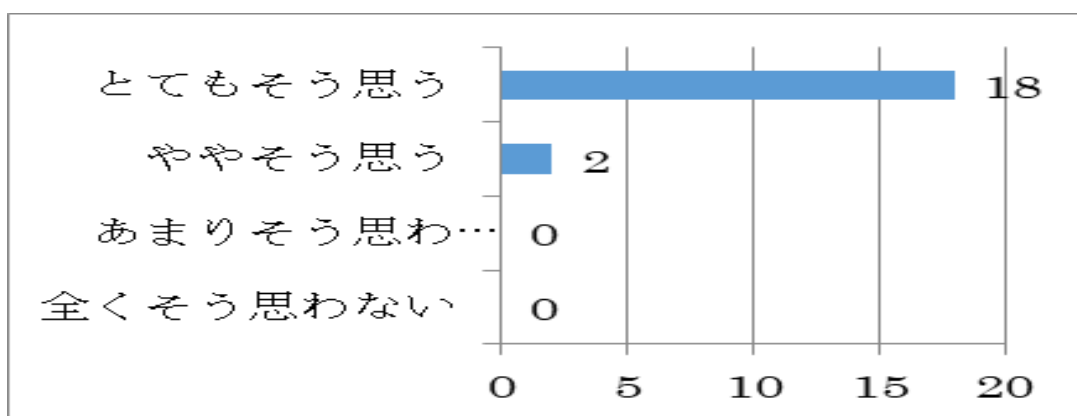
II-2. 参加目的の達成度



II-3. 今後の活動に活用できるか

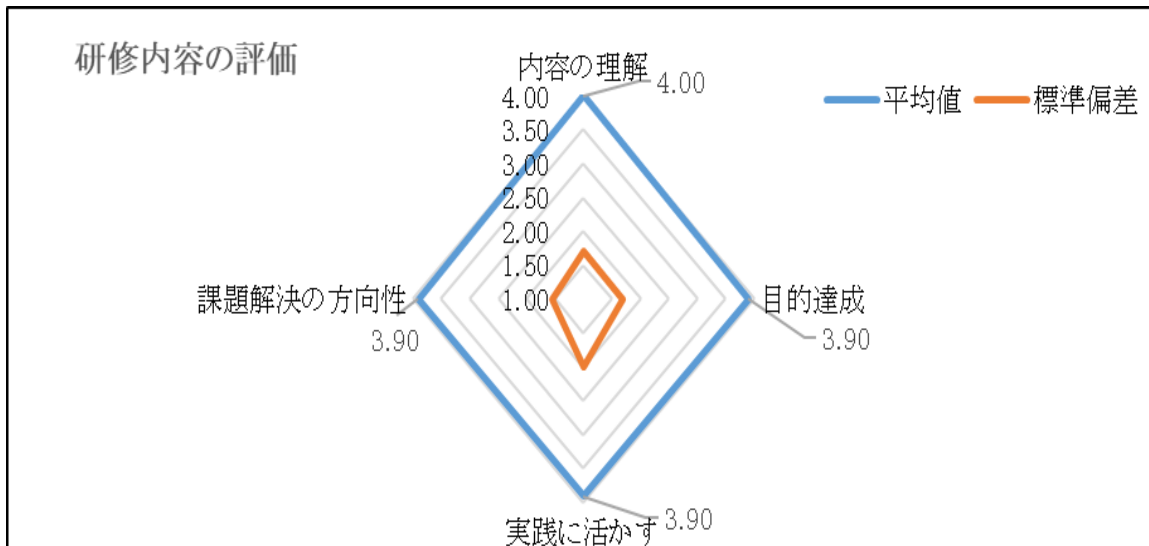


II-4. 課題、方向性の明確化ができたか

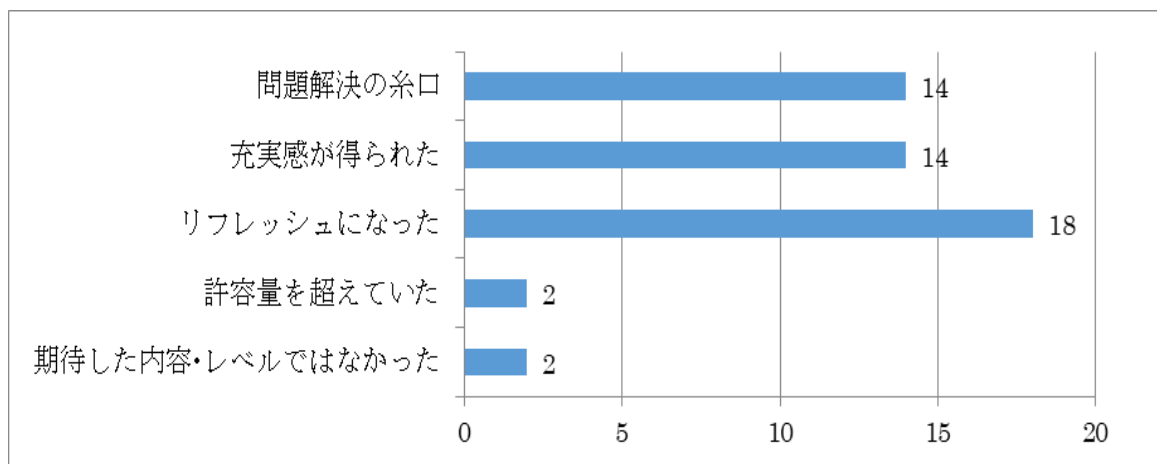


上記で、2余りそう思わない、1全くそう思わないを選択した方は、理由をお聞かせください。

- ・ 話しづらさが若干ある



III. 研修の講義全体を通じた感想



感想

- ・リフレッシュになった。
- ・色々な病院のこと知れてよかった。
もう少し看護師を頑張ろうと思った。
- ・他の病院ではどのようなことをしているのか知れて楽しかった。
- ・病院によって勤務形態が違っていたり、異なっているのはあたりまえですが、同じ悩みを抱えているのが分かり心強かった。
- ・自分と同じ悩みだったり、身近の状況が似ている人と話せとてもリフレッシュになった。
- ・新人看護師同士の会話をし、今後自分がどのような課題を持って、何をしたいのか、考えることが出来、良い機会になった。
- ・研修を通して自分の課題を理解することができた。また周りの意見を聞き自分の意見と照らし合わせて必要な物事を理解できよかった。

看護師職能委員会研修担当者より

アンケート結果からは、研修目的は概ね達成できている。少数ではあるが、毎年「期待した内容・レベルではなかった」という感想がある。研修企画では研修のねらいを明確にしているが、新人看護師がこの時期に交流会に参加することの目的や期待を知ることができれば、研修内容を検討することができると思う。今回、新人看護師が交流会に参加し前向きな感想が得られた点は良かった。

昨年度までは30名程度の参加があったが、今年度は20名だった。次年度は、平日午前中の開催を検討する。また、今回の多施設新人看護師交流会のアンケート結果を参加者の施設（看護）責任者に送付し、新人看護師の現状を伝え、次年度の参加を検討していただく。

令和6年度看護師職能研修

研修名	はじめてのACP(人生会議)	
開催日時	令和6年9月21日(土)	9:00～12:00
受講者数	受講者数23名(会員13名・非会員10名)	定員40名
ねらい	①ACPに関する基本的な知識を習得する ②多職種チームによる意思決定支援について理解する	
講師	高知赤十字病院 急性・重症患者看護専門看護師 井上 和代	
内容	講義・演習を通じてACP(人生会議)について理解し、意思決定支援の方法を学ぶ	講義・演習

I アンケート結果

1 9月21日アンケート結果

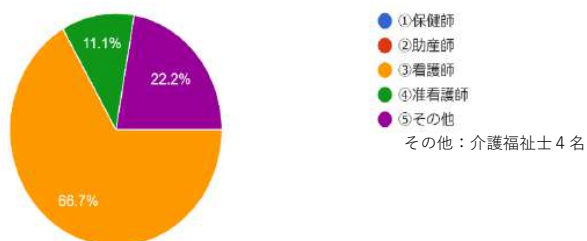
参加人数23名 回答数18名 回収率78%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答をまとめたもの

I-1. 職名

1-1 該当する職名をチェックしてください。

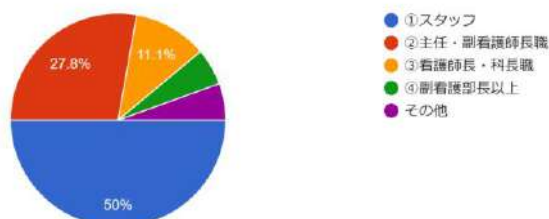
18件の回答



I-2. 職位

I-2 職位を選択してください。

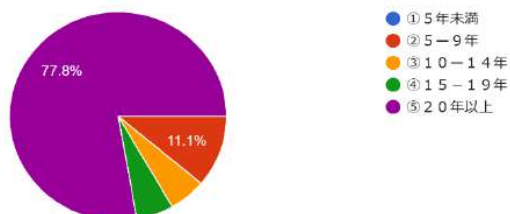
18件の回答



I-3. 経験年数

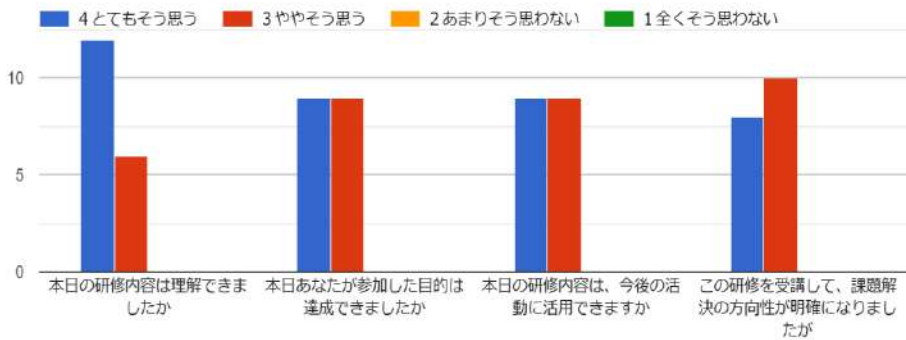
I-3 経験年数

18件の回答



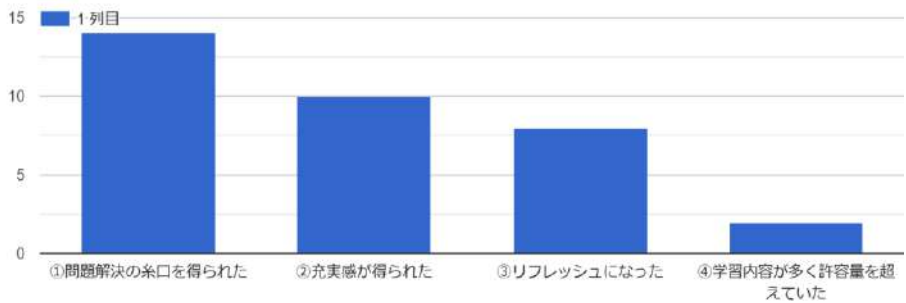
II-1. 研修内容の理解度

II. 以下の質問に最も当てはまる番号にチェックをしてください



III. 研修の講義全体を通した感想

III. 研修全体を通した感想として、該当するものすべてを選んでください



感想

- ・訪問看護の中でAPCを取り入れて行きたいと思った。
- ・話し合う必要性や面談への看護、介護士の介入スタッフに伝達、症例検討ACP人生会議を広めていけるようにしたい。
- ・患者や家族の思いを傾聴します
- ・大事なタイミングに寄り添えるよう、知識や対応力をつけていきたいと思った。
- ・普段から患者、家族の生活や今までのこと、大事にしたいことを聞き取りしていました。ACPを考えるきっかけになるような声かけや、資料の配布など実践していこうと思った。
- ・わたしの治療の希望調査票を参考に、自施設でも患者さんと話し合う場を持つシステム作りを行っていききたいと思う。
- ・終末期でなくても、定期的に本人や家人の思いを確認していくことが必要と感じた。
- ・人生会議がもっと認知され、入院前から事前に本人や家族での話し合いが行われているケースが増えれば、入院時の速い段階から本人や家族からのニーズがより明確となり円滑な医療や支援に繋がると思った。
- ・考えることが出来、良い機会になった。
- ・もしバナゲームは楽しかったです
- ・もしバナカードで自分の思いがわかった。
- ・もしバナカードを体験しながら、自分の考えを確認する機会にもなった。対話のスキルを磨いて実践していきたいと思った。
- ・回復期で介護福祉士をしています。家に帰りたくないと希望する患者さんが多いが、回復の状態によって家族が診れず退院後は施設等に行かれる方もいます。今回ACPの研修に参加し本人や家族も状況が変わると気持ちもかわるので、意思決定に関して定期的な話し合いや確認が必要であると言う事、本人と家族で意見が割れた時にお互いの気持ちに寄り添って介入し方針や方向性を決めていく事がやはり1番の課題だと感じた。今回勉強させてもらった内容を通じて個別のニーズに柔軟に対応ができれば思った。

看護師職能委員研修担当者より

参加者は、病院勤務の看護師や、訪問看護師や介護福祉の方の参加もあった。実際の症例を交えての講義であったことや、ACPの時の患者への声のかけ方の具体的な例などを提示され、受講生が、ACPの実践を身近に感じる事ができた。アンケートを見ても、現場で、すぐに実践できそうなことを、それぞれの参加者が、考えることができていた。委員会担当者として、今後現場で実践し、スタッフにも伝えて行きたい。

令和6年度看護師職能研修

研修名	高齢者の終末期看護エンド・オブ・ライフケア ～ELNEC-J看護師研修プログラム	
開催日時	令和6年10月19日(土)20日(日)	9:00～16:50 9:00～15:45
受講者数	受講者数24名(会員21名・非会員3名)	定員40名
ねらい	①高齢者に特化したエンド・オブ・ライフケアの知識とスキルを習得できる。 ②高齢者やその家族のニーズに対応できる。 ③地域包括ケアの中での終末期看護が提供できる。	
講師	岡本充子： 近森病院統括看護部長・老人看護専門看護師 明神拓也： 近森病院・老人看護専門看護師 小松有希： 近森病院・認知症看護認定看護師 曾根司央子： 愛媛大学医学部附属病院・老人看護専門看護師 西山みどり： 有馬温泉病院・老人看護専門看護師 田村文佳： 医療法人おくら会芸西病院 老人看護専門看護師	
内容	高齢者に特化した終末期ケアを、講義やロールプレイ・事例検討を用いて学習する	講義・演習

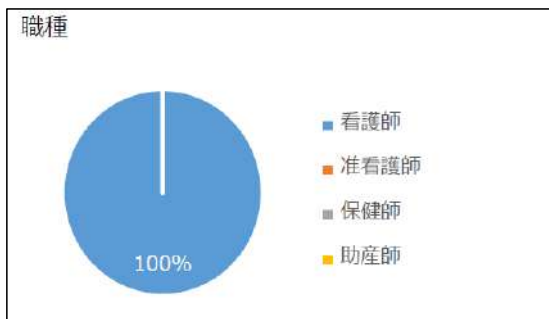
I アンケート結果

1 10月20日アンケート結果

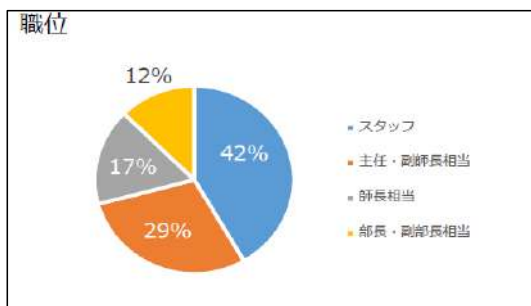
参加人数24名 回答数23名 回収率96%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答をまとめたもの

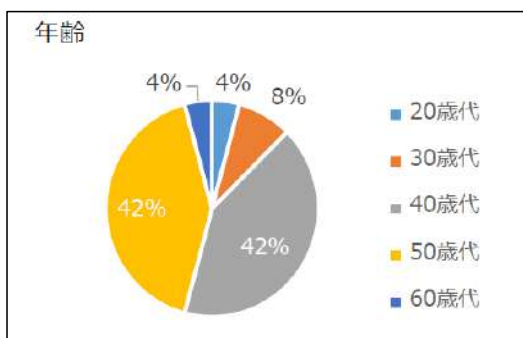
I-1. 職名



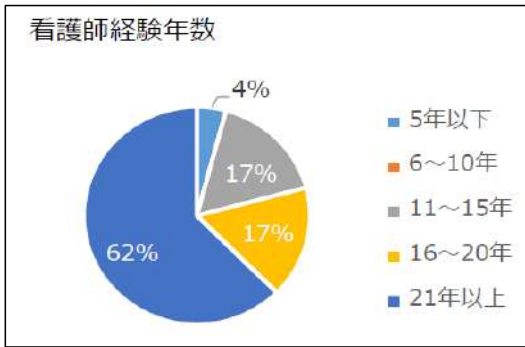
I-2. 職位



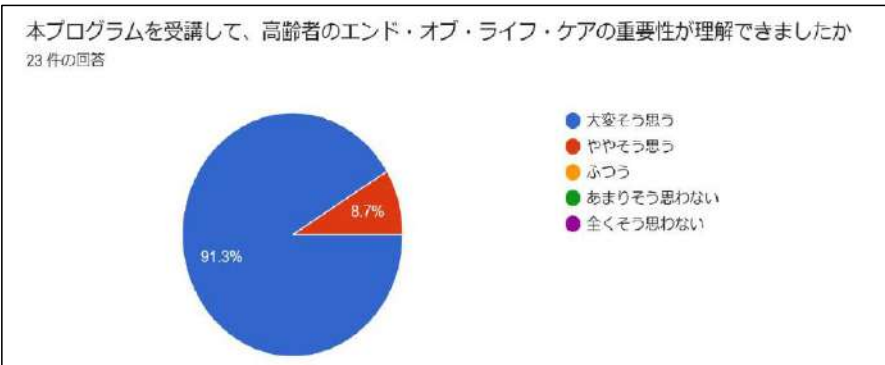
I-3. 年齢



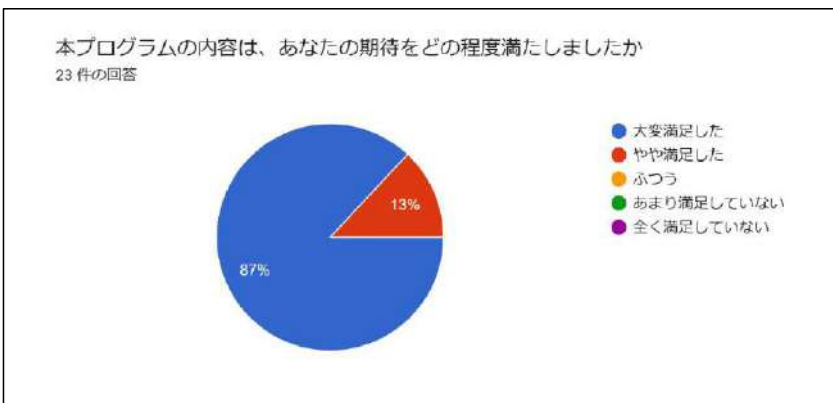
3. 経験年数



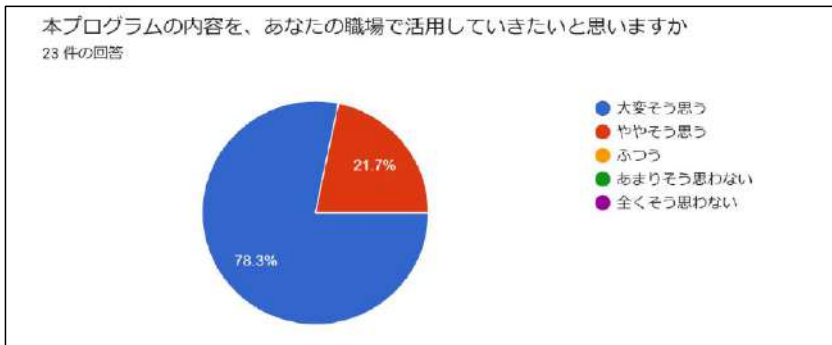
II-1. 研修内容の理解度



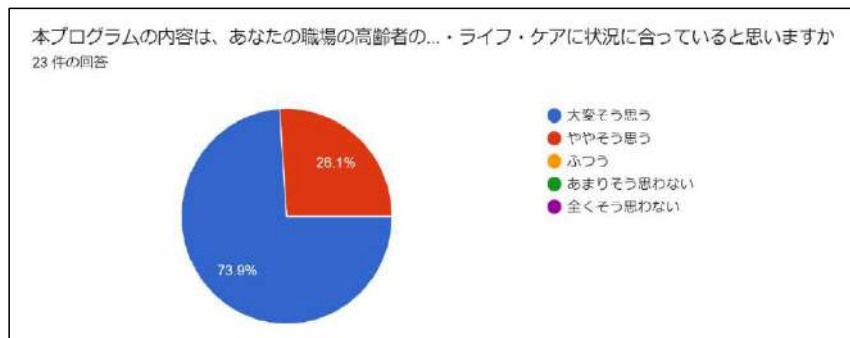
II-2. 参加目的の達成度



II-3. 今後の活動に活用できるか



II-4. 職場のライフケアの状況に合っているか



感想(各モジュール抜粋)

モジュール1：エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護

- ・症状マネジメントで、高齢者ならではの難しさや複雑さをもっと考えようと思った
- ・高齢者の尊厳について考えることができた。
- ・高齢者の QOL とその考え方
- ・高齢者に相応しい医療提供の困難

モジュール2：症状マネジメント

- ・食事摂取量の低下のアセスメント、ケアが大切
- ・認知症の方が自分から症状を訴える事が出来ないなので、介護者が汲み取る必要がある
- ・せん妄のタイプと特徴
- ・多職種連携の必要性
- ・高齢者の症状でのマネジメント、アセスメントの視点。看護職は代弁者。

モジュール3：痛みのマネジメント

- ・高齢者は、感情の表出が困難もなるため、痛みがあると考えてアセスメントをしていきたい
- ・痛みの緩和のバリア
- ・全人的に痛みを捉えること
- ・これからの、ケアをする時入院を受けた時痛みがあると、考えて関わって行くことが、大切だと忘れないで過ごしていけると思います
- ・高齢者は痛みがある事によって、今後の生活に大きな影響となる事、しっかりとアセスメントすることの重要性がわかりました。
- ・不動の痛みが高齢者特有であること。

モジュール4：エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題

- ・倫理的感受性を高める事の重要性
- ・高齢者本人の意思をくみとってもらえず、家族の意向が重視されやすいと。ご家族で、決めてくださいと言わずに、ご本人だったらどうして欲しいと思われているかについて話し合ってみてくださいと提案すること
- ・自分が感じる事と、他人が感じる事に違いがあるので、話し合いが必要。その時に中心となるのは患者さんであることを忘れてはいけないと思った。
- ・看護師の価値観 倫理綱領 や 個人の価値観両方持ち、日頃ケアする上での気付きが大切

モジュール5：エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮

- ・今まで、文化についてこんなふうを考えてみたことがありませんでしたので、非常に興味深かったです。ケアを考える上で、考慮しなければならないことがよくわかった。
- ・自分の文化を知る事の大切さ学んだ。
- ・スピリチュアリティを支えるケア
- ・高齢者の個性や生き方、スピリチュアリティを尊重することが、その人の存在や人生を大切にすることになる

モジュール6 コミュニケーション

- ・ロールプレイは初めてでした。やってみるにより、自己のコミュニケーションの癖に気付くことができました。今回学んだことを活かして明日から活用します。
- ・コミュニケーションの大切さ、むずかしさを実際体験してわかった。
- ・患者役のときに、真剣に聞いてくれる看護師役の方から、真剣に聞く姿勢を学びました。

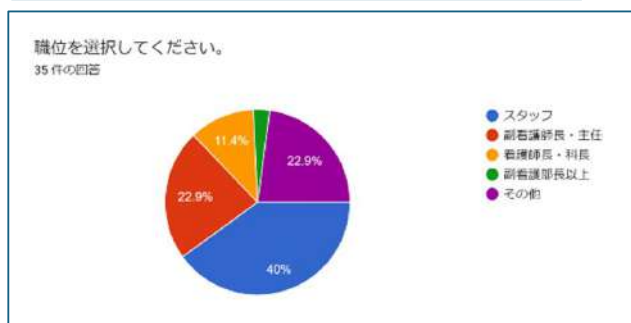
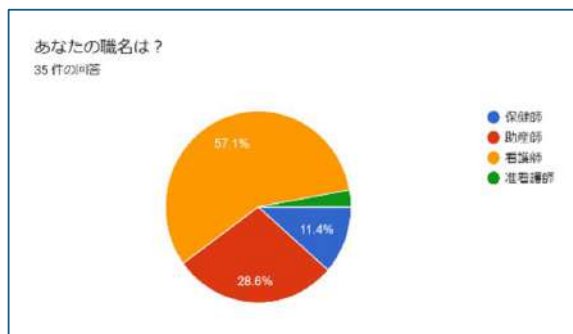
看護師職能委員研修担当者より

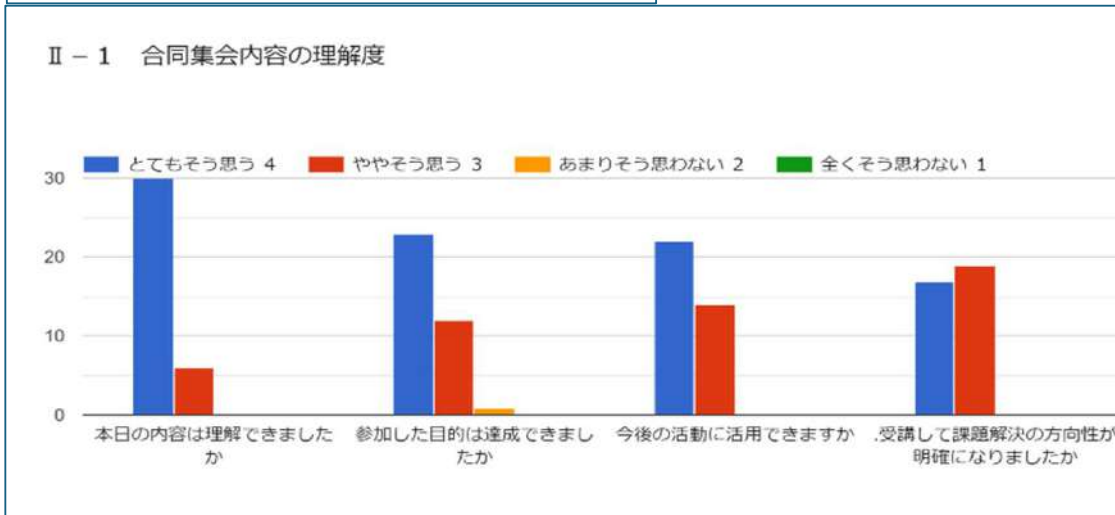
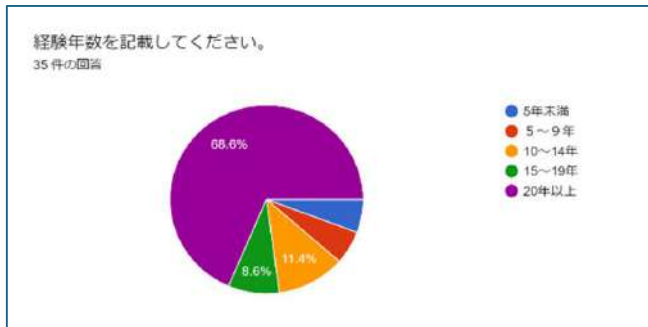
- ・参加者それぞれの職場背景があるが、臨床で活かすための学びが多かったのではないかと思います。特に症状マネジメントの重要性がよく理解できた。
- ・2日間にわたり充実した研修でした。ファシリテーターの方々が研修参加者の意欲や気づきを引き出しながら研修を進行し、研修参加者の学習が深まったと思います。研修参加者のアンケート結果からも参加者の理解・達成度・活用について全員が「そう思う」と回答しており、職場のライフケアの状況にも合っていると回答している。職位では実際に看護を実践する4代のスタッフが42%と1/3以上を占めていることから、今後この研修で学習した知識・技術・考え方を各施設で普及することによって高齢者看護の質も向上すると考える。
- ・少ない生産年齢人口で多くの高齢者を支える時代に直面する中、社会資源が偏在し地域におけるつながりが希薄化する中、従来の社会保障制度で解決できることには限界があり、特に人生の最終段階を迎え、十分な意思疎通が困難になった時に戸惑う家族の気持ちやその方の想いにいかに寄り添えるかが医療スタッフに問われており、その具体的な援助方法を学べる貴重な機会となった内容のアンケート回答が多い印象を受けた。
- ・人生の最終段階で、病院で最期まで過ごすということはどういうメリットとデメリットがあるのか、自宅での療養を望まれても環境や資源などの課題や、家族の介護と仕事の両立に悩む働く世代や、一人暮らしで地域とのつながりが弱いといった地域福祉の課題も深刻です。ニーズに対して、どのような資源や手段があるのか寄り添い、考え、行動できる医療スタッフを育成できる今回のような研修は大切だと感じた。
- ・今回の研修参加者の95%は医療経験10年以上、その多くは20年以上の経験豊富な方で、そういった方々が、職場内でノウハウを伝えて下さることで広がっていく事を願い、私も一緒に学ばせていただきたいと感じた。

研修名	3職能合同集会「災害に備えて3職能が今できることを考える」	
開催日時	令和6年 7月 28日(土) 13:30~16:30	定員 100名
研修形態	集合	
受講者数	総数48名(保健師 9名 助産師 10名 看護師 26名 准看護師 2名 その他 1名) (会員 38名 非会員 10名)	
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	能登半島地震が発生した今年、南海トラフ地震等の災害に備え、災害支援の経験等をもとに『今できること』をともに考え共有する	
話題提供	保健師職能: 幡多福祉保健所 濱田 梓 (保健活動チーム) 助産師職能: 高知赤十字病院 向井 直美 (周産期リエゾン助産師) 看護師職能: 高知医療センター 大坪 将也 (日本DMAT)	
内容	13:30~開会 13:45~「災害に備えて3職能が今できることを考える」 (1)話題提供: 災害支援活動を行った看護師等3名 (2)グループワーク・全体会 15:45~まとめ	

I アンケート結果

1 参加人数48名 回答数 36名(属性無回答 1名)



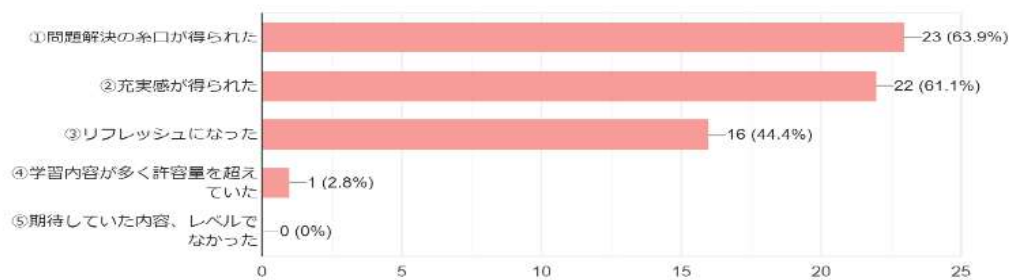


【そう思う理由】

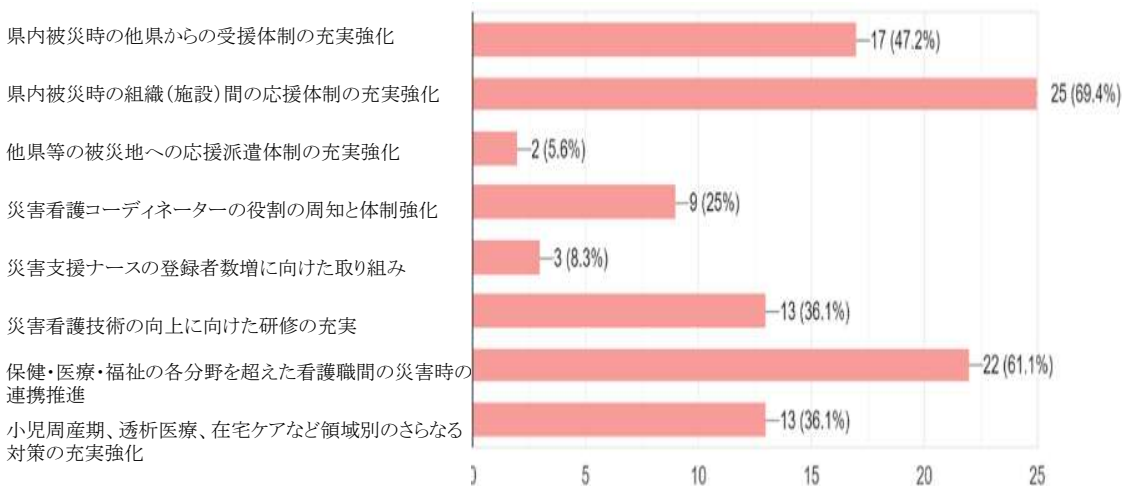
- ・三職種それぞれ違う立場の取り組みや状況が理解できた。
- ・実際に災害現場で体験されて感じたことを共有してもらい、今後活かせるのではないかと考えた。また、他職種、他施設の方と実際に会って話をすることが、今後、発災時に役立つのではないかと思う。
- ・病院、施設、行政の連携と共通のマニュアルが必要と思う。
- ・発災時に地域で力になりたいと看護師が言ってくれ、非常にありがたく心強く感じた。地域で生活する看護職と行政の連携の仕組みがあると良いと思った。また、行政の役割は大きいと感じ、今日の研修を振り返り、できることを職場で考えたい。濱田さんの話題提供が非常にわかりやすく、考えさせられた。
- ・発災時の行動を患者、スタッフ共に慌てずできるために、いかにコミュニティや地域資源を活用するのか勉強になった。
- ・被災地での経験を聞く事で、災害対策についてイメージを持つことができ、今、必要な具体策を考えることができた。グループワークでは、様々な病院の対策に加え、自分たちが職場外でも活動できるようにするための意見交流が出来て良かった。
- ・他院や他職種の多方面からの意見を聞くことができ、何をしなくてはならないのか分かってきた。
- ・組織の中でポジションがないとできないことがある。まずは個人的にできることから取り組みたい。
- ・現地での状況を聞いた事で、実際に優先すべき問題、不足していた情報を得られて、早速対策の見直しに役立った。
- ・災害時の小児周産期リエゾンの役割や災害時に実際何が困るのかなどが知ることでよかった。
- ・話題提供や、グループワークで触れた内容について、これまであまり意識しなかった事柄を考えるきっかけになった
- ・参集途上や現場活動中の問題点が理解でき、訓練の企画立案、実災害時活かせると思った。

Ⅲ. 集会全体を通じた感想を該当するものすべてにチェックして下さい

36件の回答



4 高知県看護協会が行政等と連携して充実強化すべき災害対策について、優先度が高いと考えること(選択3つ)



5 全体を通しての意見・感想

- 最後のグループワークで、色んな環境の看護職がいるので自施設での話を聞いて勉強になった。
- 久しぶりに他施設との情報交換をすると、自施設に足りない部分、問題点が明らかになり、解決の糸口が見えてた。
- 保健師の話を聞いて、情報共有の大切さ、また仕組み化の大変さを感じた。グループワークで色々な話を聞いて、参考になることが多くあった。
- 普段、現場で話す機会の少ない職種と話すことで、自身の業務を振り返ることができ、とてもいい機会となった。
- 災害に対して看護の視点から学ぶことができた。
- 他職種、他施設との方と実際に会って話をするのが、今後、発災時に役立つのではないかと思った。
- 3職種での意見交換は、視点が広がり良かった。
- 行政の果たす役割や検討している内容をもっと発信し、それぞれの機関に伝えることも必要な事であると感じた。それぞれの働く地域の看護職同士が繋がる必要を感じた。
- 貴重な話を聴くことが出来て、有意義な時間を持つことが出来た。他の看護職や病院と意見交流することで、視野が広がり参加して良かった。今後もこのような機会があればよい。
- 災害対策への取り組みとして、自分にできること、自部署でできることを見出すことができた。危機感を持ち、病院としての取り組みを早急に始める必要があると感じた。
- 会場の感染対策も大変だと思うが、やはり集合研修のメリットは大きいので、テーマによっては集合を増やしてほしい。

II 事業評価

3職能合同集会では、看護職が領域を超えて取り組むべき課題をテーマに集会を実施している。今年度は、能登半島地震から半年のタイミングであったことから、南海トラフ地震対策への備えをテーマとし、中でも受援体制の構築に焦点を当てた。参加者からは、他の職能の活動を知ることによって視野の広がりや日ごろの連携の必要性を強く認識した等の感想が聞かれた。また、自組織で準備すべきことへのヒントを得て、職場での実践に意欲が示された。

今後も3職能合同集会については、看護職全体で取り組むべき課題をテーマとして、その課題に対し各職能の取組などを共有することで、看一看護連携や看護職の役割拡大の推進につなげていきたい。

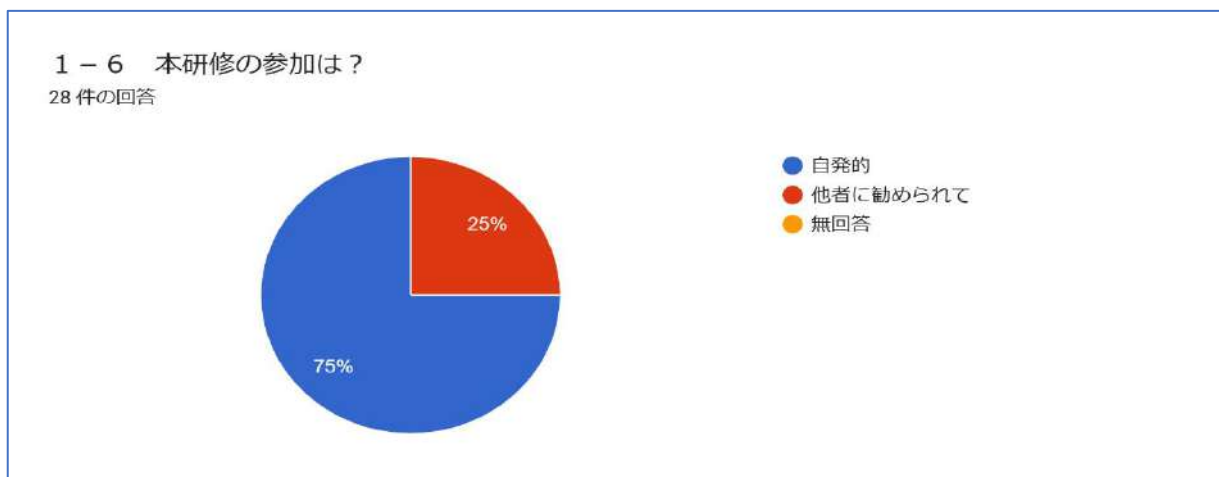
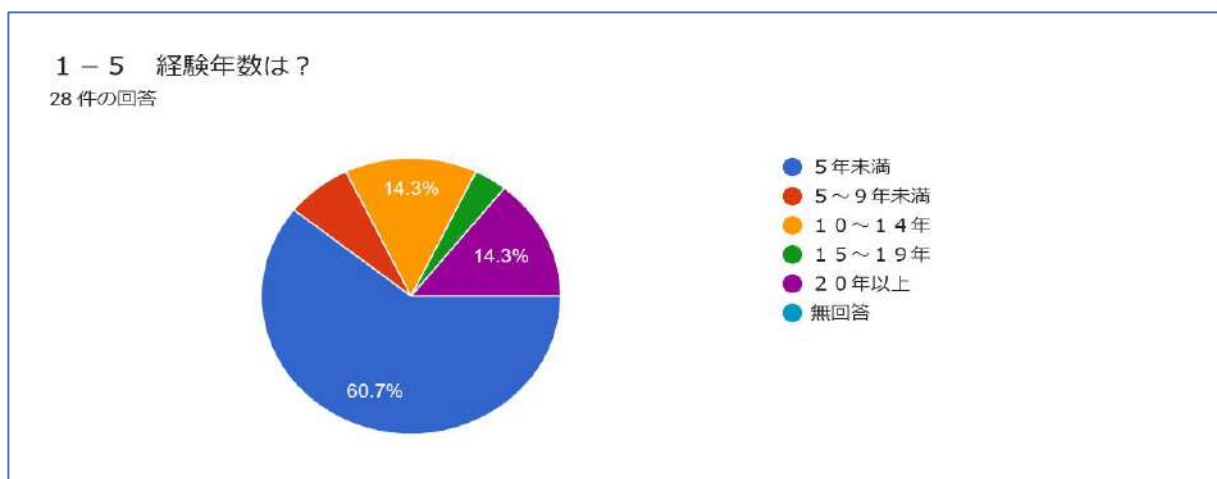
看護制度委員会研修

研修名	准看護師キャリアアップ研修	
開催日時	令和6年11月13日(水)	13:30～16:30
研修形態	集合	
受講者数	名43名 (会員29名 非会員14名) (看護師42名 准看護師1名)	定員 40名
対象	ラダーレベルⅠ～Ⅱ 興味のある看護職	
ねらい	1. 危険な波形がわかる 2. 心電図波形から、患者さんの病態を予測でき、何を観察すればよいのかがわかる	
講師	細木病院 心不全療養指導士 清岡さやか	
内容	心電図の基本を学び、異常に気付くことができる 講義と演習	

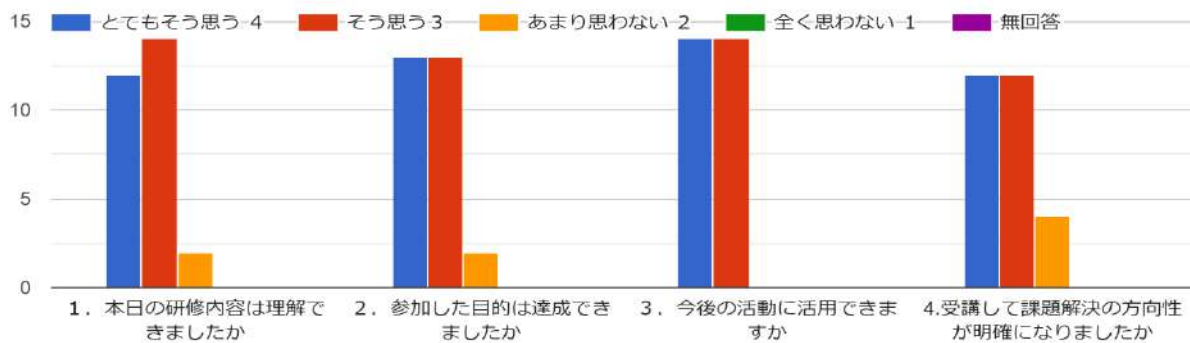
1. アンケート結果

参加人数43名 回答数 28名 (65%)

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答



II - 1 本日の「心電図を読み取ろう」の研修について

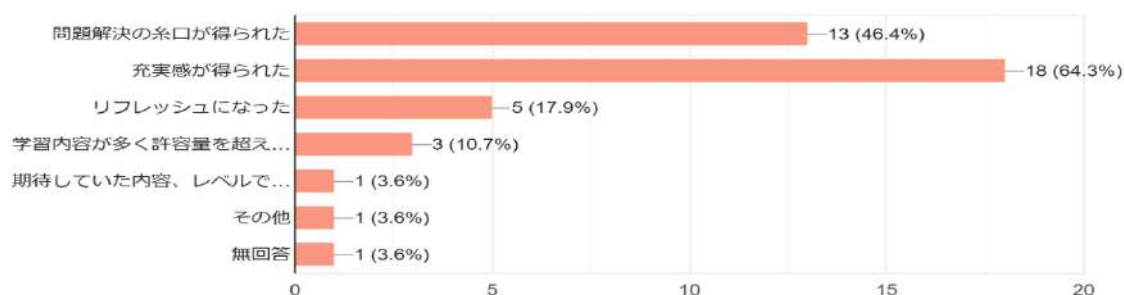


II - 2. 上記を選択した理由を記載して下さい (11 件の回答)

- ・モニター装着や、12誘導とる時があり勉強になった。
- ・心電図を学ぶモチベーションを維持できた
- ・経験からの話がわかりやすい
- ・わかりやすかった
- ・ラダー1.2の職員向けに伝達講習を行うことができる。
- ・分かりやすく理解できた
- ・今後に活かせそうと思った
- ・テストをしてみてもまだまだ分からないことが多かったと感じた
- ・講義を聴いて理解しているつもりだったが、最後のテストであまり理解していなかったと感じた。職場で少しずつ心電図が読めるように頑張る。
- ・現場で困っている電極の付け方(QRSの高さとTの高さがほぼ一緒や高さが無い心電図の時)を知りたかった。
- ・自己学習で心電図についてがあまり理解できていなかったが、先生の分かりやすい説明で理解することができた。グループワークでモニター心電図と12誘導心電図の電極の張り方を実施して覚える事ができた。正常洞調律について理解することが不整脈を判読する上で重要だと学び、今回の研修を復習して早期に異常に気付いてアセスメントできるようになりたいと思った。

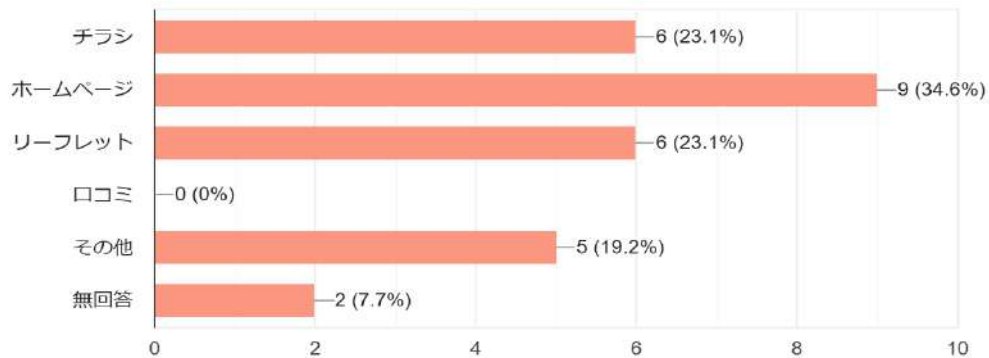
III. 研修全体を通した感想を該当するものすべてにチェックして下さい

28 件の回答



IV. この研修を何で知りましたか（複数回答）

26件の回答



VII ご感想やご意見を記載下さい（6件の回答）

- ・心電図が苦手な人には、苦手感が軽減できる講義だったと思う。
- ・苦手分野としていた心電図を分かりやすく教えてもらった。
- ・講義はとても分かりやすく説明が聞けて良かった。12誘導の演習に時間がかかり過ぎた。グループワークでなくても良いと思う。もう少しテストと解説に時間配分があれば良かったと思う
- ・前の画面が少し見にくい気がした。資料はまた帰ってから再勉強に役立つ物で、ありがたい。3時間あっという間だった。
- ・心電図から得られた情報でできる看護ケアを知りたい。
- ・研修のグループワークで他施設の方と話すことがリフレッシュとなった。

担当者のコメント

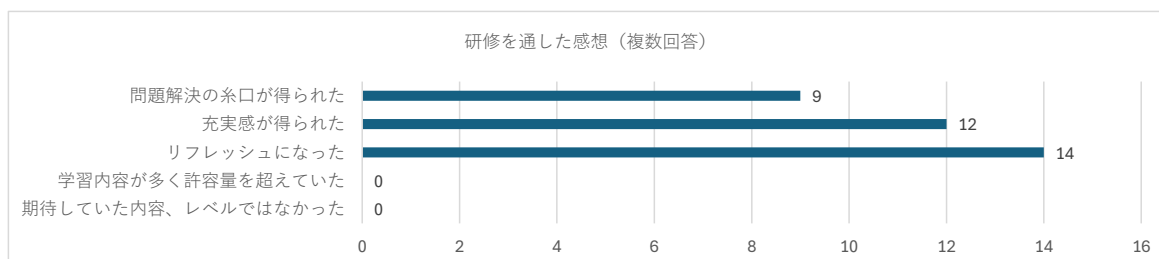
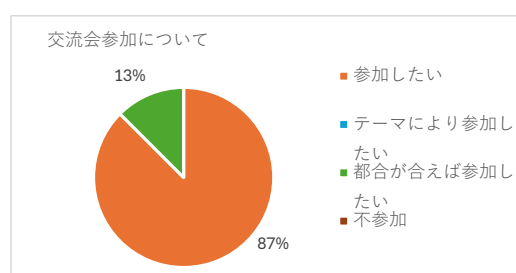
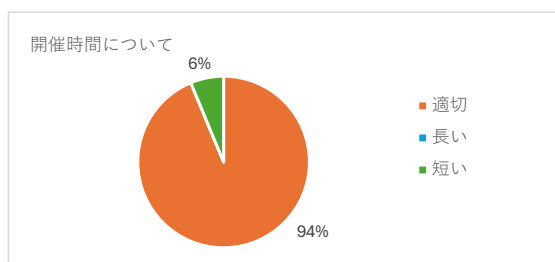
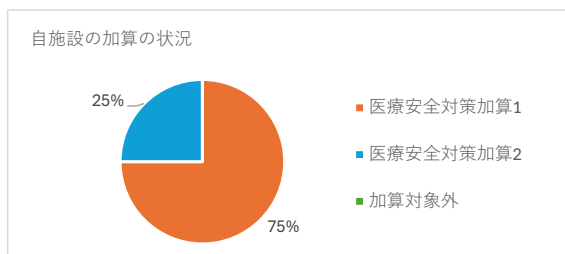
基礎的な知識の復習で、実践に役立つ内容であった。段階的に学ぶ仕組みがあればよい。また、演習の進め方については、時間配分やフィジカルトレーニングモデルの活用等、より実践に活かすことができればよい。

2. 医療安全委員会

研修名	4) 医療安全管理者交流会～院内の医療安全について考えよう！～	
開催日時	令和6年 12月 7日(土)	10:00～12:00
研修形態	集合研修	
受講者数	18名 (会員17名 非会員1名)	定員 40名
対象	院内で医療安全に関わっている職員(専従・専任を問わない)	
ねらい	医療安全管理者の交流を図る 交流会を通して情報共有し、各々の施設での医療安全に役立てる	
担当	高知県看護協会医療安全委員会	

1. アンケート結果

参加人数:18名 回答数:16名 回収率:89% n:16



2.意見・感想

- ・ 他施設での様々な対策を知ることで、当院での事故防止対策の参考にしたいと思った。こういった情報交換の場や、メールでのやり取り、相談などの機会がもっと増えれば、高知県全体の医療安全のレベルも上がっていくのではないかと感じた。
- ・ 他施設の状況がわかり、色々な課題があることがわかった。
- ・ 心に溜まっていたモヤモヤが吹き出して来た。一人ではないことを実感して安心した。これからのパワーを頂いた。
- ・ このような会に参加させて頂くことで、自施設での活動に活かせることを知る機会になった。また、顔を合わせてコミュニケーションを図ることで、今後の連携も取りやすく大変ありがたい場となっている。今後もぜひ、続けて頂きたい。
- ・ 各施設の取り組みや悩みが共有でき、とても有意義な研修となった。
- ・ 他病院の対策や考え方などを知ることができ、とても勉強になった。

3.研修担当者コメント

医療安全委員会委員3施設より取り組み報告を行い、医療安全活動や課題について情報共有・意見交換することができた。昨年度、医療安全対策加算2施設の参加者が3名と少なかったため、今年度は、院内で医療安全に関わる職種を対象に交流会を開催したが、参加者数が予定よりも少なかった。次年度は、チラシ等を作成し看護職に関わらず、医療安全に関わる職種に幅広く参加が得られるよう広報を行い、高知県内の医療安全活動のネットワークを広げていきたい。

災害看護研修

研修名	地域災害支援ナース育成研修【基礎編】	
開催日時	1) 令和6年8月25日(日) 9:00~12:00 高知南・東地区支部 2) 9月21日(土) 9:00~12:00 吾川・佐川・須崎・窪川地区支部 3) 11月10日(日) 13:00~16:00 幡多地区支部 4) 11月23日(日) 13:00~16:00 東部1・2地区支部	
研修形態	集合	
受講者数	1) 49名(会員35名 非会員14名) 2) 26名(会員22名 非会員 4名) 3) 16名(会員13名 非会員 3名) 4) 27名(会員23名 非会員 4名)	定員 各40名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	・災害発生後の、地域における看護職の役割について認識を深める。 ・トリアージに関する知識を演習を通し、高めることができる。	
講師	高知県立大学 看護学部 教授 竹崎久美子 高知県・高知市企業団立病院 高知医療センター日本DMAT隊員 岡崎 啓 土佐市立土佐市民病院 日本DMAT隊員 玉井 晶子 高知県立幡多看護専門学校 副校長 酒井 美保 高知県立幡多けんみん病院 日本DMAT隊員 山下 敏弘 高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院 日本DMAT隊員 西田 和真	
内容	災害時における看護支援活動/トリアージの基礎	

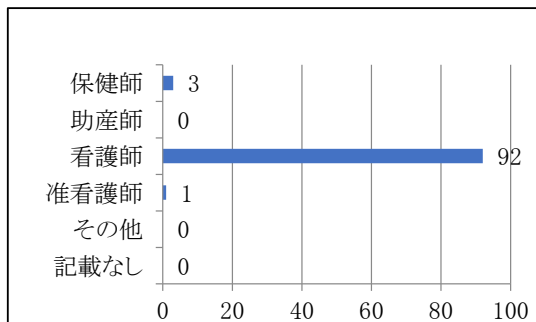
1. アンケート結果

参加人数118名 回答数95名 回答率75.5%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

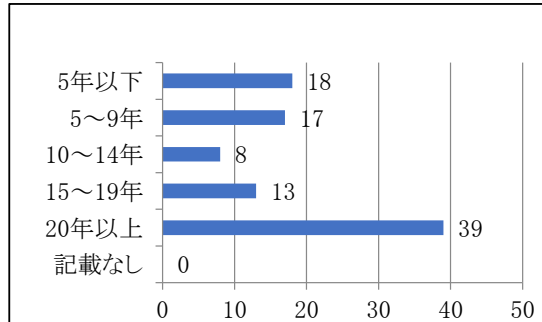
1) 職種

n=95



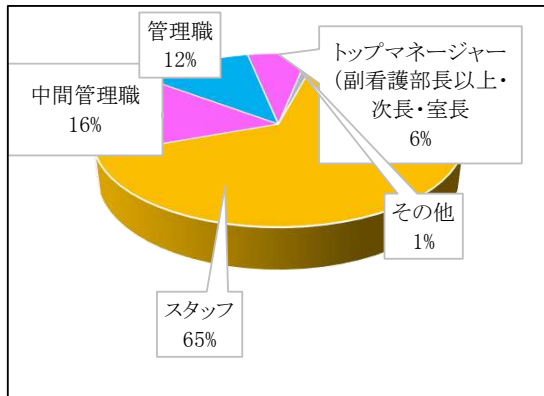
2) 経験年数

n=95



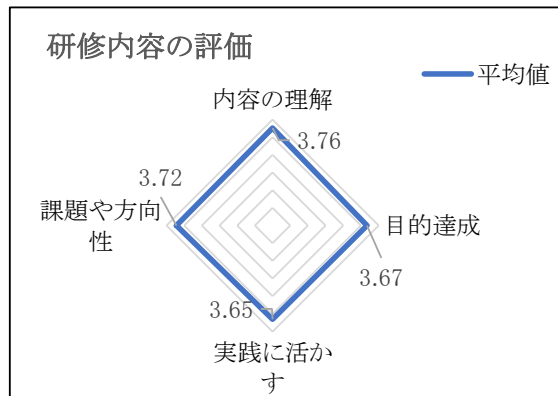
3) 職位

n=95

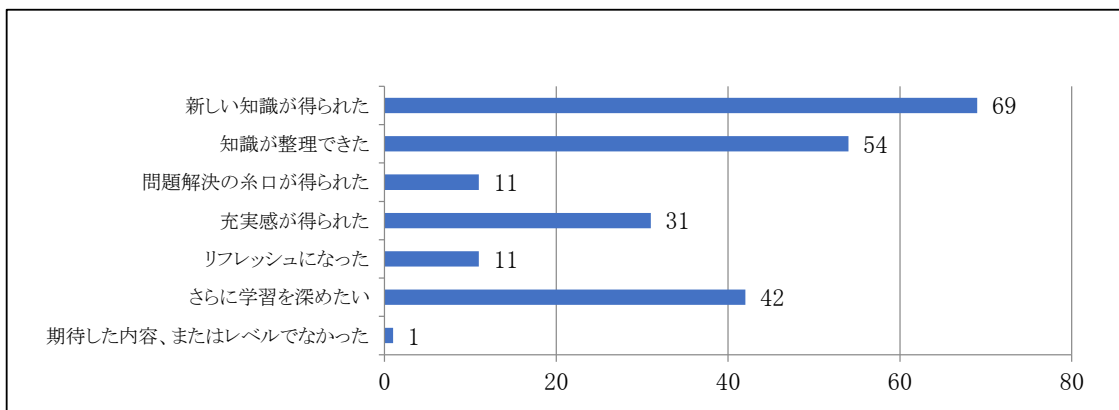


4) 研修内容の評価

n=95



5) 研修の講義全体を通じた感想(複数回答)



6) 意見感想(抜粋)

- ・繰り返し訓練が必要と思った。
- ・トリアージについては、職員に伝達講習をしたいと思う。
- ・トリアージの方法がよく理解できた。
- ・新しい情報もまじえながらの講義であった。実際に考えて答えて、という形式はわかりやすく覚えやすかった。本日の資料は、自施設に帰って、みんなで共有しようと思う。
- ・今後確実に必要である知識を学ぶ事ができ、とても身になる研修だった。実際災害が起こった時、この知識があるのとないのでは動き方、考え方が全く違ってくると思うので、自分の病院内でも共有していきたい、自分一人ではなくみんなが協力してスムーズに動けるようにしていきたいと思う。次回の実務編もぜひ参加させていただきたい。
- ・今後災害のことを考えていかなければならないと、思い勉強のため参加した。動画で実際の震災後の動作が見れてよかった。
- ・基礎編を受けていなかったのでも地域外でしたが参加をさせて頂きました。PATについて、しっかりとできる訓練の繰り返しが必要と感じた。
- ・災害時に行える看護師の役割が理解できた。トリアージの方法が詳しくて、実演で見れたのがよりわかりやすかった。
- ・わかりやすく、自分の職場の事務職員の方にも研修に参加してもらおうようにしていきたい。

2.研修担当者コメント

今年度は4地区支部と連携し地域の特徴を踏まえた企画で開催できた。受講者は南海トラフ地震の備え、地域災害支援ナースの役割、基本的なトリアージの理解と災害発生時における看護師の役割を理解できた。研修内容は持ち帰り、自施設での災害研修に活かせる内容でもあった。

今後も近隣関係機関との顔の見える関係づくりのできる研修を企画していく。

災害看護研修

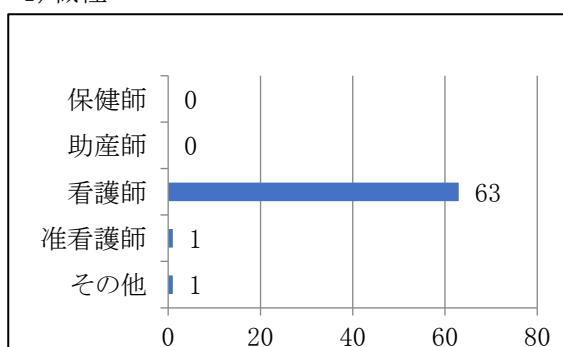
研修名	地域災害支援ナース育成研修【実務編】	
開催日時	1) 令和6年7月27日(土) 13:00~16:00 高知北・西地区支部 2) 10月26日(土) 9:00~12:00 高知県看護協会 3) 11月10日(日) 13:00~16:00 幡多地区支部	
研修形態	集合	
受講者数	1) 20名(会員16名 非会員 4名) 2) 45名(会員34名 非会員 11名) 3) 19名(会員13名 非会員 6名)	定員 各40名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	災害看護に必要な知識・技術を身に着ける。 地域における被災状況や防災対策を理解し、他団体との連携を学ぶ。	
講師 演習指導者	高知県立大学 看護学部教授 竹崎 久美子 高知赤十字病院 日本DMAT隊員 寺尾浩・宮田めぐみ 近森病院 日本DMAT隊員 齋坂美賀子・立石修久 四万十市立市民病院 日本DMAT隊員 有田嘉代・北川了三・沖麻美・渡邊三奈	
内容	災害看護活動の実際/福祉避難所における看護活動	

1. アンケート結果

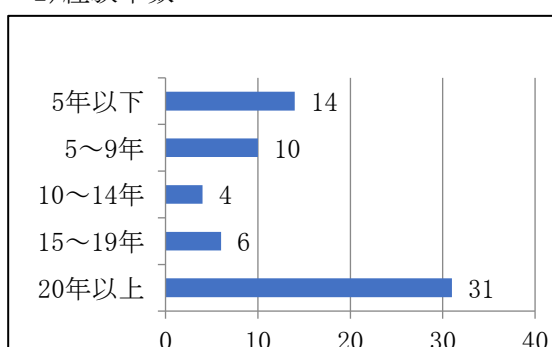
参加人数84名 回答数95名 回答率75.5%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

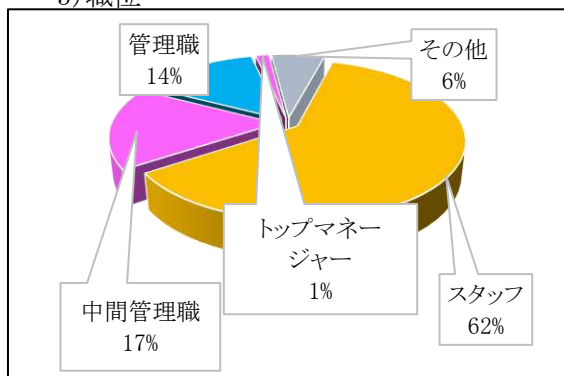
1) 職種



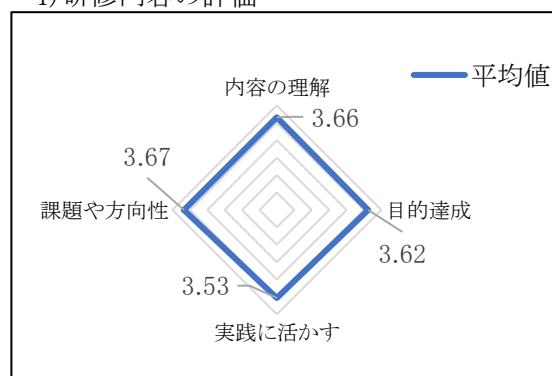
2) 経験年数



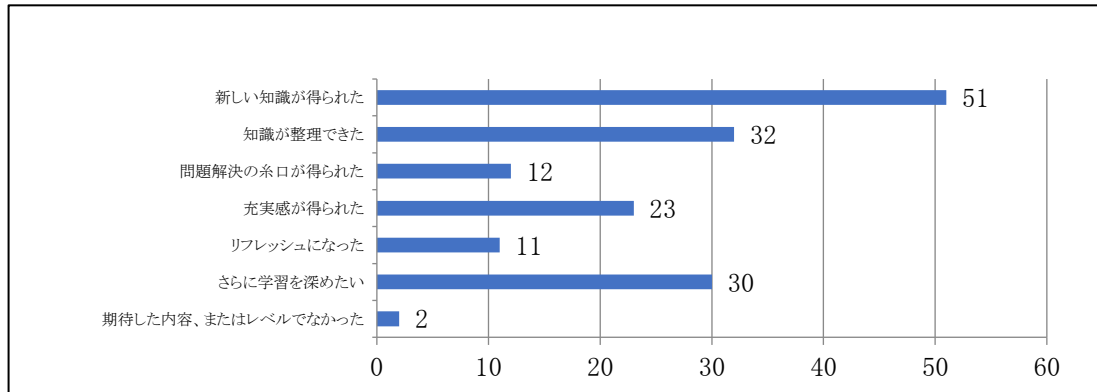
3) 職位



4) 研修内容の評価



5) 研修全体を通じた感想(複数回答可)



6) 意見・感想

- ・ 研修内容が充実して、実践的であると感じました。今後も引き続きの研修を受けていきたい。
- ・ 2次トリアージなど実際に行い、アドバイスを受けることで身につけたい。実践形式が嬉しい。
- ・ 来年災害救護訓練をすることになり、今、それに対して病院で取り組んでいる。スタッフ教育として教えて欲しい。
- ・ 災害時に自分の病院には、行けないため、近くの関連病院や、施設に支援看護として、行きたい。
- ・ 現在、医療現場ではないところで看護師として勤務している。災害時は看護師として何か役に立ちたい。現場を離れているため、こういう研修で学んで知識を得たい。
- ・ 午前中の研修で学んだことも含め、グループワークを通してシミュレーションができたことで、より具体的にイメージができた。さまざまな考えがあり、明確な正解がないことも多いが、とてもよい体験だった。
- ・ 四万十市民病院のDMATの活動も知ることができ、勉強になった。
- ・ 今回は、自分が住んでいる地域外での実務編に参加した。

研修内でもあったが、事前に顔が見える関係を築き、いざというとき協力しあえるというのが大切だと思った。自分が住んでいる地域の研修に参加することはもちろんだが、どこで被災するかわからないので、今回のように地域外の研修にも参加していきたい。

2. 研修担当者コメント

今年度は2地区支部で実務編《医療救護所編》、高知県看護協会で《福祉避難所編》を開催した。START法・PAT法の理解また医療救護所設営や看護支援活動、福祉避難所での看護師の役割についてイメージがついたようである。特に幡多地区支部は【基礎編】【実務編】の同日開催し、より研修内容の効果が高くなったことが考えられる。

【基礎編】と同様に近隣関係機関との顔が見える関係づくりのできる研修を企画していく。

災害看護研修

研修名	能登半島地震における受援・支援活動を振り返り、今つたえたいこと 災害支援ナース・地域災害支援ナースフォローアップ研修	
開催日時	令和6年11月2日(土)	9:25 ~12:35
受講者数	80名(集合31名 オンライン49名)(会員64名非会員16名)	定員 80名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師・災害看護に興味のある方	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職(災害支援ナース・地域災害支援ナース等)の備えと支援のあり方について学ぶ。 ・被災地の状況と受援の実際を学び、自施設に活かすことができる。 	
講師	プログラム参照	
内容	プログラム参照	

1.プログラム

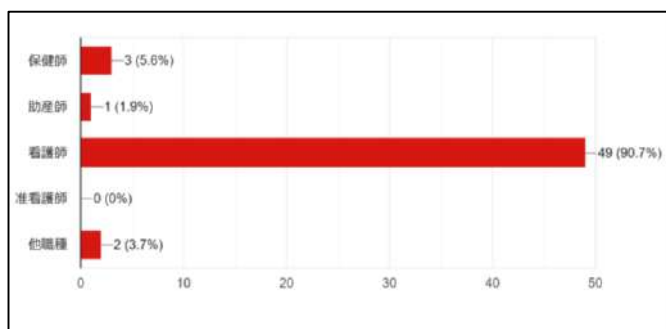
9:25~ 9:30	あいさつ	高知県看護協会 災害看護委員会委員長 高知県立あき総合病院 高知県立あき総合病院	看護部長 中屋 美智 氏
9:30~10:30	恵寿総合病院での発災後の対応・受援の実際	社会医療法人財団董仙会 地域包括ケアセンター	参与 本橋 敏美 氏
10:30~11:30	石川県看護協会の発災時の対応・派遣調整の実際	公益社団法人石川県看護協会	会長 小藤 幹恵 氏
11:35~11:50	恵寿総合病院での派遣活動の報告	近森病院	看護師 北川 知子 氏
11:50~12:05	高齢者施設におけるDMAT看護師の活動報告	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	DMAT隊員 看護師 須山 知美 氏
12:05~12:20	能登半島地震高知県保健活動チームの活動報告	高知県幡多福祉保健所	健康障害課長 宗崎 由香 氏
12:20~12:30	質疑応答		
12:30~12:35	閉会のあいさつ	高知県看護協会	会長 藤原 房子

2. アンケート結果

参加人数80名 回答数54名 回答率67.5%

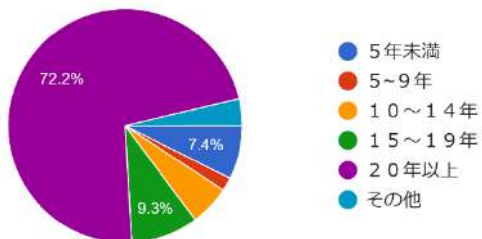
※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

1) 職名

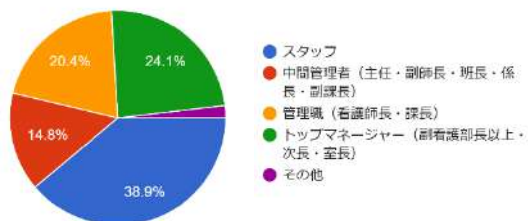


多職種: 介護職
医師

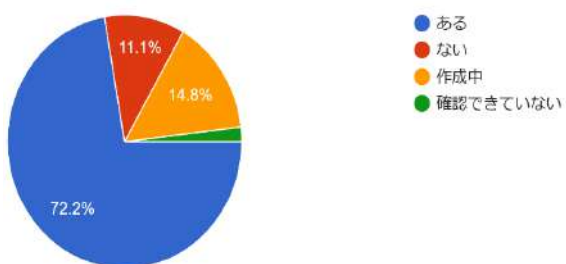
2) 経験年数



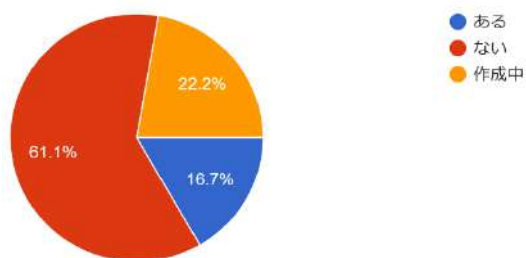
3) 職位



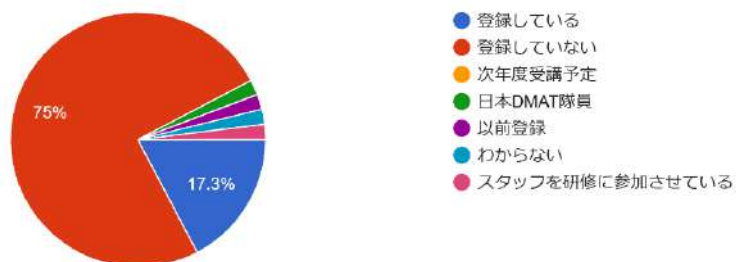
4) BCPは作成されていますか



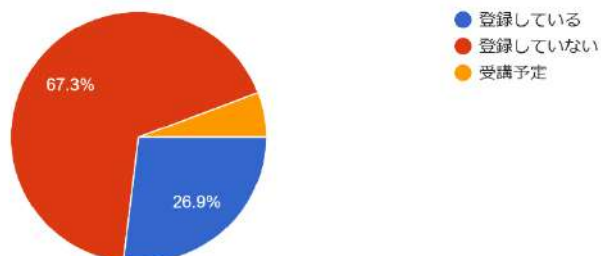
5) 受援マニュアルは作成されていますか



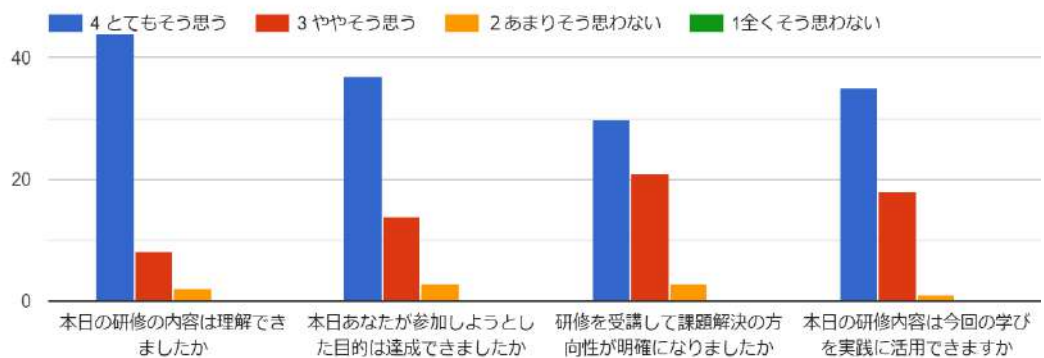
6) 災害支援ナース(新たな仕組み)養成研修は受講し登録していますか



7) 地域災害支援ナース育成研修の受講・登録はしていますか(高知県版)



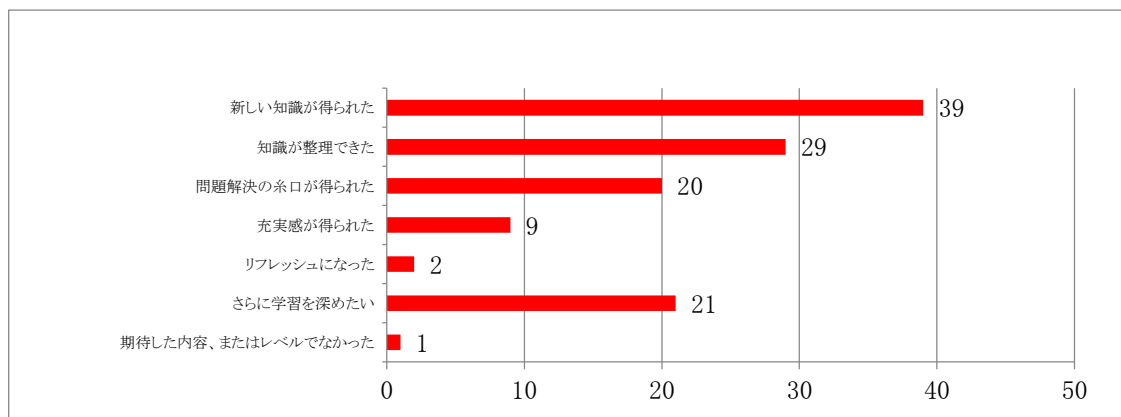
8) 研修内容について、該当する項目を選択してください。



上記を選んだその理由(抜粋)

- ・災害時の感染対策として必要だったことがわかった。現実的に困った所もどんなところであったか知ることができた。
- ・災害地の保健業務での発表で自身の施設での課題が見つかった。(土足禁止やゾーニングなど) 事前の準備も大切だなとも思ったし、避難訓練患者さんの移送なども必要だと感じた。
- ・受援マニュアルの必要性を感じた。
- ・被災された側と支援に行かれた側の両方のお話が聞ける貴重な研修になった。
- ・詳細な報告でとても分かり内容だった。石川県能登地方は高知県と地域性が共通するため、災害時の状況や対応を具体的にイメージすることができた。
- ・当院自体の耐震がまず整っていない状態であり、自院の患者やスタッフをどう守って行くかと言う事から、全く整備出来ていない。会議に参加することもできず、不安ばかりである。まず、自分が生きている事の不安が大きい。
- ・受援体制など自院の準備に役立つ情報を得られた。
- ・被災時の課題が具体的に理解できた。
- ・職場での取り組みの参考となった。
- ・管理職向けの内容だったので、現場で動くスタッフとしては関係ない内容だった。

9) 研修の講義全体を通した感想として該当するものすべてを選択してください(複数回答可)



10)全体を通しての感想やご意見(抜粋)

- ・様々な分野の災害時対策に触れることができ、よい機会になった。
なるだけ、早急に準備できることに取りかかる必要性を感じた。
実際に体験した内容や課題を知ることで来たる大震災の備えに何が足りてないのかが明確にできた為有意義な研修になった。自身での体験を含めて今後の災害時に活かしていけるよう学習を継続させていきたい。
- ・いつ来るかわからない南海トラフへの不安は強いが、起きた時に少しでも慌てず動けるような知識を少しでも学ぶ必要、また、事前準備も大事だと改めて感じた。
- ・恵寿病院の前看護部長の人柄と取り組みに感動した。
- ・病院での災害対応は、とても参考になりました。今後、マニュアルの見直しや施設内の受援体制の構築を検討していく。
- ・実際に体験されたことを話を聞き、よりイメージができた。実際に南海トラフ地震などで被災した場合、どの場所で被災するかでも状況は限りなく想定されるので、その場その場でできる限りの判断、行動していきたい。
- ・具体的な研修内容で良かった。今後、南海トラフ地震に備えて、受援体制をどう整えていかなければならないか、ヒントを得たので、自部署で検討し、体制を構築していきたい。
- ・被災した方のリアリティな報告ほど参考になった。新たな取り組みの糸口が見つかった。

3.研修担当者コメント

本研修は、ハイブリットで開催した。施設のリーダーや関心の高い看護職の参加があり、自施設支援の受援ガイドラインマニュアル作成・受援体制の見直しなど意識が高まった。また、被災状況、実際を知ることにより、イメージができ、今後の受援体制の整備や支援活動に活かしていただく事を期待する。次年度もニーズに沿った研修を企画していきたい。

令和6年度高知県看護協会看護研究学会

研修名	令和6年度高知県看護協会看護研究学会	
開催日時	令和7年2月22日(土)	9:00～13:00
研修形態	集合	
参加者数	総数88名(会員82名 非会員6名)	定員80名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	県内の看護職者等に研究発表及び看護実践報告の場を提供し、看護職の研究活動を推進するとともに、高知県の看護の質向上を図る。	
内容	<p>学会テーマ:変化が織りなす新たな看護</p> <p>教育講演テーマ:「専門職としての変化への挑戦～change&challenge～」</p> <p>・教育講演:Ⅰ 高知県訪問看護連絡協議会会長 在宅支援専門看護師 安岡しずか Ⅱ 日本看護協会会長 高橋 弘枝 座長 高知県立大学看護学部教授 長戸和子</p> <p>・口演:20演題 座長 高知大学医学部附属病院 大坪佳代 高知赤十字病院 上田純子 社会医療法人近森会近森病院 増井麻佳 土佐市立土佐市民病院 川村圭子</p> <p>・示説:5演題 座長 高知医療センター 岡林志穂</p>	

I アンケート結果

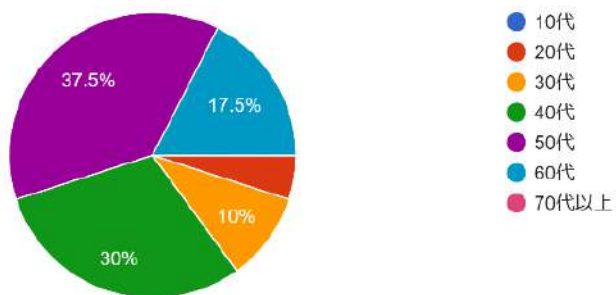
1 3月7日アンケート結果

参加人数88名 回答数40名 回答率45%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

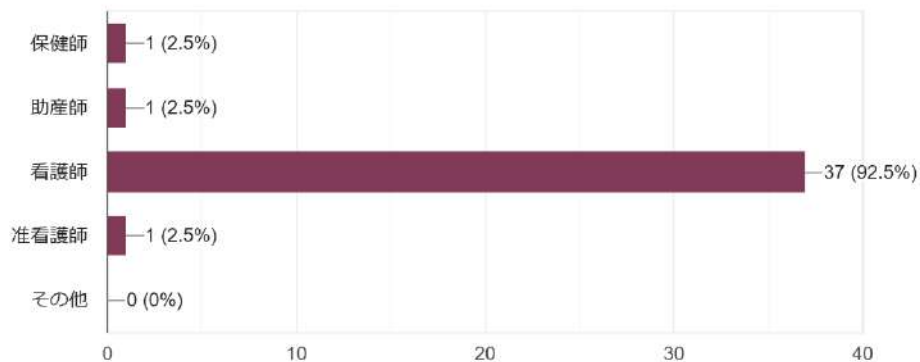
設問1 年齢

40件の回答



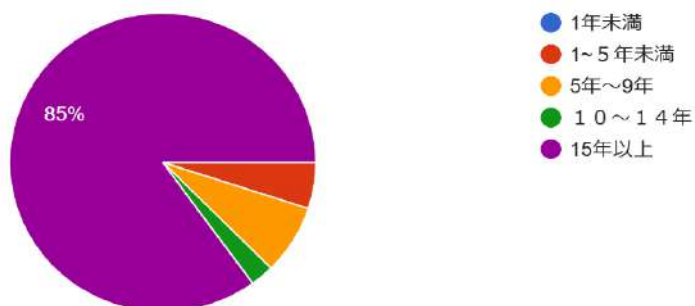
設問2 職種を選択ください

40件の回答



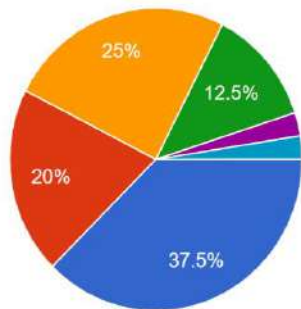
設問3 経験年数を選択ください

40件の回答



設問4 職位を選択ください

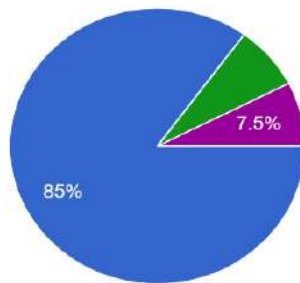
40件の回答



- スタッフ
- 中間管理職 (主任・副師長・班長・係長)
- 管理職 (看護師長・課長・科長)
- トップマネージャー (副看護部長以上次長 室長)
- 現在、教員
- 理事

設問5 所属施設を選択ください

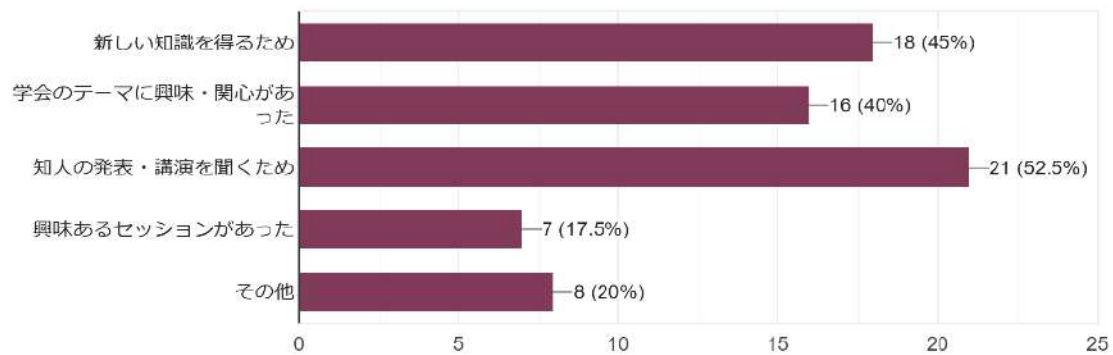
40件の回答



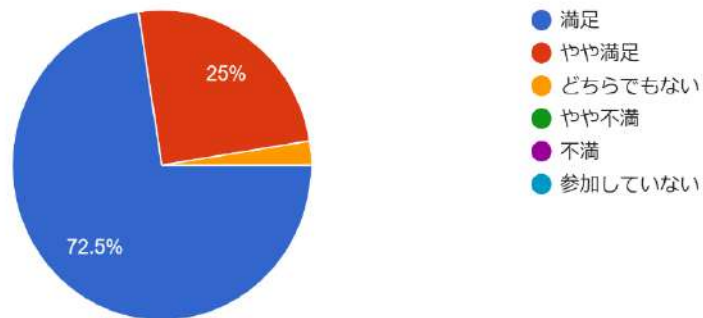
- 病院
- 診療所
- 介護保険施設
- 訪問看護ステーション
- 教育機関

設問6 令和6年度高知県看護協会看護研究学会に...れた動機について教えてください「複数回答可」

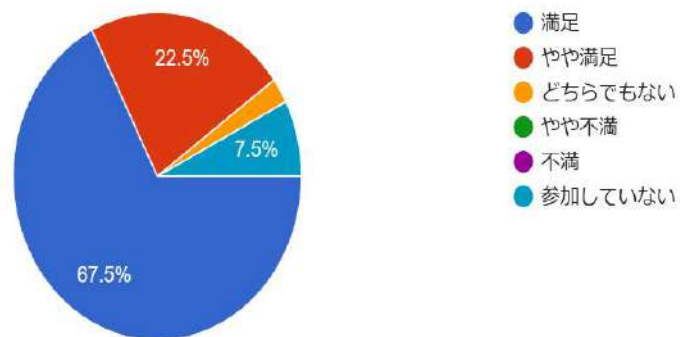
40件の回答



設問7 参加したセッションの満足度について伺います ①教育講演について
40件の回答



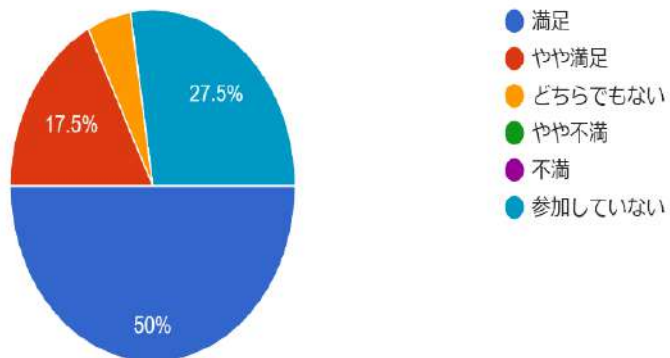
② 口演について
40件の回答



口演について、やや不満・不満を選択された方は、理由をお聞かせください。
・パワーポイントが画面からはみ出し見えにくいことがあり残念だった。

③ 示説について

40件の回答



示説について、やや不満・不満を選択された方は、理由をお聞かせください。

- ・パワーポイントのA4用紙を印刷してそのまま貼り付けているものがあり、小さくて見えにくいと感じた。

設問8 令和6年度高知県看護協会看護研究学会に関するご意見、感想

- ・教育講演では、2040年に向けて現場の看護師が頑張っていかなければいけないと感じた。
- ・高橋会長の教育講演は、とてもよい講演だった。看護について考える機会を得た。
- ・高橋会長の講演はとても共感でき、とても考えさせられる内容で良かった。
- ・高橋会長の講演は、とても参考になった。
- ・高橋会長の教育講演は、とても勉強になった。
- ・教育講演の内容が大変良かった。(3件)
- ・教育講演がとてもよかった。今後を考える上で重要な情報と元気をいただいた。
- ・教育講演には感動しました。また、口演の皆様の取り組みも素晴らしいかった。
- ・口演発表では、皆さんの発表がとても励みになった。
- ・演題は興味のある内容でとても勉強になった。
- ・とても参考になる学会発表だった。
- ・他施設の看護研究の内容等について興味があり勉強になった。また訪問看護についても現状と今後がよく分かり、専門職として今後どのようにするべきか、新たな看護についても勉強になった。
- ・会場は、ひざ掛けを使っても寒かった。
- ・参加者が多いためと思うが、メモを取ったり抄録に書き込んだりするには、やはり机が欲しかった。
- ・様々な取り組みがあり参考になった。
- ・将来の看護のあり方について考えるきっかけとなった。
- ・実践発表を初めて行い分からないことがあったが、看護協会担当者の方が丁寧に教えてくれ、無事に発表する事が出来た。会場の準備も行き届き学びも多く、参加できて良かった
- ・書き取りたいため、テーブルがあるとよいと思う。
- ・自分の知らない分野などの事が知れたり 他の研究発表の内容もこれからの仕事に役立つと思った。
- ・久しぶりの看護研究学会でした。他の病院での取り組みや看護の視点を知り得たいと思い参加した。自施設の看護師にも現状の業務だけではなく、新しい知識や看護、取り組みを行う意欲を持ってもらえるような環境が必要と思う。学会発表者の方々の看護に対する前向きな意見を聞く事で、私自身ももう少し頑張っていかななくてはと思った。そして、日本看護協会会長のお話も聞いて勇気づけられた気持ちになった。
- ・今年度は抄録になり、申し込み方法もやりやすかった。
- ・今年度は、お申し込み方法が変わり申込がスムーズだった。
- ・第2会場で、発表前にスライドが開かなかった、質問者のマイクの雑音があったことなど気になった。
- ・口演では、プレゼンテーションもとても準備していると感じた。また、示説会場がとても熱気であった。演題の内容も勉強になった。活発な意見交換ができていたと思った。
- ・第1会場後方からだとスライドの字が読めない

設問9 今後希望するセッションやテーマがあればご記入ください

- ・2040年に向けてAIやICTの活用
- ・心理的安全性について

III.研修担当者より

今年度は、看護研究への興味や応募動機を拡大する目的で、募集要項を大幅に変更した。(申込方法・集録から抄録)結果、口演20演題・示説5演題の発表があった。また、今年度は、「専門職としての変化への挑戦～change&challenge～」をテーマとした教育講演2演題に絞り、盛会裏に終了できた。一般演題では、研究発表・実践報告は今後の看護に生かすことができる内容で、非常に充実していた。どの施設も、創意工夫を重ねながら看護実践を行えていることが明らかであった。

今年度のトピックスとして、日本看護協会高橋会長が来高され教育講演が実現した。高橋会長から、「2040年を見据えた課題にどうあるべきか？」について有意義な提言を数々いただいた。また、「看護職としての誇りを持ち、未来に向かって一緒に頑張りましょう」とのお言葉に、会場の参加者全員が共感していると感じられた。アンケートの結果からも、教育講演から得られた刺激や感動によって看護師としてこれからどうあるべきか？を前向きに考えている。教育講演テーマでもある「専門職としての変化」を起こしてくれると期待したい。

第2会場では、機器トラブルが発生し、演者の方や会場参加者にご不便をおかけした。次年度は機器管理も含めた会場設営について万全な体制で準備を進めていく。

3. 臨床看護研究基礎研修

研修名	臨床看護研究基礎研修	
開催日時	令和6年 5月 2日(木)	9:30～16:30
	令和6年 5月16日(木) 5月28日(火) 5月30日(木)	13:30～16:30
研修形態	オンライン	
受講者数	総数34名(4科目通して参加18名) 会員31名 非会員3名のべ受講者数:97名	定員 各40名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	(1)臨床における看護研究の意義と研究的視点を学ぶ (2)看護研究の基本的知識やプロセスを学ぶ	
講師	プログラム参照	
内容	看護研究 文献検索 研究倫理 研究発表	

I プログラム・科目別参加者数

	研修名	日程		内容	講師	参加者数
研究の実際Ⅰ	看護研究の基礎知識	5月2日(木) 9:30～16:30	6時間	看護研究とは/テーマの探索と文献検討	高知県立大学看護学部教授 畦地博子 教授 高谷恭子	24
研究の実際Ⅱ	研究計画の進め方	5月16日(木) 13:30～16:30	3時間	目的と研究方法の設定	高知県立大学看護学部教授 池添志乃	22
研究の実際Ⅲ	看護研究における倫理的配慮	5月28日(火) 13:30～16:30	3時間	倫理的配慮とは/看護研究における倫理指針/倫理的配慮の実際/倫理的配慮を行うために必要な書類/倫理審査委員会	高知県立大学看護学部教授 瓜生浩子	21
研究の実際Ⅳ	看護研究論文(症例研究を含む)の書き方と発表	5月30日(木) 13:30～16:30	3時間	研究論文の種類/研究論文の構成/研究論文の作成手順/文献の活用/論文の記述/論文投稿	高知県立大学看護学部教授 田井雅子	29

II アンケート結果

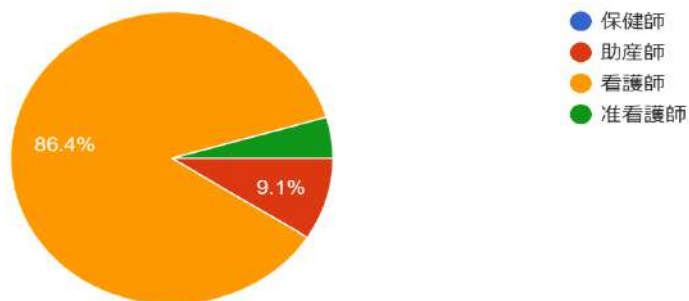
1 5月2日アンケート結果

参加人数24名 回答数 22名

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

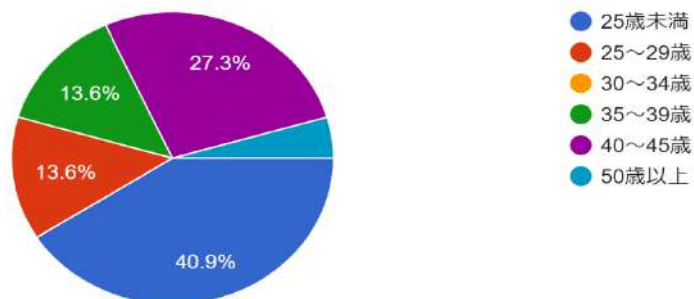
1-1該当する職名をチェックしてください。

22件の回答



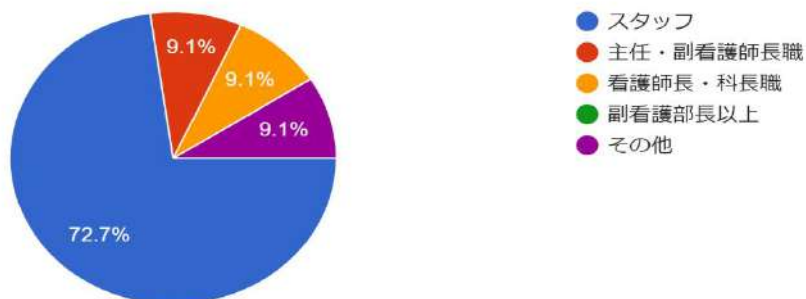
1-2年齢 次の中から該当するものを選んでください。

22件の回答



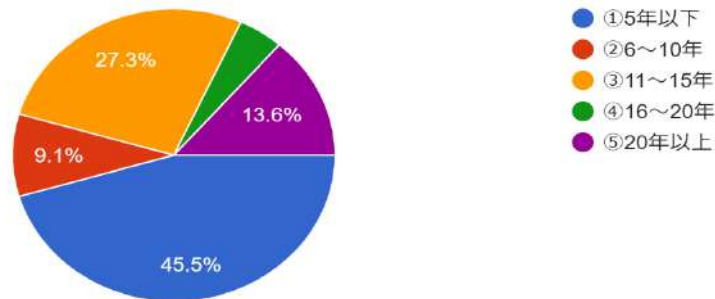
1-3職位を選択してください。

22件の回答

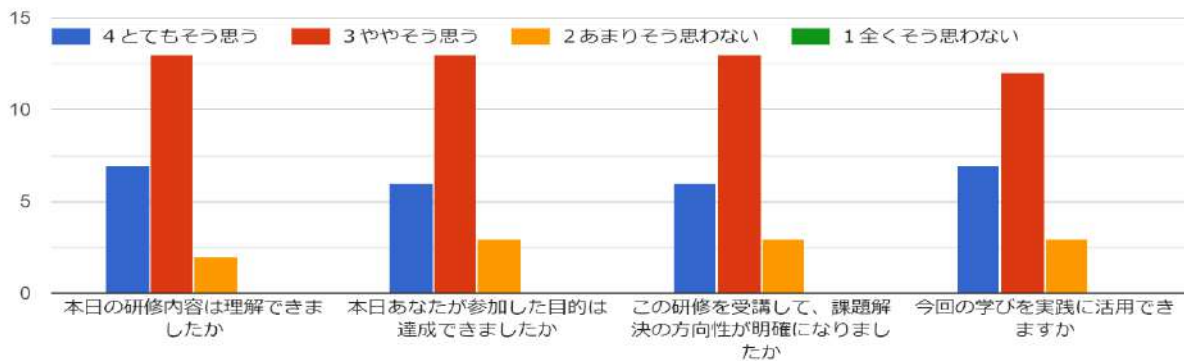


1 - 4経験年数

22件の回答



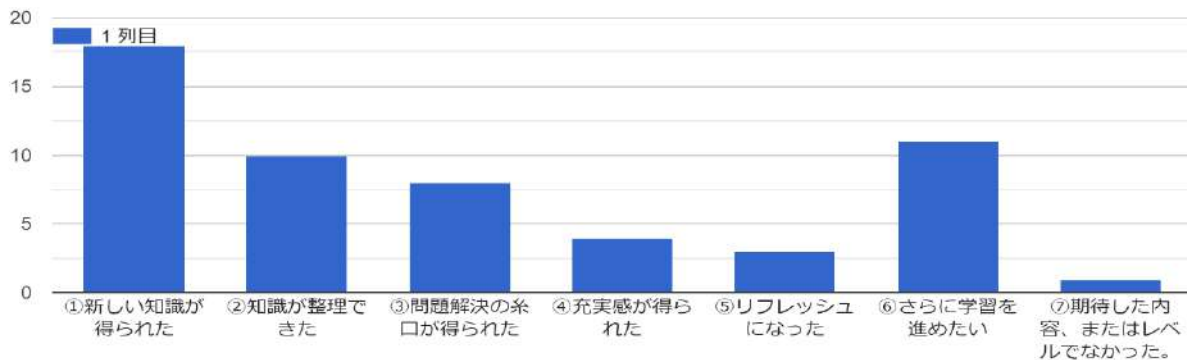
2. 以下の質問に最も当てはまる番号にチェックをしてください



上記で、2余りそう思わない、1 全くそう思わないを選択した方は、理由をお聞かせください。2件の回答

- ・ 分かりにくい所とわかるところの差があり、努力が必要だと思う
- ・ オンラインの通信環境が悪かったため残念だった

3. 研修全体を通した感想として、該当するものすべてを選んでください



上記で⑦を選択された方は、その理由をお聞かせください2件の回答

- ・ ヒントを貰えました ありがとうございます
- ・ 質的、量的の違いを再度説明して欲しい。また文献を混ぜて説明があったがそこが難しかった。

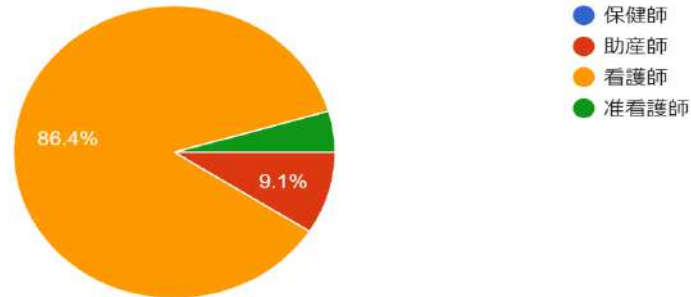
2 5月16日アンケート結果

参加人数22名 回答数 22名 回答率 100%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

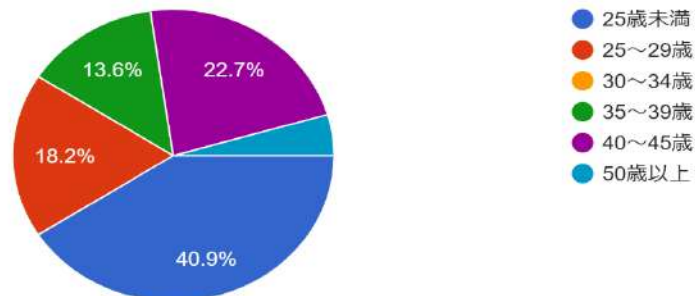
1-1該当する職名をチェックしてください。

22件の回答



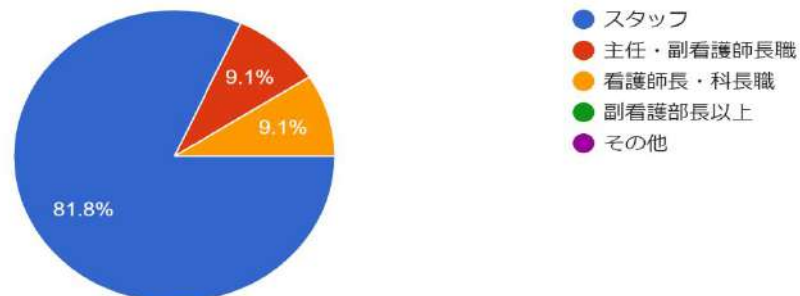
1-2年齢 次の中から該当するものを選んでください。

22件の回答



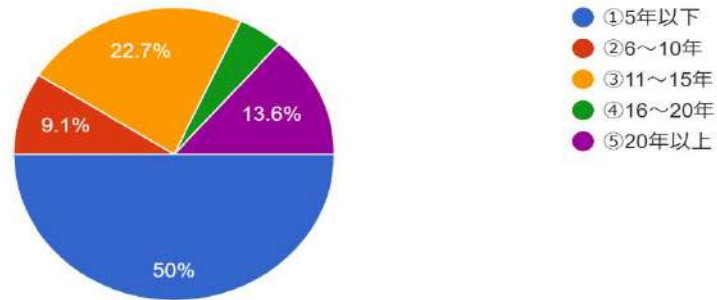
1-3職位を選択してください。

22件の回答



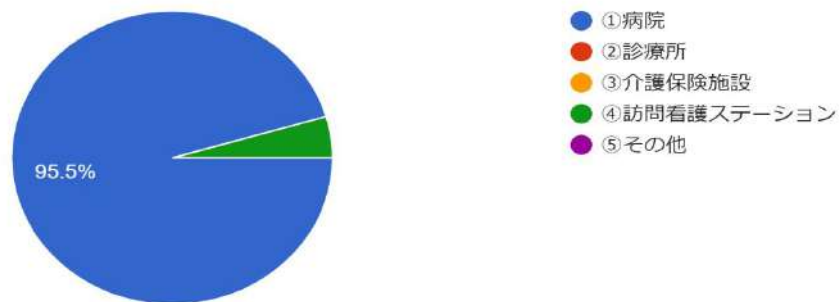
1 - 4経験年数

22件の回答

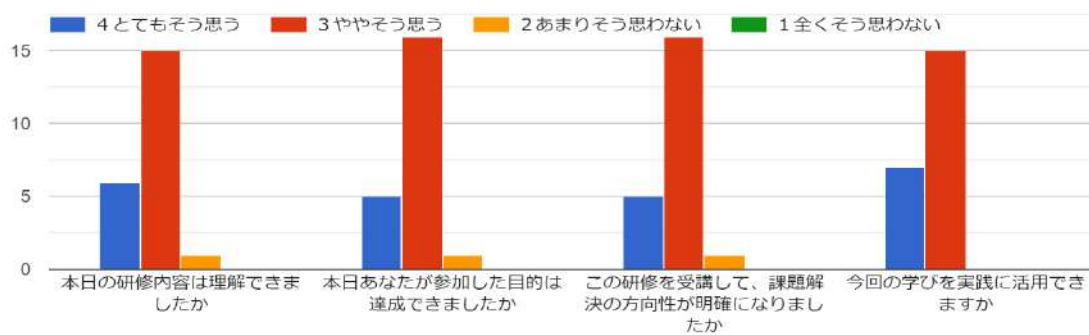


1 - 5所属施設の種類

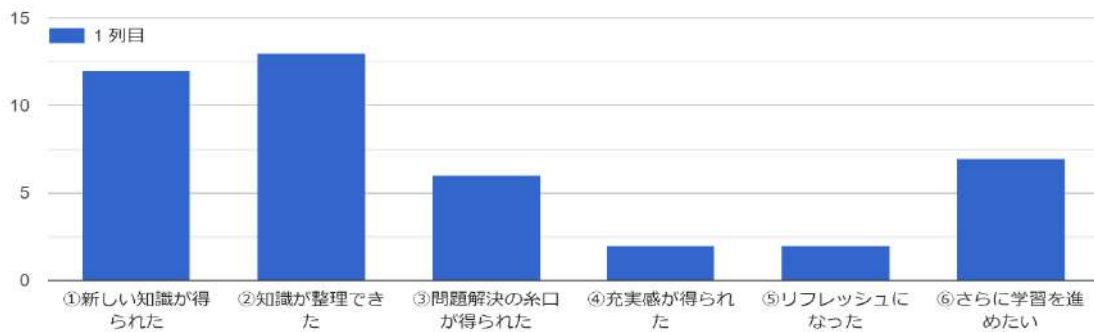
22件の回答



2. 以下の質問に最も当てはまる番号にチェックをしてください



3. 研修全体を通じた感想として、該当するものすべてを選んでください



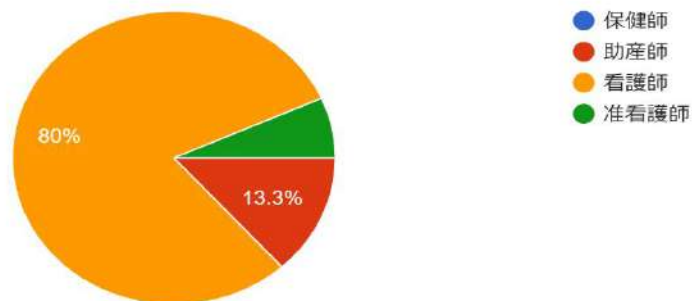
3 5月28日アンケート結果

参加人数21名 回答数 15名 回答率 68.1%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

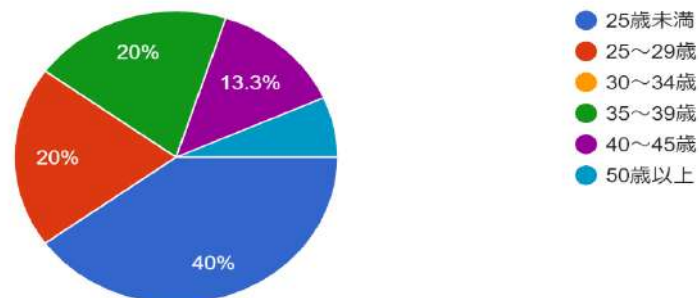
1-1該当する職名をチェックしてください。

15件の回答



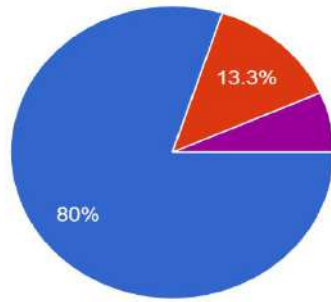
1-2年齢 次の中から該当するものを選んでください。

15件の回答



1-3職位を選択してください。

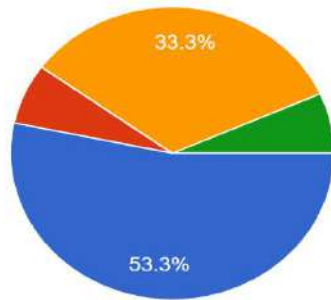
15件の回答



- スタッフ
- 主任・副看護師長職
- 看護師長・科長職
- 副看護部長以上
- その他

1 - 4 経験年数

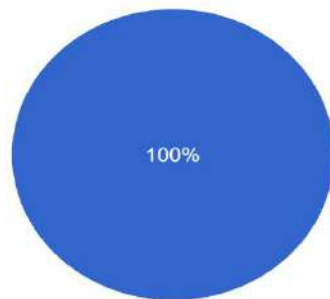
15 件の回答



- ①5年以下
- ②6~10年
- ③11~15年
- ④16~20年
- ⑤20年以上

1 - 5 所属施設の種類

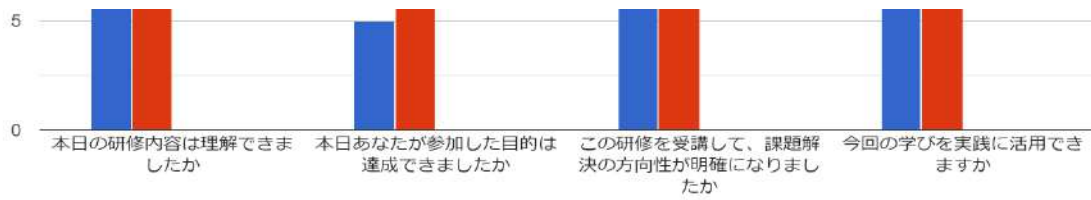
15 件の回答



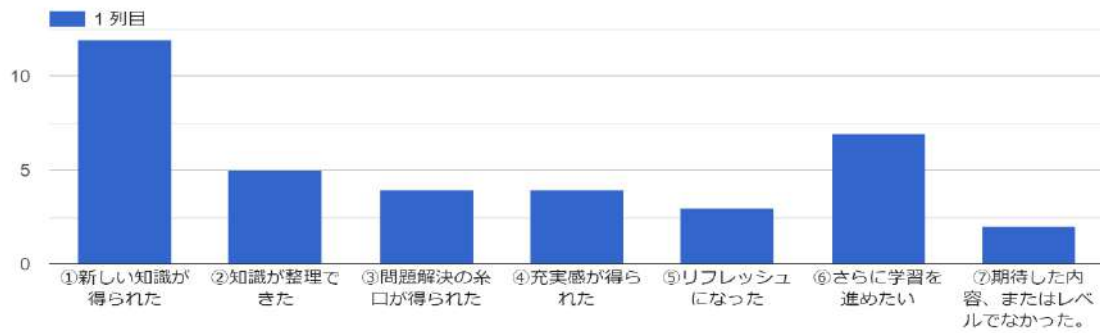
- ①病院
- ②診療所
- ③介護保険施設
- ④訪問看護ステーション
- ⑤その他

2. 以下の質問に最も当てはまる番号にチェックをしてください





3. 研修全体を通じた感想として、該当するものすべてを選んでください



4) 感想及び質問をご記入ください

- ・インタビューの場合の対象者人数について
インタビュー後の撤回が生じる可能性を考慮すると何人ぐらいが適正なのでしょうか

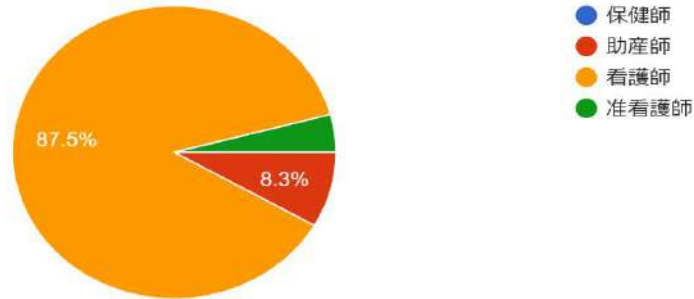
4 5月30日アンケート結果

参加人数29名 回答数 24名 回答率82.8 %

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

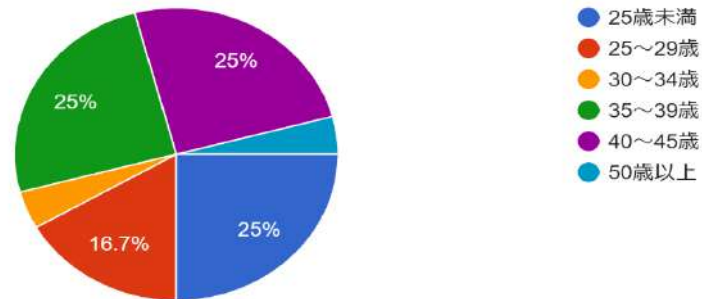
1-1該当する職名をチェックしてください。

24件の回答



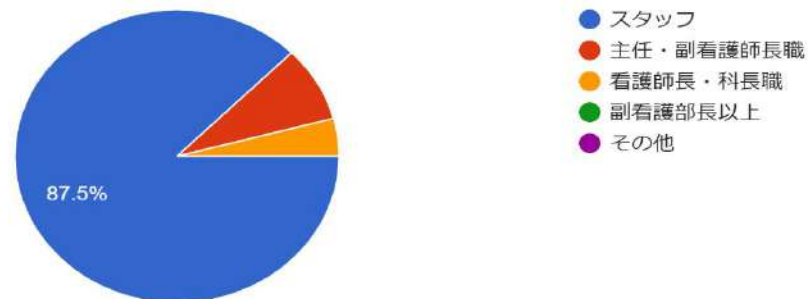
1-2年齢 次の中から該当するものを選んでください。

24件の回答



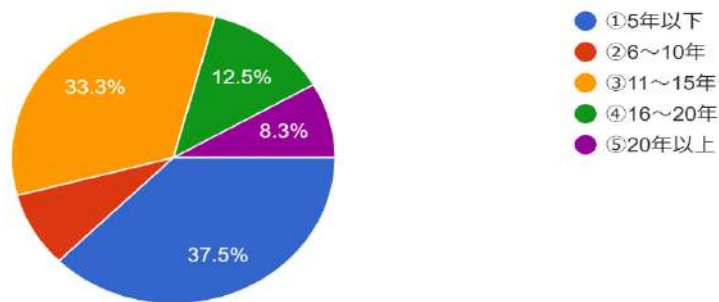
1-3職位を選択してください。

24件の回答



1 - 4 経験年数

24 件の回答

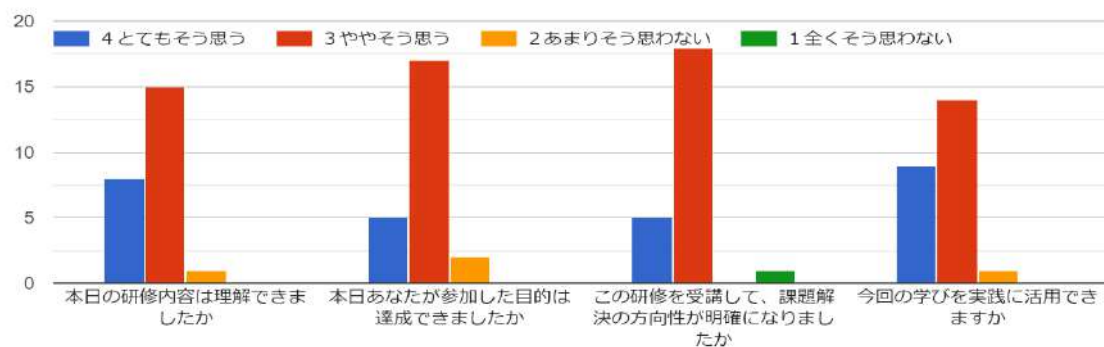


1 - 5 所属施設の種類

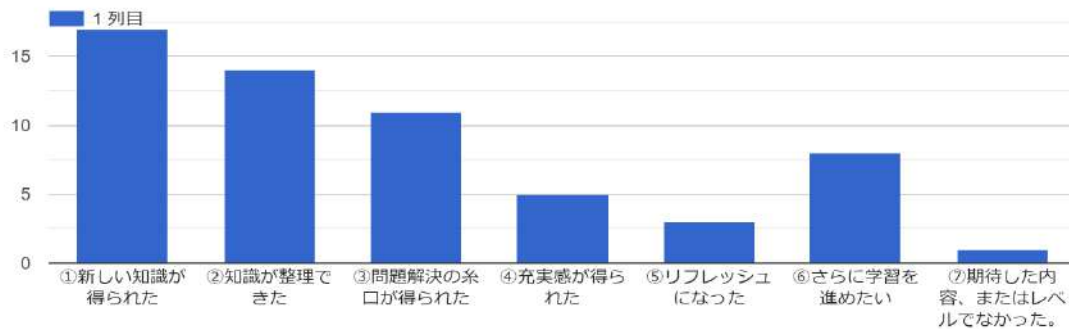
24 件の回答



2. 以下の質問に最も当てはまる番号にチェックをしてください



3. 研修全体を通じた感想として、該当するものすべてを選んでください



III. 研修担当者より

本年度は県下中小規模の施設から受講頂くため全日程オンライン研修で開催した。結果、東西遠方の病院から受講いただくことができた。また昨年度の高知県看護協会看護研究学会において実践報告の発表を多く頂いた。よって、講師の先生方には、講義内容に、実践報告における注意点等を盛り込んで頂くことをお願いした。受講生から具体的な質問も寄せられ、個々の研究に活かせる内容であったと考える。

今後も、受講しやすい環境を工夫し高知県の研究基盤向上に努めたいと考える。

令和6年度多施設合同研修

研修名	令和6年度多施設合同研修	
開催日時	令和6年4月12日～8月6日 7研修16日間	時間：下記プログラム参照
受講者数	魅力ある看護専門職:80名 医療安全の基礎知識:78名 感染管理の基礎知識:86名 注射・輸液:94名 フィジカルアセスメント:112名 救急対応:117名 社会人基礎力向上:91名:(最終日42名 49名をカウント) 総数658名 (会員24名 非会員110名)	定員：下記プログラム参照
対象	免許取得後初めて就労する保健師、助産師、看護師、准看護師	
ねらい	新人看護師が基礎的知識・技術・態度を習得できる。 他施設の新人看護師職員との交流、意見交換ができる	
講師	プログラム参照	
内容	プログラム参照	講義・演習

全プログラム・科目別定員数

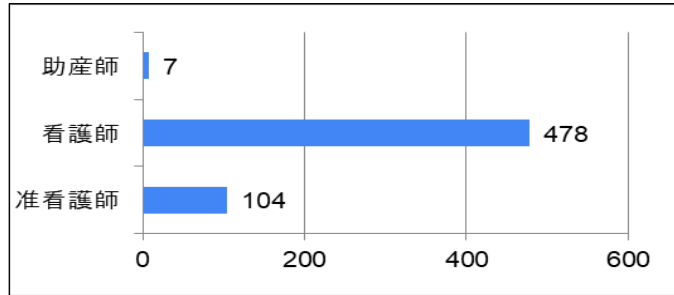
研修番号	研修名	日程	時間	内容	講師	定員
A1-①	魅力ある看護専門職に成長するために	4月12日(金) 9:00～12:30	3時間	1. 看護の動向 2. 専門職業人としての第1歩 3. 看護協会の役割について	藤原 房子 高知県看護協会会長	80名
A1-②	医療安全の基礎知識	4月12日(金) 13:30～16:30	3時間	1. 医療安全の基礎知識 2. 組織で取り組む医療安全 3. 医療安全のためのKYT(GW)	伊勢田 純子 高知赤十字病院 看護副部長	80名
A1-③ A1-④	感染管理の基礎知識	4月25日(木) (1回目) 4月26日(金) (2回目) 9:30～16:30	6時間	1. 標準予防策と感染経路別予防策 2. 手指衛生と个人防护具について 3. 職業感染防止	森田安世 白菊園病院 感染管理認定看護師 アシスタント1名/日	各50名
A1-⑤ A1-⑥ A1-⑦	注射・輸液	5月21日(火) (1回目) 5月22日(水) (2回目) 5月23日(木) (3回目) 9:00～17:00	7時間	1. 点滴静脈注射実施手順 2. 輸液ポンプ・シリンジポンプの適正使用と注意事項 3. 点滴静脈注射の実施	三谷卓史 テル株式会社中四国 ブロック 高知県担当 指導者8名/日	各32名
A1-⑧ A1-⑨ A1-⑩	フィジカルアセスメント	6月18日(火) (1回目) 6月19日(水) (2回目) 6月20日(木) (3回目) 9:30～16:30	6時間	1. フィジカルアセスメントとは 2. バイタルサインの意味 3. 呼吸・循環のフィジカルアセスメントに必要な知識 4. フィジカルアセスメントの基本技術(問診、視診、触診、打診、聴診)	池島真由美 近森病院 急性・重症患者看護 専門看護師 アシスタント2名/日	各36名
A1-⑪ A1-⑫ A1-⑬	救急対応	7月10日(水) (1回目) 7月11日(木) (2回目) 7月12日(金) (3回目) 9:30～16:30	6時間	1. 急変の前兆とその対応 2. 心肺蘇生法(一次救命処置) ・BVM(バックバルブマスク) ・胸骨圧迫心マッサージ ・AED 3. 心肺蘇生法(二次救命処置) ・気管挿管の準備・介助 ・心停止の心電図波形 ・心肺蘇生時に使用する薬剤について	寺尾浩 高知赤十字病院 救急看護認定看護師 インストラクター8名/日	各40名
A1-⑭ A1-⑮	社会人基礎力の向上	Aグループ 7月16日(火) 7月30日(火) Bグループ 7月25日(木) 8月6日(火) 9:30～12:30	3時間 3時間	相手の心に伝わる話す力・聞く力の向上	山崎真理 オフィス山崎 代表	A:40名 B:40名

I アンケート結果

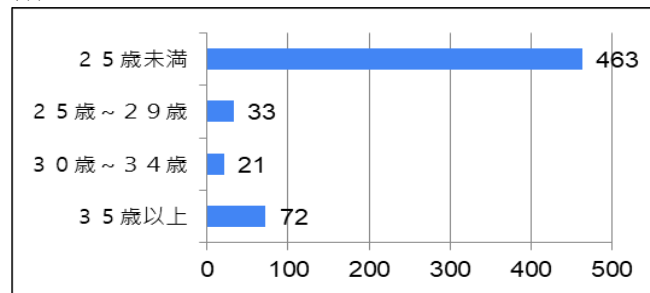
参加人数658名→ 回答数589名 回収率90%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答をまとめたもの

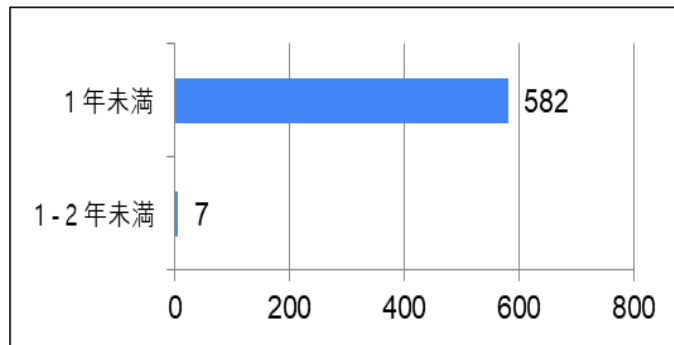
I-1. 職名



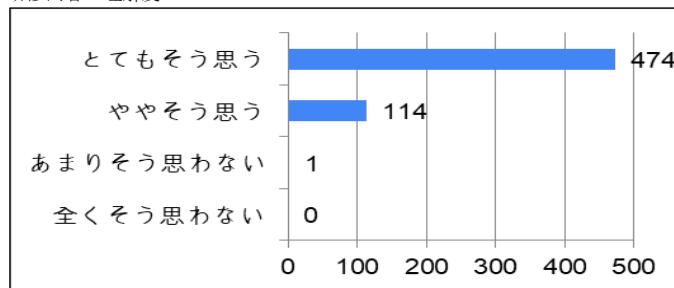
I-2. 年齢



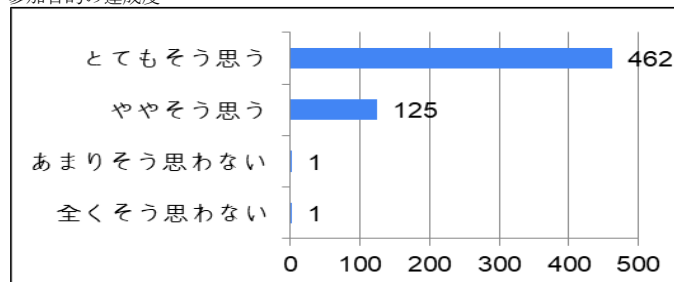
I-3. 経験年数



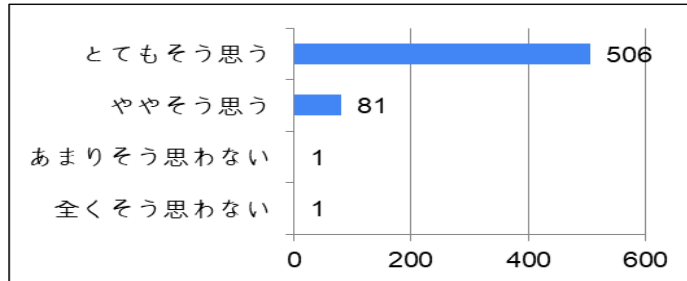
II-1. 研修内容の理解度



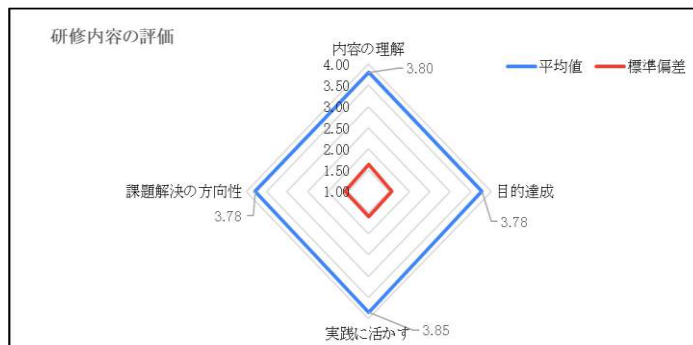
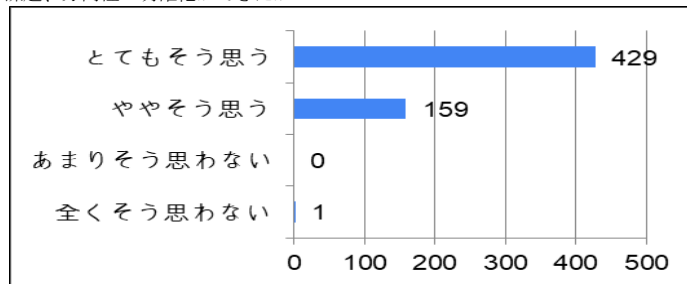
II-2. 参加目的の達成度



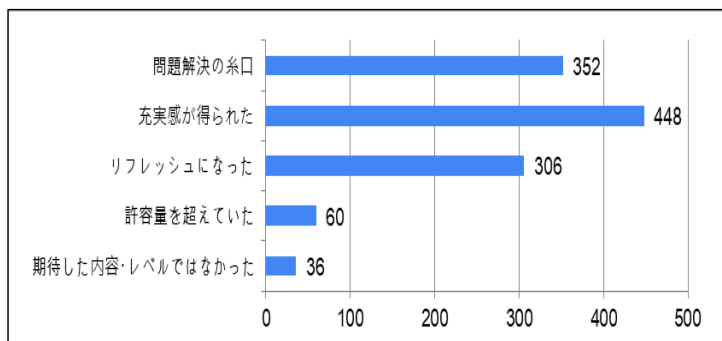
II-3. 今後の活動に活用できるか



II-4. 課題、方向性の明確化ができたか



III. 研修の講義全体を通じた感想



感想

各研修抜粋

<専門職>

- ・看護師としての基本的な心構えから、これから働く上での大切なポイントまで、様々なことを教えていただき勉強になった。
- ・現在の看護師や高知県全体の状態を知れた。看護協会の仕組みも理解できた。投票の大事さも学べた。
- ・看護協会について詳細に知ることができた。
- ・自分の考えを話すことはあまり経験がなく発表の際緊張したが、改めて今の自分を知る事が出来た。
- ・一年後の自分の目指すべき姿を考えるきっかけになった。わからないことは分からないままにせず先輩に確認する、看護技術をできるまで繰り返すなど 具体的な取り組みが明確になった。
- ・接遇がしっかりしている看護師になりたいと思った。
- ・新人で不安も有りますが、この研修の知識を意識して努力したいと考えた。

<医療安全>

- ・医療安全について自分に置き換えて具体的に考えることができた。
- ・実際に起こった医療事故から、新人が起こしやすいインシデントなど、どれも人ごとではなく、明日は我が身という思いがした。人間はエラーを起こす生き物だと前提して、事故を未然に防ぐために自分にできることを着実にしていきたい。
- ・とても勉強になった
- ・自分の小さい頃にあった医療事故などを知れ、なぜ起こったかや改善策なども理解できた。KYTも初めて行ったがいろんな視点からものごとを考える必要性がわかりよかった。
- ・手間を怠ることなく常に危機感を持って行動したいと思った。
- ・何事も自分事として捉え、安全に努めていきます。
- ・ミスしないように気をつけていても、ミスしたり間違ったりする事があるため、自分の行動を一度確認した上で行動していきたいと思った。
- ・事例や動画などを活用していた事から、ヒューマンエラーがなぜ起こるのかを理解した。また、どうすれば防ぐことができるのかという事がわかりやすかった。
- ・医療事故を起こさないために意識することが大事だと学んだ。
- ・今回の講義を受け、医療安全に対する新たな知識と意識をする事を再び考えた。

<感染管理>

- ・例題やグループワークを通して学びが深まった。患者さんや自分自身の身を守るために感染対策を確実に実施していきたい。
- ・例題と実践が多くあり、分かりやすかったです。
- ・病院で働く上で手指衛生は基本であるが、患者に触れず環境に触れただけでも アルコールでの消毒をすることが必要であり、菌を他の患者に運ばないことの大切さを感じた。また映像での疑問提起や事例から、グループ間のディスカッションを通し周りの意見と自分の意見の照らし合わせを行うことができたのでより理解を深められた。
- ・明日からの業務に活かしていく。
- ・手指消毒が基本であるという事を再確認し、どれくらい自分が消毒に不足があったかを確認した。
- ・感染対策について色々知ることができた。
- ・見やすいPPTで、根拠を用いて説明して下さったため、とても勉強になった。
- ・感染予防対策を実践できる看護師になりたい。
- ・感染予防は自分を守りつつ患者にも気をつけるべきことだと思った。
- ・明日から実践できそうな内容で充実していて、学びになった。
- ・基礎的かつ重要な内容でとても学びになった。

<注射・輸液>

- ・現場で良くする事を、演習で出来て現場に生かせるよう頑張りたい。
- ・モデルを使った注射を初めて試してみ、実践に活かしたいと思った。
- ・輸液や輸液ポンプ、注射の手順などを実際に物品を使って演習することができより理解が深まった。また指導者の方と話をする中で、見えない血管に対してのアプローチや、穿刺のコツも教わり自分が実施する際はそれらを心がけていこうと思う。輸液ポンプは取り扱いを間違えると患者の命を落としかねない重大な事故に繋がるので、指差し声出し正しい知識を持って取り扱おうと思った。今日の研修で教えていただいたことを忘れずに臨床で活かしていきたいと思う。
- ・他病院の方との交流できてよかった
- ・ロールプレイをすることによって、自分も意識して注意しようとする項目が明確になり、何に対しても6Rの確認を怠らない心がけが強くなった。
- ・シナリオ⑤カテーテル抜去(カテーテルを抜去、廃棄)の際、カテーテルを感染性廃棄物の袋に入れるとあるが、病院では廃棄の際針廃棄ボックスに捨てます。なぜシナリオではその設定か理由が知りたい。
- ・サーフロ針には逆流防止弁がついているものについていない物があるが、ついていないもののメリットが知りたいです。
- ・今回実技だった事もあり、テルモの会社の方達や看護師さんが分かりやすく丁寧に優しく指導してくれ今までで1番学びになった研修だと実感した。

<フィジカル>

- ・現場で生かせそうな研修を開催していただき明日からの仕事に繋がる事ができると感じた。
- ・フィジカルアセスメントは苦手分野だったためとても勉強になった。
- ・とてもためになる研修だった。今後に活かし、正確なアセスメントができる看護師になりたい。
- ・患者さんの状態をアセスメントしていくのはとても難しかったが、周りの意見を聞いたり自己の知識を用いて解決の糸口を見つけられてよかった。また実際に人形を使って瞳孔の大きさや肺音の異常正常を聞き分けることができ、病棟でもこれらを実践し患者さんの異常にはやく気づくことができるようにして行こうと思った。
- ・講師の方の教え方が良くて、聞き取りやすかった。
- ・凄く楽しかった。
- ・毎日サービス残業を2~3時間して潰れかかっていたが、こういう機会があり何とか頑張れる。
- ・今まで医師への報告が苦手でなかなか上手く伝えられなくて自信がなかったが、今回の I-SBAR-C を用いての報告が自分の中でまとめやすくて伝えやすいと実感した、これから活用していきたい。また小児科の患者の肺雑音の聴取が難しかったが、今回の肺雑音の聴取の体験を機に今後も勉強して理解を深めていきたいと感じた。
- ・午前午後共にとても分かりやすい講義で、沢山のことを吸収できたように思った。
- ・急変時の対応や、異変に気づくにはどこをどのように観察すべきかなどを知ることができた。呼吸音の聴取や副雑音が苦手であったが今回聴き方や副雑音の特徴について知ることができた。

<救急対応>

- ・血圧やSpo2などの変動に注意していたが、呼吸回数や脈拍などによりショックを早期に発見できるということを知って、とても勉強になった
- ・実際に救急の場面に遭遇した時に、物品の準備や観察項目が素早くできるように、普段から物品の位置を確認しておきたいと思った。
- ・緊急時の対応について、臨床で起こった際に実践できそうだと感じた。
- ・実際に一からシミュレーションをして行うことができ頭に入りやすかった。
- ・生理学的な知識に加えて実際に実習も出来て良かった。
- ・実際に行うことでいい経験になった。
- ・実際に今日学んだことを忘れずに頑張っていきたいと思った。
- ・救急が1番興味のある分野で楽しい研修でした。
- ・急変を捉える、意識ABCアプローチを早速明日から利用していきたいと思う。
- ・検温時、呼吸数をきちんと観察しようと思った。
- ・集中してできた。
- ・前回到続き急変前の前兆に気づくため、その前兆はどう言ったものがあるのか、バイタルサインの重要性について再度確認することができた。中でも呼吸の重要性や循環において血圧より脈拍の方を重点的に見た方が良いことなど初めて知り今後活かすことが出来ると感じた。その他、医療従事者が行う二次救命処置の内容について気管挿管の固定の仕方、長さなど丁寧に指導があり、いざという時に少しでも力になれるのではと思うことが出来た。

<社会人>

- ・約二日間の講義は非常に勉強になった。
- ・アンガーマネジメントについて理解することが出来た
- ・コミュニケーションについて講義を聞くことができ、明日からも実施していきたいと感じた
- ・前回と今回、2回に分けて受けた講義どちらも人として凄く勉強になる講義だった。
- ・人とのかわりかたについて学びが深まった
- ・客観的事実の伝え方は難しいと感じました
- ・言い方が例題あるもので自身が言われると傷ついてしまうなと感じた。
- ・明日から実践していきたい。
- ・コミュニケーションについて学ぶ事が出来た。値引きしてしまってるので気をつけたい。
- ・私メッセージがっかりした。やや虚しい気持ちになった。なかなか言えません。
- ・今回の研修において、怒り方という難しい方法を知ることができて良かった。
- ・限定質問と拡大質問は普段から何気なく使っていたのですが、メリットをしっかりと理解できこれからも効果的に使っていきたいと思った。
- ・発表したり、当てられたりするのストレスでしたかありません。

研修担当者より

7研修・募集人数664人に対して、最終受講者は658名・達成率99%という結果となった。研修後半、体調不良を理由としたキャンセルが増加し募集人数を下回る原因となった。研修全体の評価として、受講生の学習成果の評価は概ね高く、学習目標の達成度は良好であったと思われる。しかし一方で、少人数ではあるが、各研修全てにおいて、「許容量を超えていた」「期待した内容ではなかった」と回答があった。この2項目について全体集計では96名となっている。研修中の私語などもあり、研修プログラムの見直しや、各施設の受講生の研修参加への動機づけも必要と考える。次年度は、新たな講師や研修内容について具体的見直しを実施する予定である。今年度は、研修最終日に、「実施してほしい研修はありますか」というアンケート項目を追加した。次年度の研修運営を検討する際、このアンケート結果も含めて検討する。

研修名	3) 新人助産師合同研修		
開催日時	令和6年7月27日(土)～令和7年1月23日(木)		9:30～16:30
研修形態	集合		
受講者数	新人助産師合同研修	延46名(会員11名 非会員35名)出席率85. 2%	定員 20名
	公開講座	延19名(会員14名 非会員5名)	定員 各5名
対象	助産師 公開講座は周産期に関心のある看護職		
ねらい	新人助産師が、安心・安全な助産ケアを提供するために必要な基本的知識や技術、態度を学び、各職場において実践に活かすことができる。また、新人の交流を図り、主体的にキャリアアップに取り組むことができる。		
講師	プログラム参照		
内容	プログラム参照		

1. プログラム

開催日	テーマ・時間	内容	方法	講師
【公開講座】 7/27(土) 講義：5.0H	9:30～12:00 医療安全と助産記録*	医療安全の基本的な知識と法的根拠としての助産記録の在り方を学ぶ	講義	高知赤十字病院 看護師長 眞鍋 敦子
	13:00～15:30 CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識*	CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識と判読について学ぶ	講義	高知県立あき総合病院 産婦人科部長 池上 信夫
	15:30～16:30 交流会【新卒助産師対象】	他施設の新人助産師と交流	GW	助産師職能委員会
【公開講座】 9/28(土) 3H	9:30～12:30 助産倫理*	助産師の職業倫理について学び、倫理的感応力を高める	講義	高知県立大学看護学部 教授 嶋岡 暢希
【公開講座】 10/12(土) 6H	9:30～12:30 新生児のフィジカルアセスメントとディプロップメント	フィジカルアセスメントとは新生児をとりまく家族への支援環境調整について	講義	高知医療センター 新生児集中ケア認定看護師 山本 晃子
	13:30～16:30 社会的ハイリスク妊産婦の看護	社会的ハイリスク妊産婦の看護及び心理的危機に直面した妊産婦と家族の看護について学ぶ	講義	高知大学医学部附属病院 助産師外来 助産師 公文典子
【公開講座】 12/7(土) 6H	9:30～12:30 ハイリスク妊産婦の治療と管理	ハイリスク妊産婦の病態について学び、管理について知る	講義	高知大学医学部附属病院 産婦人科 准教授 永井立平
	13:30～16:30 母乳育児支援の理論と実際	母乳育児の意義・効果について理解できる乳房ケアの実際を学ぶ	講義	香川県助産院ゆるり 助産師 鈴木 佳奈子
1/18(土) 3H	9:30～12:30 専門職に求められるコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーション技法について理解する。相手の思いを汲んだ対応ができる	講義	国立病院機構高知病院 畑中 麻里子
【公開講座】 1/23(木) 5H	9:30～10:30 社会資源を活用した産後の継続支援part1	母子保健関連施策について知る	講義	高知市こども未来部母子保健課 保健師 小松 千穂
	10:30～12:30 社会資源を活用した産後の継続支援part2	産後ケア事業等の社会資源を活用した母子への支援について学ぶ	講義	助産院はぐはぐ 助産師 森木 由美子
	13:30～15:30 交流会【新卒助産師対象】 リフレクション	1年間のケア実践を基に振り返り、助産師としての成長に気づく	GW	助産師職能委員会

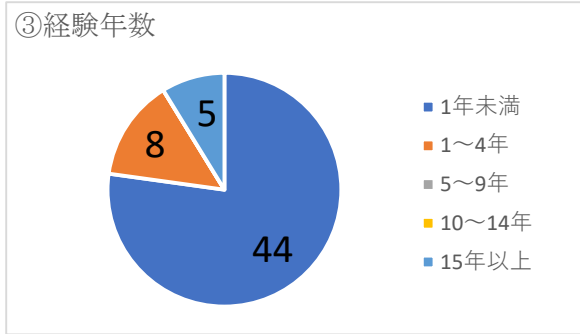
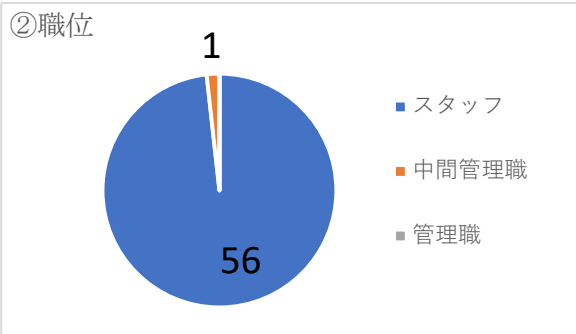
* CLoCMiP レベルIII 認証研修

2. アンケート結果 参加者 延65名(助産師58名 看護師7名)アンケート回収率87.7%

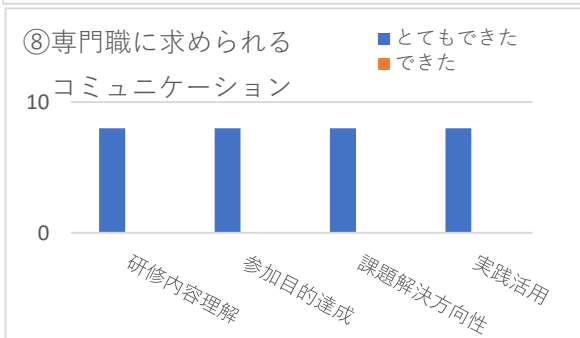
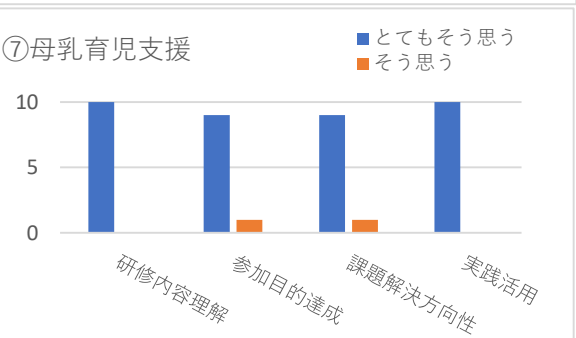
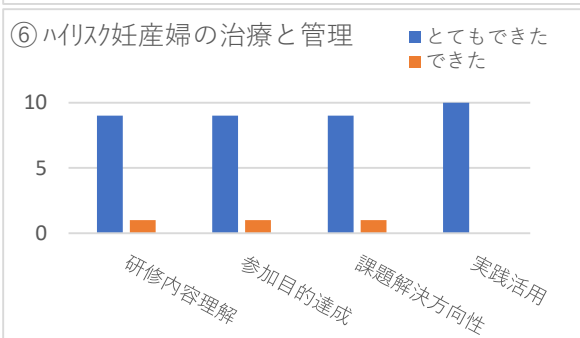
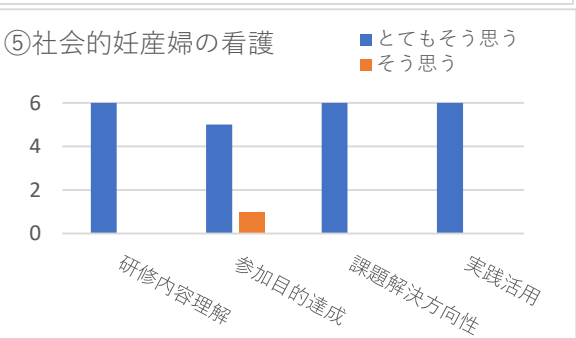
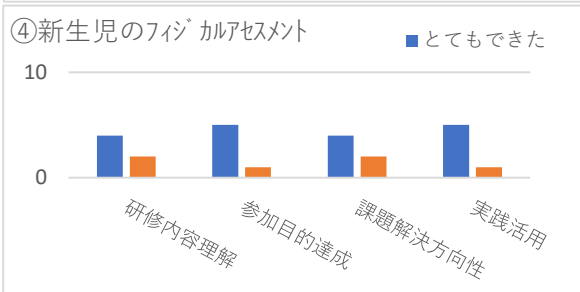
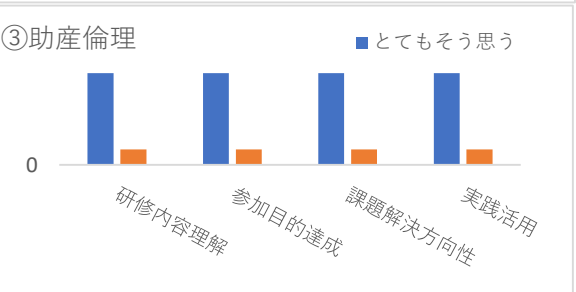
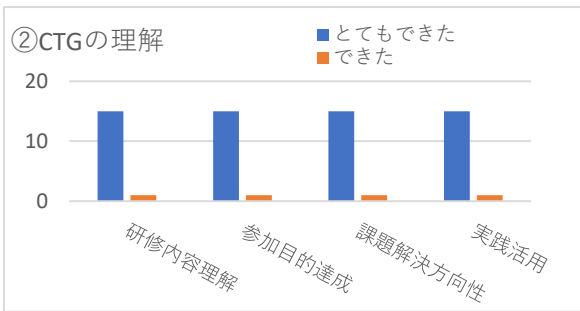
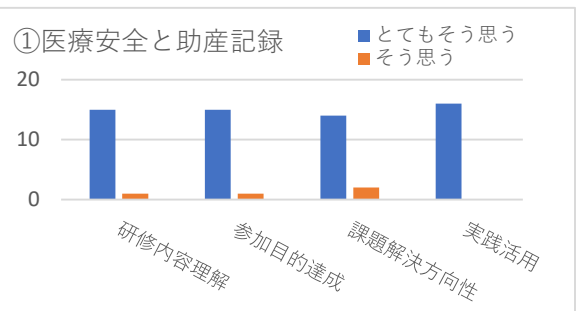
※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答(重複回答したものを含む)

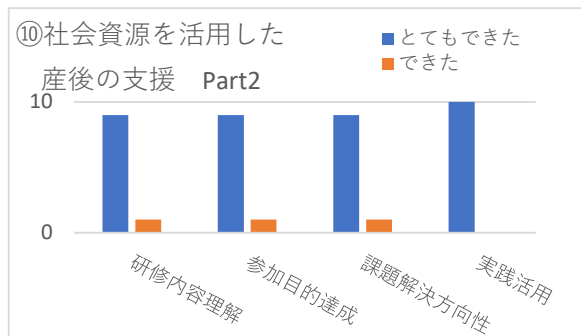
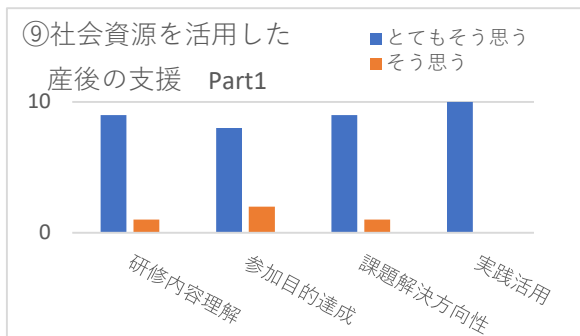
1) 属性

①職種 助産師 52名 看護師 5名



2) 講義の効果





①医療安全と助産記録

- ・看護記録の重要性を改めて理解し、具体性や整合性に留意していきたいと思った

②CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識

- ・CTGの判読は現場でも困ることがたくさんあったが、実践で使えるようにしたい
- ・知識の整理になってとても良かった
- ・CTGは繰り返し復習して正常・異常の判断がしっかりできるようにしていきたい

③助産倫理

- ・高知県の周産期医療について理解を深めることができた
各地方圏が抱える課題についても知ることができ、学びが得られた
- ・グループワークにて自分には考えられていなかった意見を取り入れることができた
自分自身がモヤモヤしている部分は共通しているためその時どのような行動を取れば良いのか毎回考えて行動していきたい
- ・倫理的感性について、今医療現場で感じることを大切に、新人だからという視点でも先輩と共有したいと思った

④新生児のフィジカルアセスメントとディプロップメント

- ・ハイリスク新生児は現場であまり見ないので勉強になった

⑤社会的ハイリスク妊産婦の看護

- ・社会的ハイリスクの妊婦さんへの支援について、改めて考える機会ができました
- ・社会的ハイリスクの妊産婦を対象とした情報収集やケアなどを考える機会がまだなく、どのような背景を捉えるべきかを振り返っていきたい

⑥ハイリスク妊産婦の治療と管理

- ・ハイリスク妊婦の管理が多い病院であるため、ハイリスク知識の理解を深めることができた
- ・知識をしっかりと振り返って実践に繋げていきたい

⑦母乳育児支援の理論と実際

- ・授乳支援について事例を用いて介入を考える事ができ、解決の糸口を得ることができた
- ・知識をしっかりと振り返って実践に繋げていきたい
- ・伝え方一つでお母さんの気持ちに寄り添う母乳育児支援ができると学びました
- ・母乳支援に困っていたのでとても参考になりました
- ・学生時代に母乳の勉強が全然足りていなかったと、感じました
- ・とても実用的で説得力のある内容で、活かしたいと思いました
- ・もう少し業務に慣れてきて、もっと日々の支援に活かされる余裕ができてから、同じ内容を勉強したい

⑧専門職に求められるコミュニケーション

- ・コミュニケーションについて中立的な立場で考えることの重要性を感じることができました。
- ・コミュニケーションにおける自分の特性を知ることができ、意識していきたいと思いました。
- ・グループワークを通して、実際困ったことのある場面をじっくり考えることができ、臨床で活かしたい
- ・グループワークや他の人と話し合う時間が楽しかったし、実際に体験することで理解が深まった

⑨社会資源を活用した産後の継続支援 Part1・2

- ・産後ケアについて、曖昧なイメージでしか理解できていなかったことに気づき、具体的にどういったことに産婦が悩み、どんなケアが行われているのか学ぶことができた
- ・入院中から、それらの悩み事を予測して支援していくことができるようになりたい
- ・産後ケアについて知らなかったことがたくさんあったので、今後入院している褥婦さんへ社会資源を説明する際に今回の学びを活用したい
- ・産後ケアの実態について今まで明確に理解できていなかった
- ・社会的な背景と産後ケアについて詳しく理解することができた
- ・退院後の母子の状態を予測して入院中にできるケアを提供できるよう、入院中の関わりや観察、アセスメントを充実させていきたい

4)実施してほしい研修について

- ・授乳介助や授乳のアセスメントについての講義や事例検討をもっとしてみたい

3.研修担当者コメント

周産期を取り巻く環境として、少子化が顕著な中、県内の分娩を取り扱う施設が減少し、周産期施設の集約化が課題となっている。そのような状況下、今年度県下産科施設に9名の新人助産師が入職した。中には所属施設の分娩取り扱い停止により、年度途中で他病院への転職を余儀なくされる新人助産師が発生した。

また、天候不良・講師都合等で5日間の研修日程が2度の変更を経て6日間となった。一方、今年度の新人助産師の研修受講率は、延48人(参加率88.9%)で例年度と著変なかった。

今年度、国を挙げての産後ケア事業の推進を受け、地域との連携について保健師講師より講義頂いた。受講生から「地域との連携の重要性が理解できた」「施設での育児指導に活かしたい」という声も聞かれた。

また、「今後臨床経験を積んだ後に、もう一度研修受講し振り返りたい」との声もあり、基礎的な研修内容の反復研修の必要性も感じている。助産師職能委員会において検討しながら新人助産師のキャリアアップに効果的な研修を検討していきたい。

研修名	感染管理担当者研修
開催日時	令和6年9月28日(土)～令和7年1月25日(土)内6日間
研修形態	集合
受講者数	延べ人数449名 実人数 93名(看護師87名 准看護師6名) (会員 52名 非会員 41名) (領域Ⅰ 56名 領域Ⅱ 37名)
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師
ねらい	施設・部署内での感染予防策を実施するための基本的知識を深め活用し、感染拡大防止対策能力の向上を目指す
講師	プログラム参照
内容(キーワード)	感染管理の基本

1.プログラム

日時	時間	項目	講師	
1日目	9:00～9:05	オリエンテーション	高知県看護協会	
9月28日(土)	9:05～9:30	高知県の新興感染症対策について	高知県健康政策部 医監 健康対策課長 川内 敦文	
領域Ⅰ・Ⅱ共通	9:30～12:00	感染症の基礎知識	社会医療法人近森会近森病院 感染症内科部長 石田 正之	
	13:00～15:00	新興感染症(新型コロナウイルス感染症)基礎知識と最新情報		
	15:10～16:40	抗菌薬の基礎知識	社会医療法人近森会近森病院 AST専従薬剤師 亀谷 佐和	
2日目	9月29日(日)	9:30～12:30	感染管理体制 感染対策の実際 情報管理	社会医療法人近森会近森病院 副看護部長 感染管理認定看護師 近森 幹子
領域Ⅰ・Ⅱ共通		13:30～16:30	サーベイランス アウトブレイク時の対応	
3日目	9:30～12:30	標準予防策	医療法人白菊会 白菊病院 感染管理認定看護師 森田 安世	
10月5日(土)		経路別予防策		
領域Ⅰ・Ⅱ共通	13:30～16:30	職業感染対策 洗浄・消毒・滅菌 ファシリティマネジメント		
	4日目	9:30～11:00	新興感染症(新型コロナウイルス感染症)看護	独立行政法人地域医療推進機構 高知西病院 感染管理認定看護師 笠原 久美
	領域Ⅰ 領域Ⅱ			
10月10日(木)	10月12日(土)	11:10～12:40	標準予防策・演習 手指消毒 PPEの着脱 スタッフ、コメディカル、家族等への指導方法・ポイント	社会医療法人仁生会細木病院 感染管理認定看護師 土居 世知
		13:40～15:10	クラスター対応	社会医療法人仁生会細木病院 感染管理認定看護師 土居 世知
		15:10～16:40	グループワーク ゾーニングを考えてみよう 課題について 自施設の感染対策の課題と解決に向けた行動計画の立案	感染管理認定看護師 笠原 久美
5日目	9:30～12:30	・各施設での取り組み・行動計画の進捗状況の報告発表	社会医療法人仁生会細木病院 感染管理認定看護師 土居 世知	
1月25日(土)	領域Ⅰ			
午前:領域Ⅰ		・意見交換 修了証授与		
午後:領域Ⅱ	13:30～16:30	・各施設での取り組み・行動計画の進捗状況の報告発表	独立行政法人地域医療推進機構 高知西病院 感染管理認定看護師 笠原 久美	
	領域Ⅱ			
		・意見交換 修了証授与		

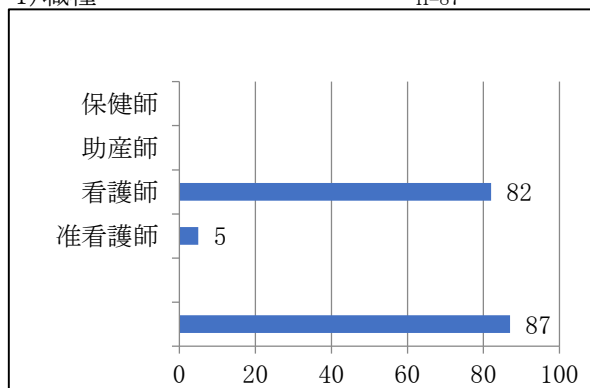
2.アンケート結果

出席者計:449名 アンケート回415収名 アンケート率92.4%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

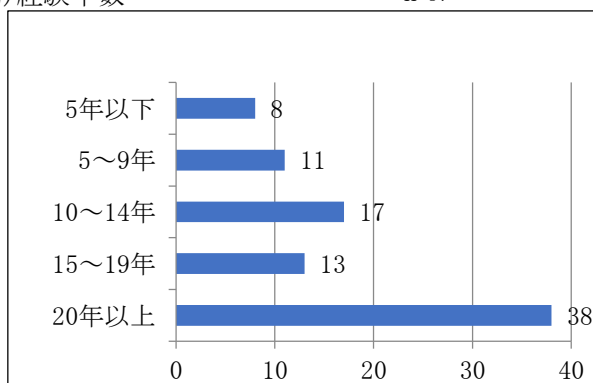
1) 職種

n=87



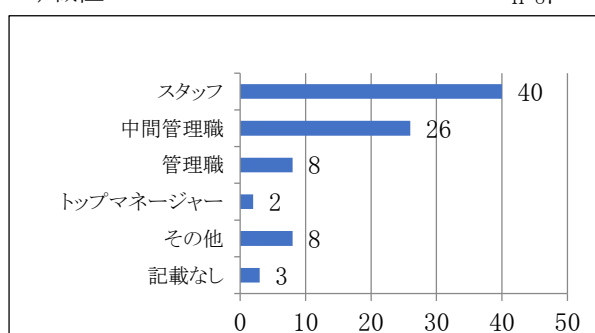
2) 経験年数

n=87



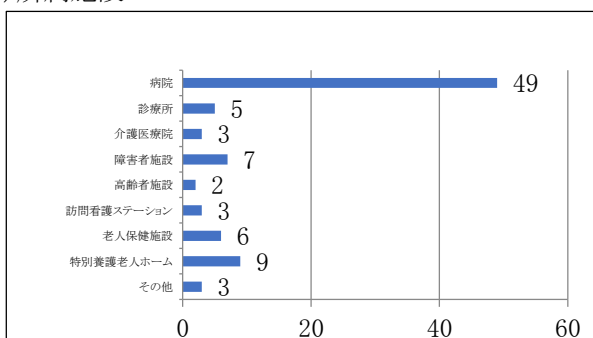
3) 職位

n=87



4) 所属施設

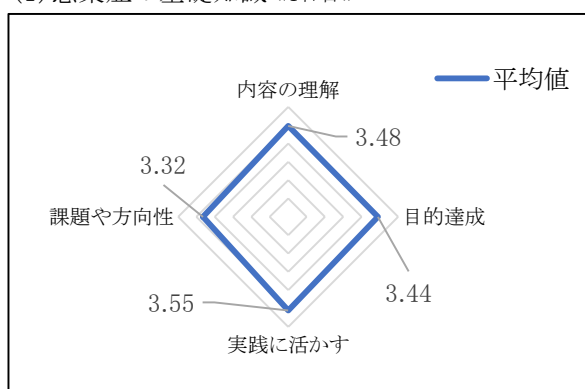
n=87



5) 研修別内容評価 指標 4段階(4:とてもそう思う 3:そう思う 2あまりそう思わない 1全くそう思わない)

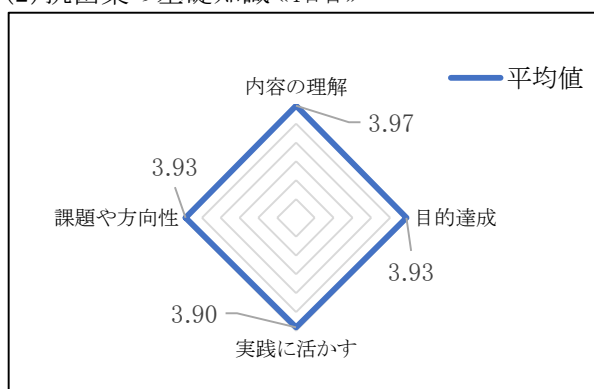
(1) 感染症の基礎知識<<1日目>>

n=87



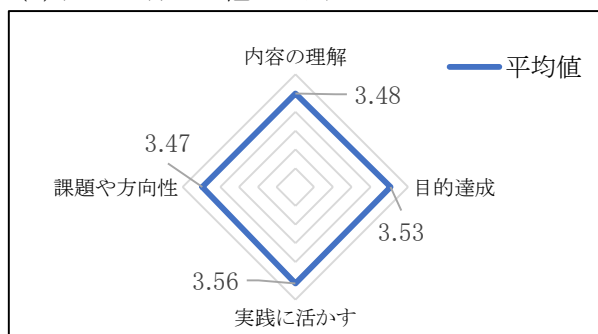
(2) 抗菌薬の基礎知識<<1日目>>

n=87



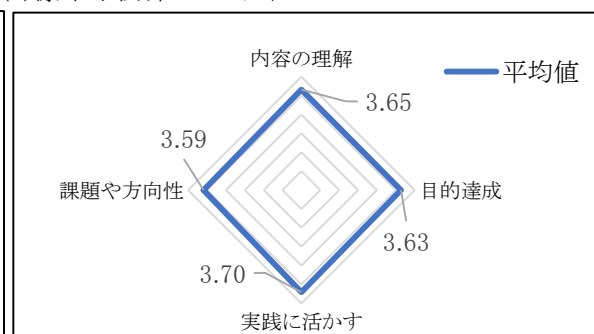
(3) サーベイランス他 <<2日目>>

n=88

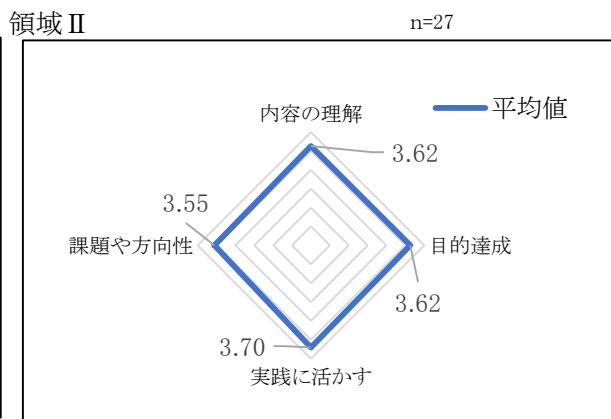
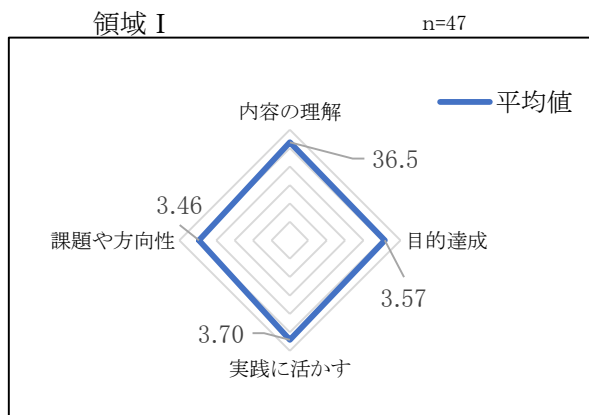


(4) 標準予防策 <<3日目>>

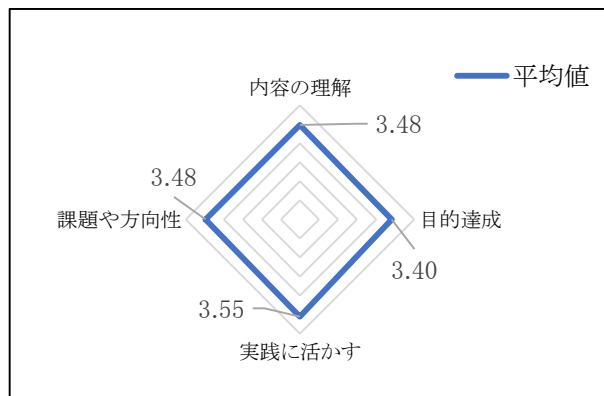
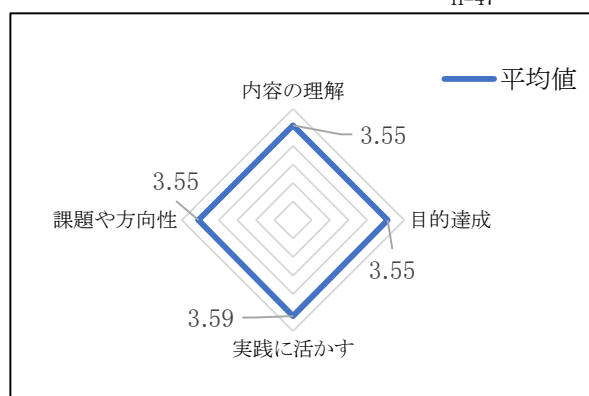
n=88



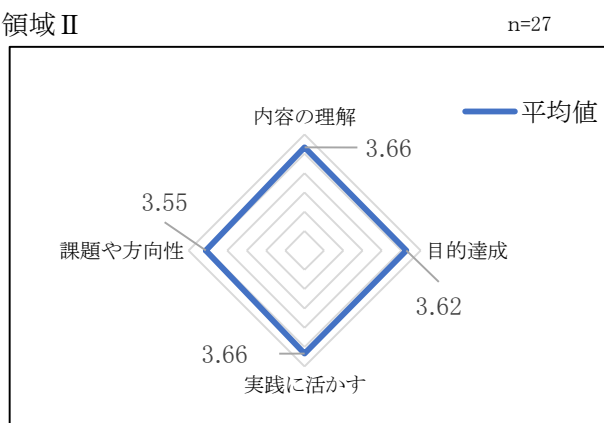
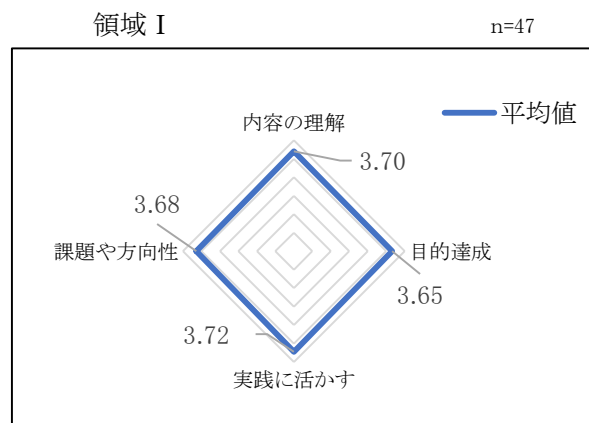
(5) 新型コロナウイルス感染症の看護<<4日目>>



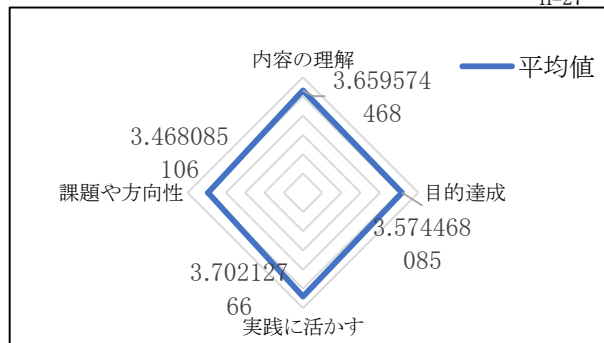
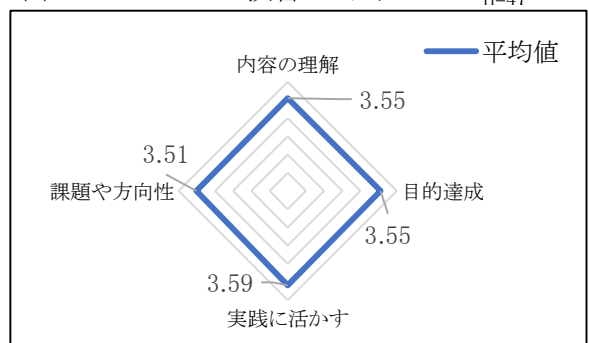
(6) クラスター対応<<4日目>>



(7) 標準予防策 演習<<4日目>>

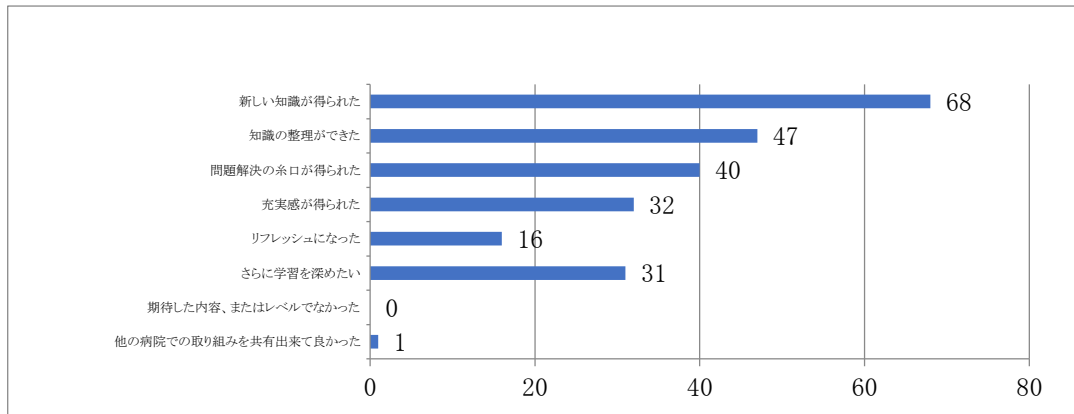


(8) グループワーク 演習<<4日目>>



(9) 研修全体に対する感想(複数回答)《5日目》

n=78



10) 研修の意見・感想(最終日のアンケートより)

- ・ 感染の勉強の機会をもらい、病院での取り組みの見直しや感染対策で自分ができる事を考えていきたい。
- ・ 各施設の発表を聴き、自分には無かった視点や方法が多くあり、勉強になった。今回の気付けや学びを、今後の感染対策への取り組みに活かしていきたい。
- ・ 他施設の方と、情報交換が出来てとても良かった。感染対策について、基礎から学び、新たな知識も得ることができた。今後の業務に研修を活かして、より良い対策をしていきたい。
- ・ 感染と漠然と提示されると何からどうすれば良いかと悩んでいたが、一つずつ整理していくことによって、何に取組みれば良いかが少しずつ分かってきた。
- ・ 感染に対する学びを深められて良かった。
- ・ 最後の取り組みの発表かとても参考になったので今後の課題にしたい。
- ・ 感染対策に事業所皆で悩んでいたのが、知識、情報のアップデートができた。
- ・ 今回の研修を現場で活かしていきたい。

感染予防策を自施設および地域の医療機関等において実践・推進し、感染対策のリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、2年目の開催となった。

3. 研修担当者コメント

本研修は令和4年度より開催し、令和6年度まで計227名が全日程を修了した。昨年までは領域Ⅰ・Ⅱ共通の講義は、オンライン開催をしていたが、講師の希望もあり、全日程を集合研修で開催した。グループワークを取り入れ、より実践的な内容を学び、そして講師へリアルタイムに質問でき、フィードバックを受け、効果的だったと考える。また受講者同士のコミュニケーションも図れ、情報交換の場となった。

最終日の自施設での感染対策の取り組みの発表では、各施設の課題や様々な取り組みを共有することができた。今回の研修を感染対策の取り組みに役立ててくれることを期待する。

研修名	令和6年度高知県専任教員養成講習会	
開催日時	令和6年6月3日～令和7年2月21日	
研修形態	eラーニング、集合研修	
受講者数	8名	
対象	<p>現在もしくは将来、看護基礎教育や臨床教育を希望し、以下の条件を満たしている者。</p> <p>1) 看護基礎教育に携わっており専任教員養成講習会(旧:看護教員養成講習会)未受講の者</p> <p>2) 保健師・助産師・看護師として5年以上業務(実務経験)に従事し、看護基礎教育に携わりたい者または、医療機関において看護学生および新人看護師の指導にあたっている者</p> <p>3) 保健師・助産師・看護師として3年以上業務(実務経験)に従事した者で、かつ大学および大学院において教育に関する科目(4単位以上)を履修し、単位を取得した者</p>	
ねらい	看護教育の教育実践に必要な知識・技術・態度を修得し、質の高い資質を備えた優秀な教員及び臨床教育者として夢や希望をもって創造的に活動し得る能力を啓発する。	
講師	県内、県外含め27名	
内容	基礎分野5科目、専門分野12科目の全17科目、31単位660時間および特別講義で構成	

I 科目一覧及び各科目の目標と主要内容

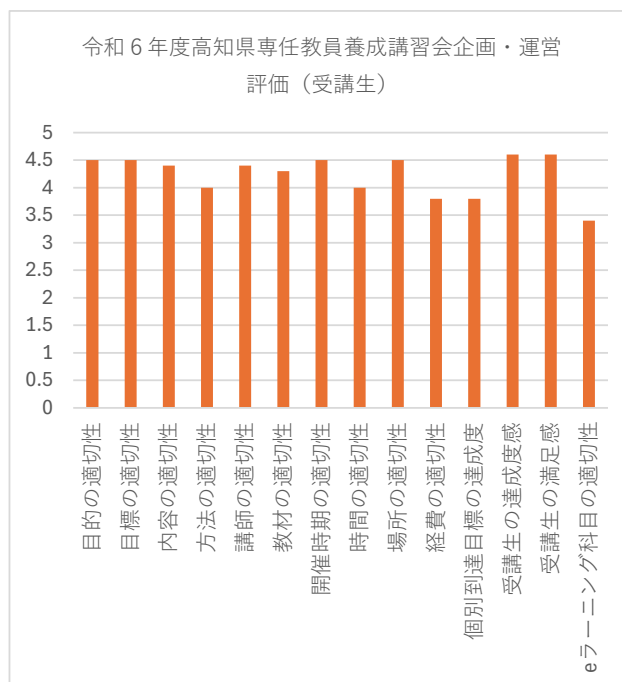
科目	目標および内容	講師
教育原理	<p>教育の本質の基本的知識、概念及び必要な理論を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育史、教育思想、教育の社会的、法・制度的事項 ・カリキュラム開発の考え方や学校教育におけるカリキュラムの役割等についての理論的背景及び学力との関わり、カリキュラム開発・適応における教師の専門性 ・教育の経営的事項、教育の現代的課題 	eラーニング
教育方法	<p>授業について様々な視点から検討する。学校や教室といった制度的な学習の場の特質、教育実践を方向付ける学力論や学習論、学習者論、授業の構造や授業デザインの方法、コミュニケーションとして教育実践をとらえる視点、専門家としての教師の学習や発達を理解することを目指す。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子供がどう生きているのかということを追及していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室を中心とした制度的な学習の場の特質 ・現代の学力論や学習論の動向 ・授業の構造をとらえるための視点や授業デザインの原理 ・授業のコミュニケーションの特質と授業での教師の役割 ・専門職としての教師の学習と発達の特徴 	eラーニング
教育心理	<p>教育心理学の中核である「学習」と「発達」に関する心理学的知見を中心に講義。学習については、現代心理学の潮流である認知主義の観点から、認知過程についてやや詳しく述べる。全体の講義を通して、昨今の教育における問題点を明らかにし、その解決に向けてどのように対処すればよいかという視点から解説する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と発達に関連する理論や概念 ・成長発達に伴う学習者心理の特徴 ・学習過程における心理的特徴と教育方法 ・学習者の反応や状況の心理学的理解 	eラーニング
教育委評価	<p>教育評価の目的、機能、方法などによって整理された基本概念やそれぞれの評価の問題点を記憶し、重要な用語を体系的に選択できるようになることを目的とする。具体的な内容として、教育の目的や評価の観点に対応した評価の種類や基本的なテスト理論を説明し、学習者や学習成果を評価する際に考慮すべきポイントをまとめる。また、基本的な知識を実践につなげるための足掛かりとして、授業自体や教師を対象とした評価の意味やインストラクショナルデザインの考え方を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価における基本的な考え方と評価を行うことによる問題 ・教育評価の種類に応じた課題や留意点を体系的に分類 ・授業形態や授業の目標に応じたひい、おう化計画を立てるための基本的な知識 ・教員として自らの授業自体を評価する活動 	eラーニング
情報通信	<p>情報リテラシーの向上のため、情報社会に対応する基礎的知識及び看護師等養成所の組織運営に係る情報通信技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育におけるICT活用の必要性や動向 ・教育におけるICTの機能や特徴 ・教育におけるICT活用事例を通してのICT活用時の留意点や学習効果 ・ICTを活用した授業を推進する上で教員や学生に役立つLMSの実態と導入のメリット 	
看護論	<p>人間の健康、看護の考え方を多角的に学び、看護の視野を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践からとらえなおす看護の本質 ・人間の健康と支援 ・様々な場における看護の機能と役割 ・看護における倫理的課題とその対応 	eラーニング
看護論演習	<p>看護の本質や役割を理解し、自己の看護観を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の振り返りと看護の本質の理解 ・看護師の役割と専門性 ・生命倫理や人権意識と看護、倫理的課題の明確化 ・自己の看護の知の言語化、明確化 ・看護教育活動への反映方法 	浦田美保 山崎和子 佐田久美子
看護教育制度論	<p>看護教育制度の変遷と現在の教育制度を理解し、これからの看護教育のあり方について考え、教育観の形成につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護教育制度の変遷と現在の教育制度 ・看護基礎教育と生涯教育 ・看護教育の意義と特徴の理解 ・看護教育における教員の役割と責務 	eラーニング
看護教育課程論	<p>看護教育課程編成の基本的な考え方を学び、看護学全体の構造を理解し、看護教育課程編成の実際を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の知識 ・看護教育課程の理解 ・看護教育課程の特徴と卒業時の到達目標 ・専門領域の特徴と主な教育内容 ・看護教育課程の編成方法の理解 ・教育課程のプロセス ・教育目的・目標の設定 ・教育内容の抽出と組織化 ・領域横断の考え方 ・教育課程 	eラーニング

看護教育課程論 演習	看護教育課程編成のプロセスを学び、看護教育のあり方を理解する。 ・看護教育課程編成の実際 看護教育のニーズと考え方の実際 教育理念、教育目的、教育目標の考え方の実際 教育内容抽出の考え方の実際 教育内容の組織化の考え方の実際 ・看護教育課程の課題	池西静江 浦田美保 山崎和子 佐田久美子
看護教育方法論	看護学における教授-学習活動と授業デザインの考え方を踏まえた授業作りの方法を学ぶ。 ・看護教育における教授・学習活動 授業の要素と関連 授業形態と指導の特徴	池西静江 野中陽一朗 水方智子 他8名
看護教育方法演習	指導案を作成し模擬講義・演習・実習を行い、その結果を考慮し看護教育方法を身につける。 ・授業(含演習)での学習指導計画、デザイン ・授業案作成と模擬授業、リフレクションによる自己課題の抽出 教材と教材研究の方法 ・授業の構成と技法 ・実習目標を踏まえた指導計画・指導案と日案の作成 ・学習者の経験を教材化する方法と具体的発問 ・カンファレンスの指	目黒悟 他4名
専門領域別看護論演習	各専門領域別看護の教育内容、教育方法について学ぶ。 ・各領域の変遷を踏まえた教育内容と構造の理解 ・各領域の専門的研究や専門性の高い看護実践からの教育内容の明確化 ・各領域に必要な教育内容や教育方法の検討	長戸和子 他11名
看護教育評価論	看護教育内容の評価方法を理解し、その適応について学ぶ。 ・看護教育における評価の目的と機能 ・看護教育における評価目標設定と評価基準 ・看護教育における授業内容と評価用具 ・看護教育の現状と課題	eラーニング
看護教育評価演習	看護教育で活用できる評価基準の理解と作成を通し、実践した看護教育を評価する方法を学ぶ。 ・看護教育における評価基準と評価基準の作成 ・看護教育の評価方法の実際	山田円 他4名
看護学校組織運営論	看護学校の組織運営の特性と管理の在り方を学ぶ。 ・看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン ・看護師養成所の経営と組織運営の特性 ・看護師養成所における管理の実際 (人事管理、学級管理、事務管理、図書管理、施設・物品管理、危機管理、情報管理等) ・看護師養成所運営の評価と今後の課題	eラーニング
看護教育実習	看護教育の理論と技術を実際に適応し、教員としての基本姿勢や教育方法等を学ぶ。 ・看護学生の理解 ・講義または演習の指導計画立案と実践 ・臨地実習の指導計画立案と実践 ・実習校のカリキュラム理解 ・看護教員の在り方の理解と自己課題の明確化	県内看護専門学校3施設
特別講義	看護基礎教育の現状と展望 看護教員に期待すること 看護行政の動向	勝又明子

II アンケート結果

令和6年度高知県専任教員養成講習会 企画・運営評価（受講生）

項目	評価平均点
目的の適切性	4.5
目標の適切性	4.5
内容の適切性	4.4
方法の適切性	4
講師の適切性	4.4
教材の適切性	4.3
開催時期の適切性	4.5
時間の適切性	4
場所の適切性	4.5
経費の適切性	3.8
個別到達目標の達成度	3.8
受講生の達成感	4.6
受講生の満足感	4.6
eラーニング科目の適切性	3.4



<コメント>

III.研修評価

令和6年度高知県専任教員養成講習会企画・運営評価

1. 目的、目標達成および内容について

講習会での受講者の受講状況や受講者からのアンケート結果、講習会修了時の自己

評価をもとに評価する。長期間に及ぶ研修の中で、教育における知識・技術や教育者としての態度を学び、新たな知見を得、考え方や他者への接し方などが受講当初より変化し確かな成長につながっていた。講習会の企画・運営に関しては、アンケート結果（別紙添付）から、目的、目標、内容の適切性は高く、受講者の満足度も高かった。一方、eラーニング科目の適切性や経費の適切性についての満足度は標準的であった。eラーニングでの学びは、時間の自由性や個人のペースで学べるメリットはあるが、個人ワークでの孤独や不安があった。事務局で学習の進捗状況を確認しながら、個別もしくは全体へのメールでの支援は実施したが、さらに、きめ細かい支援内容が必要であったかもしれない。

講習会修了時の到達目標達成自己評価（別紙添付）については、3つの能力形成の目

標達成について述べる。1点目の看護基礎教育の基盤となる能力は、教育者あるいは指導者としての基本的責務や援助的人間関係を築く関わりについて理解できていた。また、教育者、指導者として倫理的実践が重要であることを高く認識することができた。2点目の看護基礎教育実践の展開能力については、標準的な能力を得ることはできたが、現状の教育の分析やカリキュラム上の課題への取り組みは、今後の課題とらえていた。臨床実習指導では、学生に寄り添い、理解を促進させるための発問の必要性を認識した指導が実施できていた。教育実践評価は、評価の考え方や手法を学んだことで、評価の妥当性について深く思考できるようになっていた。臨床との教育連携や組織でのチーム連携のあり方が、学生の学習促進に影響することを理解できていた。また、自らの担当業務に対して、他者からの意見を求める必要性を理解でき、組織の一員として実践していることを自覚できていた。3点目の看護基礎教育実践の中で研鑽する能力については、講習会中にその必要性について再認識し、今後の課題として、教員としての自己のあり方、課題の抽出と解決に向けた取り組みなど自己研鑽の必要性を自覚する講習となっていた。

2. 講師、教材の適切性について

受講生からの各科目アンケート結果は、評価、満足度ともに高かった。各講師の方々が、講習会の目標や内容を共有・理解し、各専門性を発揮した講義内容であった。シラバスに関しては、講師の意見も参考に次年度に向け、改訂箇所がいくつかあった。

3. 講習会の開催時期、時間、場所、経費の適切性について

開催時期は適切であった。時間については、県外からの受講者が、講習終了後に地元に戻ることもあり、次年度は、開始時間、終了時間を早めて開催するようにした。

場所は、適切であった。教育実習施設が遠く、宿泊費を自己負担した受講生もいた。市内の実習校（実習指導体制が整っていない）が少ないことが要因であるが、次年度は、地元で実習ができるよう各学校に働きかけていきたい。経費について、詳細な内訳が知りたかったという受講生の意見があった。詳細な内訳を示すことは困難であること説明し理解を得た。

1 看護職員等研修事業

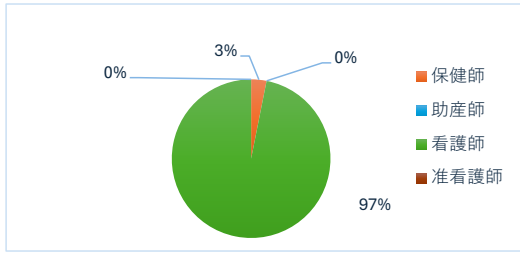
研修名	6) 新人看護職員研修 教育担当者研修	
開催日時	①令和6年11月2日(土) 10:00～13:00 ②令和6年11月5日(火) 9:30～16:30 ③令和6年11月8日(金) 9:30～16:30	
研修形態	①Zoomによるオンライン研修 ②～③ 高知県看護協会会館での集合研修	
受講者数	33名 (会員:21名 非会員:12名)	定員 30名
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署で実施される新人看護職員研修の企画、運営を中心的に行う者 ・その任に当たる者、または目指している者 ・基本的に3日間を通して受講できる者 	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・組織における教育担当者の役割を理解し、ガイドラインで求められている研修企画・運営・実施・評価に必要な知識を学び、組織全体で取り組む新人看護職員臨床研修体制を構築する ・看護基礎教育現場と臨床現場の現状を知り、今後の連携体制を図る 	
講師	①医療法人山本記念会山本記念病院 看護部長 高橋 久美 ②社会医療法人杜のホスピタル 看護部長 岡本 真知子 ③高知県立幡多看護専門学校 副校長 酒井 美保 ④社会医療法人近森会近森病院 看護部長 森本 志保	

令和6年度 教育担当者研修プログラム

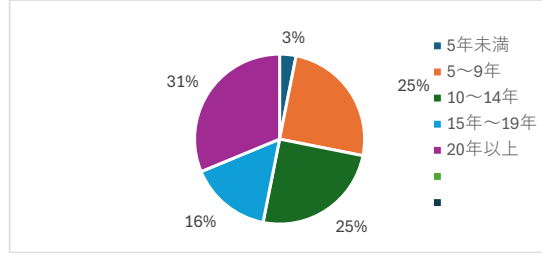
日時	テーマ	内容	講師	備考
1日目 11/2 (土)	10:00～ 13:00 新人看護職員臨床研修体制の理解	1. 新人看護職員研修の概要	医療法人山本記念会山本記念病院 看護部長 高橋久美	オンライン
		2. 看護基礎教育の現状		
		3. 新人看護職員研修ガイドライン		
		4. 部署における新人看護職員を教育する体制づくり		
		1) 新人看護職員を育てる組織風土づくり		
		2) 研修責任者・教育担当者・実地指導者の役割		
		3) 部署管理者との調整		
		5. 医療・看護を取り巻く社会の動向		
2日目 11/5 (火)	9:30～ 16:30 実地指導者と新人看護師のメンタルサポート	1. 新人看護師が抱えるストレスとメンタルヘルス 2. 実地指導者のストレスマネジメント 3. コーチング、カウンセリングスキル 4. 円滑な関係性構築のための調整のためのコミュニケーションスキル	社会医療法人杜のホスピタル 看護部長 岡本真知子	集合
3日目 11/8 (金)	9:30～ 12:30	1. 基礎教育における臨床実践能力の習得状況	県立幡多看護専門学校副校長 酒井美保	集合
	13:30～ 14:30	1. 人を育てるとは 2. 看護部理念と部署における新人看護師に求められる能力 3. 新人看護師の現状	社会医療法人近森会近森病院 看護部長 森本志保	
	14:30～ 16:30	1. 新人看護職員研修計画の立案と評価 2. 自部署の年間教育計画立案	【ファシリテーター】 酒井美保	

1. アンケート結果

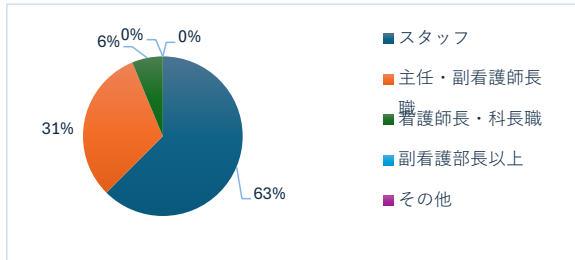
1) 職種 (n:32)



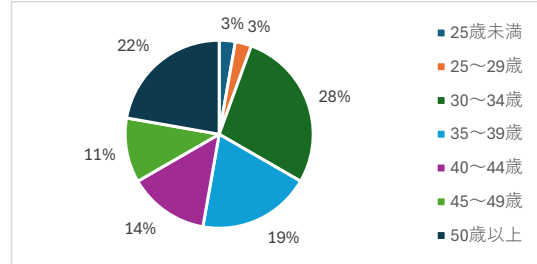
2) 経験年数 (n:32)



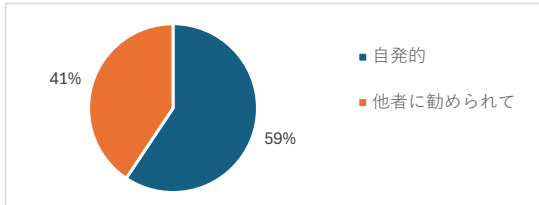
3) 職位 (n:32)



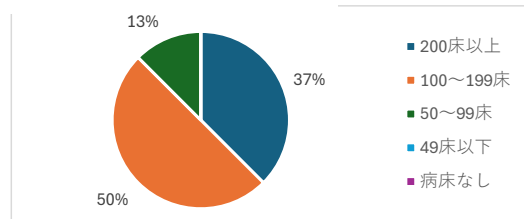
4) 年齢 (n:32)



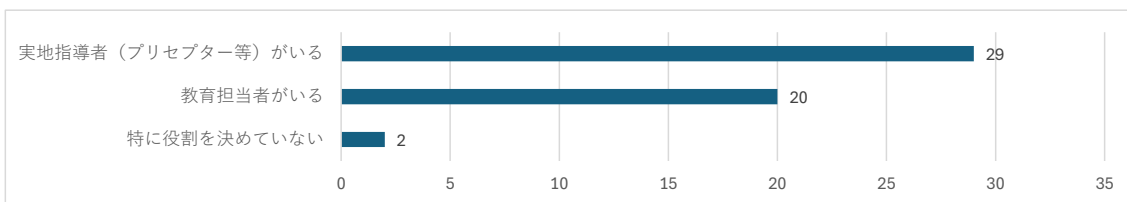
5) 参加について (n:32)



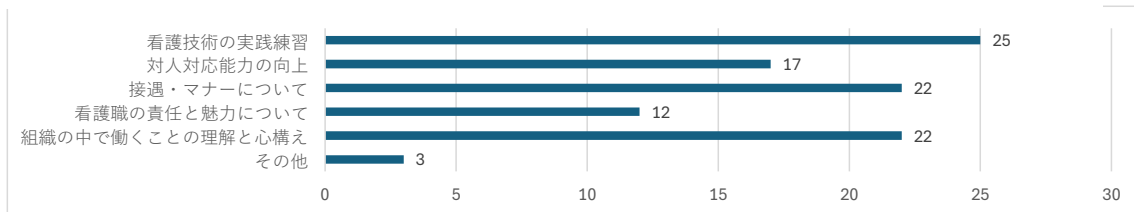
6) 病床数 (n:32)



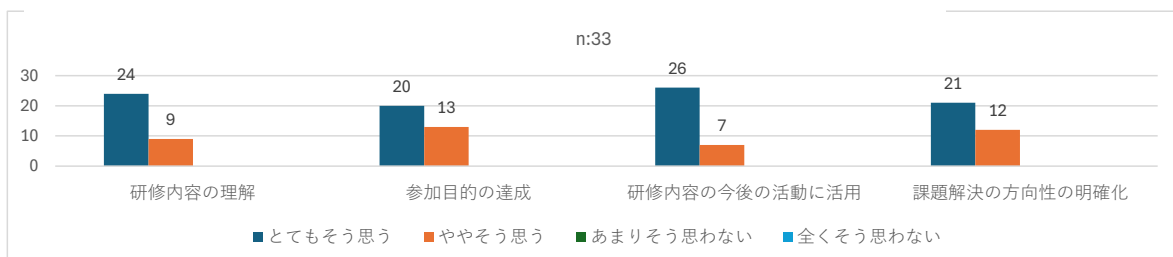
7) 自施設の新人職員教育体制について(複数回答)



8) 自施設で行っている新人看護職員の入職時研修内容について(複数回答)

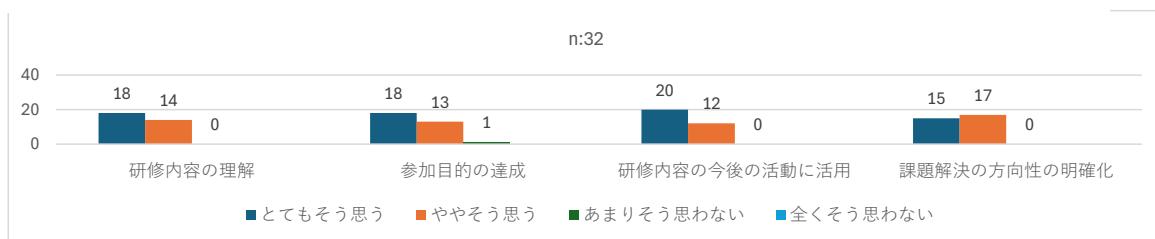


9)-①研修内容の評価(1日目)テーマ:新人看護職員臨床研修体制の理解



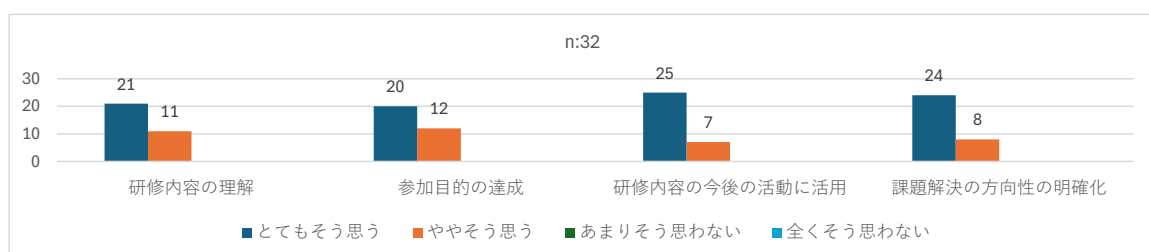
- ・ 新人指導に困る場面がたくさんあったので今回の研修を受けて、来年いかせる内容でとてもいい研修だった。
- ・ 現在の新人教育の背景について、詳しく学ぶことができた。
- ・ 個を大事にする指導がいかに大切で難しいかを学んだ。
- ・ 目からウロコな内容もありこれからの指導に役立てていきたいと思う。また、どこの施設も同じ様な悩みを持っていることもしれて良かった。
- ・ 2年前から新人教育にプリセプターとして携わせてもらい、指導に難しさを感じる毎日ですが、周りのスタッフ、師長、主任も積極的にサポートしてくれているので助かっている。研修で私自身の課題、こうすればいいかな、よかったなと思う部分もあったのでこれからは活かしていこうと思う。
- ・ 当病院では、チームで新人教育をしており、複数で実地研修者、プリセプター、教育担当者を担っているので、今回の研修内容を持ち帰り、教育体制についてなど、また検討したいと思う。
- ・ 今後の新人スタッフへの関わり方、その他のスタッフの対応等、現場で活用出来ると思う。また現場のスタッフへも少しずつ伝達出来たらと思った。
- ・ 各病院悩んでいることは同じなんだな、と安心する場面もあり先生のお話はとてもためになる講義であった。
- ・ 今回の研修を通して多様化する看護職においてこれから入って来る新人看護師の強みを活かし、プリセプターと共にスタッフ一丸となって教育して育てて行く事が大切であると感じた。
- ・ 昨年より教育委員をしている。新人教育に関してプリセプターが悩んでいることもあり今日の講習は今後に生かせると思う。
- ・ 今の新人の教育体制の背景がわかり、それを踏まえた関わりをしていこうと思った。
- ・ 他部署から新人が立て続けに3人配属になっている状況で、各自の性格に合して、先生の言われている通り『個々の教育』ということを実践している。今後も今日の講義を元実践していこうと思う。

9)-②研修内容の評価(2日目)テーマ:実地指導者と新人看護師のメンタルサポート



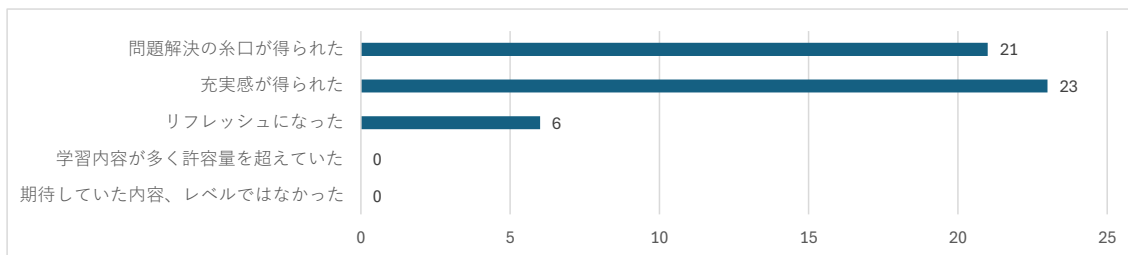
- ・ 実体験やわかりやすい事例を交えて説明していただいたので、大変わかりやすかった。自分も自分に課しているルールがあることに気がついた。今回の研修で今までの自分を振り返り、次からの新人指導に活用していきたいと思う。
- ・ グループワークもあり色々な考え方があることが理解できた。
- ・ 人を育てる職場環境や、目標管理について知ることができた。
- ・ 今回の研修は、新人看護師だけではなく、自分たちの立場の環境調整や互いのメンタルケアが大切になる事を学ぶ事ができた。伝え方、伝え方も大切になると感じた。
- ・ たくさんの人がいる人を指導する難しさがある
- ・ とても参考になった。実際に新人さんの対応時に使えるように自分のものにしたいと思う。
- ・ 新人に対して今後どう接すればいいか具体的に理解できた。実践していこうと思う。
- ・ ストレスについてや目標の立て方、達成に向けてのプロセスなど、新人さんに対してだけではなく、日頃の業務にも生かせる内容だと思った。
- ・ 他病院の方とも話ができて、とても楽しい研修であった。
- ・ 自分にも当てはまる内容もあり勉強になった。
- ・ 人との関わり方、自分の考え方、そしてどう対応していくのか等の理解が出来た。今後の業務に反映したいと思う。

9)-③研修内容の評価(3日目)テーマ:施設における新人看護職員研修計画の立案と評価



- ・ 色々な病院と意見を交えてとてもいい時間になった。
- ・ 各病院の評価表を参考にし、次年度に繋げたい。
- ・ 早く、今日習ったことを少しでも実践出来るよう自分の病院に持ち帰り共有したいと思った。新人教育も看護計画と一緒に個別性のある教育計画をたてることが大事だと痛感した。
- ・ 新人看護師に対する教育のあり方も個性を大切に他職種で連携し育てて行く事が大切だと感じた。
- ・ 振り返りと見直しなど、自分との向き合う機会にもなった。
- ・ 指導者をするにあたって大切なことを学べた。
- ・ 新人教育のあり方や今後、新人さんと関わっていくにあたって大切にしたいことを改めて深く考えることができた。今一度見直して来年度には新人教育担当者として関わるかもしれないのでこの研修で学んだことを活かしていきたい。
- ・ グループワークで他の病院の方の意見を聞くことができ、自分たちの病棟や病院とは違う視点を知ることができたのでよかった。教育で実施していることについても参考にできるものがあったので、自分たちの病院でも活用できたら良いと感じた。
- ・ 新人教育に対して毎回悩むことが多かったが、今回の研修で今までできてきたことは間違っていなかったと実感することができた。

10) 研修を通しての感想(複数回答)



2. ご意見・ご感想(一部抜粋)

- ・ 初めての看護協会での研修でしたが、今後も利用していきたいと思った。
- ・ 教育担当する上で理解しておくべき内容でした。後期に活かしたいと思う。
- ・ 知識の振り返りになった。他施設の情報を教えて貰って、参考になった。
- ・ 個々に応じた研修を行っていききたいと思う。
- ・ 皆同じ悩みがあることを知った。時々研修に参加し現状の教育を知り自己研鑽に励みたい
- ・ 日常の業務中であるあるの悩みを共有でき、とても勉強になった。実践できるよう自分のものにしていき伝達していきたい。
- ・ 他の施設の資料や他施設の方の教育担当としての悩みや意見を共有でき、参考になった。
- ・ 実例などあれば教えてもらいたかった(こういうことをして成功したや、こういう工夫をして良かったなど…)。
- ・ 他病院の教育体制を知ることができ良かった。
- ・ 今後の教育において大変参考になって役に立つ内容であった。
- ・ 現代の新人教育における姿勢や陥りやすい問題についても学ぶことができたのでよかった。
- ・ 今回の研修で今後気負わずにスタッフと協力して指導にあたろうと思った。
- ・ 教育に関わるスタッフがみんな学んでほしいと思った。
- ・ 他院での教育体制を知れた。新人の特徴や関わり方を今後の指導に活かしていきたい。
- ・ 新人の特性を知り、部署全体で新人を育てていききたいと思う。

3. 研修担当者コメント

3日間の研修を通して、自施設の新人教育体制を再考する機会となり、新人教育についての新たな気づきや知識が深まった研修であった。また、グループワークを通し、他施設の教育体制を知り、情報共有することにより実践に即した体制の必要性が理解できたと思われる。今回の研修で学んだことを活かし、組織全体で新人看護職員の育成に取り組めることを期待したい。

1 看護職員等研修事業

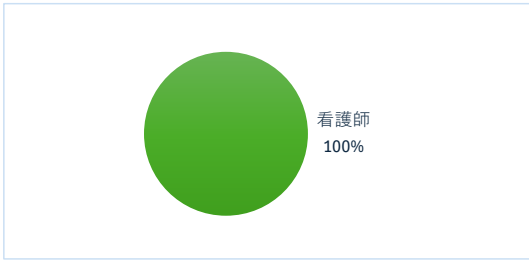
研修名	5) 新人看護職員研修 実地指導者研修	
開催日時	①令和6年11月16日(土) 9:30~16:30 ②令和6年11月18日(月) 9:30~16:30 ③令和6年11月21日(木) 9:30~16:30	
研修形態	①Zoomによるオンライン研修 ②~③ 高知県看護協会会館での集合研修	
受講者数	41名 (会員:20名 非会員:21名)	定員 50名
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・新人看護職員に対して実地指導者を担当する者(プリセプター等) ・その任に当たる予定の者、または目指している者 ・基本的に3日間を通して受講できる者 	
ねらい	新人看護職員の実地指導者として、ガイドラインで求められている基礎知識・技術、態度を習得し、効果的な支援ができる。	
講師	①医療法人山本記念会山本記念病院 看護部長 高橋 久美 ②高知大学教育研究部 准教授 野中 陽一郎 ③高知大学医学部附属病院 副看護部長 谷 めぐみ	

令和6年度 実地指導者研修プログラム

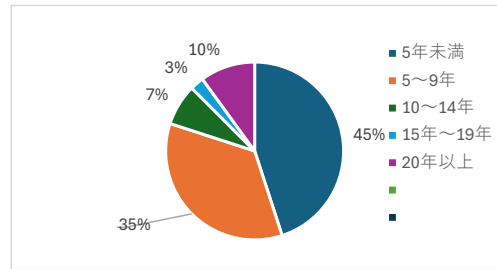
日時	テーマ	内容	方法	講師	備考
1日目 11/16 (土) 9:30 ~ 16:30	新人看護職員臨床研修体制の理解	1. 医療・看護を取り巻く社会の動向	講義	医療法人山本記念会山本記念病院 看護部長 高橋 久美	オンライン
		2. 新人看護職員研修のガイドラインについて			
		3. 看護基礎教育と臨床現場の現状			
		4. 人材育成の考え方と教育体制づくり			
		1) 組織における研修責任者・教育担当者・実地指導者の役割			
		2) 新人看護職員を育てる組織風土づくり			
2日目 11/18 (月) 9:30 ~ 16:30	学習に関する基礎知識	1. 成人学習者の特徴	講義	高知大学教育研究部 准教授 野中陽一郎	集合
		教育の基礎知識 学習理論			
		動機づけと評価のあり方			
		2. 教育方法について			
学ぶ教育環境					
3日目 11/21 (木) 9:30 ~ 16:30	部署における看護技術指導の実際	1. 実地指導者を取り巻く現状と役割の実際	講義 + GW	高知大学医学部 附属病院 副看護部長 谷 めぐみ	集合
		2. 部署における新人看護職員研修計画について			
		3. 看護技術の指導方法			
		1) 到達目標の設定と期間・看護技術を支える要素			
		2) 個別プログラムの作成			
		3) 評価とフィードバック(振り返り)			
4) 自施設にいかすための意見交換					

1. アンケート結果

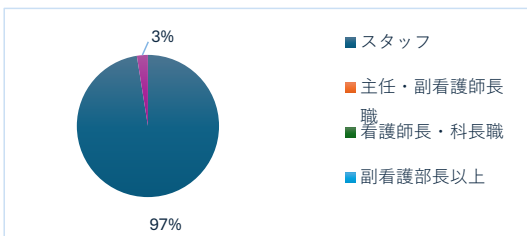
1) 職種 (n:40)



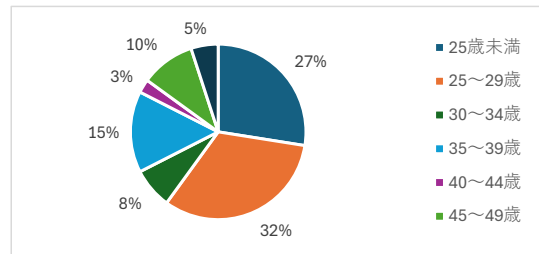
2) 経験年数 (n:40)



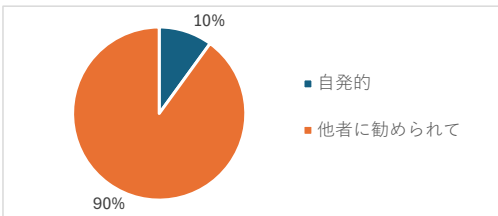
3) 職位 (n:40)



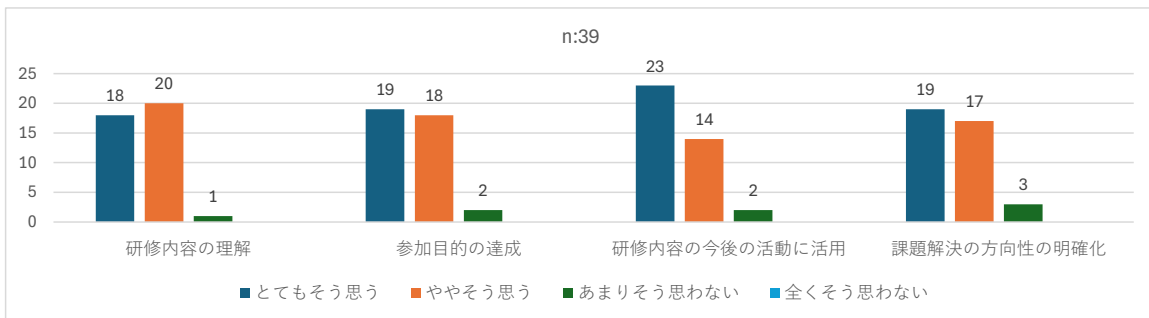
4) 年齢 (n:40)



5) 参加について (n:40)

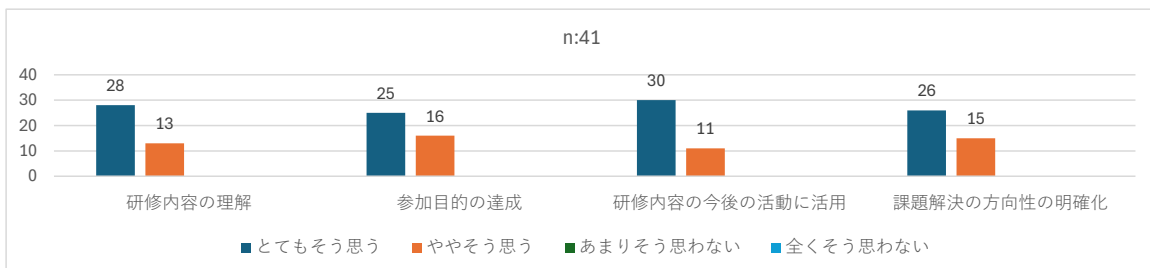


6)-①研修内容の評価(1日目)テーマ:新人看護職員臨床研修体制の理解



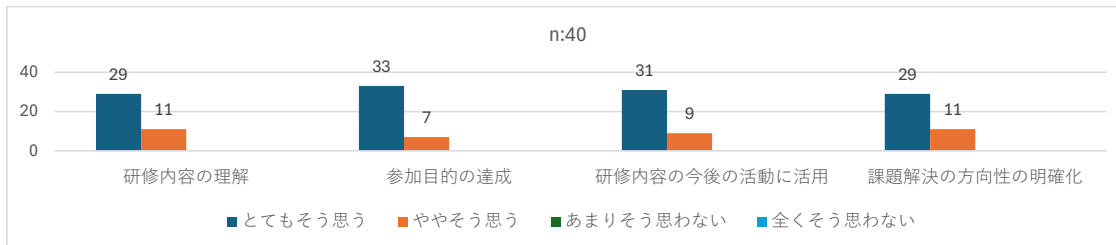
- ・ Zoom会議での研修参加 初めてでしたが、ネット環境の不具合 操作の仕方などにより 講義の遅延が目立ったと思う。有意義な講義でしたが、残念と思った。
- ・ 新人や中途採用の方との関わりへの参考になった。
- ・ 講師の先生が印象に残ったエピソードを話して下さったり、参加者の方の話を聞いて、大変勉強になった。

6)-②研修内容の評価(2日目)テーマ:学習に関する基礎知識



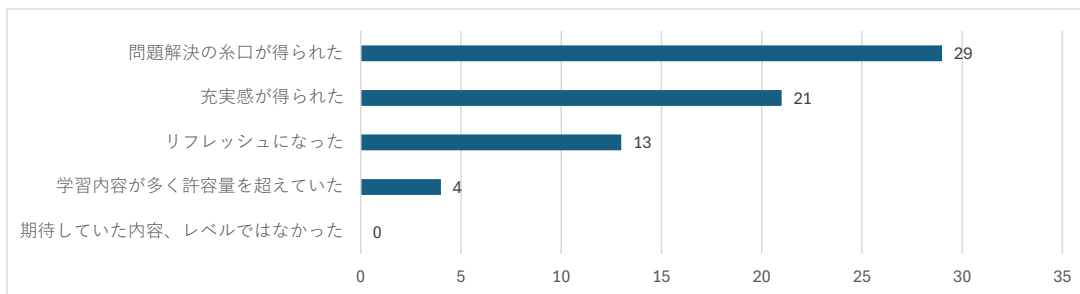
- ・自分の考え方が変化した研修であった。
- ・とても身になる研修だった。
- ・とても分かりやすかった。
- ・指導者としての視野が広がった 新人への教育をする際は、知識と技術を提供して土台作りをした上で、新人の理解度に合わせて指導していきたい。
- ・具体的でとても分かりやすく楽しい講義だった。ぜひ機会があれば、また講義を受講したい。
- ・指導について悩んでいた事が解決出来ると思う。

6)-③研修内容の評価(3日目)テーマ:部署における看護技術指導の実際



- ・他病院とも意見交換ができてよかった研修だった。
- ・新人看護師の傾向や前向きな関わり方などを学べて、指導の際の視野が広がった。
- ・とても分かりやすく勉強になった。
- ・実地指導者の役割が分かった。
- ・具体的にどう指導したらいいのわかりやすかった。指導時に活かしたいと思う。

7)研修を通しての感想(複数回答)



2.ご意見・感想(一部抜粋)

- ・3日目の研修が1番リラックスしながらできた。
- ・最後のグループワークが楽しかった。
- ・知識としては身になるものでありがたいが、院内に持ち帰ってもなかなか他のスタッフに徹底ができないのが残念です。

3.研修担当者コメント

今回の研修で、日頃新人を育てるうえで困難と感じていたことへの対応について、他者(他施設)との意見交換・情報共有をすることで新たな知識を得ることができた。また、ロールプレイを通じて、自身の役割を認識でき、具体的なコツなど効果的な支援の再考につながると思われる。

実地指導者一人で悩まず、教育担当者等に相談し、現場で新人看護職員とともに成長続けてくれることを期待したい。

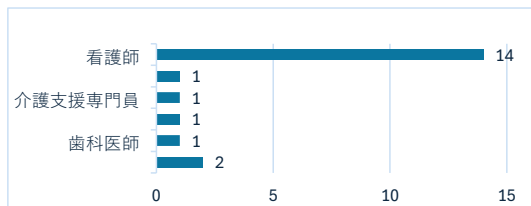
訪問看護師研修事業

研修名	2)令和6年度 施設一在宅を支援する看護師育成研修シンポジウム ～退院困難と思われた患者の在宅移行を支援して～	
開催日時	令和7年2月8日(土)13:30～16:00	
研修形態	集合・オンライン	定員 各50名
受講者数	37名 (会員:19名 非会員:18名)	集合:22名 オンライン:15名
ねらい	在宅への移行支援に必要な知識を得て、医療機関・施設から在宅への円滑な移行を支援できる在宅療養者と家族が抱える課題を明らかにして、在宅生活を継続するための支援について学ぶ	
座長	・高知県立大学看護学部特任教授 森下 安子	
シンポニスト(5名)	・高知高須病院 看護師長 筒井 夏子 ・高知高須病院 退院支援専従看護師 橋村 彩 ・高知高須病院 薬剤師主任 堀切 雅子 ・高知高須病院 社会福祉士 藤田 真依 ・高知中央居宅介護支援事業所 主任介護専門員 高知中央訪問看護ステーション 在宅看護専門看護師 安岡 しずか	
内容	退院困難と思われた人工呼吸器使用の人工透析患者の在宅移行に向けた支援の実際	

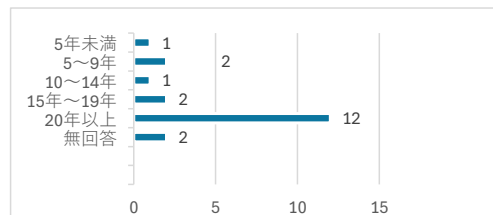
1.アンケート結果

アンケート回答数 20名 回収率 54%

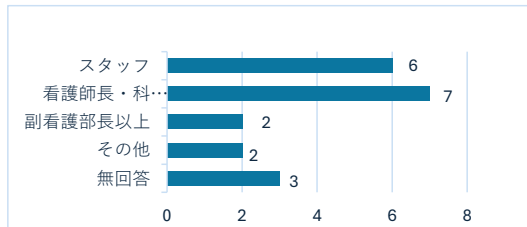
1) 職種



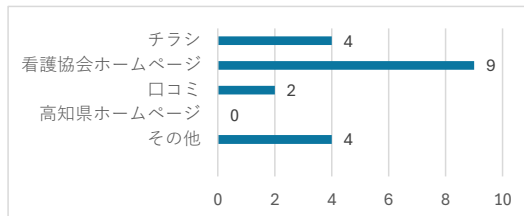
2) 経験年数



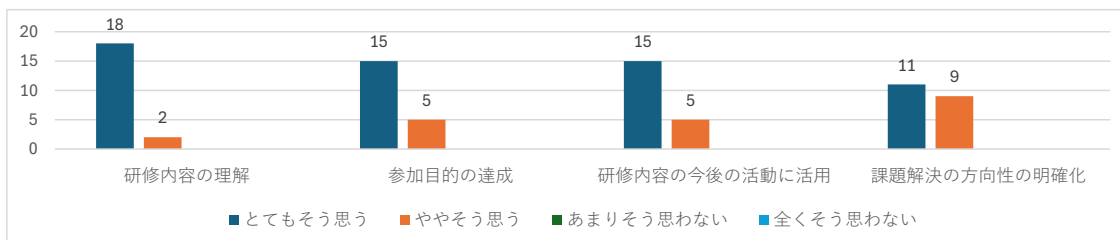
3) 職位



4) この研修を何で知りましたか(複数回答)



5) 研修内容の評価

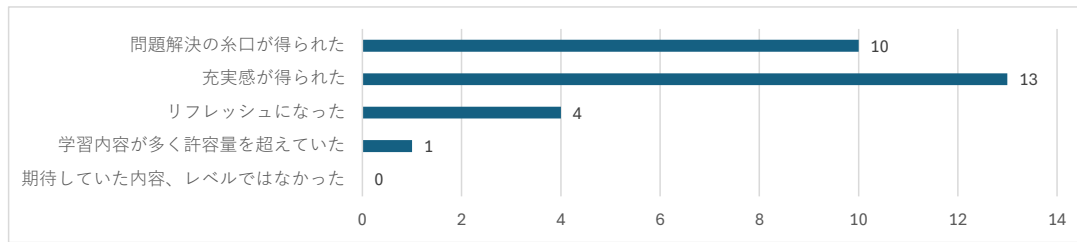


友人からの誘い

職場の医師に勧められた

高知県訪問看護総合支援センターからのお知らせ

6) 研修を通じた感想(複数回答)



2.意見・感想

- 高須病院さんと周囲の方がたくさん関わって実現したことが本当にすごいし、尽力したことがよくわかった。事例検討の場でもそうでしたが、困難事例こそ人手を増やして周囲の人を巻き込まなければ実現しないというのを感じた。
- 配布資料がないのは個人情報保護のためだと思いますが、安岡さんのスライドの一部など制度等に関する資料はメモをしている受講者も多かったので資料としてほしかった人はいたと思う。
- どこの病院も抱えている問題であった。様々な職種との連携や制度を知る事が重要である事を今更ながら再認識した。
- 高須病院さんが、患者さんの意思を尊重し、家族の思いも配慮しながら退院に向け取り組まれた事例は、まさに「チームで取り組む多職連携物語」でした。各々の置かれた立場で検討し、取り組まれた事が細かく紹介されてた。在宅移行支援では大変な思いをされ、またいい経験をされたのではないかと思います。前職では、病棟看護師として退院に関わっていたので、自分だったらどうしただろうと、想像をし自問自答しながらの研修だった。今回の研修からも「多職種連携、つなぐ」が大事であると痛感した。
- 会場は暖房が入っていたのでしょうか？寒波で物凄く寒くて足が凍りつきました。足元が冷えすぎて途中から話が入りませんでした。何でもそうですが環境は大事だと思います。関係者から寒さについてお詫びのお言葉はありましたが、シンポジストの方も発表するのに緊張もされてるであろう上にあの寒さでは質問にもうまく答えられないのではないのでしょうか。ONLINEではなく、実際の雰囲気も感じたくて集合を選びましたが残念でした。
- これまで、医療度が高い方の退院支援にも関わってきたが、訪問看護さんなどと連携するのは、退院が近づいてからになることが多く、退院間近になって慌てるケースがあった。今回の事例では、早期から訪問看護さんと連携を取り、助言をもらって退院支援を行ったところが新しい学びとなった。どんな状態の患者であっても、患者、家族の思いに寄り添っていくためには、医療従事者の連携はとても大切だと思う。躊躇せず、他事業所とも連携を取って少しでも、患者や家族の精神的、肉体的負担を軽減していきたいと思う。今回、参加させて頂き大変多くのことを学ぶことができた。今回の学びを今後に活かしていきたいと思う。
- 医療ニーズの高い方が在宅へ帰られるにあたり、本人や家族の思いを尊重しながら、病院内での連携や早期に在宅資源へ繋ぐなど丁寧に取り組まれている様子が伺えた。医療側も家族も不安が大きいと思うが、課題を丁寧に拾い出し、各関係者の役割を明確にするなど、一つ一つの課題をクリアし在宅生活へのイメージをつけながら行ったことが、家族や受け入れる関係者の安心にも繋がったのではと感じた。今回の退院支援での事例を参考に、自身の事業所でも丁寧に対応できるよう心がけていきたいと思う。
- ケアマネで参加させて頂いた。このような機会があって良かった。独居の人工呼吸器患者様の退院支援をさせて頂いた経験があり振り返りになった。
- とても勉強になった。他職種の支援があることで患者様が不安が軽減し住み慣れた自宅で過ごせる事はとても良いことだと思った。
- 今まで病院勤務のみだった自分自身だからこそできる、わかる、訪問看護、在宅復帰への繋げかた、関わり方の糸口が掴めたような気がする。貴重な発表を聞いて良かった。
- 大変有意義だった。大変勉強になった。凄くよかった。(3名)

3.研修担当者コメント

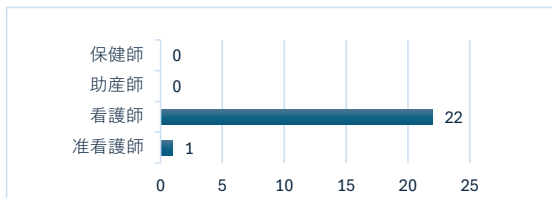
今回、退院困難と思われた人工呼吸器使用の人工透析患者の在宅移行に向けた支援の実際について、多職種を含めてシンポジウムを開催した。今年度で2回目となるシンポジウムは、多職種(看護職・医師・薬剤師・社会福祉士、理学療法士、介護支援専門員)が参加し、シンポジストの方々も参加者との意見交換ができた。ただ、研修当日は、寒波の影響で会場内の温度調整が難しく、来場参加者の方々に不快な思いをさせた。今後は、研修案内等に会場時の注意等の案内をに対応していきたい。また、このシンポジウムは、令和6年度の施設一在宅を支援する看護師育成研修事業に含まれているが、参加条件には含まれていないため育成研修受講者の参加がほとんどできていなかった。次年度は、このシンポジウム参加を必須として募集を図りたい。

訪問看護師研修事業

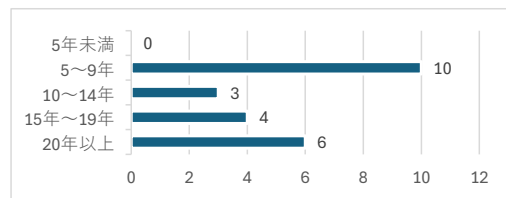
研修名	1) 令和6年度 施設－在宅を支援する看護師育成研修(退院調整看護師育成研修)	
開催日時	令和6年7月25日(木)・7月31日(水)・8月28日(水) 9:30～16:30 実習3日間 期間9月～11月	定員:24名
受講者数	令和6年7月25日(木) 受講者数 28名(令和5年度補講者1名含む) 集合 21名 オンライン 7名	
	7月31日(水) 受講者数 27名 集合20名 オンライン7名	
	8月28日(水) 受講者数 26名(欠席1名) 集合26名	
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実務経験年数が5年以上の看護職 ※看護実践能力の習熟段階レベルⅢ～Ⅳ(高知県看護協会レベル) ・施設・医療機関に勤務する退院調整看護師、または退院調整に携わっている看護職 	
ねらい	退院支援および施設－在宅の連携について学び、看護師の役割を明らかにできる。 施設内の退院支援システムの課題を明らかにできる。 在宅療養者と家族が抱える課題を明らかにして、在宅生活を継続するための支援について学ぶ	
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・社会医療法人近森会 訪問看護ステーションちかもり 所長 在宅看護専門看護師 山本 詩帆 ・高知県立大学看護学部中山間地域等訪問看護師育成講座 特任助教 在宅看護専門看護師 井上 加奈子 ・日本赤十字社高知赤十字病院地域連携課 在宅看護専門看護師 山本 恵理 	
内容	講義 <ul style="list-style-type: none"> ・施設－在宅の移行を支援する看護師の役割と機能 ・施設－在宅の移行期における療養者と家族への支援(実践) ・退院調整の実際 病院・施設内の組織化と在宅への移行期にある事例のケア検討 	講義・演習
	訪問看護ステーション・訪問診療・施設等での実習 <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問で在宅療養の実際を体験し、在宅移行支援に向けて医療機関看護師の役割を考える 	実習

1.アンケート結果

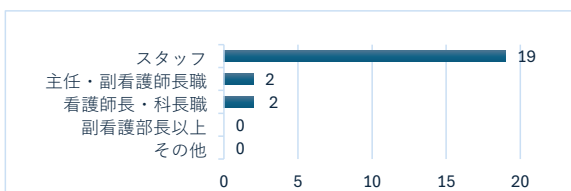
1)職種 (n:23)



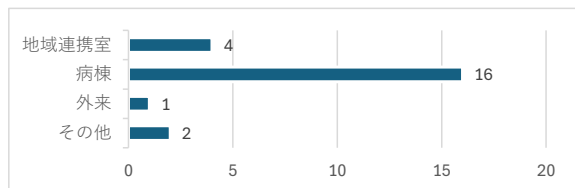
2)経験年数(n:23)



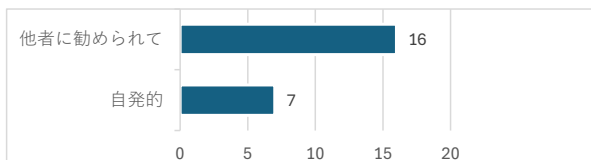
3)職位(n:23)



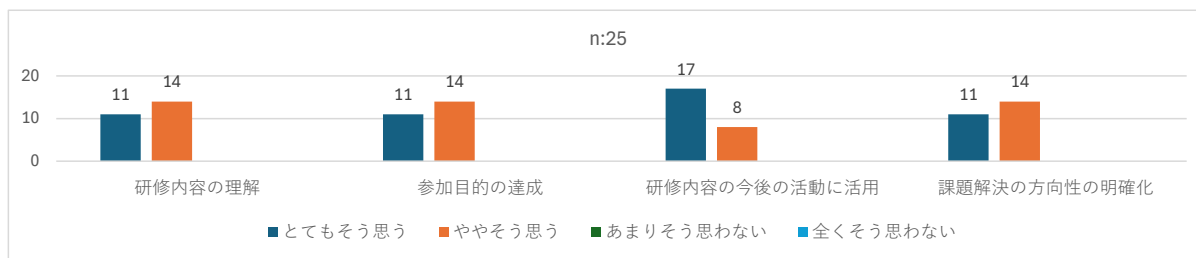
4)勤務場所(n:23)



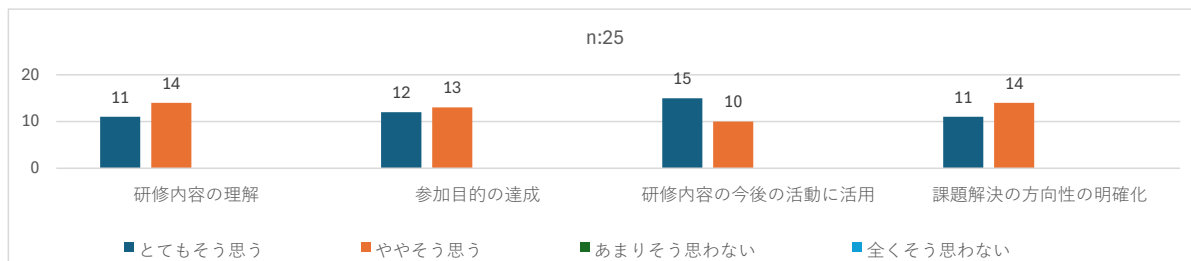
5)参加について (n:23)



6)-①研修内容の評価(1日目午前)施設-在宅を支援する看護師の役割と機能

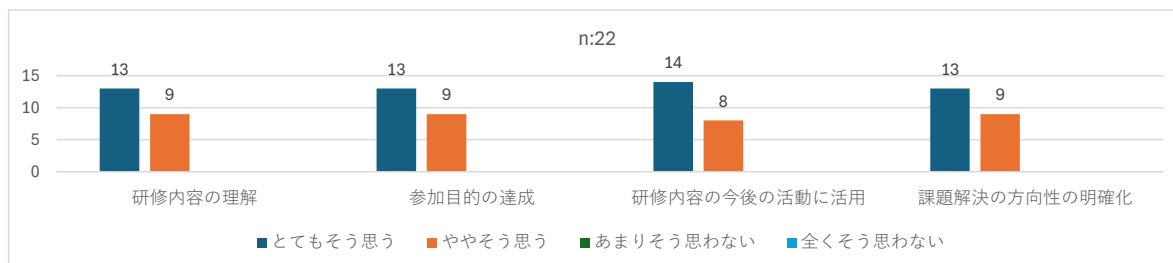


6)-②研修内容の評価(1日目午後)施設-在宅における療養者と家族への支援(実践)



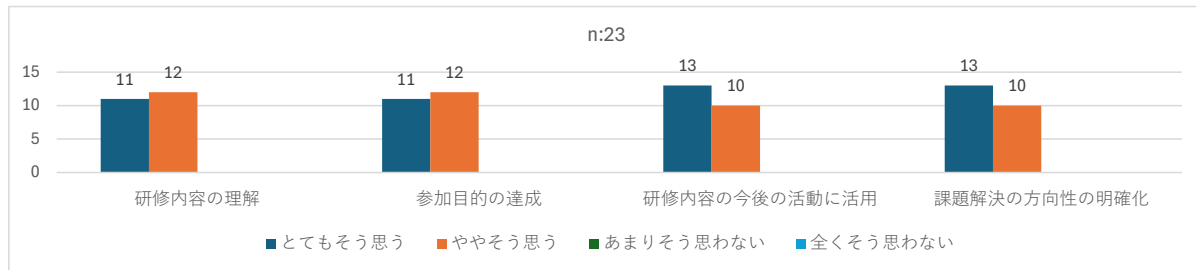
- ・ わかりやすく説明してもらい理解できた。
- ・ 訪問看護の仕組みを改めて学ぶことができた。
- ・ 在宅は奥が深いと思った。しかし、諦めなければ、多職種と協働することで、可能性が広がると感じる。
- ・ この4月から地域連携室勤務で、とにかく先輩の指示で毎日必死でやっていた事が制度のことも含めて理解できた。
- ・ とてもわかりやすく講義して下さったので、これからの業務に活かしていこうと思う。
- ・ 自分が意識していない、地域での看護のことも事細かに説明して下さりとてもイメージが湧きやすかった。急性期病棟なので、入院時からできる退院支援で何があるのかと迷うこともあるが、今後の研修やグループディスカッション通して学んでいけたらと思う。
- ・ 今後の退院支援の際に、今回の学びを繋げていきたい。

6)-③研修内容の評価(2日目)退院調整の実際 病院・施設内の組織化



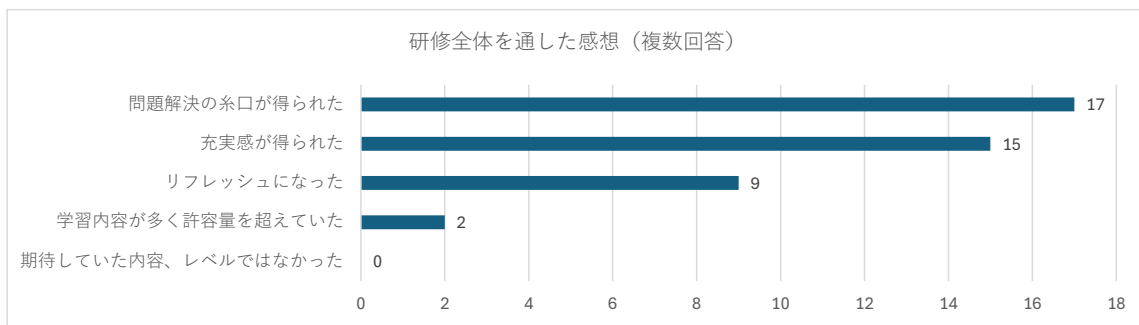
- ・ 外来看護師として退院時今後どういう動きをしていくか方向付けできたように思う。
- ・ 具体的にどのように実践していくかを考えることができた。
- ・ グループワークで各部署での課題について意見交換する事で、自部署の課題も再確認できた。病棟での仲間作りから多職種と協働できるように微力ながら活動していきたいと思う。
- ・ 他の病院スタッフと話しができて、様々な気づきがあってよかった。
- ・ 現場に落とし込みそうな内容もたくさんあり、勉強になった。現場で活用できるようにしていきたいと思う。
- ・ とても勉強になった。

6)-④研修内容の評価(3日目)在宅への移行期にある事例のケア検討 ～複雑な課題を持っている事例の検討～



- ・ グループワークの時に、もう少し巡回して頂けたら、つまづいている時にその場で質問でき、解決しやすいと思った。

7) 研修を通した感想(複数回答)



2.意見・感想

- ・ 受け持ち患者さんの退院支援をしたいことが研修参加の動機だった。自分が想像していた以上に広い範囲の知識を得られ、あらゆる分野の他施設の方と様々な事例を共有でき貴重な時間であった。
- ・ 3日間の研修により自分の職場で何をすべきか薄っすら見えてきたように思う。
- ・ 他の病院の方と意見交換や話が出来て楽しく研修受講ができた。

3.研修担当者コメント

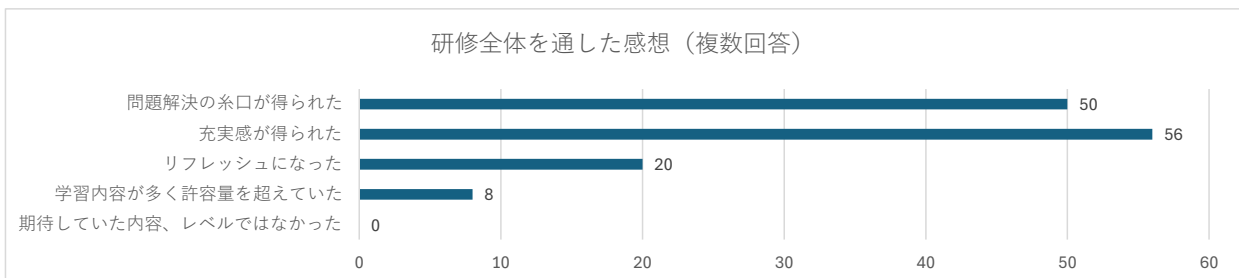
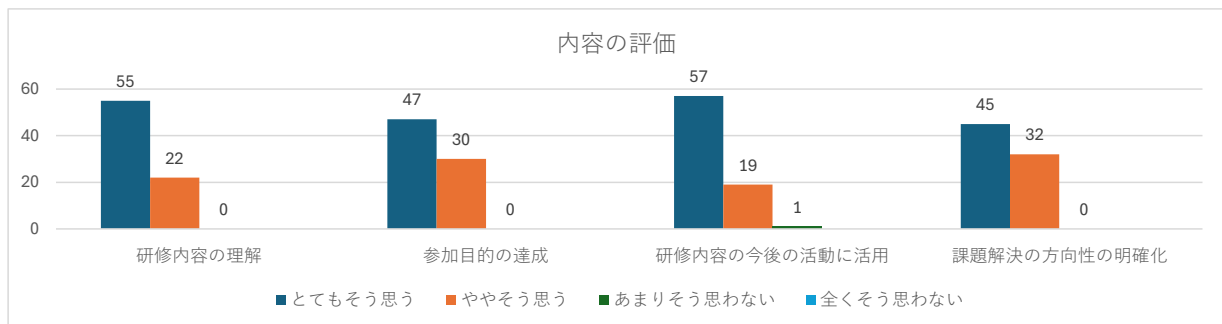
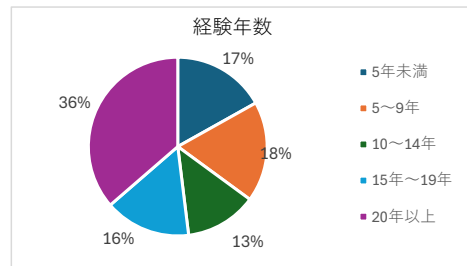
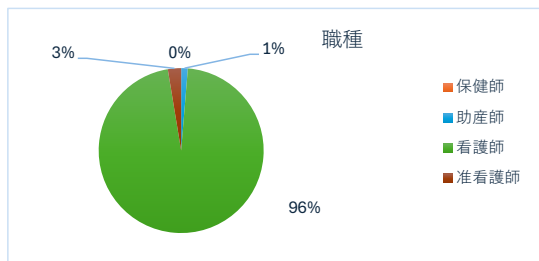
昨年と同様に本年度も受講者が27名と募集定員を上回った。今年度より、対象者を経験年数5年以上、看護実践能力習熟段階をⅢ以上と明記し募集した。その結果、研修目的に合った受講者が確保され、前向きで活発な意見交換ができていた。この研修は、講義・演習の他に在宅療養の現場を知る必要を考慮して、同行訪問・見学実習を取り入れ研修を開催している。実習記録には、「本人の希望や家族の意向を早めに確認するの必要を学んだ」「サマリーを記載する時にADL・IADLが必要であると思った」等の実習の学びが記載されていた。指導者のコメントとして、本人のニーズに合い家族の負担の軽減に繋がる安心した在宅生活を支援することや本人・家族との信頼関係を築くことが大切であること、少し視野を広げて看ることの勧め等が記載されていた。以上のことから同行訪問・見学実習は、受講者の貴重な経験となっていると思われる。

3 看護職員認知症対応力向上研修

研修名	令和6年度看護職員認知症対応力向上研修	
開催日時	令和6年9月8日(日)～10日(火)	時間:9:30～16:30
研修形態	集合研修	
受講者数	79名 (会員:54名 非会員:25名)	定員 60名
対象	指導的役割の看護職員(3日間連続で研修を受講できる者)	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の入院から退院までのプロセスに沿って、認知症の原因疾患の病態・特徴等の基礎知識を習得する ・認知症の人を理解し、より実践的な対応力(アセスメント、看護技術、チーム対応、院内外の連携等)を習得する ・病棟等における認知症ケア体制(院内・地域)の構築およびスタッフ育成・教育等の知識と技法を習得する 	
講師	渡川病院 院長 吉本 啓一郎 JA高知病院 認知症看護認定看護師 松高 ゆり 近森病院 認知症看護認定看護師 小松 有希 芸西病院 看護部長 老人看護専門看護師 田村 文佳 国立病院機構高知病院 認知症看護認定看護師 土居 可純(演習支援者) 近森病院 老人看護専門看護師 明神 拓也(演習支援者)	

1. アンケート結果

参加人数:79名 回答数:77名 回収率:97% n:77



2.ご意見・ご感想(一部抜粋)

- ・ 認知症を罹患している方が今後多くなるという現状であり、私たちにできる事は何なのか、また家族や身近で困った時は協力していきたいと思った。
- ・ 少し難しい所があり、完璧に理解したとは言えないが、今までは気にしてなかったこと・深く考えていなかったことで、そう言うことだったのかなと思うことがあったので、今後仕事の中でも気づいていけるようにしていきたいと思った。グループワークを通して他の病院の人の考え方や自分が今まで経験してこなかった科について知ることができてよかった。
- ・ 患者さんの安全のため…と言いながら自分の仕事量が増えないように身体拘束をしていたんじゃないかと思う時もあった。せん妄やBPSD出現前のサインに気づき早めに対処をする事で患者さまの不利益にならないようにしていきたいと思った。
- ・ 認知症看護について、具体的に学ぶことができた。自施設で伝達講習をしていき、看護の質の向上につとめようと思う。
- ・ 日頃自分の中で分かったつもりになってケアにあたっていたところがあったと、反省した点が沢山あり、色んなことに気付かされる研修となった。
- ・ 臨床で活かすつも、また忘れてしまいそうな時やアップデートが必要かと思う。これからも参加させて頂きたいと思った。
- ・ 今後の認知症患者への関わり方を考えさせられるような講義だった。
- ・ あらためて認知症の基礎、対応力について学ぶことができ、今後の看護に活かしたいと思う。
- ・ 現場の忙しさを理由にできていなかったことも振り返り、反省しながら、業務に取り組んでいきたい。
- ・ とても有意義な研修になった。
- ・ 実際現場で、実際にしている看護等を振り返ることが出来今回の研修をいかしていきたい。
- ・ 今までの看護が自分たちのためになっていた部分もあったので今後は患者さんや家族にも寄り添った看護ができるよう努力したいと思える研修になった。
- ・ 今回研修がとても楽しく、企画準備していただきありがとうございます。吉本先生の講義も医師目線で面白かった。田村先生の講義もとても聞きやすく親しみやすい内容で、勉強不足でやや難しいところもあったが、グループワークは面白くおかげさまで非常に充実した時間を過ごせた。また研修あればチェックしたいと思う。
- ・ 今日自分が立てた研修企画を実施したいと思う。
- ・ 認知症の患者さんの対応に、個性や生活歴、その人の経験などを入院時の情報収集にいれて、コミュニケーションに生かしていけるのではないかと思った。
- ・ 疲れたけど、楽しかったです。もっと認知症看護を極めたい！
- ・ 自己決定を尊重する看護を実践していきたい。
- ・ 患者さんを決めつけから入らない。カンファレンスを通じて認知症患者さんについて話し合う機会をつくれればと思った。
- ・ 認知症やせん妄について理解することができ、どのように対応していけばいいのか知ることができた。日々の業務に活かしていきたい。
- ・ 認知症ケアについて学びを深めることができた。
- ・ 今後の病棟での、看護介護は勿論ですが、研修の立て方の助言を頂き感謝している。
- ・ 他病院の現状を知れて良かった。
- ・ 今回の研修を通して当院でも勉強会を行い、情報を共有していきたい。
- ・ すごく勉強になった。日程表にプログラムなどが欲しかった。

3.研修担当者コメント

高齢化社会の中、認知症患者との関わりは常に身近な問題で、参加者の興味や関心が非常に深く、自分達の経験を振り返りながら講義を聴くことができていたと感じた。演習では、積極的に意見交換や、他施設の方との情報共有を行うことができ、今後取り組むべき課題が明確にされていた。今回学んだことを、日々の認知症看護に活かし、スタッフへの育成・教育に携わっていくことで認知症看護の質の向上につながる事を期待したい。

4. 令和6年度高知県医療的ケア児等支援者養成研修及び医療的ケア児等コーディネーター養成研修事業

研修名	1) 医療的ケア児等支援者養成研修及び医療的ケア児等コーディネーター養成研修	
開催日時	令和6年12月 3日(火) 4日(水) 支援者・コーディネーター合同	定員 100名
	令和7年 1月16日(木)17日(金) コーディネーター研修のみ	定員 30名
研修形態	令和6年12月 3日(火) 4日(水) 支援者・コーディネーター合同	オンライン
	令和7年 1月16日(木)17日(金) コーディネーター研修のみ	集合
参加人数	令和6年12月 3日(火) 4日(水) 支援者・コーディネーター合同	40名
	令和7年 1月16日(木)17日(金) コーディネーター研修のみ	10名
ねらい	<p>医療的ケア児等支援者養成研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児等の発達や疾患等の特徴を理解し、対象者のライフステージに応じて必要な支援について学ぶ 保健、医療、福祉、その他の関係機関との連携について理解する <p>医療的ケア児等コーディネーター養成研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児等の発達や疾患等の特徴を理解し、対象者のライフステージに応じて必要な支援について学ぶ 保健、医療、福祉、その他の関係機関との連携について理解する 事例を基に、ニーズの把握、当事者の意向に沿った計画作成と関係機関との調整ができる 	
講師	プログラム参照	
内容	<p>合同研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療的ケア児の支援に必要な基本的知識 2) 支援体制の枠組み・整備と連携 3) 本人・家族の思いと本人・家族をとりまく環境 4) ライフステージにおける支援 <p>コーディネーター研修</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 支援計画作成の実際 	

1. プログラム

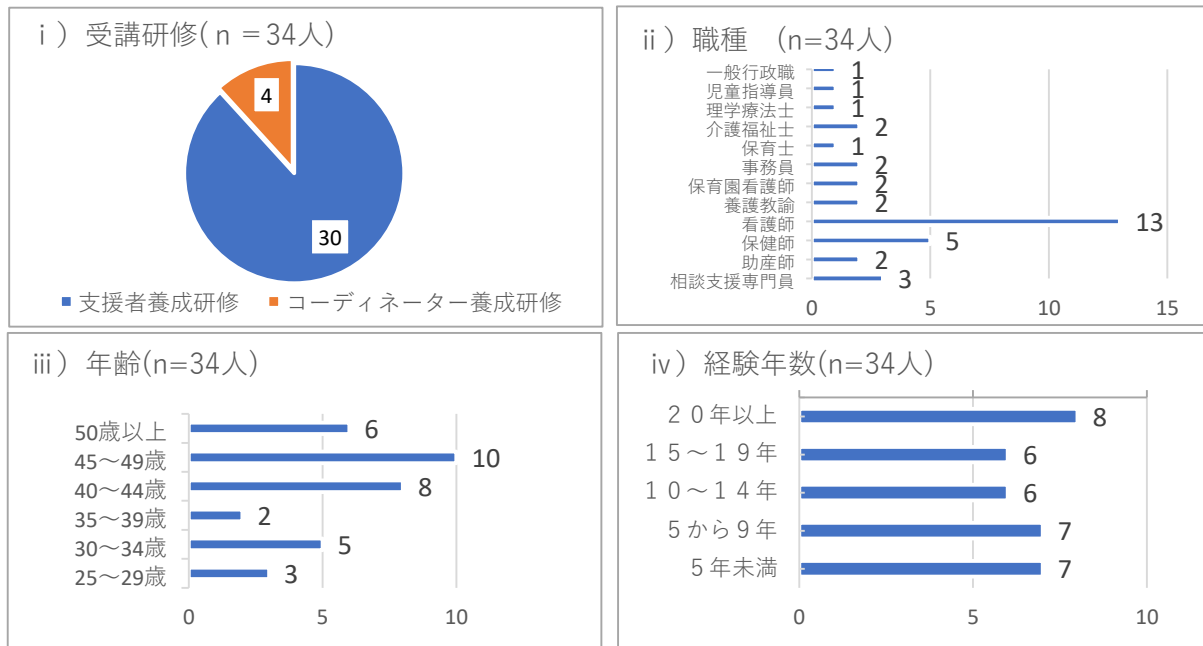
研修名	日程	研修内容	講師等	日程	研修内容	講師等		
医療的ケア児支援者養成研修	8:00~8:30	受付		2 月 4 日 (水)	8:00~8:30	受付		
	8:30~8:35	オリエンテーション			8:30~10:00	1.5時間	●総論 医療的ケア児等の地域生活を支える医療的ケア児等のコーディネーターに求められる資質と役割 ●支援に必要な概念	高知県立大学看護学部 小児看護学 助教 田之頭 恵里 氏
	8:35~9:00	あいさつ 高知県の医療的ケア児の現状と取り組み 母子保健について	高知県子ども・福祉政策部 障害福祉課		10:00~10:10	休憩(10分)		
	9:00~11:00	2時間	●医療1 障害のあるこどもの成長と発達の特徴 疾患の特徴、生理、救急時の対応		10:10~11:10	1時間	●福祉 虐待について	中央児童相談所 初期対応部長 北村 綾子 氏
	11:00~11:15	休憩(15分)			11:10~11:20	休憩(10分)		
	11:15~12:15	1時間	●本人・家族の思いの理解 1 本人・家族の思い、意思決定支援 ニーズアセスメント		11:20~12:20	1時間	●本人・家族の思いの理解 2 本人・家族の思い、意思決定支援 ニーズアセスメント	大杉保育所 所長 鎌倉 真紀 氏 地域相談支援センターしゃくなげ 田岡 香織 氏
	12:15~13:15	昼食休憩(1時間)			12:20~13:10	昼食(50分)		
	13:15~14:45	1.5時間	●医療的ケアに必要な高い子ども等の特徴及び支援 在宅移行支援 ●ライフステージにおける支援 各ライフステージにおける相談支援に必要な視点		13:10~15:10	2時間	●福祉 支援の基本的枠組み福祉の制度 遊び・保育、家族支援	高知県立大学社会福祉学部 教授 西内 章 氏
	14:45~14:55	休憩(10分)			15:10~15:20	休憩(10分)		
	14:55~16:55	2時間	●連携 小児在宅医療における多職種連携 連携・協働の必要性		15:20~15:50	30分	●労働(就労)1	CIL(自立生活センター)道のり コンサルタント 小嶋 友乃 氏
	16:55~17:05	休憩(10分)			15:50~17:30	1時間40分 (休憩10分含む)	●支援体制整備 支援チーム作りと支援体制整備 支援体制整備 医療・保健・福祉・教育・労働の連携 地域の資源開拓、創出方法 (資源把握、市町村・都道府県との連携)	相談支援事業所 ほしつなぎ 相談支援専門員 永吉 納美 氏
	17:05~18:05	1時間	●医療2 訪問看護のしくみ		17:30~18:30	●労働(就労)2		高知障害者職業センター 所長 井上 暲 氏
	8:30~9:00	受付			18:30~18:40	医療的ケア児等支援者養成研修 閉講式		
	3 日 目 令和 7年 1 月 16 日 (木)	9:00~12:30	●演習 計画作成		講師 福岡県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター兼 トータルアドバイザー 横田 信也氏 土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 林 恵 氏	4 日 目 令和 7年 1 月 17 日 (金)	8:30~8:45	受付
12:30~13:30		昼休み		8:45~12:15	●演習 事例検討		講師 福岡県医療的ケア児支援センター 医療的ケア児等コーディネーター兼 トータルアドバイザー 横田 信也氏 土佐希望の家医療福祉センター 相談支援専門員 林 恵 氏	
13:30~17:00		●演習 計画作成	講師・ファシリテーター 相談支援事業所 ほしつなぎ 相談支援専門員 永吉 納美 氏 他 調整中	12:15~13:15	昼休み			
				13:15~16:45	●演習 事例検討		講師・ファシリテーター 相談支援事業所 ほしつなぎ 相談支援専門員 永吉 納美 氏 高知市子ども未来部子ども育成課 和田 有利子 氏	
				16:45~17:00	修了式			

3. アンケート結果

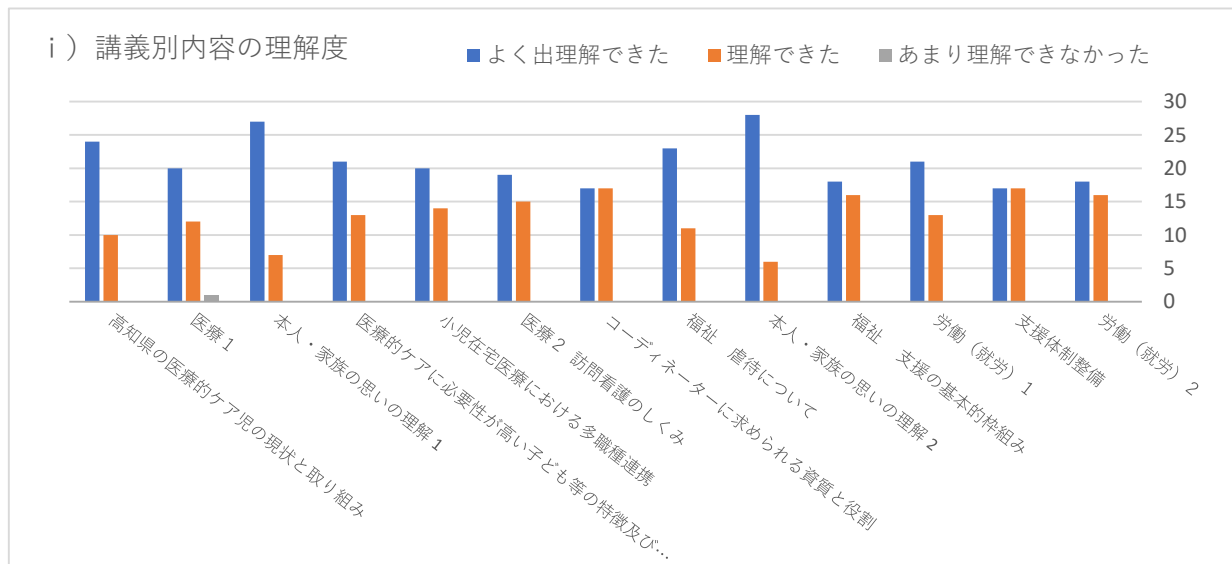
(1) 医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成合同研修

アンケート回答数 34名 回答率 85.0%

① 属性

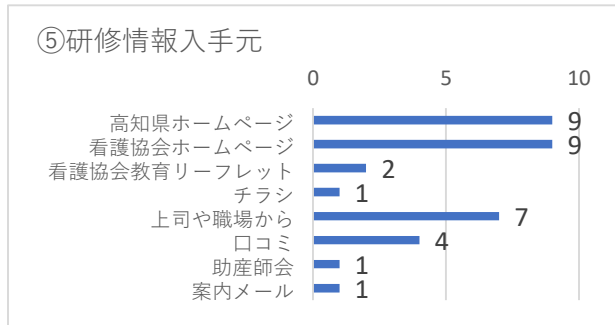
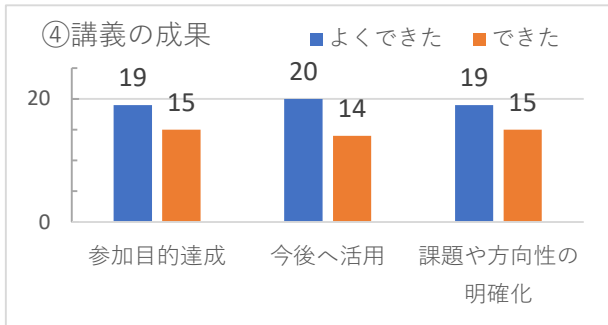


② 研修内容について



③ 参加目的(記述式)

- ・ 医療的ケア児に日々関わるためより理解を深めるため(10件)
- ・ 現場の実践で医療的ケア児やその家族の支援に活かすため(10件)
- ・ 在宅医療を必要とする児を支援する体制やコーディネーターの役割を学びたかった(3件)
- ・ 今後医療的ケア児に携わる可能性があるため(10件)
- ・ 地域で、母子に関わる時に、役立てるため
- ・ 今後の地域の体制も検討が必要であると感じているため
- ・ 医療的ケア児の訪問看護に興味があり、勉強したいと思った
- ・ 相談支援、コーディネーター業務に関わりたいと考えている(2件)
- ・ 養護教諭としていつか支援する立場になるのではないかと感じたため

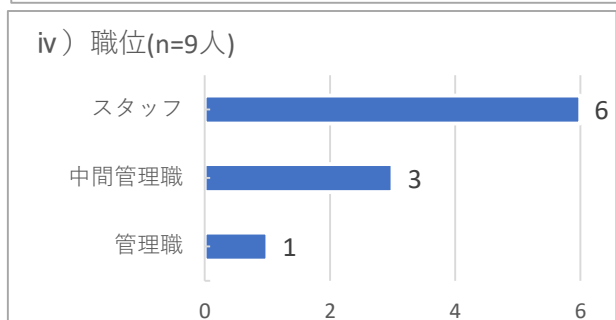
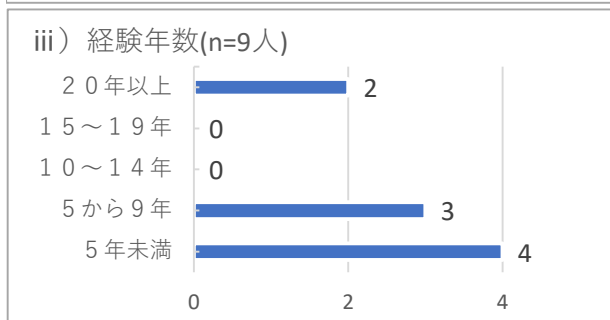
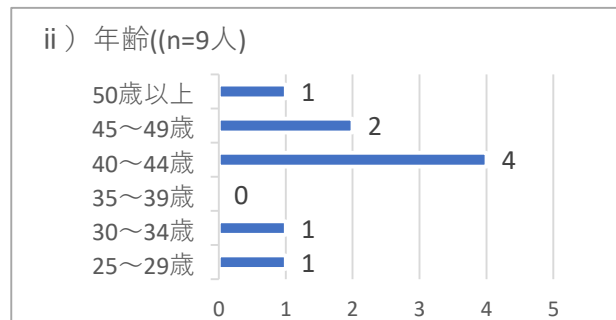
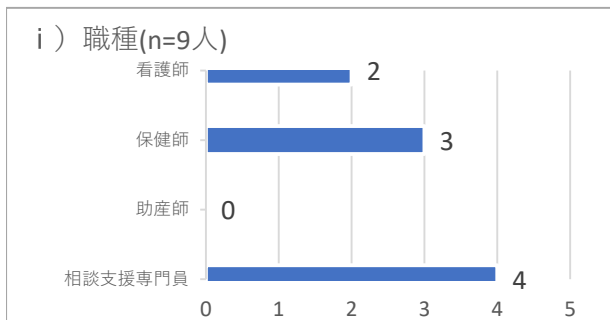


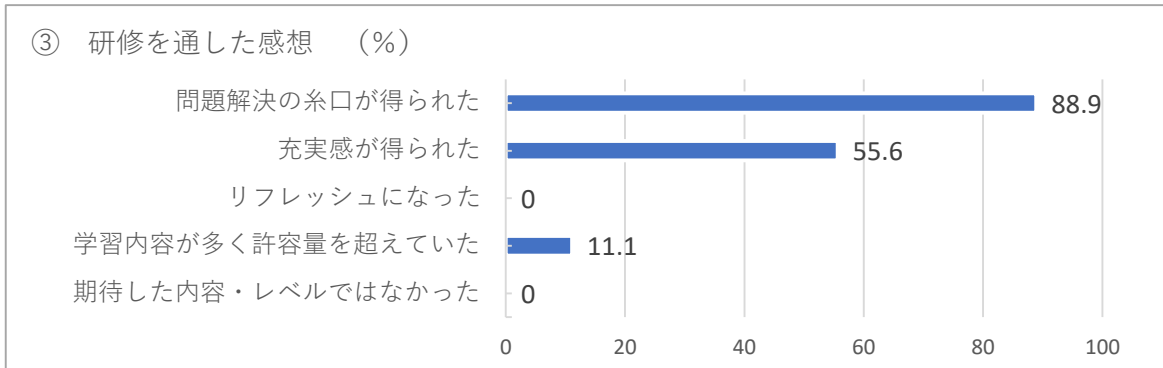
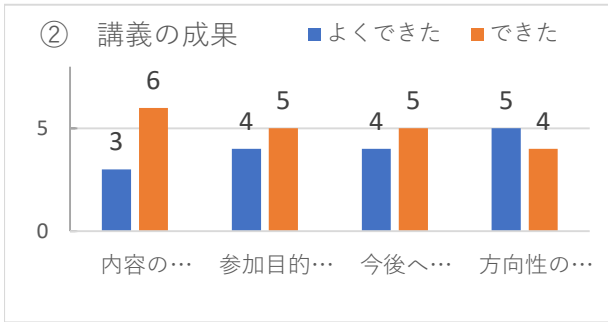
⑥ 全体の研修の感想及び今後への意見

- ・様々な職種の講師の先生方に貴重なお話をお聞かせいただき、大変勉強になった(9件)
- ・自分も研鑽を積んでいきたいと思った
- ・医療的ケア児以外に、家族看護全般についても講義を入れて頂けたらと思った
- ・実際の取り組みや事例や当事者の声をご紹介いただき、イメージが湧きやすかった(5件)
- ・病気の機序や症状だけでなく、支援する側としてのスタンスも教えて頂けて良かった
- ・小児の医ケアを担える資源を増やす、人脈関係作りなどの必要性を感じた
- ・チームで共有しながら、よりよい支援体制ができるように尽力していきたいと思う
- ・出産後から相談にいらっしゃるまでのお子さんの経過がイメージできた
- ・日々の仕事に活かしていきたいと思う (3件)
- ・チーム支援や虐待対応など現業務と重なる部分もあり大変勉強になった
- ・コーディネーター研修には参加できない規定ですが参加できればありがたい(2件)
- ・支援者研修とコーディネーター研修を分けてほしい
- ・今後の研修では、国の医療的ケア児支援に関する保険点数等なども学べればと思う

(2)医療的ケア児等コーディネーター養成研修 アンケート 回答数 9名 回答率 100%

①属性





④ 全体の研修の感想及び今後への意見

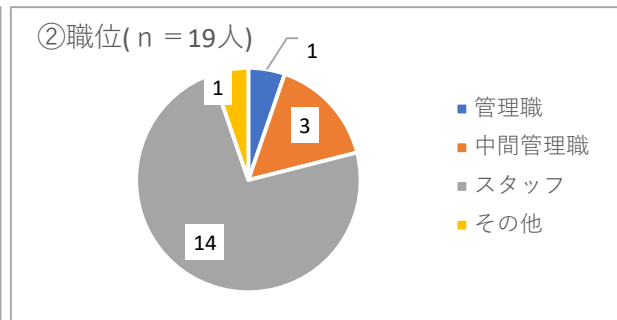
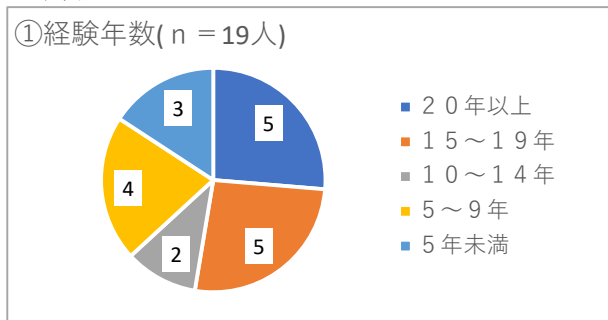
- ・ 医ケアのおおさんは担当した事がないですが、どういう視点で捉え関わっていけばいいのか勉強になった
- ・ 日々の業務にも共通して考えていくことも多く、大変勉強になりました
- ・ 演習が楽しかった。具体的な事例を検討検討でき、ケースのそれぞれのライフステージでの支援についてイメージすることができた

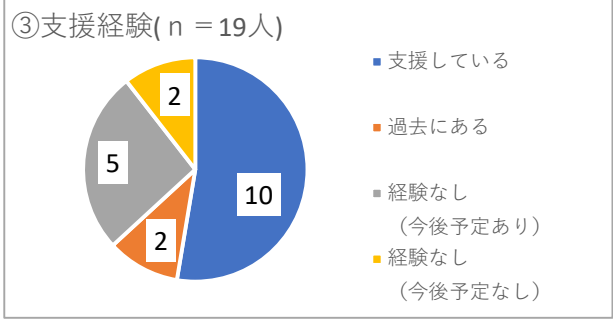
研修名	2) 医療的ケア児等のための看護技術研修		
開催日時	第1回 令和6年 9月22日(日)	各回 定員 12名	参加人数 11名
	第2回 令和6年11月24日(日)		参加人数 12名
研修形態	集合 実技演習		
ねらい	医療的ケア児と家族の支援に必要な看護技術について学ぶ		
講師	あおぞら診療所 高知潮江 高知県立大学看護学部 こうち看護協会訪問看護ステーション 高知中央訪問看護ステーション	所長 松本 務 氏 助教 田之頭 恵里 氏 島内 さざり 氏 長野 良江 氏	
内容	講義・実技演習 医療的ケア(吸引、気管カニューレ管理、経管栄養法管理)について		

1. アンケート結果

※アンケートはGoogleフォームで実施 重複回答含むアンケート 回答数 19 名 回答率 82.6%

1) 属性



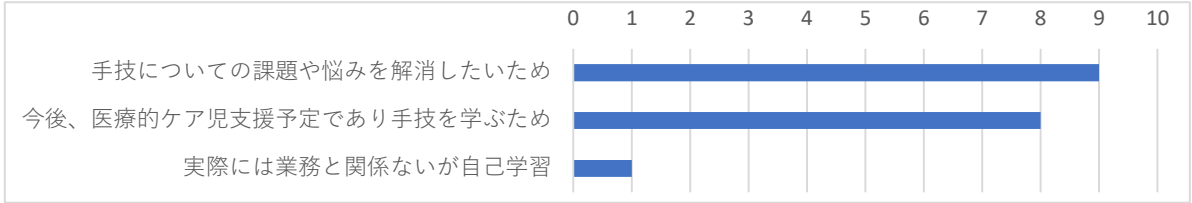


2) 研修内容について

i) 研修が職務に活かせる内容であったと回答された理由

- ・ 小児領域の経験が浅いため
- ・ 今後も医療的ケア児が増え、地域でも対応が必要な方が増えてくるから
- ・ 事業所に研修内容の医療的ケア児が利用されてるから
- ・ 実際の実技をみせてもらい、体験させてもらい、保護者の大変さを知ることができたから
- ・ 実際の実技演習があったのでわかりやすい(4件)
- ・ 個別例を踏まえた内容があり、わかりやすかった
- ・ とても実践的で、日頃の疑問にも対応して頂けた(3件)
- ・ 他の受講生等から実践されている方の話も聞けたため(3件)
- ・ 災害時に電気なしで吸引する方法や気切カニューレ等が抜けてしまったときの対応が学べた

ii) 本研修を受講された主な目的(n=27人)



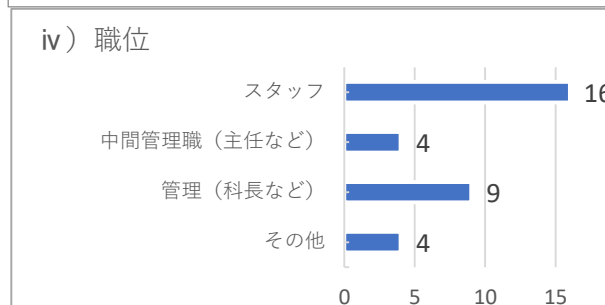
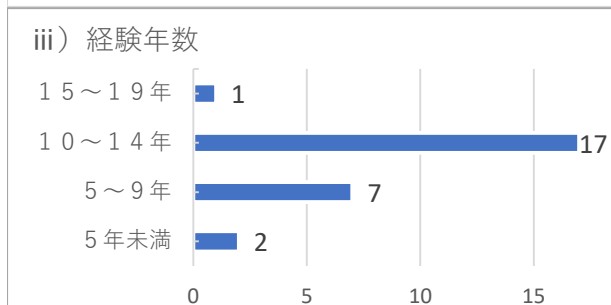
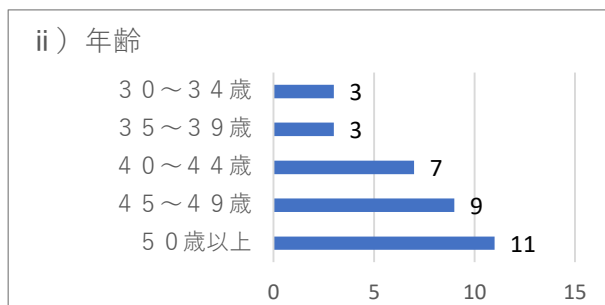
3)研修全般(事前学習動画、教材含む)についての感想、ご意見

- ・ 事前学習動画はとても勉強になる内容だった (3件)
- ・ 今後も振り返りとして動画を見て学びたい
- ・ 少人数のグループで一人ひとり実際に手技が体験でき良かった(2件)
- ・ 講師の方にすぐに直接に質問もできて学びが深まった
- ・ 他の事業所や別の立場の方からも話が聞けたので良かった (2件)
- ・ 実際に体験することで、普段気が付かない視点にも気がつくことができた
- ・ 自分の手技の確認、緊急時対応の仕方、細かな手技内容を知ることができた
- ・ 医療事故につながる事例等、留意事例があれば紹介してほしい
- ・ 小児の皮膚トラブル対策・ストーマ管理、難病・先天性疾患児の看護などを学びたい

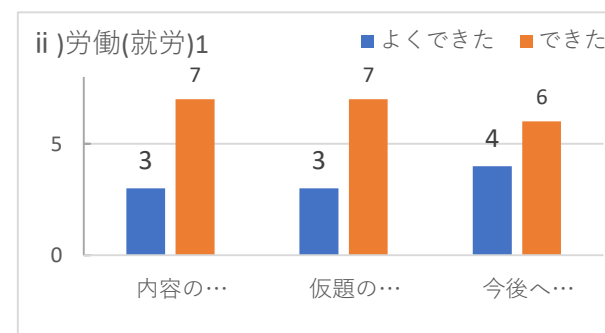
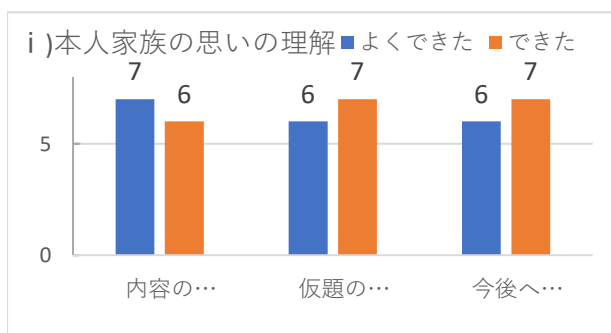
研修名	3) 令和6年度 高知県医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修	
開催日時	令和7年3月3日(月)～3月17日(月)	参加人数 19名(会員 2名 非会員 17名)
研修形態	研修映像視聴	
ねらい	医療的ケア児等支援者及び医療的ケア児等コーディネーターのスキルアップを図る	
内容・講師	①本人・家族の思いの理解2 本人・家族の思い、意思決定支援、ニーズアセスメント 大杉保育所 所長 鎌倉 真紀 氏 地域相談支援センターしゃくなげ 田岡 香織 氏 ②労働(就労)1 CIL(自立生活センター)道のり コンサルタント小嶋 友乃 氏 ③労働(就労)2高知障害者職業センター 所長 井上 量 氏	

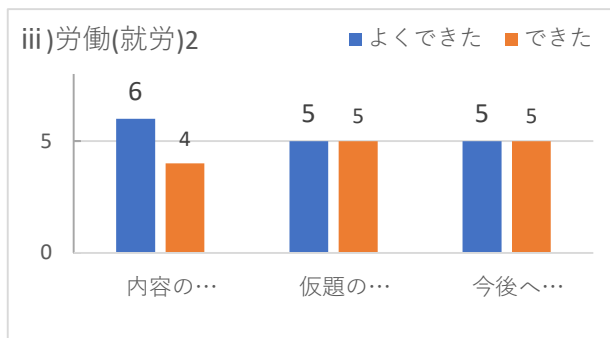
(2)医療的ケア児等コーディネーター養成研修 アンケート 回答数 9名 回答率 100%

①属性



②講義の成果





③研修の感想

i) 本人家族の思いの理解

- ・福祉や医療等の資源が限られている地域で医ケア児の支援構築は大変だと感じました。
- ・地域の繋がりや多職種連携が大きな鍵になると思います。
- ・人材確保や人材育成について組織的な取り組みが必要であると感じました。(3名)
- ・本人や家族に沿った支援の必要性と難しさを改めて考えさせられました。(2名)
- ・実地関係者だけでなく、それを支援して下さる方々のサポートに支えられていると感じた。
- ・連携には、定期的な支援会の開催と関係者全員が合意が大切だと痛感した。
- ・実際にどのような経過があったのかを知ることができて良かった。

ii) 労働(就労)1

- ・障害の重症度に関わらず、様々なフォーマル・インフォーマルなサービス選択の必要性を再認識しました。
- ・ご本人、支援者の方々の頑張りが素晴らしいです。
- ・障害があってもその人がその人らしく自分が選ぶ地域で生活・就労できることが、地域共生社会に繋がっていくと思います。
- ・自身が選ぶ生活就労支援も含めてコーディネーターの役割を改めて考えさせられました。

ii) 労働(就労)2

- ・就労に向けた様々な助成があることを知り、必要に応じて適切に活用していく必要性を感じた。
- ・就労者の基本的な健康管理や清潔など幼児から関われるポイントについても意識して現場で取り組みたいと思いました。
- ・日常、身体障害の方が就労されているのを見かける機会は、他の障害手帳の方々と比べると少ないように思います。
- ・コロナ禍後、オンライン在宅就業が普及しました。障害があっても伴走支援できるよう学んでいきたいと思っています。
- ・障害者の就労や社会参加、自己実現がより可能な世の中になるといいと思います。
- ・軽度から重度まで幅広く受け入れてもらえる支援体制や特例子会社の情報が知れた。

研修担当者より

本年度は、厚生労働省より「医療的ケア児等支援者養成研修」のカリキュラム改正に伴い、研修プログラムの構成変更が必要となった。

高知県の課題として、医療ケア児等の支援可能な訪問看護ステーション・看護師等が中央に集中しており、郡部での支援体制構築が課題となっている。

今後も、研修等で医療ケア児等支援者・コーディネーターを育成すると共に、それらのネットワーク及び支援体制の構築に努めたい。

令和6年度 高知県ナースセンター活動実績

(高知県看護協会 任意様式で提出)

1 高知県からの受託事業名 高知県看護職員確保対策事業

2 事業の従事者

1) 責任者名 高知県看護協会会長 藤原 房子

2) 従事者

*	氏名	従事期間	常勤・非常勤 の別	担当した事業名
○	山本 由香	自 令和6年7月1日 至 令和7年3月31日	非常勤	ナースセンター事業 ナースセンター強化事業
○	木村 知佳	自 令和6年9月1日 至 令和7年3月31日	非常勤	ナースセンター事業
○	谷口 喜美代	自 令和6年4月1日 至 令和6年8月31日	非常勤	ナースセンター強化事業
○	利岡 裕美	自 令和6年4月1日 至 令和6年7月30日	非常勤	ナースセンター事業
	生島 香	自 令和6年3月4日 至 令和7年3月31日	パートタイマー	ナースセンター事業 ナースセンター強化事業
	森田 記代	自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日	常勤	ナースセンター事業 ナースセンター強化事業

(注) 職業安定法(昭和22年法律第141号)第33条の規定に基づく無料職業紹介所と連絡調整等の業務に従事したのものについては*印欄に○印を記入

3 事業別実施報告

1) 事業の目的

保健師、助産師、看護師及び准看護師で、未就業の者に対し就業促進に必要な事業、看護業務等のPR事業を行い、医療機関等の看護職員の確保に寄与する。また、看護師等の人材確保の促進に関する法律に基づく離職者の届出制度に対応し、スムーズな復職につなげる支援を行う。

2) ナースセンター事業

「看護師等の人材確保の促進に関する法律」に基づき、高知県の委託を受け高知県ナースセンターの運営を行う。

(1) 看護職員就業促進事業

- ① 就業を容易にするための看護技能知識についての相談、就業に関する指導を行う
- ② 公共職業安定所との連携を図り、ナースセンターコンピューターシステム(NCCS)を利用して求人状況に関する情報の提供、就業の斡旋を行う。

《実施曜日等》

区分	実施曜日	1日の実施時間	年間実施日数
① 看護技能知識についての相談、 就業に関する指導 ② 無料職業紹介事業	月～金	9時～17時	243日

《無料職業紹介所設置状況》

委託先の名称	(名称) 高知県ナースセンター (所在地) 高知市朝倉己 825-5 (電話番号) 088-844-0758
無料職業紹介所の有無	① 無 許可年月日 平成元年3月24日 許可期間 令和3年4月1日～令和8年3月31日
取扱職種範囲の変更	保健師、助産師、看護師、准看護師、看護助手 変更年月日 令和6年11月1日

《eナースセンター求人登録施設数及び医療機関数等》

区分	病院(A)	診療所(B)	訪問看護(B)	その他(B)	計(A)+(B)
該当年度 4月1日の総数	118	512 (うち有床 51)	99	—	729
eナースセンター 求人登録施設数	76	5 (うち有床 3)	19	46	146

※登録施設数は2025年3月31日時点の登録数

① ナースセンター相談室における相談支援

《相談数》

※令和7年3月末現在 (件)

内容	来所	電話	メール	郵送	その他	計
求職	37	255	93	202	38	625
求人	19	322	229	271	3	844
進学	3	62	33	51	83	232

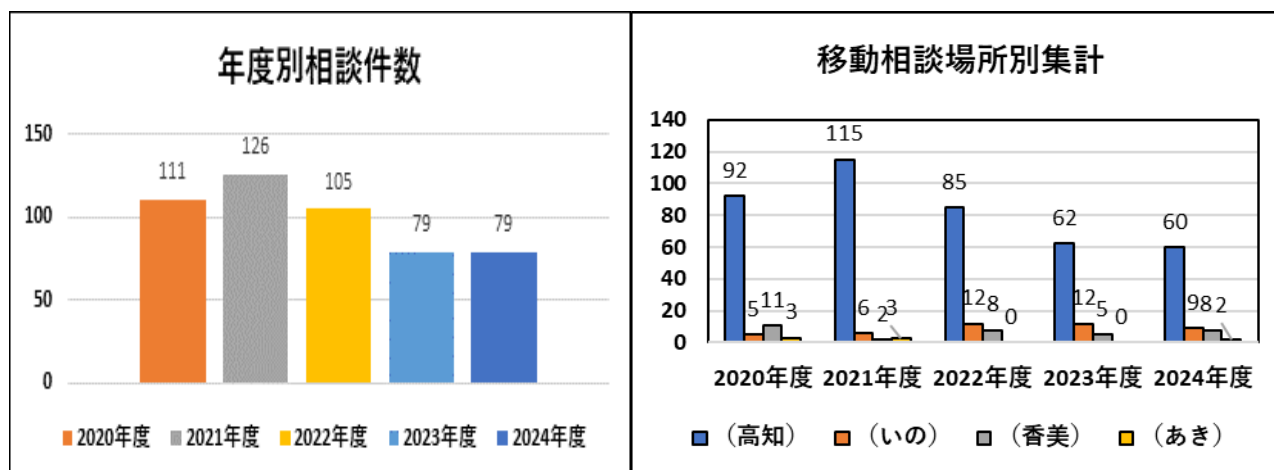
計 1,701

② 移動相談

ア 公共職業安定所(ハローワーク) 出向相談実績

相談件数は昨年度と同程度の見込み。ハローワークとの連携により出向相談や医療機関の面接就職相談会に参加した。さらに9月からは、ハローワークとナースセンター間での情報共有に同意を得た求職者の名簿提供を受け、就業支援に活用するなど連携体制を強化した。

また、高知労働局主催の人材確保対策推進協議会に参加し、関係機関・団体と介護医療人材の確保に向けた取り組みや課題を共有した。



イ 高知県社会福祉協議会福祉人材センターとの連携

※令和7年3月31日時点

イベント名	開催日	場所	参加数	相談実績
福祉就職フェア	R6.8.24(土)	かるぽーと	1名	相談件数 —
	R7.2.16日(土)	かるぽーと	1名	相談件数 1件
ふくしフェア	R6.10.19(火)	イオンモール高知	1名	相談件数 2件

③就職支援実績

《ナースセンター登録者数及び就業率》

※2025年3月31日時点

区分	eナース登録未就業者数(A)	eナース新規登録者数(B)	就業者数(C)	就業率
保健師、助産師	14人	5人	0人	0.0%
看護師、准看護師	380人	71人	98人	21.7%
看護補助者	3人	2人	1人	2%
計	397人	78人	99人	20.8%

※(A)、(C)は延べ人数

《職種別 就職者数》

※2025年3月31日時点 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保健師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助産師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護師	5	3	8	20	13	6	3	11	10	7	4	8	98
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護補助者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
総計	5	3	8	20	13	6	3	12	10	7	4	8	99

《雇用形態別 就職者数》

※2025年3月31日時点 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常勤	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	2	1	8
非常勤	1	1	1	1	1	1	0	1	3	1	0	1	12
臨時雇用	4	2	7	19	12	5	3	9	5	5	2	6	79
総計	5	3	8	20	13	6	3	12	10	7	4	8	99

《ハローワーク連携事業も含めた就職数》

(人)

	登録人数	就職数
e ナースセンターに登録	393	87
連携同意者で e ナースセンター登録	18	
連携同意者で e ナースセンター未登録	14	12
計		99

(重複を除く)

(2) 「看護の心」普及事業

- ① 高校生及び学校の進路指導担当者等を対象に、看護職等についての知識や理解を深める機会とし、将来の看護職の人材確保のための広報活動、進路相談事業を行う。
- ② 「看護の心」の普及啓発を通じて、県民一人ひとりの看護についての関心を高め、理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図るための事業を行う。

① 「看護の日」イベント

ア こうち看護フェア

【日時】5月25日(土) 13時～16時30分

【場所】高知県看護協会会館

【参加人数】23校 156名(保護者13名) ※高知県下の高等学校54校に案内通知

参加者	1年生	2年生	3年生	計
生徒	28	39	89	156
保護者	3	4	6	13

【内容】

先輩看護職の語り:看護師・保健師・助産師・訪問看護師 (計4名)

看護系学校:高知大学医学部看護学科、高知県立大学看護学科、高知学園短期大学看護学科、高知県立幡多看護専門学校、龍馬ふくし専門学校、高知開成専門学校、近森病院附属看護学校 (計7校)

【感想等】

先輩看護職の語り、看護系学校・県の奨学金について説明の後は、生徒と保護者の自由時間とし、各ブース(看護体験、進学・奨学金相談、白衣体験・「かんごちゃん」との写真撮影含む)に分かれて過ごした。生徒からは「より看護師になりたいという気持ちが強まりました。参加して良かったです。」「先輩方の経験とかを聞いて参考になったし、今までより看護職になりたいという気持ちが強くなった。」等の好評を得た。

進学相談では高知県立大学への相談者が多く、次に高知学園短期大学や高知大学、近森病院附属看護学校、幡多看護専門学校、開成専門学校、龍馬ふくし専門学校の順であった。相談者の偏りによる運営の難しさを解消するため、来年度は相談者が多く見込まれる学校には教員の増員を相談したい。

イ ラッピングバスの巡行による PR

47 都道府県が4年をかけて取り組んだ、日本看護協会事業の一環である「看護の日・看護週間」PR バスイベントを開催した。

【日時】5 月 14 日(火)

【出発式】県庁正面玄関前にて、県職員7名(高知市長、副知事、県健康政策部副部長ほか)、近森病院附属看護学校の生徒 25 名ほかを招待

【巡回】高知市内と南国市内

【出発式】

「看護の日・看護週間キャラクターのくまちゃん」を紹介し、一般来庁者にも「看護の日・看護週間」をアピールした。生徒や教員からは、「知らないことが沢山あった。」「学生の良い刺激になった。」などの感想があり、盛況のうちに終わることができた。また、テレビのニュース放映を見た看護職から、就業相談や出前授業に関する問い合わせがあったことから、今後も様々な媒体による広報活動を継続していく。



② 看護の出前授業

【日時】5 月 14 日(火)

【場所】土佐塾中学校(大ホール)

【対象】中学3年生180名

【講師】高知医療センター看護副科長 大麻康之

生徒からは、「看護師が働く場所は病院だけだと思っていたが、色々な働き方があることを知り、今後の進路で考えていきたい。」「フライトナースに興味持った。」「人の命を助ける仕事に関心を持った。」などの感想が聞かれた。

講師からも自分の看護観を認識することができ、こういった機会があれば出向きたいという意見があった。

③ ふれあい看護体験

【開催期間】令和 6 年 7 月 26 日～8 月 24 日の夏休み期間

【参加申し込み状況と参加者数】

(人)

	令和5年度	令和6年度
申込高校数	29	30
申込数	444	352
参加人数	179	284
お断り生徒数	219	42
当日欠席数	46	26
受入れ施設数	36	47
受入れ可能人数	232	335
受入れ中止施設数	7	1

【学年別分類】

(人)

	1年生	2年生	3年生
参加希望人数	70	80	202
体験予定人数	66	67	177
体験できない人数	4	13	25

昨年度の協力病院は 36 施設(受入れ可能人数 232 人)であったが、今年度は 47 施設(受入れ可能人数 335 人)と、施設数、受け入れ人数ともに増加した。高校生の参加申込数は 352 名と、昨年の 444 名に比べ減少しているが、国体に参加している生徒に対して申込期間内に担当教諭から声をかけられなかった等の事情があった。

例年通り、受入れ可能人数に対して申込数が上回っており、400 床以上の病院への希望も多かった。希望の偏りも相まって 310 名の振り分けとなり、42 名は体験できない結果となった。

新型コロナウイルス感染症の流行により中止施設は 1、参加者の体調不良等によるキャンセル等により、参加者実績は 284 名であった。

参加者からは、「やりがいのある仕事だと思い、より看護師になりたい気持ちが強まった。」等、受け入れ施設からは、「スタッフにとっても看護師を目指す後進の存在は刺激になり、初心に帰る機会になったと思います。」等、各々から好評を得た。

来年度はさらに受入れ施設を増やし、大勢が参加できるようにしていきたい。

④ 外部機関等との連携事業

ア とさっ子タウン

【主催】 高知市民活動サポートセンター、認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議

【日時】 8 月 17 日(土) 9:30~17:15 8 月 18 日(日) 9:30~16:15

【場所】 高知市文化プラザかるぽーと 7 階

【対象者】 10~15 歳(小学校 4 年生~中学校 3 年生)

【申込・参加数】 全体

	小学生	中学生
参加申込数	445	83
参加人数	411	81

計 492 名

【ナーセンターのお仕事体験者】 57 名

子どもたちが市民となり運営する「こどものまち」とさっ子タウンにて、「ナースセンターのお仕事ブース」を設置した。参加者(とさっ子求職者)数は、昨年度の 32 名から 57 名に増加した。

子どもたちは、血圧や血中酸素飽和度の測定等は初めての体験で、興味深そうに楽しく行っていた。来年度は、さらに看護職という職業に関心を持ってもらえるよう、採血や点滴等の新たな体験内容の追加を検討していきたい。

イ 地区支部支援

室戸・安芸地区支部「安芸元気フェスタ」(11 月 17 日)まちの保健室事業に子供用白衣を貸出白衣体験 10 名

(3) 広報など

方法	実施内容
研修概要チラシや研修参加申込書を設置・掲示	設置場所:ハローワーク、その他就業活動施設(ジョブカフェ高知、こうち男女共同参画センター「ソーレ」)
とさでん広告	とさでん交通の主要駅の待合所・掲示板等に掲示 看護フェア(1 回、10 か所)
高知県看護協会ホームページ	看護フェアやふれあい看護体験の広報 eナースセンターの広報
「看護こうち」	6,200 部×年 3 回(4、8、1 月)発行イベント報告を掲載 求人情報リーフレットの挟み込み

(4) 会議等

① ナースセンター委員会

看護のこころ普及事業を展開するにあたり、委員会で企画・実施・評価を行った。

ア 委員

期間	氏名	施設名	職種
6月14日 日まで	小川 栄子(委員長)	島津病院	看護師
	三木 初美	高知赤十字病院	看護師
	斎藤 真由美	JA高知病院	助産師
年間	足達 恵美	安芸市役所	保健師
	田上 健太	南国病院	看護師
	中平 律子	だいいちりハビリテーション病院	看護師
6月15日 日から	前田 綾	愛宕病院	看護師
	中村 水苗	JA高知病院	助産師
	佐藤 久美子(委員長)	白菊園病院	看護師

イ 開催状況

開催回	開催日	参加数	議題
第1回	R6.4.16(火)	委員 2名 事務局 4名	PRバスの運行について 令和6年度こうち看護フェアについて
第2回	R6.5.25(土)	委員 4名 事務局 4名	令和6年度こうち看護フェアの反省会
第3回	R6.7.30(火)	委員 3名 事務局 3名	令和6年度こうち看護フェアの実績報告 令和6年度ふれあい看護体験の途中報告 令和6年度とさつ子タウンについて 他
第4回	R6.10.25(金)	委員 3名 事務局 4名	令和6年度ふれあい看護体験の実績報告 令和6年度とさつ子タウンの途中報告 令和7年度こうち看護フェアの企画
第5回	R7.2.28(金)	委員 3名 事務局 3名	令和6年度とさつ子タウンの追加報告 令和7年度こうち看護フェアの進捗

② 中央ナースセンター主催の担当者会

会議名称	開催日	参加方法	参加数
担当者会	第1回 R6.5.21	WEB	2名
	第2回 R7.3.14	WEB	4名
ラッピングバス実施報告会	R6.6.27	WEB	3名
ナースセンター事業担当者情報交換会(中国・四国・九州ブロック)	第1回 R6.7.24	WEB	3名
	第2回 R6.9.12	WEB	4名
	第3回 R6.11.28	WEB	5名
	第4回 R7.1.29	WEB	4名

3) ナースセンター強化事業

① 離職者の把握と早期復職の支援を行う。

- ・ 医療機関を訪問し届出制度によるナースセンターへの登録普及活動

- ・ 医療機関等の離職者等の状況を把握(とどけるん)
 - ・ 就業相談
- ② 潜在看護職員復職研修事業を実施する。

(1) 離職者の早期把握と早期復職支援

① 施設訪問

【目的】地域の医療機関・施設を訪問し、就業数、離職率の割合や看護職員の勤務形態の現状について把握する。管理者と顔の見える関係をつくり求職者が就業先として選択しやすい環境を整える。

《施設訪問数》

医療機関	施設・ 訪問看護 ST	市町村	学校	合計
23	0	0	0	23

《訪問施設名》

地 区	医 療 機 関 名
高知市内	川村病院、鏡川病院、岡林病院、高知生協病院、国吉病院、愛幸病院、藤戸病院、高知総合リハビリテーション病院、三愛病院、朝倉病院、竹下病院、島津病院
安芸方面	あき総合病院、森澤病院
須崎方面	くぼかわ病院、須崎くろしお病院
いの・佐川方面	さくら病院、前田病院
幡多方面	木俵病院、筒井病院、聖ヶ丘病院、竹本病院、森下病院

施設を訪問し、看護責任者と面談することで、施設の特徴や求人情報を把握でき求職者に説明しやすくなった。また、ナースセンターを理解してもらい、届出制度やeナースセンター登録への広報ができた。今後も、未訪問の医療機関を中心に計画的な訪問を行い、情報収集及び広報を行う。

② 離職者把握(とどけるんの普及)

《とどけるん登録状況》

	新規登録者数	前年比
R4 年度	58	-77
R5 年度	28	-30
R6 年度	24	-4

とどけるんの普及に向けて、主旨とQRコードを載せた名刺サイズのカードを1,000部作成し配布した。

③ 訪問看護事業サポート連携事業

令和5年度に高知県訪問看護総合支援センターが設置され、訪問看護に関心がある、又は訪問看護への就職を考えている潜在看護師を対象に実施している。

こうち看護協会訪問看護ステーションで4名が訪問看護の体験を実施した。

④ 再就職相談会

看護職を確保したい施設の求人担当者の参加を得て再就職を考えている看護職を対象に2回開催した。

【実績】相談会のマッチングで2名が就職。相談会とは別の施設に7名が就職。参加により最近の求人条件等を知ること、再就職への意欲の高まりもあったと思われる。

開催日	8/24(土)	2/1(土)
求人施設数	7 (病院6、訪問看護1)	8 (病院7, 児童福祉施設1)
求職者数	9	8
就職者数	1	1
ハローワークなどでの就職者	6	1

【求職者の年代】

年齢	20代	30代	40代	50代	60以上
第1回	1	1	2	3	2
第2回	1	1	3	2	1

ハローワークとの連携により把握した求職者や、e ナースセンターの登録者に手紙やメールで案内したが、参加者数は少なかった。不参加理由として、「参加施設が自分の希望する職場でない」「退職直後でも次の施設が決まっている」「有料職業紹介所を利用している」などの声があった。魅力あるものとしていくために、参加施設を病院に限らず、様々な分野の事業所にも依頼していく。

また、ハローワークとの連携のみでは参加者の確保が難しい状況にあり、復職支援研修やプラチナナースセミナーとの抱き合わせなども検討していく。

(2) 研修活動報告

① 潜在看護職員復職研修事業

ア 潜在看護職員等復職支援研修

【目的】復職のための心構え、最新の看護現場の状況、看護実践に必要な基本的知識と技術等を確認することにより復職を支援する。

【開催日】7月4・5日 10月3・4日(各2日間)

【参加者】計18名 就職した者:13名(令和7年2月現在)

【研修(講義・演習)プログラム】 講師は専門分野で活躍している看護師

講義時間	テーマ	講師
30分	医療を取り巻く社会の変化	高知県看護協会会長 藤原房子
90分	感染管理の基礎知識	地域医療機能推進機構 高知西病院 笠原久美
90分	救急対応	高知大学医学部附属病院 看護師長 小原志津・松本貴代
90分	医療安全の基礎知識	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 医療安全管理担当部長 西山由加
90分	創傷管理の基本	《皮膚・排泄ケア認定看護師》 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 竹崎陽子
90分	注射・採血・点滴・吸引	看護師 杉本美和子 いずみの病院 看護師 石川由紀

【 2024年度 潜在看護職員等復職支援研修 】

2023年度			2024年度		
開催月	参加	就職	開催月	参加	就職
6月	9	3			
9月	9	0	7月	10	8
12月	4	1	10月	8	5

本年度は昨年度より研修開催回数を減らしたこともあり、講義参加者数、実務研修参加者数ともに減少した。しかし、参加後の就業状況を把握すると、就業中の者は昨年度を大幅に上回った。この背景として、50歳未満、あるいは離職5年未満の参加者割合が、昨年度よりも本年度の方が多かった影響と考える。

研修内容は、おおむね高評価だったが、受講者のほとんどは実技に対する不安を吐露しており、演習時間の延長を希望する感想もあった。この点は課題と考えられる。来年度は3回の研修開催とし協力施設ともさらに連携しながら、引き続き受講者のニーズに沿った研修を企画していく。

イ 実務研修

【協力医療機関数】 15 施設

【研修参加実績】 1名 11月21・22・25日(3日間)

【 2024年度 実務研修 】

協力施設	実務人数	就職者数	雇用形態
三愛病院	1	1	

* 就職先は他施設

実務者研修参加者からは、昨年同様、「徐々に病棟での感覚も戻り、次の就職への自信につながった」、と前向きな感想が聞かれた。

② プラチナナースセミナー

【目的】 看護職の方々が培った豊かな経験を活かして多様な形で地域や社会に関わることを考える機会にする。

【日時】 2025年1月21日(火)

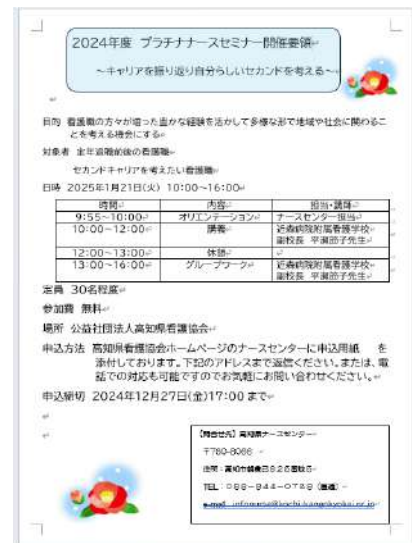
【講師】 近森病院附属看護学校副校長 平瀬節子

【内容】 キャリアトランプによる自己分析

【参加人数】 12名申込 10名参加

【感想】 今までの人生の振り返りが出来て良かった。
自分が大切にしてきたものが明確化できた。

来年度は退職後も自分のライフスタイルを大切に県内の医療機関で働いている看護職の方々に自身の体験を講話してもらい、今後の働き方のヒントを見つけられるような研修にする。



(3) 調査等

県内118の病院を対象に看護職の確保やワークライフバランスに関するアンケート調査を実施した。

【目的】 高知県内の病院における看護職の就業及び確保定着状況の実態を明らかにすることで、高知県看護協会が果たす役割を明確にし、支援の方法を検討する。

【調査方法】 対象 県内の病院 118 施設の看護管理者
方法 郵送アンケート調査

回答数 53 (回収率 44.9%)

【結果】令和6年4月1日現在の看護職員の定数充足状況は、「充足している」26.4%、「何とか対応している」45.3%、「不足している」が 13.2%であった。また、採用ルート別採用者数は、自主的 223 名、ハローワーク 122 名、知人・友人 77 名、有料職業紹介事業所 70 名であった。そして、有料職業紹介事業所の活用率は 52.8%、一人当たりの紹介手数料は約 716,000 円であった。ナースセンター事業としては、人材確保への支援の強化が急務である。

(4) 広報など

方法	実施内容
研修概要チラシや研修参加申込書を設置・掲示	設置場所：ハローワーク、その他就業活動施設(ジョブカフェ高知、こうち男女共同参画センター「ソーレ」)
とさでん広告	とさでん交通の主要駅の待合所・掲示板等に掲示 復職支援研修(2回)再就職相談会(2回)、プラチナセミナー(1回)(10か所)
高知県看護協会教育計画リーフレット	ナースセンター実施の研修を掲載
高知県看護協会ホームページ	研修内容や申込方法等を掲載
「看護こうち」	6,200部×年3回(4、8、1月)発行 セミナー等報告を掲載
高知県看護協会公式 LINE	プラチナナースセミナー等案内メッセージを送信
中央ナースセンターとの連携	「看護職の就業・確保・定着状況及びナースセンターへの届出制度普及状況等調査」の活用について周知 チラシ送付:118施設

(5) 会議等

① 高知県ナースセンター運営協議会

ナースセンターのあり方や効果的な事業の運営等について検討を行い、外部関係機関と連携した支援を実施することにより、看護職員の確保・定着を図ることを目的として設置している。

今年度も2回開催し、事業の効果的な運営について、協議がなされた。

ア 委員

氏名	役職
久保田 富女	高知県健康政策部医療政策課 看護担当チーフ
計田 香子	一般社団法人高知県医師会 常任理事
辻 由紀子	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター 看護局次長
中川 香代	高知大学人文社会科学部 名誉教授
森 郁雄	高知労働局職業安定課 課長
萩原 浩	高知県病院診療所事務長連絡協議会 理事
平瀬 節子	近森病院附属看護学校 副校長
藤田 佐和	高知県立大学看護学部 教授
藤原 房子	公益社団法人高知県看護協会 会長
吉永 富美	社会医療法人近森会 看護DX推進部長

イ 開催状況

開催回	開催日	参加数	議 題
第 1 回	R6.9.5(木)	委員 10 名 事務局 3 名	令和 6 年度ナースセンター事業計画 看護補助者の確保・定着推進事業 高知労働局からの情報提供
第 2 回	R7.3.13(木)	委員 9 名 事務局 3 名	令和 6 年度ナースセンター事業の実績について 令和 7 年度ナースセンター事業の取り組み(案)につ いて

②外部会議への参加

看護職員の確保等に関する外部会議に、ナースセンター担当役員と相談員が参加した。

会議名称	主催者	開催日	会場	参加数
令和 6 年度第 1 回高知県福祉・介護人材確保推進協議会	高知県長寿社会課	R6.6.13	高知城ホール	1 名
令和 6 年度高知県人材確保対策推進協議会	高知労働局職業安定部	R6.7.19	ちより街テラス	3 名
令和 6 年度高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会	高知県社会福祉協議会	第 1 回 R6.8.6	ふくし交流プラザ	1 名
		第 2 回 R7.3.17		1 名
福祉研修実施機関ネットワーク会議	高知県社会福祉協議会	第 1 回 R6.8.6	ふくし交流プラザ	1 名
		第 2 回 R7.3.3		1 名
ふくしフェア 2024 実行委員会	高知県社会福祉協議会	第 2 回 R6.7.30	ふくし交流プラザ	2 名
		第 3 回 R6.10.1		2 名
		第 4 回 R6.12.23		1 名

4) 今後の課題と対応

○看護師確保に向けたは、各医療機関や介護施設等も様々な働き方による受け入れを進めており、求職者に要望に応じられるよう工夫されている。就職を希望する看護職に対し、相談対応することで就労につながる可能性は高い。ただ、就労に結びつかない看護職も少なからずいるが、そうした看護職は、自身の治療、育児・介護との両立などの課題など、再就職に踏み切れない問題に対し、丁寧に相談対応していく必要がある。

○就職支援では、潜在看護職の把握困難の課題は解消されず、持続している。
ハローワークとの連携は強化されつつあるが、それ以外の未就業者とのコンタクトポイントが弱い。当協会は職能団体のため、会員以外への広報手段は弱く、委託元の県や関係機関団体の協力を得た活動が必要である。

○退職者の早期把握において有効なツールである「とどけるん」の活用や、eナースセンターの利用を促進する必要がある。また、運用開始が令和 7 年秋に延期されたNuPSの機能に期待し、周知を徹底していく。

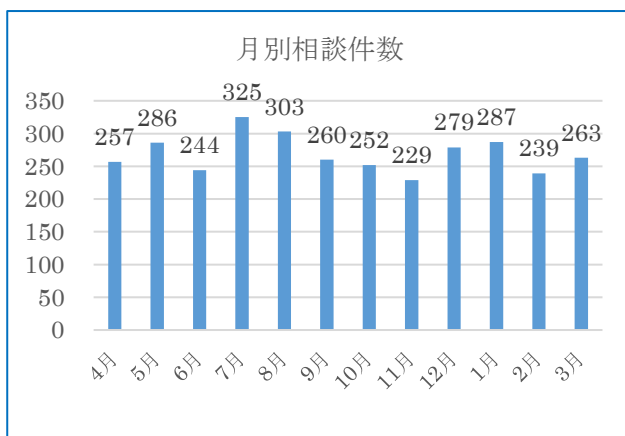
○看護職の魅力発信については、看護職全体が取り組む役割にあるが、そうした活動に対する支援力をナースセンターとして充実強化していく必要がある。

小児救急電話相談事業

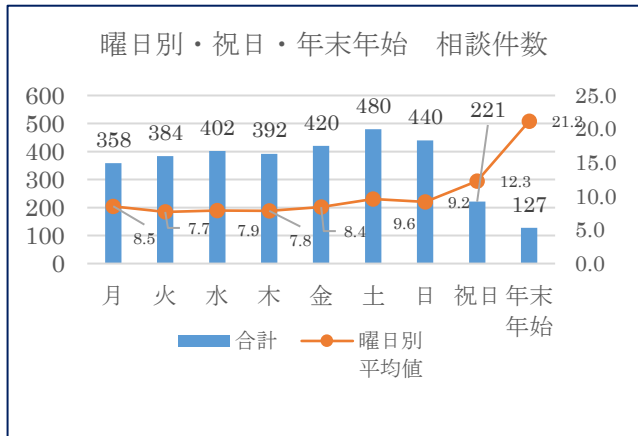
事業名	こうちこども救急電話相談	
目的	小児を持つ保護者などが安心して子育てができるよう環境づくりを推進し、子育て支援を行うため、夜間、子どもの病気などに関する電話相談に応じ、怪我等の応急処置についての助言と情報提供を行い、保護者に安心を提供する。	
開催日時	令和6年4月1日～令和7年3月31日	20:00～1:00(5時間)
相談員	小児看護に精通した看護職	
対象者	おおむね15歳未満の子どもの保護者等	
留意事項	① 電話相談の実施にあたっては、相談者に対し、相談員が行う助言が電話による限られた情報に基づくものであり、相談者の判断の参考とするためのものであることを十分に説明し、理解を得たうえで行う。 ② 相談員は、相談受付後は相談記録を作成するとともに、相談者のプライバシー保護に努め、相談記録等の管理に十分配慮を行う。	

こうちこども救急電話相談結果（令和6年4月～令和7年3月）相談件数 3,224 件 (n=3224)

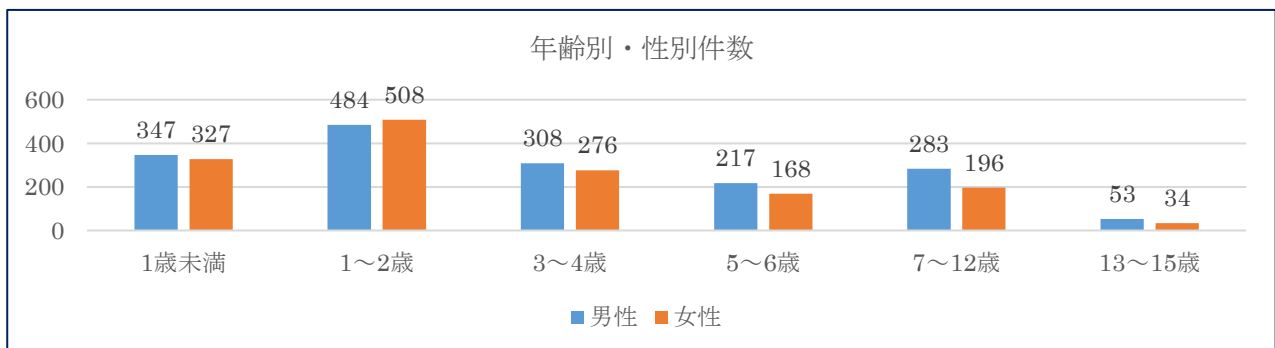
1. 月別相談件数



2. 曜日別相談件数



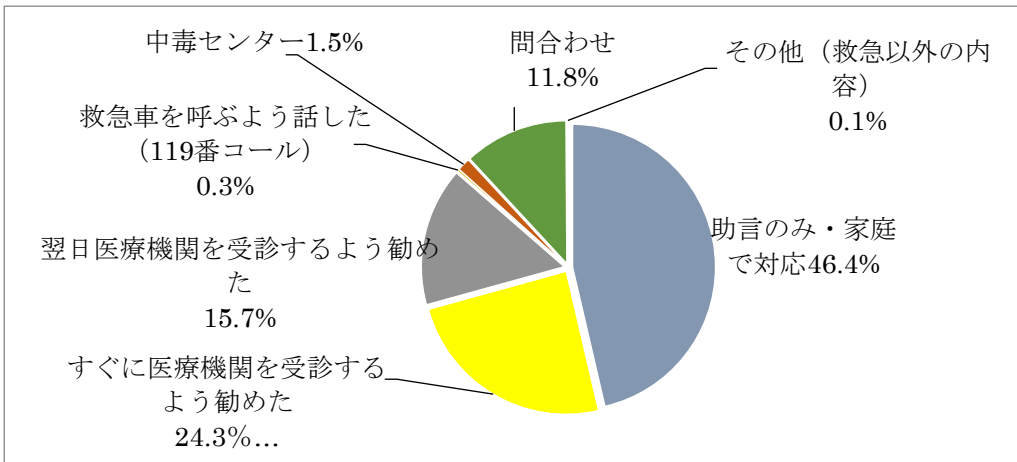
3. 年齢別・性別相談件数



4. 年間相談者件数・割合

相談者	母親	父親	祖父母	親戚	その他
相談件数	2,609	576	23	3	13
%	80.9	17.9	0.7	0.1	0.4

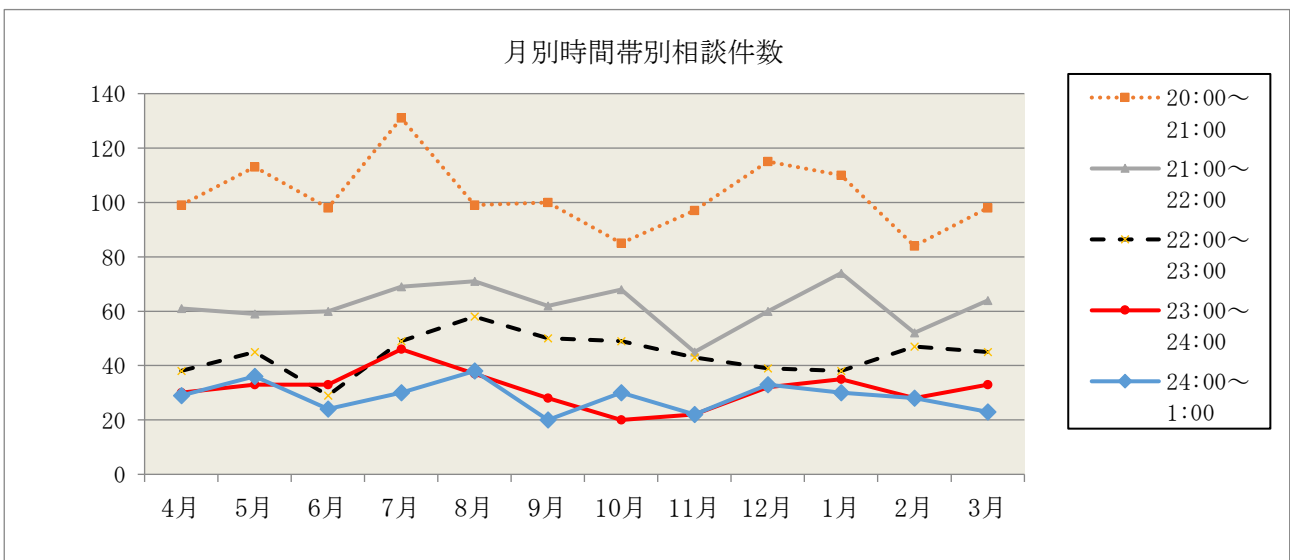
5. 対応結果別割合



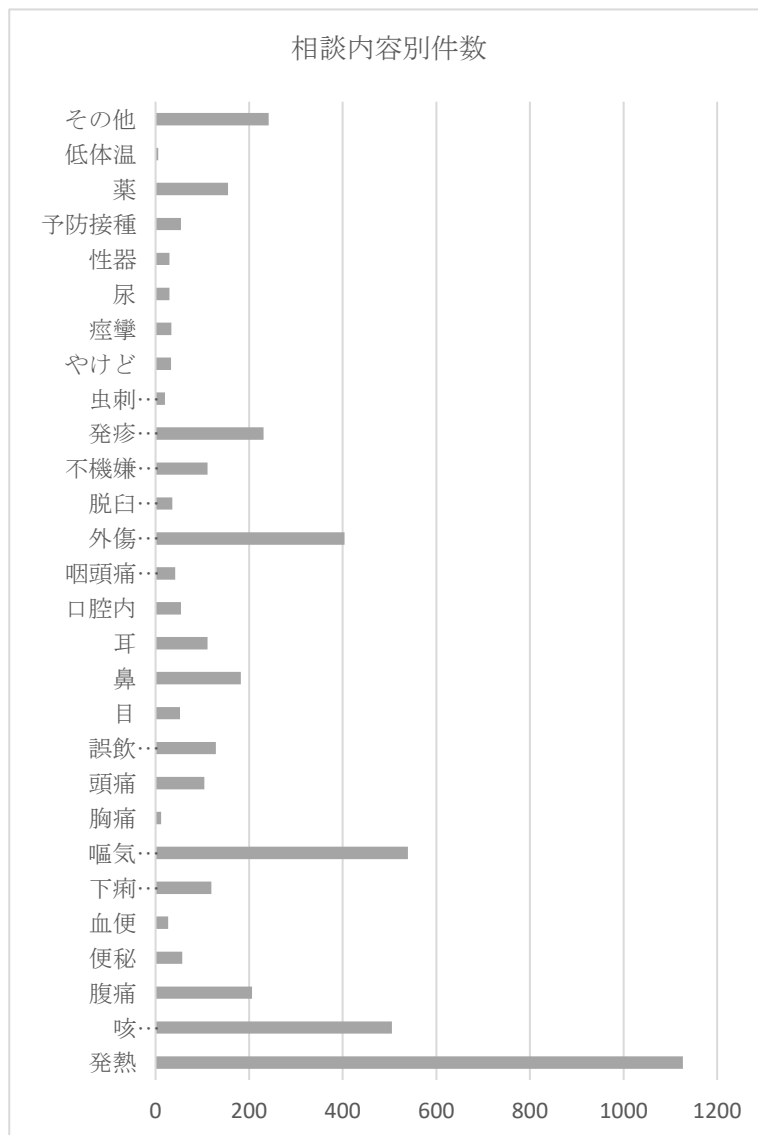
6. 相談者居住地域別件数

高知市	南国市	香美市	香南市	土佐市	室戸市	安芸市	須崎市	四万十市	宿毛市	土佐清水市	東洋町	奈半利町	田野町	北川村	馬路村	安田町	芸西村	大豊町
1907	309	126	181	156	14	33	66	70	24	13	0	7	6	4	1	8	10	2
本山町	土佐町	大川村	いの町	日高村	佐川町	越知町	仁淀川町	津野町	梶原町	中土佐町	四万十町	黒潮町	三原村	大月町	不明	県外	合計	
4	6	0	67	17	40	15	16	21	2	10	39	14	2	4	14	16	3224	

7. 月別時間帯別相談件数



8. 令和5年度相談内容別相談件数



* 重複相談あり

9. 総括

令和6年度電話相談件は3,224件で前年より421件少ない。1日当たりの件数は7.7～21.2件であった。

月別相談件数では、7月8月が多く、感冒症状等が教育機関や保育機関で流行したこともあり、相談が多かった。

曜日別では土日祝日が多い。年末年始は、日平均21件で、インフルエンザ等の流行があった。

相談者は母親が80.9%と最も多いが、父親からの相談も17.9%と昨年の17.7%より微増している。

時間帯別では、20時から21時が最も多い。

症状では、発熱1,048件、次いで呼吸器症状479件、嘔気嘔吐456件、外傷373件となっており傾向は同じであった。

10. その他

相談員は9名の看護師により業務を継続している。

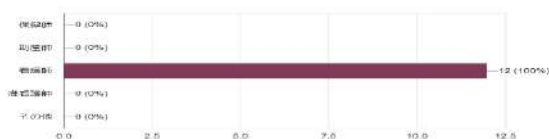
相談者の幅広いニーズに的確に対応するためにも相談員の質の維持・向上に努めていく。

研修名	一般病院にける精神疾患対応力向上研修	
開催日時	令和6年9月11日(水)10時～16時	
研修形態	集合	
受講者数	17名	
対象	興味のある看護職	
ねらい	一般科の看護職が、精神疾患の理解を深め、偏見を抱くことなく精神疾患患者に対して、適切に対応することができる。	
講師	高知県立大学看護学部准教授 畠山 卓也	
内容	<p>一般病院でよく見られる精神疾患の状態像と対応方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.精神状態のアセスメントに必要となる代表的な精神症状について判別できる。 2.代表的な精神疾患の疫学、状態像(精神症状)を学び、健康の段階に応じた基本的な対応方法を判断できる。 3.精神疾患をもつ人とのコミュニケーションについて学び、ロールプレイを通して実践できる。 <p>上記3点を目標とした講義・演習を実施</p>	

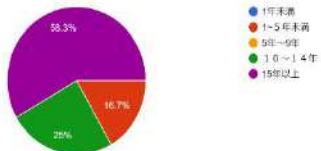
II アンケート結果

一般病院における精神疾患対応力向上研修 アンケート結果 <回答:12(67%)>

1-1 職种
12件の回答



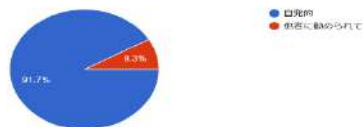
1-2 経験年数
12件の回答



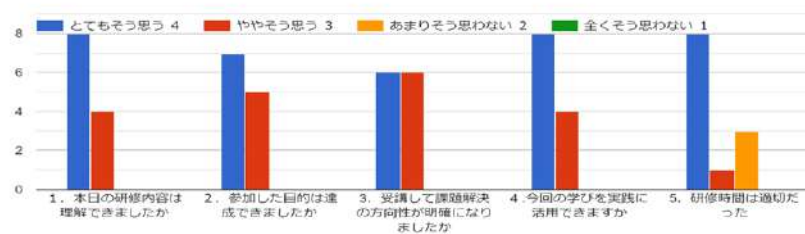
1-3 職位
11件の回答



1-4 本研修の参加
12件の回答

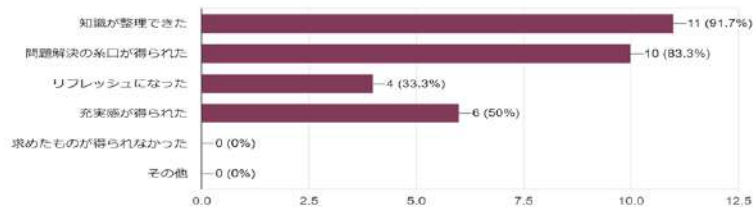


II 当研修の内容について



III. 本日の研修についての感想を以下から選んでください (複数回答可)

12件の回答



コメント

- 1.ロールプレイングの時間がもっと欲しかった。
- 2.丁寧に分かりやすい内容で、時間が足りないと感じた。
- 3.時間が足りない、もっと詳しく学びたい。

★ 日頃精神疾患を持つ患者と関わる中で、対応の難しさを感じる時はどんな時ですか。

IV. 日頃精神疾患を持つ患者と関わる中で、対応の難しさを感じる時はどんな時ですか

1. 認知症と精神疾患が混在している患者さんが増えてきている中で、認知症のせん妄なのか、精神疾患によるものなのかが判断できず、対応が正しいのかがわからない。

すぐに薬剤で対応する方向性になる傾向を何とかしたいと感ずることがある。

2. 会話の内容やタイミング

3. 同じ行動を繰り返し、同じフロアの他者より苦情があった時

4. 一度説明をしてもなかなか理解されるまで時間がかかる。何度も同じことを聞いてくる。

希死念慮のある方への言葉かけ。

5. 病識の欠如などから、コミュニケーションがとりにくい患者と関わる時。

6. 治療拒否

7. 拒食への対応

8. 精神疾患という思い込みが先行して、適切な対応ができない

9. 同じ状況でもみんな同じ答えにならず、関わる職員が嫌がったりして

同じ職員ばかりが関わってしまうこと。

10. 患者さんが頓服希望した場合、精神症状の観察はしますが、わりとすぐ頓服の服薬支援を

している状況にジレンマを感じている。薬剤に依存するのではない支援方法を教えて欲しい。

V. 精神保健に関して今後やってほしい研修があればご記入ください

1. その方が、在宅以外の地域の中で安心しておれる場所提供、年齢幅の工夫、

2. 一般病棟と精神科病棟の違い(安全対策の方法、精神疾患患者様の退院支援など。

3. それぞれの困難な事例をロールプレイングを通して、対応を検討する内容

4. 症状に応じた対応の演習

VI. その他、ご感想やご意見、今後希望する研修などを記載下さい

1. 参加できてよかった。

2. 精神疾患を抱える患者との関わり方のポイントを詳しく学べることができた。

ロールプレイや事例検討を行うことで、理解がしやすかった。

3. 呼吸理学療法

4. スライディングシートを用いた移乗、体位交換 ポジショニング 除圧グローブの活用

5. 口腔ケア方法 (気管内挿管中 他 経口摂取できない患者へのケア

看護管理者支援事業

研修名	看護管理者支援事業 研修	
研修会 開催日時	令和6年 6月25日(火)	9:30～16:00
	令和6年7月2日(火) 7月18日(木) 8月26日(月)	9:00～16:00
	令和6年9月24日(火) 10月21日(月) 11月27日(水)	
研修形態	集合	
受講者数	総数28名(全課程目通して参加 19名) 会員22名 非会員 7名 のべ受講者数:169名	定員 30名
対象	県内病院の看護管理者(認定看護管理者の資格を有しない者)及び事務部長	
ねらい	看護管理を行う上での必要な知識・技術を学ぶ 自施設の現状分析・課題抽出・目標設定・取り組み計画を策定・実行・評価ができる	
講師	プログラム参照	
内容	集合研修5日 演習2日 (内課題解決計画発表含む)	

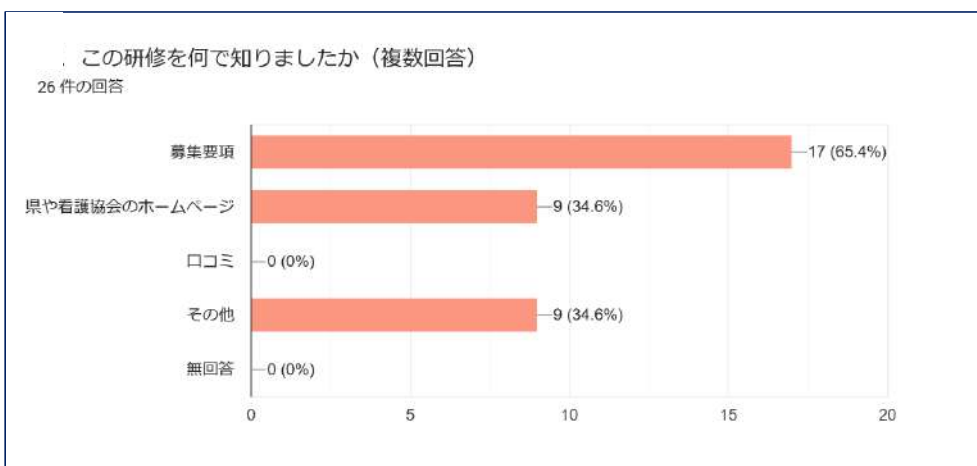
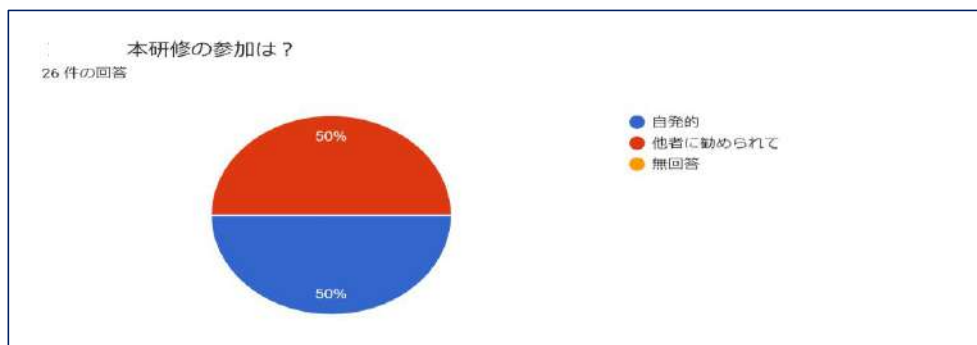
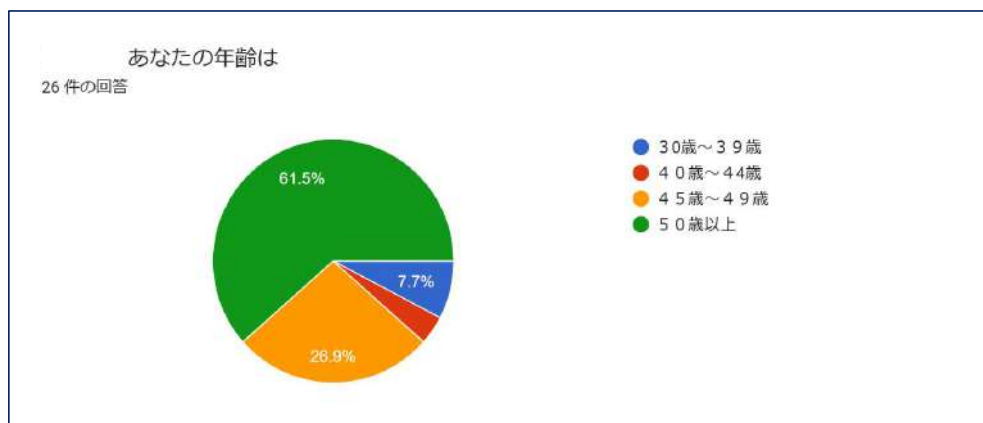
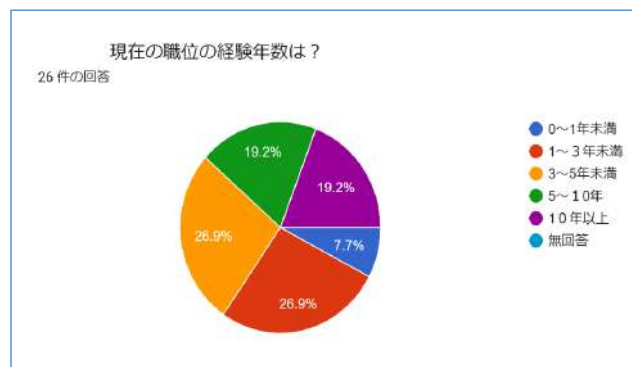
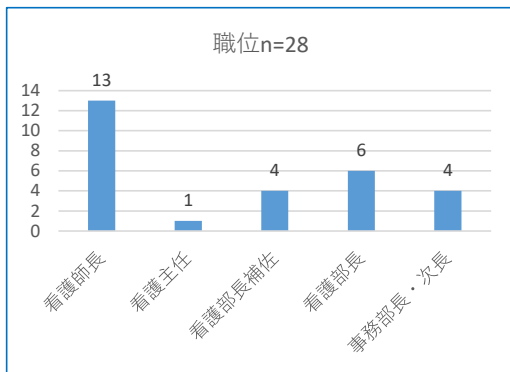
I プログラム・科目別参加者数

	研修名	日程		内容	講師	参加者数
		日	時間			
組織管理	組織マネジメント・組織デザインと組織運営	6月25日(火)	5時間 30分	組織マネジメントに関する基礎知識・看護管理の基礎知識・組織のデザイン・組織変革・組織運営に必要な能力	東京医療保健大学 副学長 看護学科長 坂本 すが	27
人材管理	労務管理の基礎知識・人材を育てるマネジメント	7月2日(火)	6時間	労働法規・就業規則・健康管理・雇用形態・勤務体制・ワークライフバランス・ハラスメント防止・賃金制度・人事考課・人的資源の活用・リーダーシップの実際	社会医療法人明和会医療福祉センター サステイナブル本部統括主幹 竹中 君夫	25
看護管理における倫理	看護管理における倫理的課題 組織における倫理的課題	7月18日 (木)	1時間 30分	コンプライアンス教育での工夫・価値観の浸透・プロジェクトの鍵・ポジティブアプローチによる看護管理・礼節ビジネスパーソン必須のスキル・DEIB	手島 恵 氏 東京医療保健大学 副学長 研究科長	23
看護制度・政策の動向	看護制度の変遷と政策 制度変化に伴う看護管理への影響と対応		1時間 30分	社会構造の変化・地域医療構想・看護就業数数の推移と課題・看護制度・JNA重点課題・政策提言について	勝又 浜子 氏 日本看護協会 副会長	23
看護管理者が知っておきたい医療経営戦略 ～できる管理者になるための3つの視点～	医療経営の特徴と課題・医療経営戦略の考え方・地域連携戦略		3時間	病院を取り巻く環境変化・病院組織の特徴・病院経営に関する人材問題・経費・戦略・コミュニケーション・地域連携戦略・連携の段階・データマネジメント	斐 英洙 氏 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科/経営管理研究科 特任教授	23
目標管理・問題解決の手法を学ぶ		8月26日(月)	6時間	看護の評価・改善のための情報活用 自施設の分析・課題抽出・目標設定・取組計画の策定	高須久美子 氏 社会医療法人美杉会グループ 理事	25
自施設の分析・課題抽出・目標設定・取り組み計画の策定		9月24日(火)	6時間	アドバイスを受け計画立案	県外アドバイザー5名と 県内アドバイザー10名	26
		10月21日(月)	6時間			県外アドバイザー6名と 県内アドバイザー9名
成果報告		11月27日(水)	6時間	取り組み計画の発表	県外アドバイザー6名と 県内アドバイザー10名	21

II アンケート結果

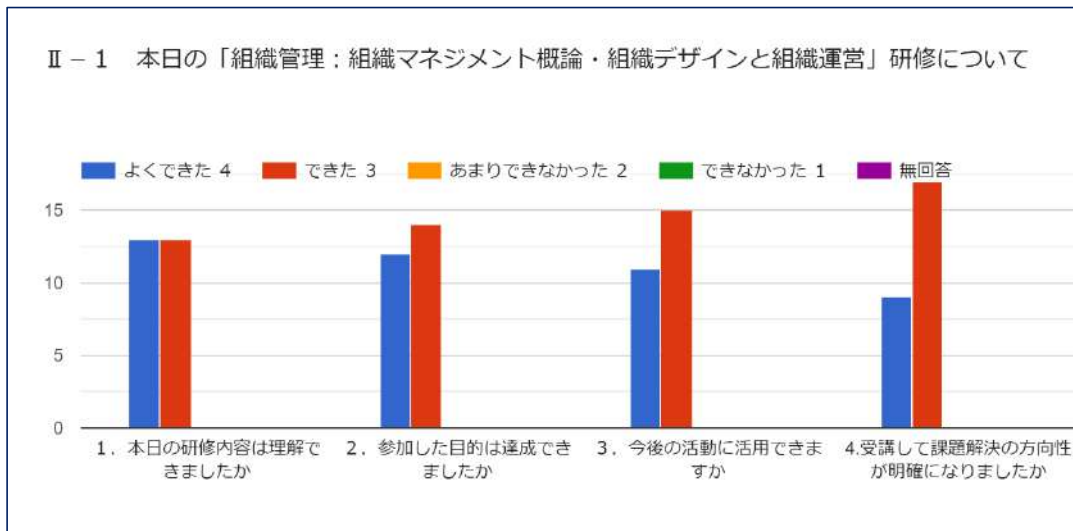
受講者背景

参加人数28名



1 6月25日坂本すが講師 アンケート結果

参加人数27名 回答数 25名 ※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

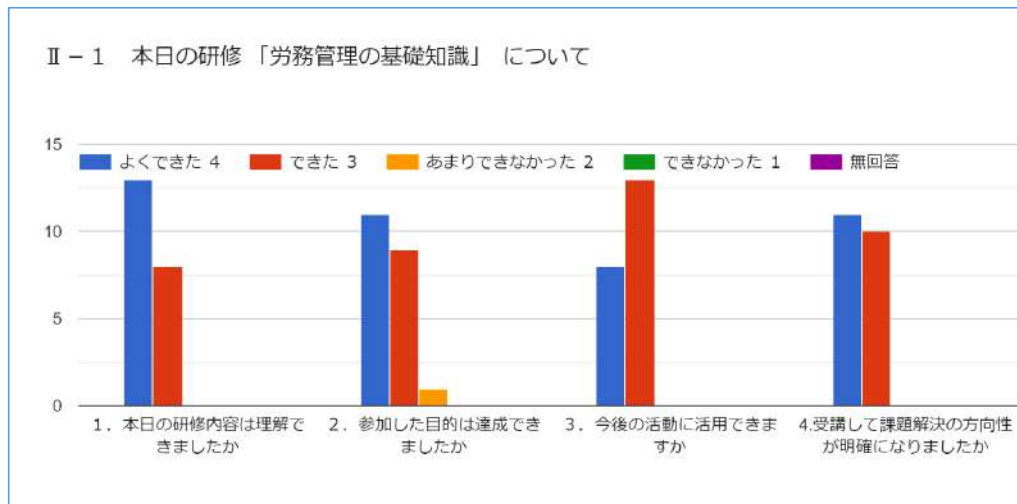


II-2. 上記を選択した理由を記載してください。20件の回答

- ・ 管理のヒントを得られた。
- ・ 日常の業務に参考になる内容ばかりだった。
- ・ やって来た事、考えが間違っていない合致できた事がたくさんあった。
- ・ 管理についての考え方がわかった。
- ・ 管理は、まずスタッフと対話する事が大切だと実感した。
- ・ 考え方の方向性を見直す事ができた。
- ・ 講義の内容は、分かったがまだ、理解までには、至っていない。
- ・ 対話から問題解決の糸口を見出そうと思う。
- ・ 自分の課題に加えて、他病院の課題についても話をきけ、問題解決の糸口になった。まだ具体的にどのようにフィードバックしていくか考慮している。
- ・ いかに自分軸で物事を考えていたのか考えてさせられた。
- ・ 今後、離職防止のために、話を聞く方法など、役立てたいと思った。
- ・ 講義を聞いて問題解決方法を学ぶことができた。グループワークではどこの病院も同じ課題をもっていることがわかり、この研修で知識を深めていきたいと思う。
- ・ 著名な講師の方の講義が聴講できる
- ・ 期待通りだと実感した。
- ・ 良く分かる説明でしたが、実際にその場で対応できるのか、分からない。
- ・ 管理者としてどのようにしたら良いか不安が多かったが、自分のビジョン、目標を考え直す良い機会となった。
- ・ 管理者として、どうあるべきかと自分の事が中心になり、現場で頑張ってくれているスタッフの事が置き去りになっている場面も多くあったのではないかと自分自身の振り返りにもなった。
- ・ 明日から気持ちを一新して頑張ろうと前向きにもなれた。
- ・ 見えていないスタッフの気持ちや本音を聞き出せるように、相手の話を聞く事を最初の一步として、病棟の運営に携わっていこうと思う。
- ・ 他の管理者の方との交流や情報交換ができて良い機会となった。また、今、抱えている課題ヒントも得ることができたと思う。。

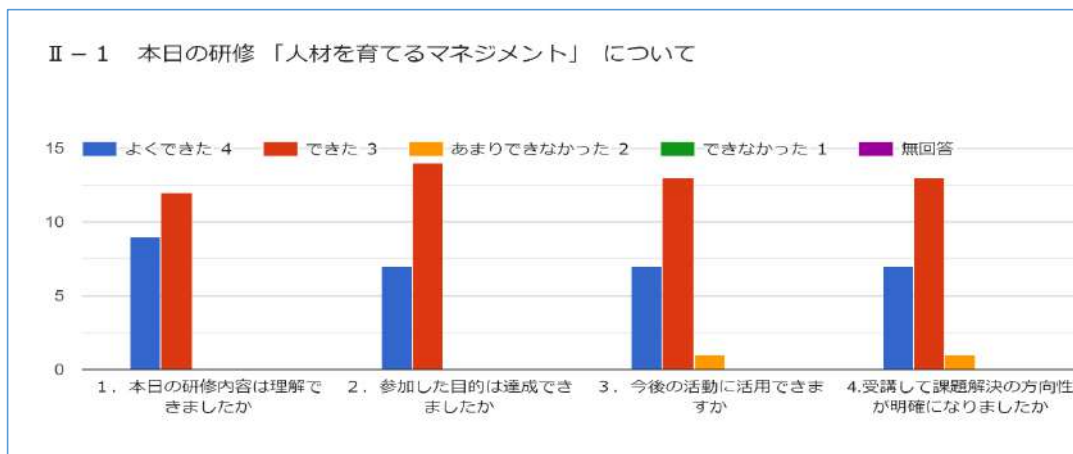
2 7月2日(火)竹中君夫講師 アンケート結果

参加人数 25名 回答数 21名



ー 2 上記を選択した理由を記載してください。12件の回答

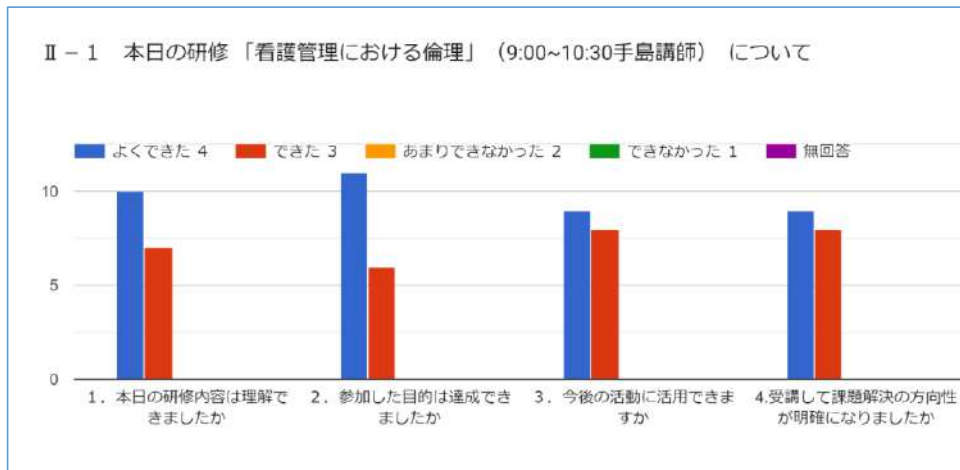
- ・ 基本的なものかと思っていたら、実践的なものだったからわかりやすかった。4件
楽しく聞くことができた。なるほどと思える事柄があり、参考になる。まだ、明確に課題解決へ導き出せるかはわからないが。
- ・ ストレスチェック集団分析をしっかりと行い、自部署の問題解決に取り組みたいと思う
- ・ 時短勤務者の勤務時間について、選択肢が増えた。また、人事考課の内容について参考になった。
- ・ 働きやすい環境づくりは間違っていないと再認識できた。そして課題も見えた。
- ・ 今まで漠然と実践してきた労務管理について理解することができた。
- ・ とても分かりやすく講義して頂いた。
- ・ 看護師が定着できるように、勤務時間の工夫、夜勤者確保のために一回でもできる人には夜勤してもらおう。
- ・ 現在の勤務体制での改善策に繋がられるヒントがあるように思えた。



- ・ 既に、採用している項目もあった。
- ・ 理解できました。
- ・ 人材を育てる事に、どこに焦点を当てるか参考になった。課題解決は明確に見えていない。
- ・ 子育て支援や人事考課評価など、出来ることからやれる気がする。
- ・ ハラスメントの注意する内容について理解できた
- ・ 人事効果やラダー、昇給、労働法規、メンタルヘルスケア、ハラスメントなど多岐に渡る課題に対処できる示唆が得られた。
- ・ よく聞く「ダメな言葉」があったり、反省する事ばかり。今後の改善点がたくさんあった。
- ・ 何かあれば話ができる環境作りをする。
- ・ 話しを聞く事、話してもらえような場作りをする努力が足りていないと感じた。

3 7月18日（木）手島恵講師 アンケート結果

参加人数 23名 回答数 17名

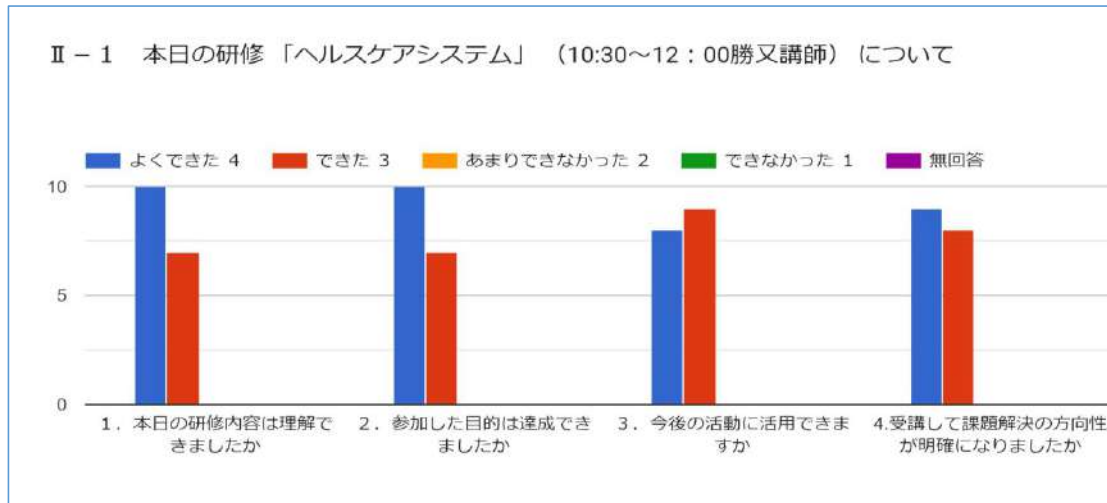


ー2 上記を選択した理由を記載してください。

- ・ 倫理は大変大事であると考えている。スタッフに日頃から学んで欲しい。と思いつつ業務優先になっているのが課題。
- ・ 患者が良いケアを受けるベースには、職員の満足度が高く主導的に働ける環境を整えることが重要であると学ぶことができたため。
- ・ 組織のあり方について、とても参考になった。
- ・ プロジェクトの鍵、これまでからこれから変わったことを学び、看護管理にいかしていく。
- ・ 講義の中の事例を通して、礼節の大切さを実感し、自院でも礼節を取り組んで行きたい。
- ・ 礼節を重んじながら、ポジティブアプローチによる看護管理を実践していきたい。
- ・ 理念やビジョンを明確にし、スタッフ全員で共有すること、患者中心に考えた看護目標をみんなで考え実現できるようにマネジメントして行くことの重要性を学ぶことができた。
- ・ 前年度の病棟目標評価から次年度の目標を考え提示してきていたが、みんなでどのようにしていきたいか考えて目標を決めて行く事がやる気にも繋がり楽しい職場になるという話を聞いて実践してみたいと思った。
- ・ 研究論文の紹介で具体的な内容が学べた。

4 7月18日(木)勝又 浜子講師アンケート

参加人数 23名 回答数 17名

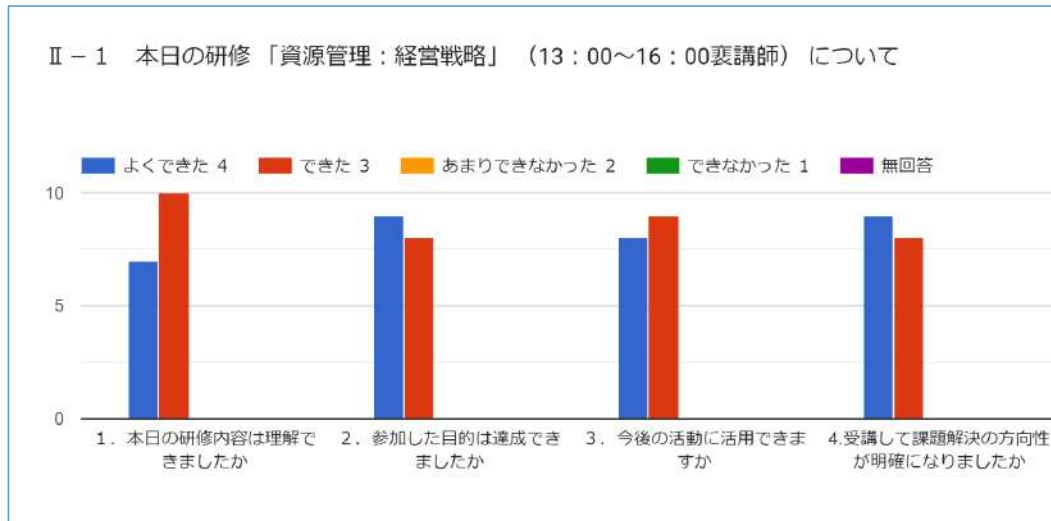


— 2 上記を選択した理由を記載してください。10件の回答

- ・ 短い時間内に多くの課題や考えるヒントになった。
- ・ 今後についての展望を学べ、現在の看護師の処遇に関しても行政や会社に改善をもとめてみようと思いが湧いた。
- ・ 将来の看護職の課題が多いことが実感できました。解決策を考えるヒントになった。
- ・ 分かりやすい講義。問題解決方法など難しいが、少しずつでもできたらと思う。
- ・ 看護師の定着が困難ですが、多様な働き方を取り入れて、看護師確保に繋げたい。
- ・ 看護協会の役員の方々が本当に、苦勞されながらも我々看護師仲間の為に活動していると思った。
- ・ 看護師、介護士不足は否めない現状を踏まえて、タスクシフトシェアに向けて取り組みを継続していきたい。
- ・ 看護制度がどのように作られているのか、日本看護協会の活動等を知ることができました。看護師免許の更新性は、研修機会も増え個々の能力開発や向上につながりいいと思った。
- ・ 看護協会の取り組みや看護師の働き方改革についてどのように活動しているのかを聞いて、私たち管理職だけでなくスタッフにも周知して、協会員を増やしていけたらと思う。
- ・ 政策活動の実際を具体的に教授下さり、2040年問題、2060年問題を目の当たりにして、危機を感じたとともに、早々に対策を考えて行かなければいけないと、感じた。
- ・ 疑問に思っている事が事例として聞く事ができて納得する事が多かった。

5 7月18日(木) 英洙講師 アンケート

参加人数23名 回答数 17名

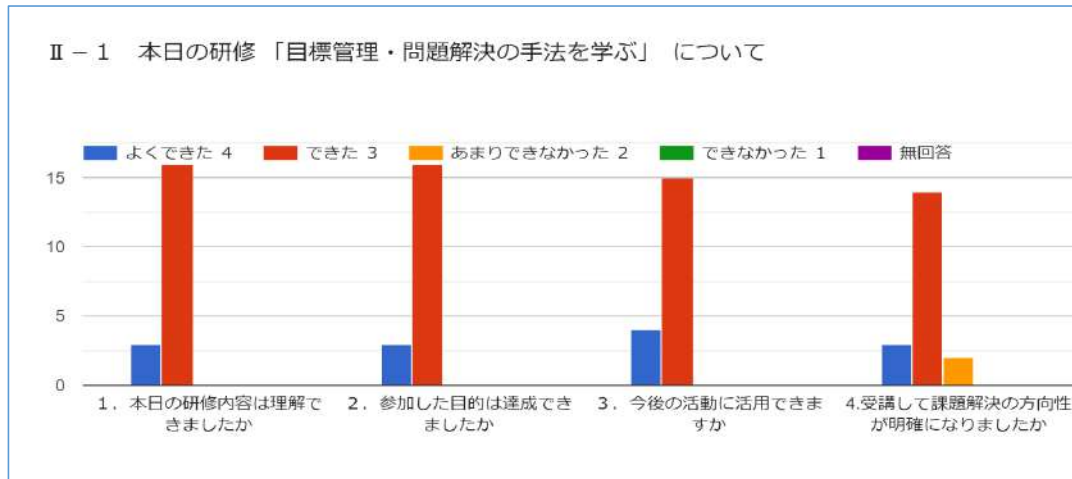


— 2 上記を選択した理由を記載してください。11件の回答

- ・ 師長の立場では少し踏み込むのが難しい課題もあったが、将来に約立つ研修内容。
- ・ 理念や戦略など大きなところから、外部施設へのアプローチなど具体的な話もきけて、非常に参考になった。
- ・ 経営に関して、十分自分なりに理解できてない事を実感しました。理念の浸透する工夫をしようと思いました。
- ・ 具体的な数値での例題で説明があったので、分かりやすかった。
- ・ 勉強になる講義だが、データ等見方が難しい。
- ・ とてもわかりやすく楽しい講義。経営のこと、地域連携室の役割も学べ明日から実践していきたい。
- ・ 自院の強み弱みを理解し経営戦略に活かして行きたい。
- ・ 病院経営幹部の一員として、チーム経営で同じ方向を見てFISを問いながらできる管理者になれるよう努力し
- ・ 医療経営とか経費については、普段そこまで意識していなかったが、大切なことで気づいた。地域連携のコアは院内連携、まずそこから取り組んでいきたい。
- ・ マメなコミュニケーションを取る事や、やる気にさせるマネジメントなど活用できそうなお話を聞いて良かったです。また今まで自院の収益のデータなどは見る機会はなかったのですが、収益構造など経営の事も上司と確認していきたい
- ・ 人材マネジメントについて、具体的に今後の方向性を考えることができた。

6 8月26日(月)高須久美子講師 アンケート

参加人数 24名 回答数 19名

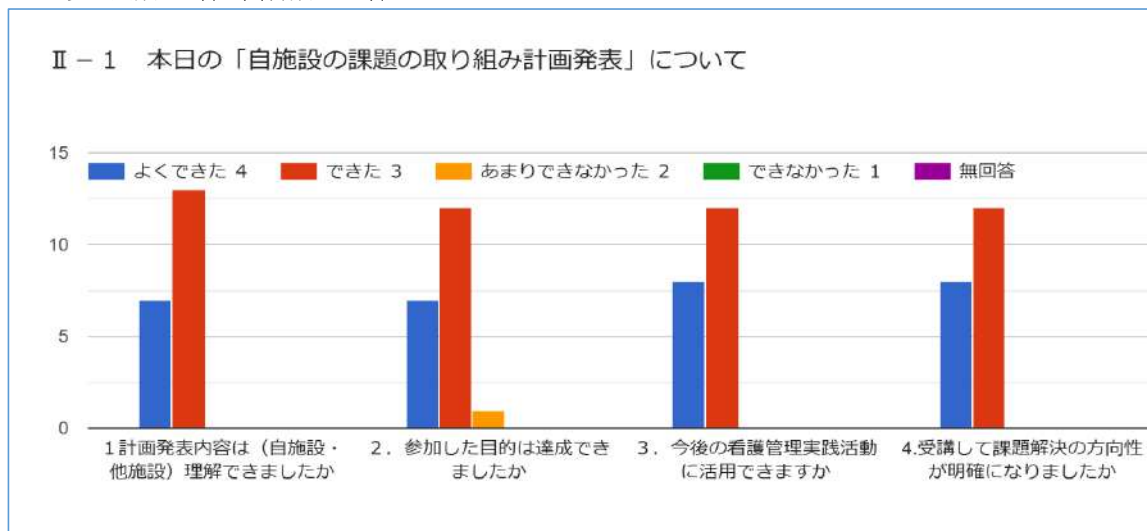


—上記を選択した理由を記載してください。

- ・ 講義内容が難しかったが、困った時に資料に戻ったら糸口が見つかると思った。
- ・ 頭の中ではなんとなくイメージできたが、データで示すことが難しい。アドバイザーの指導をうけながら進めていく。
- ・ 分かりやすかった。
- ・ 課題に対する取り組み方のイメージが出来た。
- ・ 全てを理解して吸収したとは言いきれないが、問題解決に向けては、方向性が見いだせたと思う。
- ・ 目標設定をするためには、データ分析が必要で、目指す姿を常に言葉に表して伝えることを学んだ。
- ・ 今まで漠然と感じていた自病院の問題点の明確化をすることができた。
- ・ 目標をトップダウンではなくスタッフからこうなりたいという意見を聞きみんなで達成するもの。経営の細部までは伝えなくても、患者さんのため、職員のためにできることはたくさんあるなど受講して感。
- ・ 今は今日学んだ事が出来るか、不安が大きい。
- ・ 解決策を上手く導き出せるか、心配。

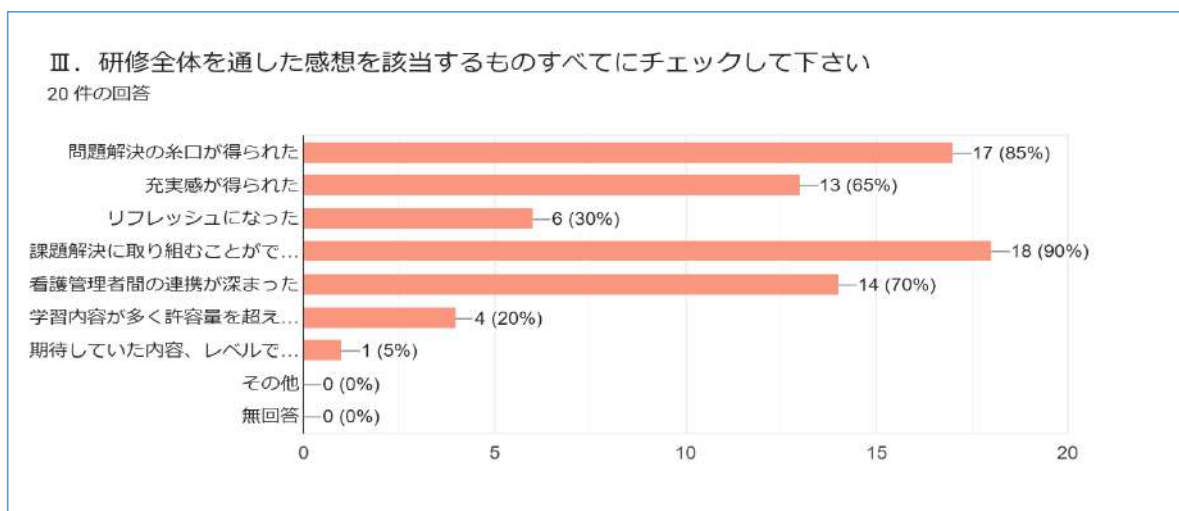
7 11月27日(水)取り組み計画発表 アンケート

参加人数 21名 回答数 20名

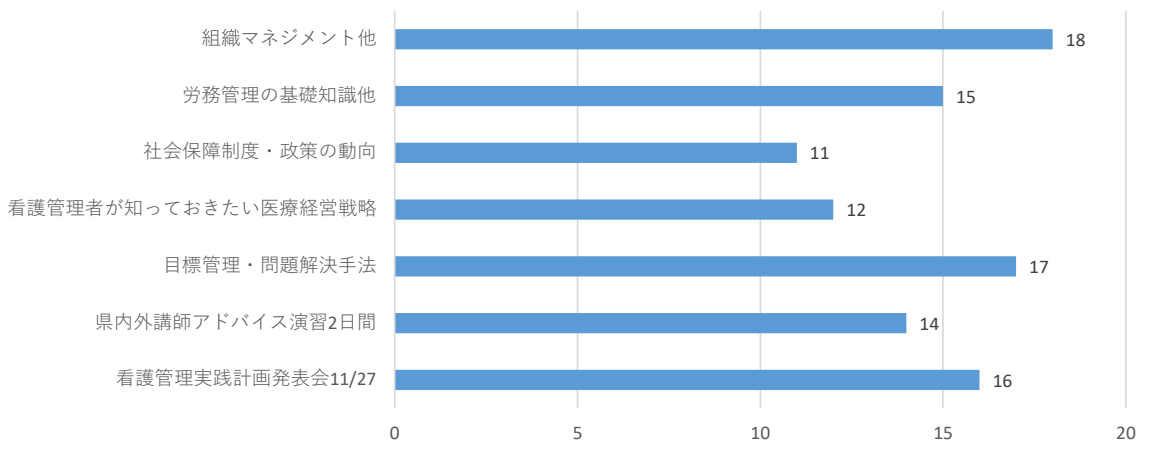


2. 上記を選択した理由を記載してください。11件の回答

- ・いくつかの問題点を分析する中で、なにを優先するべきかの課題がわかった
- ・充分では無いが、少し道筋が見えてきた。
- ・現状把握でき、問題点の糸口が見つかった。
- ・もっとできたのではないかと思うが、やらなくてはいけないことの方向性はしっかりと理解できた。
- ・課題の抽出や目的・目標設定、取り組みまでの考え方など学ぶことができた。
- ・他施設の発表を聞き、同じ様な施設の問題や悩みを持っているため、問題解決の参考になる。
- ・他の方の発表が大変参考になった。
- ・他の病院の皆様の発表を聞いていると、抱えている問題や悩みは共通していることが多くあり、今後、自施設にも参考にさせていただこうと思った。またアドバイザーの先生方のアドバイスを聞いて、看護とは…を再認識出来たし、自分を振り返ることもできた。
- ・計画の作成方法や対策の可視化に難渋したが、県内外のアドバイザーからアドバイスをいただきながら完成することができた。
- ・アドバイスを頂き、改善できそうだ。
- ・根拠を持って、課題を明確化して目的・目標を提示する。今後、組織の中で説明をする際に、他院との比較等のデータも提示する事により検討材料の強みとなる。プレゼンは苦手だが、他院のプレゼンを聞くことにより頑張っていくと思った。



IV もっとも参考になったと思う内容(複数回答)



★「看護管理における倫理」手島恵講師の科目は、アンケート項目ぬかり。

感想や意見を自由に記載してください。

- ・多施設の、発表を聞き勉強になった。
- ・県外、県内アドバイザーの指導もあり、何とかできた。多くの学びがあり、今後がんばろうと思う。とても達成感があった。
- ・他施設でも同じような課題があることを知れたと同時に違う角度から取り組みをされていることがあり、参考になった。本日の発表にあたり、アドバイスをくださった県内外アドバイザー、看護協会の皆さまに感謝している。
- ・初めて皆さんの前で発表した事はとてもいい経験であったし各施設も自施設と変わらない問題を抱えている事がわかり頑張ってみようと思った。
- ・研修などスケジュールがタイトで慌ただしく過ぎたような印象。
- ・業務と平行しながら取り組みの資料をまとめることは、とても大変でしたが、それ以上に学びが深まり、課題解決に向けて取り組むための光が見えたような気がする。実際にこれから実践していくとなると、多々迷い立ち止まってしまうこともあると思うが、これからも精進していこうと思った。
- ・研修をきっかけに今後もブラッシュアップしながら継続的に取り組んでいきたい。自部署の事や目標、目的を考えるきっかけにもなった。
- ・ハイレベルな研修で、県内外のアドバイザー様や他施設の管理者さんの方々に支えられてなんとか終える事ができた。今後この研修内容をもって自施設で課題を1つでも改善して行こうと思えた。
- ・アワードと言う初めての取り組みを行う中で、分からない事を短時間でやる事や、理解出来ないままシート作成、パワーポイント作成など、分からない事ばかりでとても苦しい研修だった。
- ・正直なところ、勤務と並行は厳しく。自分の時間がなくて何度も辞めたいと思った。自分の思いを文章にすることが難しく。自分に対して苛立ちがあった。グループの皆やアドバイザーの助言でここまでこれたと思う。
- ・管理者として、マネジメントできる力や経営に関することも考えていかなければいけないのだと思うことのできる研修になった。通常の業務をしながらの色々な課題に、大変な思いもしたが、自分だけでなく他施設の管理者さん達も頑張っていると思ひみになった。
- ・他施設の発表やアドバイザーの先生達のアドバイスを参考に取り組んでいく。

研修名	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版2024	
開催日時	1) 令和6年5月28日(火) 10:00~16:30 2) 令和7年1月27日(月) 10:00~16:30	
研修形態	集合	
受講者数	1) 54名(会員44名 非会員 10名) 2) 40名(会員32名 非会員 8名)	定員 各50名
対象	看護管理者及び看護補助者の指導に当たる看護師	
ねらい	効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育及び終了環境について理解し、自施設における看護補助体制整備の一助とする。	
講師	日本看護協会	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護補助者との協働の業務実施体制の整備 ・看護職への教育体制の整備 ・看護補助者の労働環境の整備及び確保等 ・看護補助者の育成・研修・評価 	講義・演習

研修名	2024年度 JNA収録DVD研修「認知症高齢者の看護実践に必要な知識」	
開催日時	(1) 令和6年 7月3日(水)～7月4日(木) 9:30～16:30 (2) 令和6年 11月 6日(水)～11月7日(木) 9:30～16:30	
研修形態	集合	
受講者数	(1) 79名(会員: 61名、非会員: 18名) (2) 71名(会員: 52名、非会員: 19名)	定員 各50名
ねらい	認知症高齢者における国の施策や医療の現状を理解する 入院中の認知症高齢者を適切にケアするための基本的な知識を学ぶことができる	
講師	日本看護協会 演習支援者: 高知医療センター 老人看護専門看護師 木村 義孝	
内容	認知症高齢者に関する医療の現状と国の取り組み 認知症に関連する疾患と病態・治療 組織で取り組む認知症高齢者ケア 認知症高齢者の看護に必要なアセスメント 認知症高齢者の看護に必要なコミュニケーションと援助技術 認知症高齢者ケアにおける多職種・看看連携のあり方 認知症高齢者に適した療養環境と調整方法 認知症高齢者に特有な倫理的課題 認知症高齢者の意思決定支援	講義・演習

研修名	2024年度日本看護協会主催オンデマンド医療安全管理者養成研修 (演習)	
開催日時	オンデマンド配信研修35時間 集合演習5時間 令和6年10月18日(金) 9:30~16:00	
研修形態	集合	
受講者数	53名 (会員34名 ・非会員19名)	定員 40名
ねらい	医療の質の向上と安全確保を目的とした、医療安全管理業務を遂行するための基本的な知識と実践能力を習得する。 演習を通して実践方法がわかる。	
講師	講師:高知大学医学部附属病院 坂本 美和 演習支援者:高知赤十字病院 伊勢田 純子 高知大学医学部附属病院 松本 かおり	
内容 (キーワード)	医療安全	講義・演習

I 1 外来における在宅療養支援能力向上のための研修

研修名	外来における在宅療養支援能力向上のための研修		
研修会 開催日時	令和6年9月20日(金)～11月29日(金)e-ラーニング200分		
	令和6年12月3日(水)課題提出		
	令和6年12月14日(土) 13:30～16:00 演習		
研修形態	e-ラーニング200分(各自) 演習:集合		
受講者数	35名(会員27名:非会員8名)	(看護師34名 保健師1名) 修了証発行 33名	定員 30名
対象	外来勤務の看護職員		
ねらい	1. 外来看護職員が講義及び演習によって、地域における自施設の外来が果たすべき役割に基づきその役割を認識するとともに、必要な在宅療養支援に関する知識を習得する。 2. 習得して知識をもとに、外来看護職として在宅療養支援を実践することができる。		
講師	JNA 吉川久美子 慶応義塾大学 永田智子 他 ファシリテーター看護協会委員		
内容	プログラム参照 *日本看護協会提供のコンテンツ使用		

I プログラム

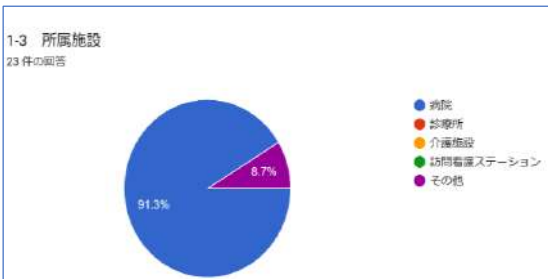
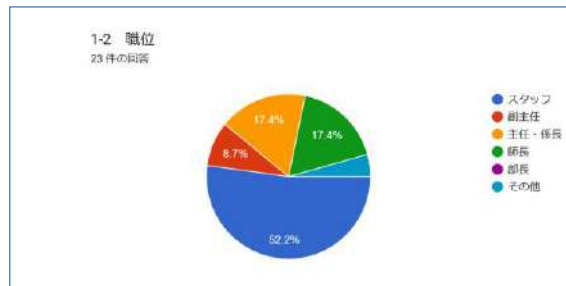
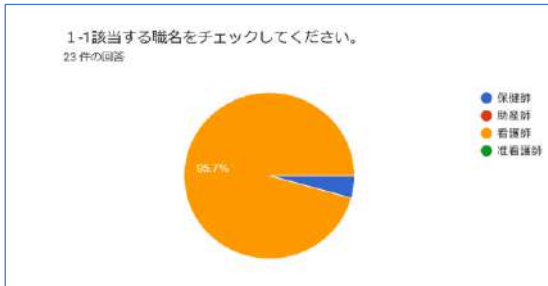
時間	方法	内容	講師 敬称省略
40分	R6.9.20(金)～ 講義1 (eラーニング)	外来看護を取り巻く現状と課題、国の政策動向等に基づく 外来看護職の役割	吉川久美子 (日本看護協会)
40分	講義2 (eラーニング)	外来における在宅療養支援	永田智子 (慶応義塾大学)
40分	講義3 (eラーニング)	在宅療養を支える地域連携とネットワーク	吉田千文 (常磐大学)
40分	講義4 (eラーニング)	在宅療養患者(外来患者)の意思決定支援	藤井淳子 (東京女子医科大学病院)
40分	講義5 (eラーニング)	在宅療養患者(外来患者)を支える社会資源	松本明子 (聖路加国際病院)
150分	演習 R6.12.14(土) 13:30～16:00	講義:地域の現状や自施設を取り巻く状況等について(20分)	森下安子(高知県立大学)
		グループディスカッション:事例検討(130分)	ファシリテーター
		全体共有	県看護協会 ファシリテーター

II アンケート結果

12月14日(土)アンケート

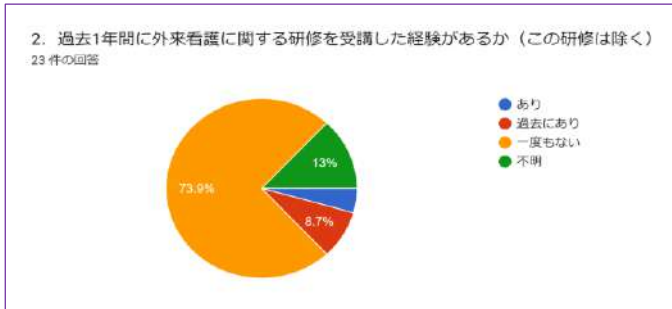
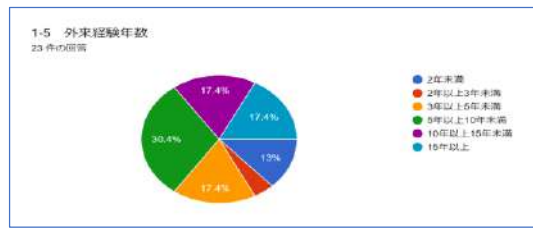
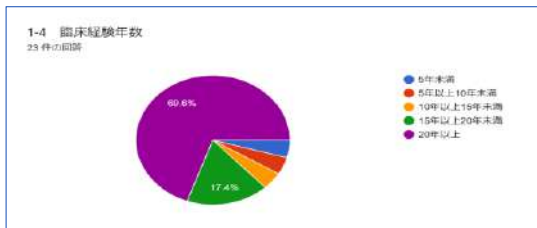
参加人数33名 回答数 23名

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答から抜粋

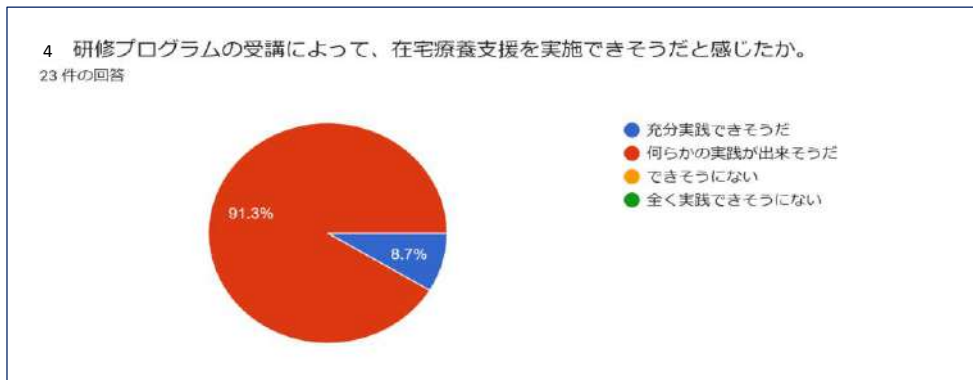
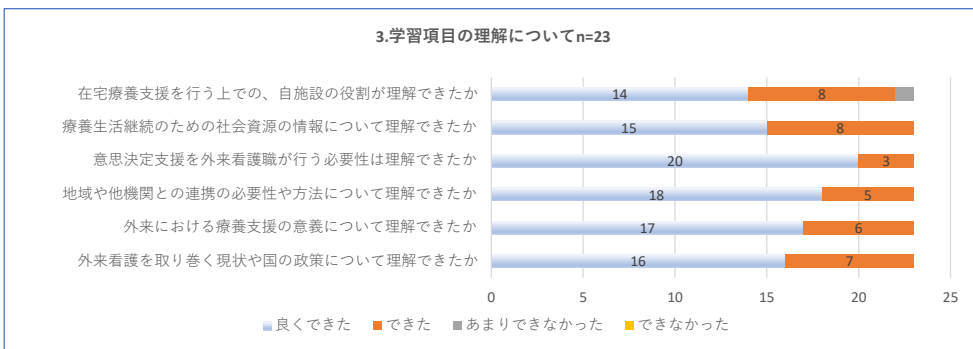


35名の所属施設は、病院が34施設、在宅医療介護支援センター1施設であった。

職位は、スタッフが24名、主任または師長が11名であった。



臨床経験年数は、20年以上が69.6%であった。令和5年度は、27%であり、臨床経験年数が高い看護職の受講が増えた。外来経験年数は、5年以上10年未満が多いが、ばらつきがある。外来に関する研修受講は一度もないが73.9%であり、全体の評価からもこの研修が有効といえる。



5. 今後実践しようと考えている内容について記載して下さい(1項目以上)

- ・ 在宅療養を行えるように窓口へ繋いでいく
- ・ 気になる患者に対する採血時などの声掛けや、地域連携室などに繋げることを実践したいと考えている。
- ・ 外来相談窓口をつくる
- ・ 退院カンファレンスに参加
- ・ 在宅療養支援強化のための環境整備を提案していきたい
- ・ 退院患者の初回外来通院時に、在宅生活での困りごとがなかったかを確認し、問題点の有無を検討したい。ACPを考えながら在宅療養支援を考えていく
- ・ 入院期間の短縮化など、なんらかの支援を必要としながら退院していく患者さんも多い。病棟からの継続看護情報の活用と、受診前日に行う事前情報の確を行い、受診日には、業務時間調整を行い、面談を行っていくことを徹底したい。そして看護記録の充実に努め、情報を共有し、ここから次へつながる継続看護を行っていきたい。

- ・ 外来看護師と介護専門職を対象とした合同意見交換会または事例検討会
- ・ 退院後初外来の患者などをピックアップして、看護介入を行い、必要な療養支援を行っていきたい。
- ・ 生活や疾患をイメージできる意思決定支援と支援者に向けたACP啓発
- ・ 退院カンファレンスなどに参加し、患者の現状や支援方法について考えを深め、外来看護機能を強化する。
- ・ 今回学んだ事を伝達学習して、在宅療養支援の必要性を話し、他のスタッフにも通常の外来業務以外にもこれが必要だと感じて貰えれば、業務改善としてもう少し患者と関われる時間を取れるようにしたりできるのではないかと思う。
- ・ 退院前カンファレンスへの参加、スタッフ同士の情報共有、研修で学んだことの伝達
- ・ 病状説明や診察に同席するときに、患者や家族の感情を受け止めるサポートをしていく
- ・ 継続看護が必要な患者を、具体化したチェック項目などで、外来スタッフが共有し見過ごさない取り組み。再入院を繰り返さない為の、多職種カンファレンスの充実。退院後訪問の拡大。
- ・ ささいな会話からも貴重な情報と意識してコミュニケーションをとっていききたい。
- ・ 新たに病気を持つ患者と家族への介入
- ・ 本人の意思決定支援、退院前カンファ参加の声かけ、入院前生活や家族の介護力の詳細を情報収集し共有できるようにする、状態に合わせた医療の提案や指導、試験外泊の試み、
- ・ 在宅療養強化
- ・ 日頃から本人の意向や方針をカルテに残す、心不全患者への問診票の活用、病歴や延命希望等の問診票の勧め
- ・ 退院カンファへの参加
- ・ 病棟と外来をシームレスに繋ぐシステム作り。町や福祉との連携
- ・ 在宅療養支援強化のための取り組み

6. 演習に関するご意見・感想を記載して下さい

- ・ 他施設の方からの話を聞き、同じような悩みや問題を抱えている事を知る事ができた。今後、外来看護師として自分がどうしていけばいいのかを知る事ができて良かった。
- ・ 私たちの地域における医療の現状を把握することができ、在宅療養支援を行うことの必要性を理解することができた。外来におけるシステム構築も課題ではあるが、一つづつ取り組んでいきたい。
- ・ いろいろな支援方法を聞く事ができて良かった
- ・ 様々な意見や施設での活動を聞いて新たな知見も多く、とても勉強になった。時間も午後からで集中して行えて良かった。
- ・ 在宅側の方と同じグループで在宅側の聞きたい情報や、伝達に関しての注意することなど色々聞いてよかった。
- ・ 演習内で、他施設の現状を知ることができた。
- ・ 事例を交えたことで、具体的な検討を進めることができた。地域のことや在宅の支援者のことに詳しい外来看護師の方が参加することで、医療機関の支援を越えたディスカッションができた。
- ・ たいへんわかりやすかった。高知県の医療、福祉の状況が少しでも分かったので、今後活かしたい。
- ・ 東部や西部の外来看護師さんと対面で外来看護師が出来る地域との繋がりや連携について話げできた。かかりつけ医としての病院や公的な病院や高知市との違いなど貴重な意見がきけた。5-6年前に病院で退院支援をした頃と比べて外来の看護師の意識もあり方も違って在宅を考えられるようになってきていると感じた。又このような機会があれば参加したい。
- ・ 他施設の取り組みや課題を知ることができ、自施設の課題や強化していかなくてはいけないことが学ぶことができた。
- ・ もともと知らない人と話すのが苦手で、グループワークは嫌だなあと思いましたが、実際行ってみたら、ほかの方々のお話が聞けたり、こういう意見もあるんだって楽しくて、時間があつという間に経ちました。またこういう機会があれば参加させて頂きたいと思いました。発表されていた方々の喋りが慣れて凄いなと思いました。特に6グループの方の喋りに魅力された。勉強になった。
- ・ 他院の外来の取り組み等知ることでもできても多くのことを学ぶことができた。
- ・ 日本看護協会の冊子を拝見して、事例検討の症例が介護度が高いとされる高齢者ではなく、社会的決定要因の配慮が必要な壮年期や、就労との両立が必要ながんサバイバーなどの事例がより深い検討ができたのではないかと感じた
- ・ 他施設での取り組みを参考に出来、実践に繋がりがやすかった。遅れをとっていると感じたが、現場で共感出来る事も多く、連帯感を感じた。
- ・ 他施設の情報も聞くことができ、刺激を受け参考になった。
- ・ 参加できてよかった。
- ・ 壮年期の糖尿病療養支援が実践で難しかったので、その療養支援についても学びたかったなと思った。
- ・ たくさんの意見や他施設での実践等参考になることばかりでした。この研修で学んだことを実践へ活かしていきたい。
- ・ 演習で多くの方の意見や体験談を知る事が出来、とても勉強になった。参加して良かった。
- ・ 他施設の取り組みを聞いてよかった
- ・ 高幡地域の現状は、血管病調整看護師研修で内田教授から良く説明して頂き、良く理解していた。出来る事をする。
- ・ 他医療機関の方の意見が聞いて良かった。

【担当者コメント】

昨年より、経験年数が高い受講者が多く、課題内容からもはっきり受講動機をもって参加した受講生が多いと感じた。演習では、アイスブレイキングを入れたことでディスカッションが活発に行われた。研修目標の達成度も高く有意義な研修であった。

こうち看護協会訪問看護ステーション事業

I 令和6年度訪問看護ステーションの目標及び結果

1. 質の高い訪問看護の提供

1) 定期的な事例検討会と勉強会の実施

・事例検討会は毎月実施、所内研修(伝達講習含)は7回/年開催し計画どおりに実施した。

2) 事業所の組織評価

・日本訪問看護事業財団が作成した組織の自己評価指標を使用して令和7年3月に評価を実施した。

3) 利用者満足度調査の実施

(1) 令和7年2月1日～2月28日にかけて利用者満足度調査を実施した。

(2) 結果

① 配布数45名に対し、回答者は39名(回答率86.7%、医療保険27名、介護保険12名)であった。

② 訪問看護に対して14項目の満足度調査の結果、すべての利用者が、「そう思う、まあそう思う」と回答した。

③ ご意見や要望については15件あり、ほとんどが感謝等の言葉であった。今後、引き続き利用者のニーズに対応できるよう取り組んでいく。

4) 外部研修会等への参加によるキャリアアップ

看護師7名が延べ44研修等に参加、学びを共有し質の向上に努めた。

2. 人材育成

1) 訪問看護実習・研修生として、52人を延べ170日間受け入れた。

教育機関名	受入人数(名)	延べ日数(日)
高知病院附属看護学校	6	36
県立大学(大学院含む)	8	44
開成専門学校看護学科	4	12
高知学園短期大学看護学科	4	16
龍馬看護ふくし専門学校	4	24
穴吹通信課程	8	16
施設一在宅ケア研修看護師	6	6
就業サポート研修	4	4
医療機関からの出向看護師	1	5
その他訪問看護ステーション等看護師	7	7
	52	170

2) 管理者を含む3名の看護師が看護師養成機関の講師依頼を受け、次世代育成及び訪問看護の普及に努めた。

3. 高知県及び高知市からの委託事業

・高知県中山間地域等訪問看護サービス確保対策事業の対象者は1名であった。

・医療的ケア児の教育支援として、R6年4月からR7年1月まで1ステーションから依頼があった。

・重症心身障害児(者)等レスパイト事業の対象者は3名であった。

・高知市医療的ケア児通園支援事業の対象者は4名であった。

・小学校への医療的ケアの対象者は1名であった。

4. 経営の安定化

・今年度の目標 毎月 420件(医療的ケア児含む)

・R6年4月～令和7年3月まで 月平均418件であった。

5. 訪問看護ステーション運営委員会の開催(2回/年)

第1回:11月15日(月)、第2回:3月14日(金)

II 組織体制

1. 職員数:8名:管理者1名、看護師6名(常勤5名、非常勤1名)、事務職員1名

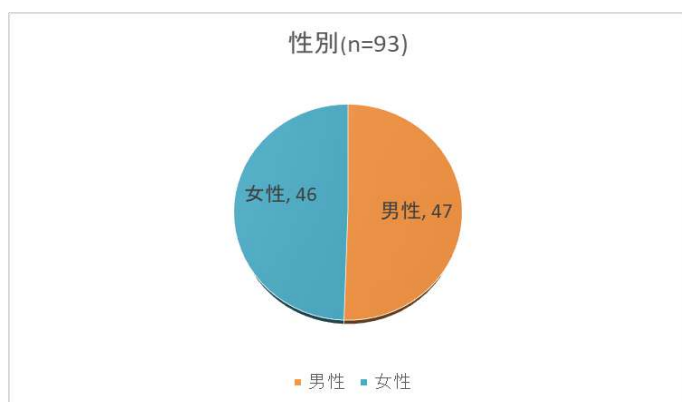
III. 訪問実績

1. 利用者数(医療的ケア児6名含む)

1) 令和6年度の1年間の利用者数は93名(昨年度87名)で昨年度より6名増加した。

2) 性別では、女性46名、男性47名とほぼ同数であった。

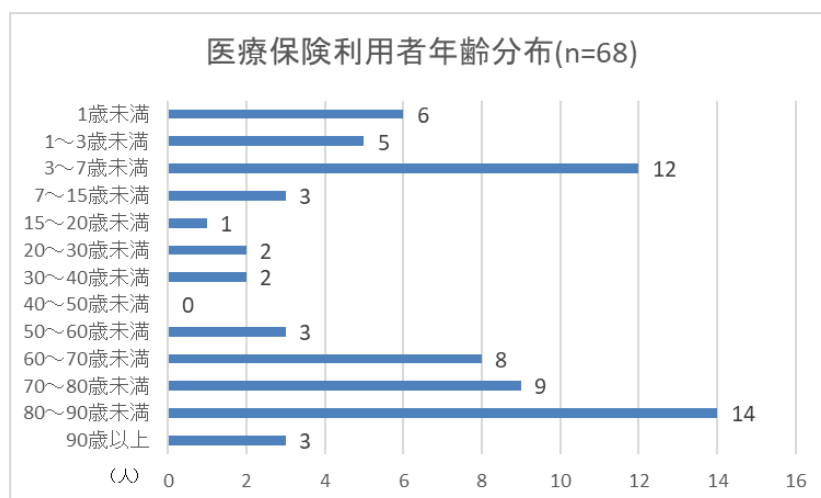
内訳は、医療保険利用者では68名のうち、男性34名、女性34名であり、介護保険利用者では25名のうち、男性13名、女性12名であった。



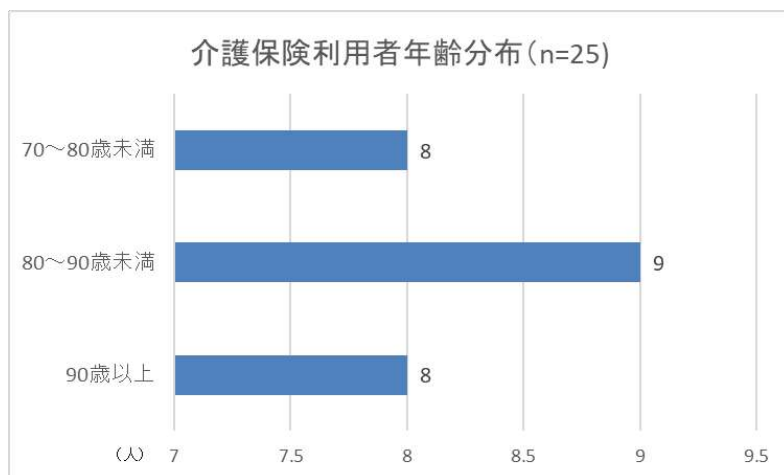
医療保険利用者 68名	男性	34名
	女性	34名
介護保険利用者 25名	男性	13名
	女性	12名

2. 保険別利用者数

1) 医療保険利用者は68名(医療的ケア6名含む)で利用者全体の73.1%、うち小児が26名で医療保険利用者のうち、38.2%を占めている。68名のうち、成人では、60歳以上が34名で医療保険利用者のうち50%、利用者全体では36.6%であった。医療保険利用者の平均年齢は48.5歳であった

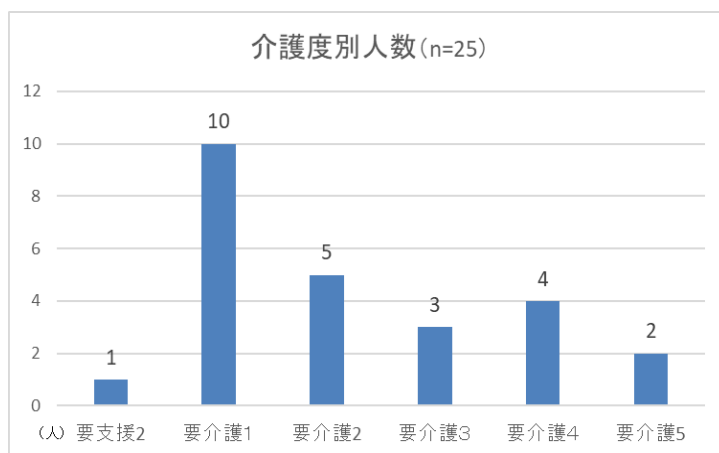


2) 介護保険利用者は25名で利用者全体の26.9%で昨年度よりやや減少した。介護保険利用者のうち、80歳以上が17名で68%、90歳以上が8名で32%であり、平均年齢は85.9歳で昨年より3歳程度低くなった。



3. 介護度別利用者数

- 1) 男性 13 名、女性が 12 名であった。
- 2) 介護度別では、要介護1が最も多く、要支援2が最も少なかった。



4. 訪問件数

- 1) 総訪問件数は 5013 件で、昨年度 4938 件に比し 75 件増加した。
 - ① 介護保険利用件数は 1131 件で総件数の 22.5%、昨年度 144 件減少した。
 - ② 医療保険利用件数は 2822 件で全体の 56.2 %、昨年度に比し 146 件増加した。そのうち成人が 1653 件、小児が 1169 件であった。成人・小児ともに増加した。
 - ③ 高知市医療的ケア児通園支援事業として医療的ケア児の訪問件数は 1011 件と昨年に比べて 78 件増加している。
 - ④ 医療保険利用件数と医療的ケア児の件数を合わせて 3833 件となり、総件数の 76.4%を占めている。

介護保険	医療保険	医療的ケア児	オプション	合計
1131 件 (22.6%)	2822 件 (56.2%) 成人: 1653 件 小児: 1169 件	1011 件 (20.2%)	49 件 (1.0%)	5013 件

- 2) 1 か月の平均訪問件数は 418 件(昨年度 412 件)、看護師一人当たりの月平均訪問回数は、59.7 件(昨年度 56.1 件)であり、昨年度より増加した。

5. 終了者の状況

- 1) 終了者は全体で 33 名(昨年度 43 名)であり、昨年度より減少した。
- 2) 内訳は、死亡 26 名(昨年度 24 名)、入院及び施設入所 4 名、状態改善 3 名であった。
- 3) 死亡 26 名のうち、在宅看取りは 19 名(昨年度 18 名)、医療機関での死亡は 7 名(昨年度 9 名)であった。

IV まとめ

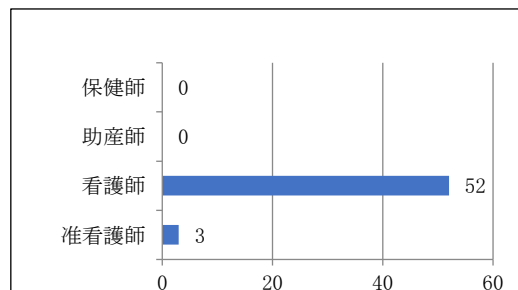
1. 令和6年度は、利用者数が増加し、看護師一人当たりの月平均訪問件数は 59.7 件と昨年と比べ増加した。引き続き 60 件以上を継続していく必要がある。
2. がんターミナルの看取り件数は年間 19 件であった。また、小児訪問看護件数は利用者数も増え件数も増加した。令和元年度に新規に開始された「高知市医療的ケア児通園支援事業」として新規利用者も増え、今年度から小学校への医療的ケア児への支援も開始となった。これらのことからがんの看取り件数と小児の訪問件数は増加しており、機能強化型1の算定要件として看取り件数20件、小児の受け入れ、医療依存度の高い利用者への対応などがあげられており、当ステーションは厚生労働省の算定要件をほぼ満たしていることから、質の高いステーションと推測できる。引き続き、ニーズに対応し、訪問看護の質の向上、関係機関との連携を強化し、在宅療養者の支援を強化していく。
3. 中山間地域、高知全域への小児訪問看護の普及・促進につなげる為に、地域の訪問看護ステーションへの教育支援を行っている。今年度は1か所のステーションへの教育支援を行い、数か月の教育支援を経て現在では単独で訪問できるようになっている。引き続き、小児の基幹ステーションとしての役割を果たしていく。また看護師全員が小児の訪問看護に対応できるよう支援を継続する。
4. 介護保険の利用者数は医療保険の利用者に比べ減っている。地域の高齢化率を考えると今後ニーズは更に増加すると考えられる。地域の介護支援専門員や包括支援センターと連携しながら新規獲得に向け支援強化を行っていく。
5. 今年度から地域の医療機関との連携として出向を再開した。医療機関の退院支援看護師を受け入れ機能強化型3の申請を行った。今後も出向の受け入れを継続し医療機関との連携を強化していく。
6. 研修生及び実習生の受け入れについては、COVID-19 が第5類に分類され、今年度より通常の実習受け入れに戻り、ほぼ予定どおり受け入れるができた。今後も、在宅看護の普及と、在宅看護に関わる人材育成に努める。
7. 訪問看護の役割は、重症化を早期発見、予防し、利用者の尊厳を保ち、最後まで住み慣れた場所で過ごすことができるよう支援していくことが重要であり、その視点を持って人材育成を行いケアの質を高めていく。

研修名	災害支援ナース養成研修:演習	
開催日時	災害:令和6年10月22日(火)9:25~16:40 感染:令和6年10月24日(木)9:25~15:15	
受講者数	58名(会員35名 非会員23名) 内訳(保健師2名 看護師53名 准看護師3名)	定員25名
ねらい 【災害】	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職として必要な災害医療と看護の基礎知識を習得する ・災害時の看護職の役割と活動の実際を理解する ・看護職として、被災地や被災者に対して有効に機能できる技能を習得する ・災害時に看護職として他者と協働でき、自立した活動ができる知識を習得する。 	
ねらい 【感染】	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナなど新興感染症に関する基礎知識を習得する ・新型コロナなど新興感染症患者に対応できる知識・技術を習得する ・酸素療法、集中治療管理に関する基本的知識を習得する ・新型コロナなど新興感染症患者の看護に関する基本的知識を習得する 	
講師 【災害】	高知県健康政策部 保健政策課 災害医療対策室 チーフ 柳本祥子 高知県立大学 看護学部 教授 竹崎久美子 高知赤十字病院 救急看護認定看護師 日本DMAT隊員 寺尾 浩	
講師 【感染】	高知大学医学部附属病院医療育成支援センター看護教育部門 認定看護師教育課程(感染管理分野)専任教員 西川美千代 高知赤十字病院 急性・重症患者看護専門看護師 大崎 杏奈	
内容	災害支援活動	講義・GW

1.アンケート結果 出席者:116名 アンケート回収:108名 アンケート回収率:93.1%

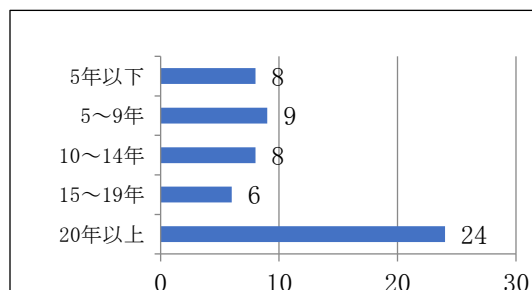
1)職名

n=55



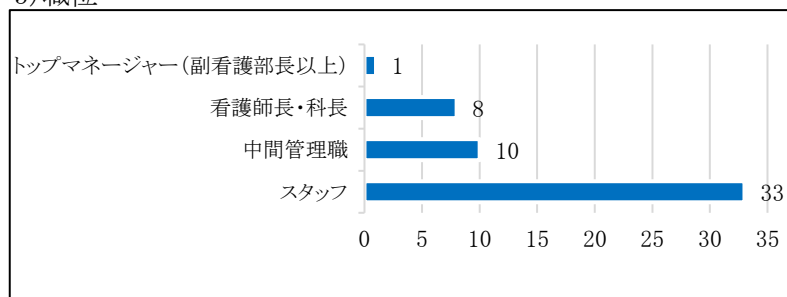
2)経験年数

n=55



3)職位

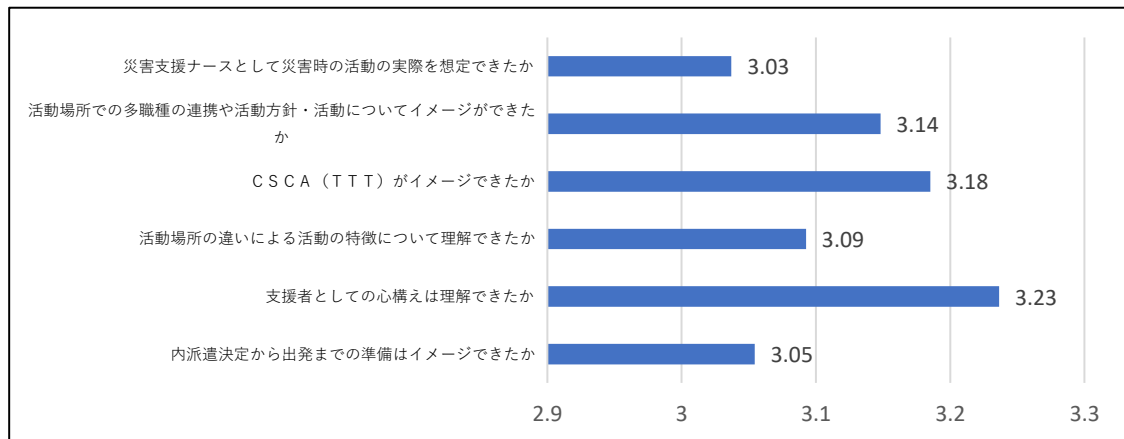
n=55



5) 研修内容の評価(4段階)

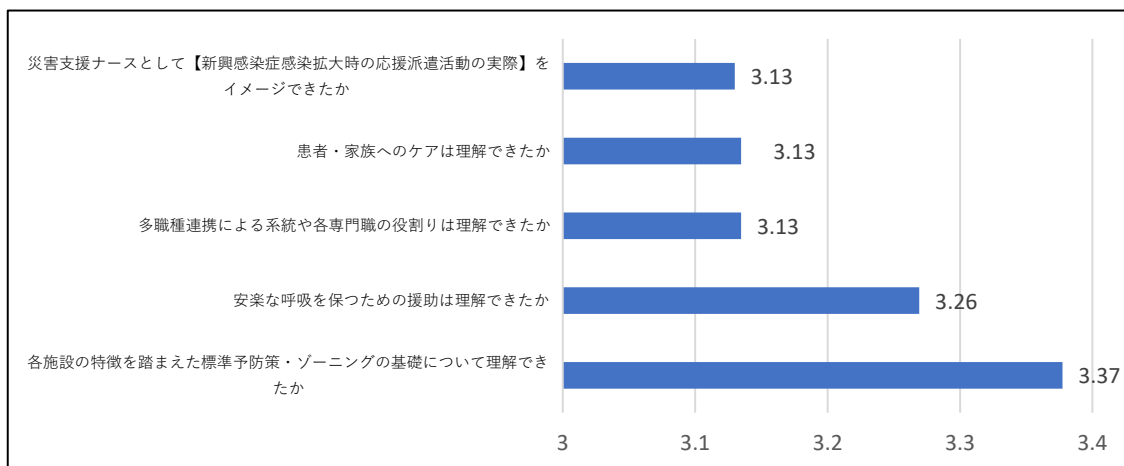
【災害】

n=55



【感染】

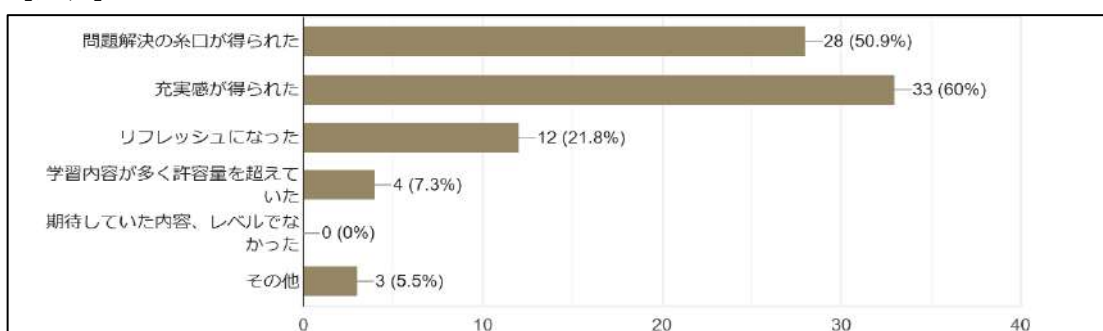
n=53



6) 研修全体を通じた感想:複数回答

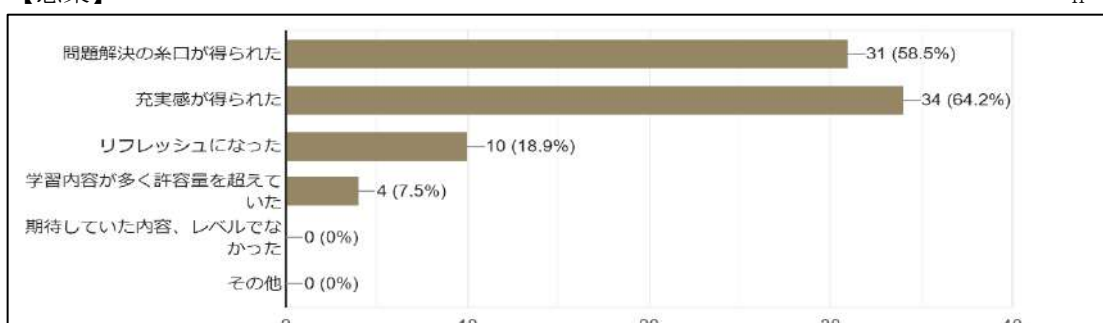
【災害】

n=55



【感染】

n=53



7) 意見・感想(抜粋)

- ・グループワークでの色んな方の視点、考え方、意見があり勉強になった。(2)
- ・災害支援(出発前～実際の活動)についてイメージがかなりできた。
- ・被災者や活動されているスタッフの支援に繋がるよう研修内容を再確認したい。
- ・活動経験がないので、実際の現場では大変な苦労があると思う。
- ・腹臥位の実技は初めてだった。習得したことを実践にいかしていきたい。
- ・グループワークは緊張したが、色々な意見が聞けて勉強になった。また災害についての知識や支援者としての心構えや活動を理解することが出来た。
- ・災害支援看護師として活動する時に注意しなければならないことが理解できた。
- ・自分達で考えることが多かったので、すごく良かった。実際に支援に行ってからどう動くのか想像しやすかった。
- ・理解しているつもりでも、改めて講義やグループワークを通じて新たな気づきもある研修だった。
- ・実際に腹臥位の援助をしたことがなかったので、経験できて良かった。また、人工呼吸器の着いた方の実際の映像がみれたのも良かった。
- ・感染のゾーニングは、病院や施設、避難所で様々なやり方があるので、各場所でのルールに基づいてやる必要があると思った。貴重な研修ができた。

2. 研修担当者意見

本研修は 令和6年の改正医療法の施行により、厚生労働省から日本看護協会が委託を受け、新興感染症及び災害発生時に、他の医療機関への応援派遣等に的確に対応できる看護職員の養成を目的とし、本年度で2度目の研修となる。20時間のオンデマンド研修後に演習2日間を高知県看護協会で開催した。募集定員を超える応募があったが、講師・演習指導者の協力を得て、58名で演習を実施することができた。

限られた時間ではあったが、今回の演習により知識の定着と災害時・感染症まん延時における災害支援ナースとしての役割や実際の活動がイメージできたのではないかと考える。

修了者には災害支援ナースとして登録され、今後も災害研修や訓練に参加し、スキルアップを目指していただきたい。

高知県看護協会主催 看護補助者標準研修 ―看護補助体制充実加算該当パッケージ―

研修名	高知県看護協会主催 看護補助者標準研修 ―看護補助体制充実加算該当パッケージ―		
研修日時	オンデマンド研修(個人受講)	R6年 8月16日～R7年1月19日	
	オンデマンド研修(協会受講)	R6年10月16日(水)・10月17日(木)両日受講	
	演習(各施設演習)	オンデマンド研修受講修了確認後～R7年1月31日	
	演習(協会演習)	第1回 R6年9月 4日(水)14:00～16:10	第2回 R6年10月17日(木)14:30～16:30
研修形態	オンライン・集合(申込施設により選択)		
受講者数及び受講形態	定員60名 総受講数57名 修了者数 57名 会員施設57名		
		施設受講(個人受講)	協会受講
	オンデマンド研修	30名	27名
	演習	25名	第1回5名 第2回27名 計32名
対象	看護補助者		
目的	(1)看護チームの一員として、看護師の指示のもと、安全な看護補助業務をおこなうために必要な知識や技術を習得できる。 (2)直接ケアを主として行う看護補助者が必要な知識技術を習得し、看護チームとして質の高い看護を提供できる。		
講師	オンデマンド研修:日本看護協会コンテンツ 演習:当協会職員:吉永恵子・小松真美・佐田久美子・久保美樹		
演習内容	規定	身体の清潔に関する業務・排泄に関する業務・食事に関する業務・安全安楽に関する業務・移動・移送に関する業務に関して計2時間以上の演習を行う	
	施設実施	上記により自施設で研修計画・実施	
	協会実施	身体の清潔に関する業務・安全安楽に関する業務・移動・移送に関する業務に関して計2時間実施	

1)プログラム

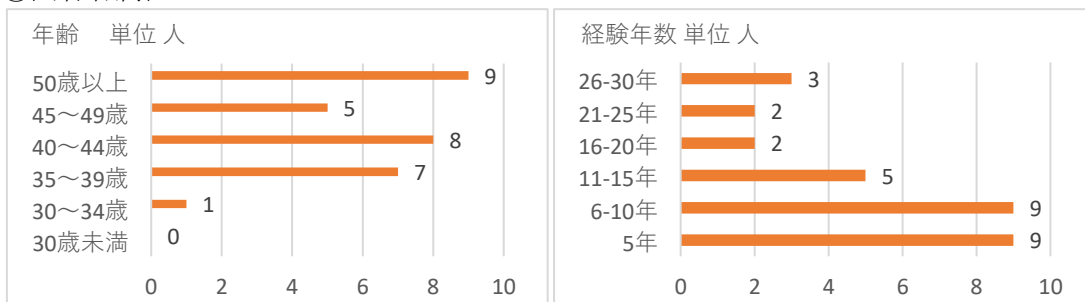
A 受講者が視聴するプログラム				
方法	科目名			講義時間
医療機関で働く看護補助者の役割と業務	1章 医療チームの機能と役割			230分
	2章 看護補助者の業務			(10月以降160分に 圧縮予定)
	3章 看護補助者に求められる倫理			
	4章 看護補助業務を遂行するための 基礎的な知識・技術			
	① 医療安全(*)			
	5章 看護補助業務を遂行するための 基礎的な知識・技術			
	② 感染予防(*)			
	6章 看護補助業務を遂行するための 基礎的な知識・技術			
	③ 労働安全衛生			
	直接ケア 総論	1章 直接ケアに関わる医療安全(*)		
2章 患者・患者家族とのコミュニケーション(*)				
講義	直接ケア 各論	身体の清潔に関する業務(*)		120分
		排泄に関する業務(*)		50分
		食事に関する業務(*)		50分
		安全安楽に関する業務(*)		60分
		移動・移送に関する業務(*)		50分
	※科目終了時に確認テストあり			680分(11.5時間) (10月以降予定610分)
B看護管理責任者及び演習担当者が視聴するプログラム				
演習	演習番号	演習項目	演習ガイド時間	演習ガイド時間
	A	身体の清潔に関する業務	30分	30分
	B	排泄に関する業務	20分	20分
	C	食事に関する業務	10分	10分
	D	安全安楽に関する業務	30分	30分
	E	移動・移送に関する業務	20分	20分

演習プログラム

演習項目	内 容
①身体の清潔に関する業務	演習ガイド視聴ポイント説明(20分)演習の実際(30分) <ul style="list-style-type: none"> ・ウオッシュクロスの作り方 ・拭き方の手順 ・湯の温度の確認方法
②安全・安楽に関する業務移動・移送に関する業務 ③演習確認テスト	演習ガイド視聴ポイント説明(20分)演習の実際(40分) <ul style="list-style-type: none"> ・患者にも自分にも負担の少ない体位変換の方法 側臥位、仰臥位から座位へ ・安全・安心な歩行介助 ・安全・安心な車椅子移動

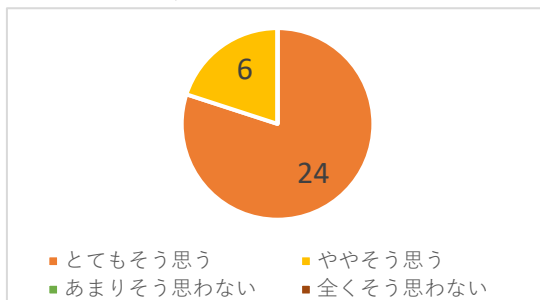
2) アンケート結果(対象:協会にて演習を実施した30名 回答率 100%)

①回答者属性

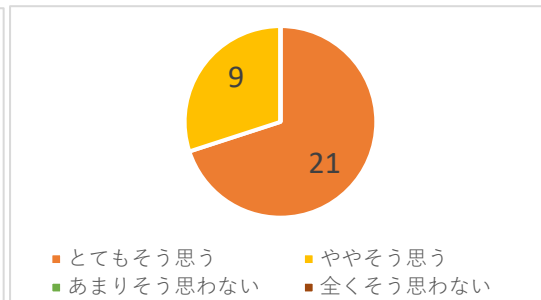


② 演習(身体清潔)について

i) 内容の理解ができた

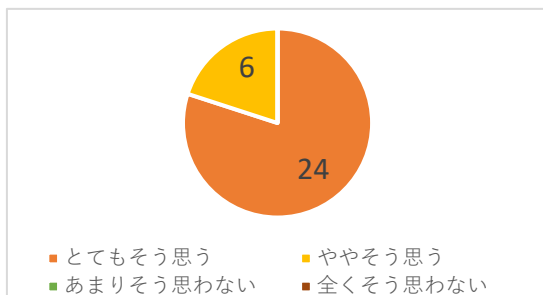


ii) 今後に活用できる

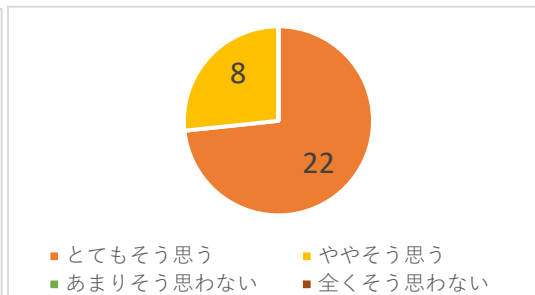


③ 演習(安全安楽・移動移送)について

i) 内容の理解ができた



ii) 今後活用できる



④ 研修の感想

- ・今までの振り返りができた
- ・自分のキャリアアップになりました
- ・車いすの乗るのは少し怖くも感じたので今後病棟で気を付けていきます
- ・演習は学ぶところも多く楽しくできた(4名)
- ・演習がわかりやすかった(2名)
- ・勉強になりました
- ・知らないことが知れてよかった
- ・患者様の立場になって考えることができ良かった
- ・演習は実践に活かせるところは活用したいと思った
- ・演習はベッドがあればよかった
- ・すごくわかりやすかったです(2名)
- ・通常経験しない事を知れた(2名)
- ・普段何時間も座らないので体がしんどかった
- ・DVDの時間が長く集中するのが大変だった(4名)
- ・DVD研修は何日かに分けて受講したかった
- ・DVD研修は眠くなった(2名)
- ・演習を2日間に分けて下さったらDVD研修のつらさが少し軽減するのではと感じた
- ・業務範囲はいらなないと思いました

3) 研修担当者コメント

診療報酬の改定に伴い、今年度初めての開催であった。また、日看協の研修ガイドラインに基づく実施であったため開催しながら研修計画立案実施にならざるを得ず、試行錯誤しながらの実施であった。

演習内容が業務に直結する内容であり、看護補助者のスキルアップによる安全な看護補助業務の習得を目的としていたため、演習は看護師よりの指示・実施後の報告を意識して計画実施した。受講生から、「今までの振り返りができた」「患者様の立場になって考えることができ良かった」等の声があり臨床に則した演習ができたのではと考える。一方、オンデマンド研修については「DVDの時間が長く集中するのが大変だった」の声もあるように当協会での一括聴講は効果的でないことがうかがえる。

次回実施時は、事務手続きやオンデマンド視聴研修について再考する必要があると考える。

組織で行う生涯学習支援の基礎知識

研修名	自施設で行う研修企画と運営の基本的知識・方法を学ぶ	
開催日時	令和6年11月28日(木)	13:00~16:00
研修形態	集合	
受講者数	10名(会員2名 非会員8名)	定員 30名
対象	ラダーレベルⅢ~Ⅳ マネジメントラダーⅠ~Ⅱ	
ねらい	生涯学習支援の考え方や支援方法を理解することで、自施設の研修企画・運営に活かすことができる。	
講師	日本看護協会講師によるオンデマンド講義 高知県看護協会研修担当(佐田・吉永)	
内容	生涯学習ガイドライン及び組織の支援に関するオンデマンド受講後演習	

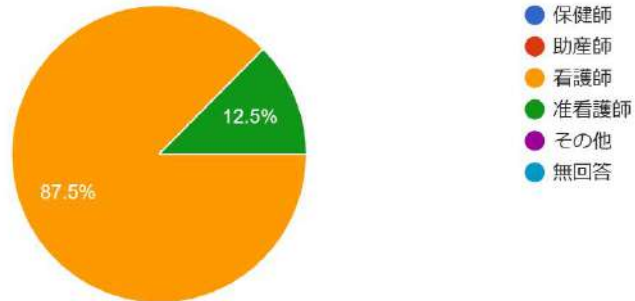
1. アンケート結果

参加人数10名 回答数 8名 (80%)

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

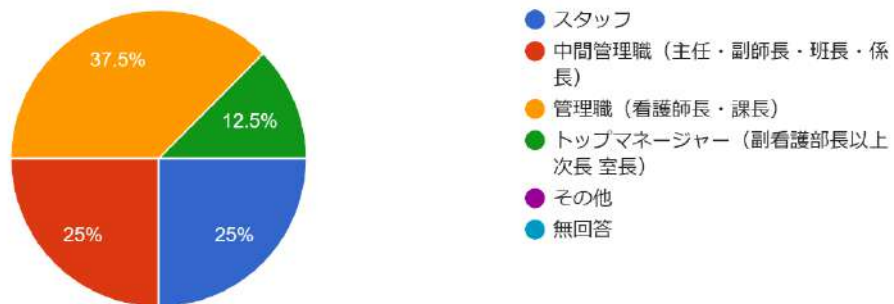
I - 2 あなたの職名は？

8件の回答



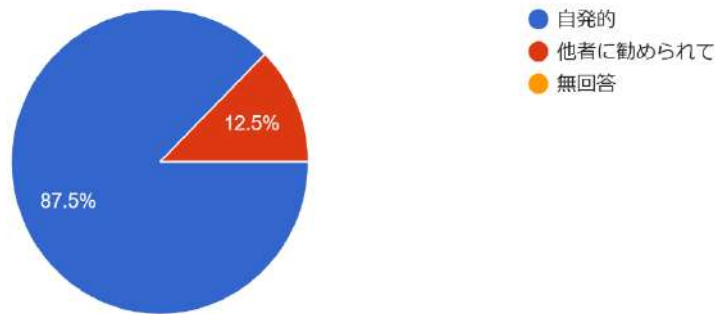
1 - 4 あなたの職位は？

8件の回答

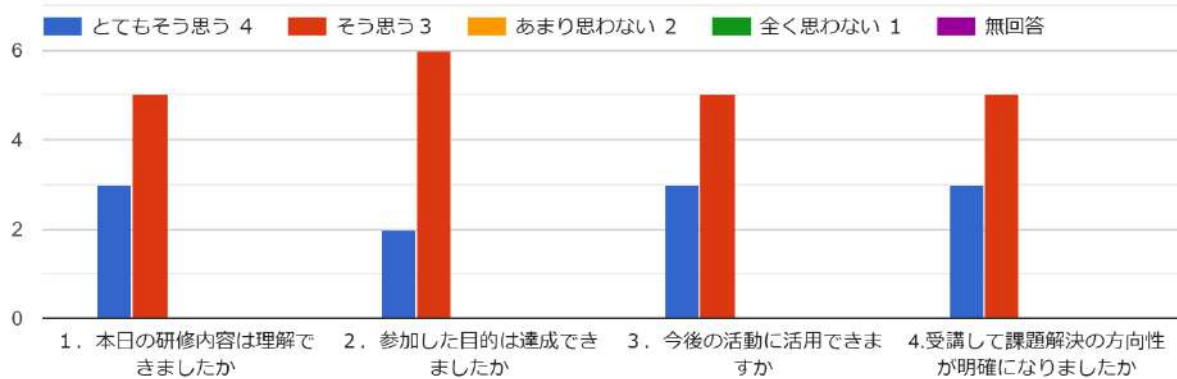


1-6 本研修の参加は？

8件の回答



II-1 本日の「自施設で行う研修企画と運営の基本的知識・方法を学ぶ」の研修について

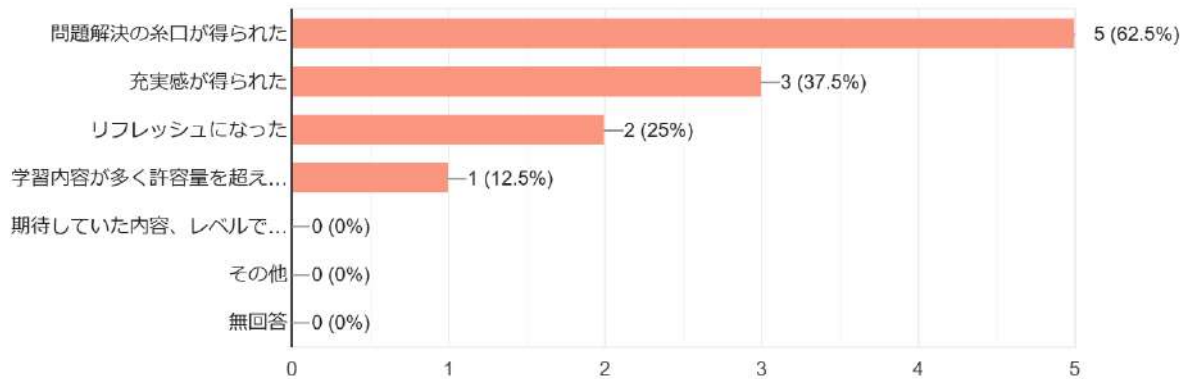


2. 上記を選択した理由を記載して下さい4件の回答

- ・研修を計画するにあたっての基礎的な知識を学ぶことが出来た。生涯学習に関しても必要性等は理解することが出来た。それをどう進めていくか考えていきたい。
- ・具体的などころまで講義内容に含まれていたのも、このように考えたらいいのか、と納得したことができる人がたくさんあった。
- ・講義、演習、グループワーク、資料が活用できそう。
- ・生涯学習の内容が理解できた

Ⅲ. 研修全体を通した感想を該当するものすべてにチェックして下さい

8件の回答



ご感想やご意見を記載下さい1件の回答

- ・オンデマンド研修が、展開が早くについていけない部分が若干ありましたが、なんとかついていけました。ありがとうございました。

担当者のコメント

生涯学習ガイドラインが発表され、まだまだ周知が不足している。参加者は意見交換を通じて学びに繋がったようである。受講者が少なく研修のPRや実施時期の再考が必要。